京都混声合唱団六十年史

京都混声合唱団六十年史

京都混声合唱団

京都混声合唱団六十年史

昭和元年(1926)——昭和60年(1985)

京都混声合唱団

京都混声創立60周年に憶う

京都音楽家クラブ会長　藤堂顕一郎

創立60年を記念して発行される記念誌に、拙い一文を掲げさせて戴くことは誠に感慨深い。京都混声に私の音楽の人生を育てて戴き、それがきっかけで、音楽が歌が私の人生の生き甲斐にまでなり、私は私なりに満足して一生を終える事が出来るだろうことに喜びを感じている。

ある時、フランス歌曲を練習しながら、その音楽のすばらしさに、感激のあまり声が出なくなった。胸が喜びにあふれて、到底、冷静にその詩を語り、そのメロディを歌い続ける事が出来なくなってしまった。これこそ作曲者および作詩者の心に触れたという思いのため、ただ涙が出て、うれしくてその興奮を静めるのに時間がかかるのだった。

残念ながら自分自身の持つ表現技術には限界がある。またそれがため、その探求への精進が出来るのである。

しかし、もうこの年令を迎えた昨今としては、如何とも仕様がなく、過ぎ去ったかつての想い出のすばらしさを、私の中に大切にして余生を送ろうと思う。

京都混声合唱団が、より多くの人達に音楽の持つすばらしさ、合唱の持つ喜びを伝え、より多くの人達が音楽の持つすばらしさ、合唱より与えられるより深い喜びを味わうことが出来るよう、心豊かな人生を経験されるようあって欲しいと思う。

（元　指揮者・団員）

目 次



Ⅰ．草創展開期 “合唱への憧れと耀き” 昭和元年 ── 昭和５年

昭和元年（1926）

創設の由来…… 1

昭和２年（1927）

第一回発表会（森本芳雄指揮　モツアルト：第十二弥撒外）…… 2

十字屋楽器店…… 3

昭和３年（1928）

第二回発表会（森本芳雄指揮　モツアルト：ドン　ファン外）…… 4

合唱の夕〈大阪朝日会館〉…… 5

昭和４年（1929）

第三回発表会（クレーン指揮　グルック：オルフォイス外）…… 6

明治節奉祝大合唱会〈大阪朝日会館〉…… 8

第四回発表会（クレーン指揮　バッハ：マタイ受難曲外）…… 8

東京音楽学校の「荘厳ミサ」と新交響楽団の「第九交響曲」…… 9

昭和５年（1930）

第五回発表会（クレーン指揮　ビゼエ：カルメン外）…… 9

花祭音楽祭…… 10

明治節記念音楽会…… 11

絵更紗画材資金募集「大音楽オペラの夕」…… 12

草創期への追懐〈座談会〉…… 13

Ⅱ．戦時衰退期 “暗き底流の歌唱に耐えて” 昭和６年 ── 昭和20年

昭和６年（1931）

レオ・シロタ　柳兼子音楽会…… 17

第六回演奏会（クレーン指揮）…… 17

昭和７年（1932）

明治節奉祝大音楽会〈大阪朝日会館）…… 19

同情週間のために ── 京都楽壇連合大音楽会…… 20

第七回発表会「クリスマスの夕」（土方辰三郎指揮　メサイヤ外）… 20

昭和８年（1933）

京都市教育会三十周年「音楽と舞踊の夕」…… 22

昭和９年（1934）…… 22

昭和10年（1935）

元団員井上弘日記抜粋　華頂会館にて演奏会…… 23

ＮＨＫ京都放送局よりラジオ放送…… 24

明治節演奏会…… 24

華頂会館にて発表会…… 24

近江療養院慰問演奏会…… 24

昭和11年（1936）

オリンピック応援歌発表会…… 25

京都合唱連盟結成…… 25

同情週間のために ── 大合唱祭…… 25

京都帝国大学音楽部創設20週年記念「第九」演奏会…… 26

ローゼンシュトック来日新交響楽団京都演奏会…… 26

昭和12年（1937）

朝日コーラス団結成…… 27

全関西合唱連盟組織…… 27

京都合唱団生る…… 28

明治節奉祝大音楽会…… 30

同情週間のために ── 大合唱祭…… 30

ＮＨＫ京都放送局よりラジオ全国放送…… 31

昭和13年（1938）

ＮＨＫ京都放送局よりラジオ放送…… 32

国民歌の夕…… 32

ＮＨＫ京都放送局よりラジオ放送…… 32
ヒットラー・ユーゲント歓迎演奏会…… 33
明治節奉祝音楽会…… 33
歳末同情週間義捐金募集大音楽会…… 33
東京オリンピック大会開催延期…… 34
昭和 14 年（ 1939 ）
ルイ・マルシャン送別コンサート…… 34
京都合唱団発表会…… 34
昭和 15 年（ 1940 ）
全関西合唱連盟名簿（附、規約・日誌抄）発行…… 35
橿原神宮奉納音楽会…… 35
同志社オーケストラ演奏会賛助出演…… 36
昭和 16 年（ 1941 ）
京都音楽新体制促進に関する趣意書…… 37
昭和 17 年（ 1942 ）
京都合唱報国団成る…… 39
昭和 18 年（ 1943 ）
京都合唱報国団第一回定期演奏会（朝比奈指揮　荘厳ミサ）…… 40
昭和 19 年（ 1944 ）…… 41
昭和 20 年（ 1945 ）
京都混声再起、指揮者に水谷央氏を迎える…… 43
クリスマス　キャロル開始…… 43

Ⅲ．戦後再興期 "光さす楽のいざない" 昭和 21 年 ── 昭和 26 年
昭和 21 年（ 1946 ）
第一回関西合唱コンクールに第一位入賞（川端義雄指揮）…… 46
団内ニュース「 京都混声 」創刊…… 46
昭和 22 年（ 1947 ）
アマチュア合唱団への移行…… 48
合唱団の合同…… 48
国立病院へ音楽慰問…… 49
小演奏会（流浪の民・青きドナウ外）…… 49
新憲法施行記念全京都コーラス団合同大合唱…… 49
第一回定期小演奏会（川端義雄指揮　流浪の民・日本古謡）…… 50
第二回市民文化祭・京都合唱連盟大合唱祭…… 52
昭和 23 年（ 1948 ）
第 23 回春季大合唱祭（関西合唱連盟）…… 53
全京都合唱コンクール…… 54
昭和 24 年（ 1949 ）
ＮＨＫ京都放送局よりラジオ放送（藤堂顕一郎指揮）…… 55
故稲畑勝太郎氏追悼音楽会…… 55
昭和 25 年（ 1950 ）
練習日誌の記録起筆…… 57
第一回合唱まつり…… 58
芸術文化祭前夜祭…… 59
キリスト教会合唱大会…… 60
バッハ二百年記念のための讃美歌の夕…… 60
バッハ二百年祭記念マタイ伝福音書による受難曲（森本芳雄指揮） 60
クリスマスの夕…… 62
昭和 26 年（ 1951 ）
イースター（復活祭）に京都キャバナ慰問…… 64
英語による音楽礼拝 ── 西本願寺…… 64
京都放送合唱団に応援参加…… 65
第 26 回春季大合唱祭（関西合唱連盟）…… 65

関西交響楽団六月定期演奏会「第九交響曲」（朝比奈指揮）…… 65
発表演奏会「フランス音楽の夕」（森本芳雄指揮　フォーレ曲） 66
新制定京都市歌合唱大会…… 67
ＮＨＫ京都放送局より「フォーレ：レクイエム」全国中継放送… 67
木下教室研究発表会に有志参加…… 68
森本芳雄先生御他界…… 69
森本芳雄先生音楽葬…… 69
進駐軍向けクリスマス放送ラジオ録音（ＮＨＫ京都放送局）…… 71
故森本芳雄先生追悼音楽会…… 71

Ⅳ. 興隆期 "夢多き歌曲の日々を" 昭和 27 年 ── 昭和 38 年

昭和 27 年（1952）
指揮者に青山政雄氏を迎える…… 73
京都放送局開局二十周年「モツアルトの夕」…… 74
青山前期第一回試演会（青山政雄指揮　ロシヤ民謡）…… 75
第二回合唱祭（京都市教育委員会）…… 76
アメリカ進駐軍大津キャンプ「感謝祭」…… 76

昭和 28 年（1953）
勤労貯蓄の歌発表会…… 77
第二回試演会（青山政雄指揮　カトリック聖歌外）…… 78
演奏会形式による「魔笛」賛助出演…… 78
ＮＨＫ京都放送局ラジオ放送録音（ロシヤ民謡）…… 79
ＮＨＫ京都放送局ラジオ放送録音（最後の七つの言葉）…… 80

昭和 29 年（1954）
第三回合唱祭（京都市教育委員会）…… 81

昭和 30 年（1955）
定期演奏会（青山政雄指揮　スタバト　マーテル外）…… 82
第 35 回土曜コンサート ── 音楽堂改装記念 ──（天地創造）…… 83
土曜コンサート（ロシヤ民謡）…… 84
第 10 回勤労者音楽会 …… 85
第 10 回関西合唱コンクール …… 85

昭和 31 年（1956）
第 11 回勤労者音楽会 …… 86
定期演奏会（青山政雄指揮　フォーレ：レクイエム外）…… 86
合唱祭（京都合唱連盟）…… 87

昭和 32 年（1957）
第 13 回勤労者音楽会・京都合唱連盟合唱祭…… 89
定期演奏会（青山政雄指揮　ピゼッティー：鎮魂弥撒曲外）…… 89
京都府青年婦人団体文化活動者講習会…… 91
第 87 回土曜コンサート「合唱の夕」…… 92
ＮＨＫ京都放送局ラジオ放送録音…… 93
第 100 回記念土曜コンサート…… 93
第 12 回関西合唱コンクール…… 94
第 14 回勤労者音楽会・第 8 回勤労者文化祭…… 95

昭和 33 年（1958）
大学寮歌ラジオ京都放送録音…… 96
第 15 回勤労者音楽会・合唱連盟音楽祭…… 97
第 115 回土曜コンサート「合唱と吹奏楽の夕」…… 97
ＮＨＫ京都放送局ラジオ放送録音…… 98
第 126 回土曜コンサート「ハーモニカと合唱の夕」…… 98
第 16 回勤労者音楽会…… 98

昭和 34 年（1959）
京都市交響楽団第 22 回定期演奏会〈創立三周年記念〉…… 99
鳥羽演奏旅行〈神鋼電機混声合唱団共演〉…… 100

定期演奏会（青山政雄指揮　フォーレ：レクイエム　前田裕志集）… 102
昭和 35 年（ 1960 ）
京都会館開館記念ベートベン「 第九シンフォニーの夕 」…… 104
京都自治記念「 市民合唱の夕 」（ＮＨＫ公開録音）…… 105
定期演奏会（青山政雄指揮　藪田義雄：切支丹物語外）…… 105
昭和 36 年（ 1961 ）
夕刊京都創刊 15 周年記念「 市民音楽祭 」…… 108
定期演奏会（青山政雄指揮　清水脩：鼻長き僧の話外）…… 108
皆生温泉演奏旅行…… 109
昭和 37 年（ 1962 ）
ヤマハ　エレクトーン　コンサート…… 111
第一回京都市合唱コンクール…… 112
定期演奏会（青山政雄指揮　ヴェルデイ：スタバトマーテル外）… 112
第 37 回春季大合唱祭〈大阪朝日会館〉…… 114
ラジオ関西「 コーラス　ア　ラ　カルト 」放送録音…… 115
昭和 38 年（ 1963 ）
第二回京都合唱コンクール…… 116
稲畑登美子女史京都文団懇賞受賞記念音楽会…… 116
定期演奏会（青山政雄指揮　フォーレ：レクイエム外）…… 117
京響第 60 回定期演奏会「 第九シンフォニーの夕べ 」…… 120

Ⅴ．調整期 “和して支うる” 昭和 39 年 ── 昭和 44 年
昭和 39 年（ 1964 ）
京都市合唱コンクール…… 124
第 1 回春季大合唱祭（京都合唱連盟）…… 125
定期演奏会（牛丸・明石指揮　メンデルスゾーン：モテット外） 125
京響「 第九交響曲の夕 」〈 神戸・京都・大阪 〉…… 126

昭和 40 年（ 1965 ）
京都合唱コンクール発表会…… 127
第 2 回合唱祭（京都合唱連盟）…… 127
定期演奏会（牛丸紘一指揮　モツアルト：ミサブレーヴィス外） 128
昭和 41 年（ 1966 ）
第 3 回合唱祭（京都合唱連盟）…… 134
心障者の為の慈善バザー「 音楽の夕べ 」…… 136
定期演奏会（伊吹新一指揮　モツアルト：戴冠ミサ外）…… 136
昭和 42 年（ 1967 ）
第 319 回土曜コンサート「 合唱とエレクトーンの夕 」…… 139
第 4 回京都合唱祭（京都合唱連盟）…… 140
定期演奏会（伊吹新一指揮　ブルック：美しきエレン外）…… 140
昭和 43 年（ 1968 ）
第 5 回京都合唱祭（京都府合唱連盟）…… 144
定期演奏会（伊吹新一指揮　ブルックナー：ミサ外）…… 146
第 6 回文化団体懇話会フェスティバル…… 148
フルトヴェングラーを偲ぶ夕…… 149
京響第 110 回定期演奏会「 第九シンフォニーの夕 」…… 149
昭和 44 年（ 1969 ）
第 6 回合唱祭（京都府合唱連盟）5 年連続出場表彰…… 152
定期演奏会（伊吹新一指揮　ハイドン：ミサソレムニス外）…… 154

Ⅵ．確立期 “神韻の煌めきに似て” 昭和 45 年 ── 昭和 49 年
昭和 45 年（ 1970 ）
指揮者交代の経緯…… 157
後期青山時代の発足…… 158
第 7 回京都合唱祭（京都合唱連盟）…… 158

定期演奏会（青山政雄指揮　フォーレ：レクイエム外）……159
秋の京都合唱祭（京都合唱連盟）……160
第九交響曲の夕べ〈フェスティバルホール〉……160
第1回クリスマス　オラトリオ演奏会（青山政雄指揮）……160
昭和46年（1971）
第8回京都合唱祭（京都合唱連盟）……161
定期演奏会（青山政雄指揮　団伊玖磨：筑後川外）……162
第Ⅲ回京都府医師会コンサート……163
第2回クリスマス　オラトリオ演奏会（青山政雄指揮）……163
昭和47年（1972）
第9回京都合唱祭（京都合唱連盟）……165
定期演奏会（青山政雄指揮　ベートーベン：ミサC－dur）……166
京都市文化団体懇話会賞受賞……166
奈良混声合唱団第22回定期演奏会……166
クリスマス　オラトリオ演奏会中止……167
昭和48年（1973）
第10回記念京都合唱祭（京都合唱連盟）10年連続出場表彰……168
奈良混声合唱団第23回定期演奏会……168
定期演奏会（青山政雄指揮　モツアルト：ミサソレムニス外）…169
第5回医師会コンサート……170
第九交響曲の夕べ〈フェスティバルホール〉……170
第九交響曲の夕べ〈京都会館第1ホール〉……170
昭和49年（1974）
第11回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……171
奈良混声合唱団第24回定期演奏会……171
定期演奏会（青山政雄指揮　デュルフレ：レクイエム外）……172
第6回医師会コンサート……173

Ⅶ．隆盛期　"合唱と管弦の高鳴りを"　昭和50年 ― 昭和60年

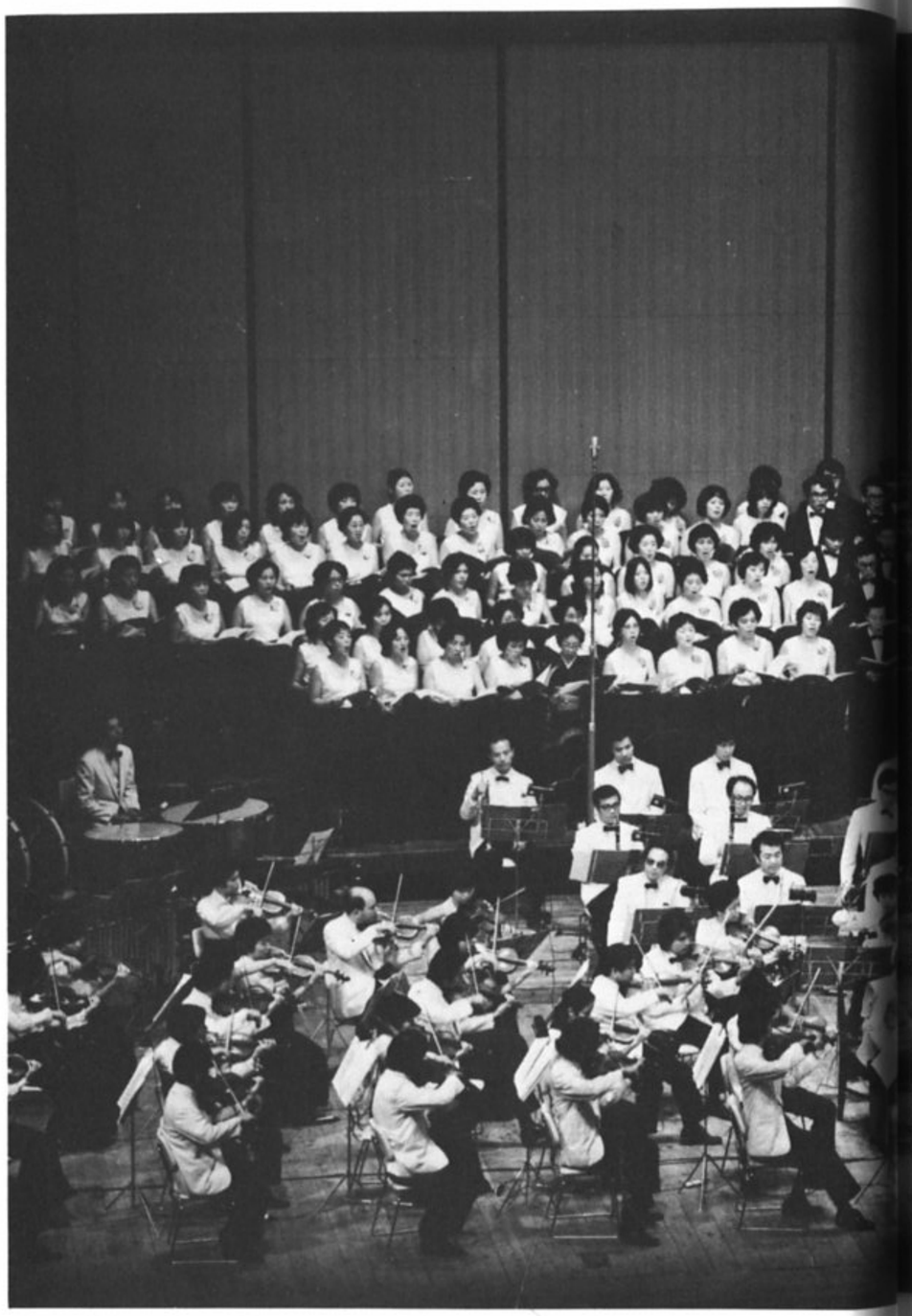
昭和50年（1975）
創立50周年記念ＬＰレコード「ロシヤ民謡」発売……176
第12回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……177
創立50周年記念演奏会（青山政雄指揮　モツアルト：レクイエム外）180
（付・出演者名簿　記念パーティ　その他）
上村けい先生「京都市文化功労者」として表彰……188
第7回医師会コンサート……189
昭和51年（1976）
第13回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……191
京響創立20周年記念「京響フェスティバル」……191
定期演奏会（青山政雄指揮　フォーレ：レクイエム外）……192
第8回医師会コンサート……193
昭和52年（1977）
教会統一会議コンサート……194
伯牙会演奏会に有志出演……194
第14回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……194
第512回土曜コンサート「合唱の夕べ」……195
青山政雄の還暦をお祝いする会……196
大阪市民管弦楽団第10回記念定期演奏会
「ベートーヴェン没後150年記念　第九シンフォニーの夕べ」…196
京都市交響楽団特別演奏会「第九シンフォニーの夕べ」……197
京都巡回コンサート……198
ヴィエール・フィルハーモニック特別演奏会
「ベートーベン第九交響曲・ピアノ協奏曲の夕」……198
昭和53年（1978）
第15回京都合唱祭（京都府合唱連盟）15年連続出場表彰……199

定期演奏会（青山政雄指揮　バッハ：マタイ受難曲）……201
村岡町（兵庫県）「音楽の夕べ」合同演奏会……205
京響巡回コンサート……207
昭和54年（1979）
京響第212回定期演奏会（山田一雄指揮　フォーレ：レクイエム）208
第16回合唱祭（京都府合唱連盟）……209
御坊（和歌山県）混声合唱団ジョイント演奏会……210
有馬バレエ団「くるみ割人形」に女声出演……211
クリスマス音楽会……211
昭和55年（1980）
第11回医師会コンサート……212
第17回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……213
定期演奏会（青山政雄指揮　青山政雄：鑑真和上東征賦外）……213
昭和56年（1981）
第18回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……217
鑑真和上像に捧げる「鑑真和上東征賦」演奏会（唐招提寺）……218
「韻」イブニング　コンサート……219
サマーナイト　コンサート「網野特別演奏会」……221
定期演奏会（青山政雄指揮　ハイドン：四季）……223
「京都混声合唱団々則」制定……225
宮下靖子バレー団「くるみ割人形」に女声出演……228
昭和57年（1982）
藤堂顕一郎音楽褒賞基金第一回（団体）受賞……229
第19回合唱祭（京都府合唱連盟）……230
ＮＨＫテレビ「音楽の広場」出演（京都放送局開局50周年）……231
京都市交響楽団第245回定期演奏会……231
高知交歓演奏会（第2回目）……232
定期演奏会〈ベルニッツィを迎えて〉（モツアルト：レクイエム）…233
昭和58年（1983）
京都府合唱連盟創立20周年記念事業「第20回京都合唱祭」……235
20年連続出場団体として表彰
20年連続出場個人表彰者8名
山根弥生子ピアノリサイタル（マネージメント京都混声）……236
京都混声愛唱歌集発刊……236
京都市交響楽団第258回定期演奏会……237
藤堂顕一郎先生「京都府文化功労賞」受賞……238
昭和59年（1984）
岡村喬生バス独唱会（主催京都混声合唱団）……238
第21回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……239
定期演奏会（青山政雄指揮　ベートーベン：荘厳ミサ曲）……240
真夏の夜の第九〈ザ・シンフォニーホール〉……241
京都市交響楽団第270回定期演奏会〈第九交響曲〉……242
ベートーベン第九交響曲演奏会（小林研一郎指揮）……243
昭和60年（1985）
上村けい先生御他界……244
第22回京都合唱祭（京都府合唱連盟）……245
京都会館開館25周年記念「あなたとジョイントコンサート」……245
昭和60年後半の予定
京都混声合唱団創立60周年記念定期演奏会……246
小泉和裕客演指揮　メンデルスゾーン：エリヤ
京都市交響楽団演奏会「ベートーベン：第九交響曲」…246
京都混声合唱団創立60周年記念事業概要……247
結びとして……248

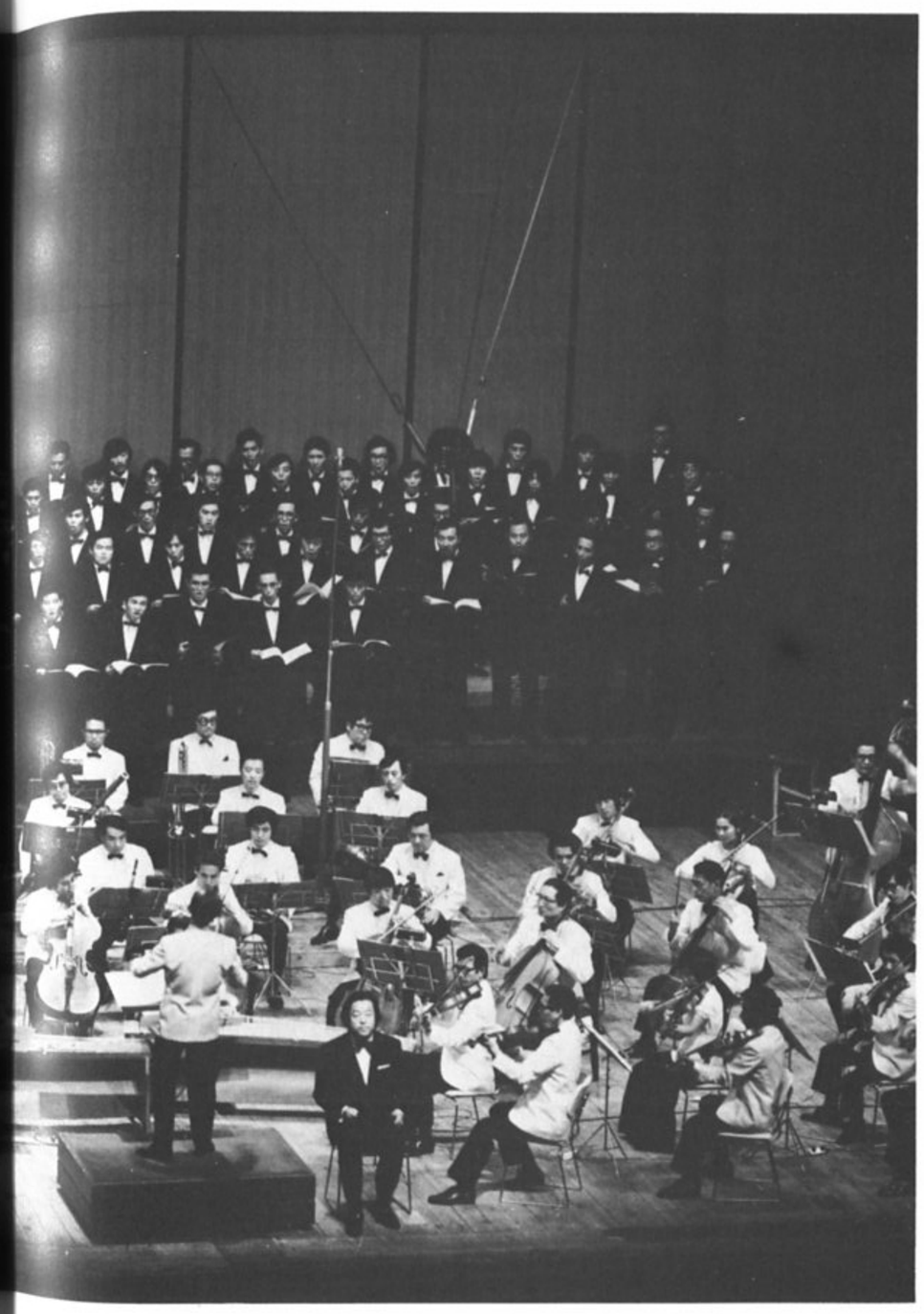
アルバム60年史



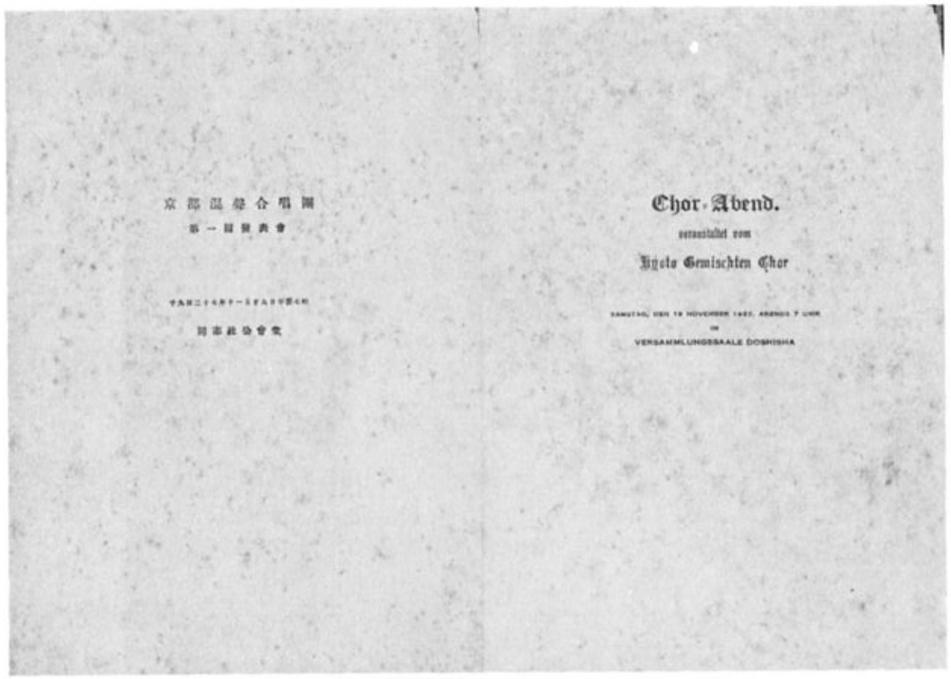
京都混声合唱団団員章
（49ページ参照）



京都混声合唱団創立50周年記念演奏会　　指揮　青山政雄



S.50.10.10　京都会館第１ホール



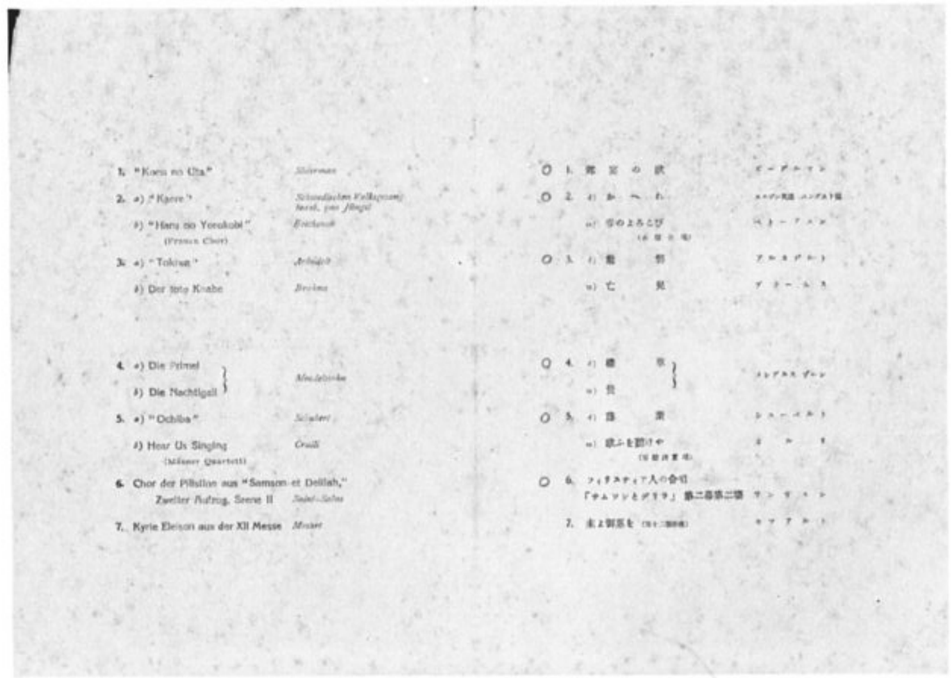
京都混聲合唱團
第一回發表會

同志社公會堂

Chor-Abend.
veranstaltet vom
Kyoto Gemischten Chor

SAMSTAG, DEN 19 NOVEMBER 1927, ABENDS 7 UHR
IN
VERSAMMLUNGSSAALE DOSHISHA

1927（昭和２年）第一回発表会プログラム（表）



1. "Koen no Uta" — Silberman
2. a) "Kaere" — Schwedischen Volksgesang, Insel, von Jüngst
   b) "Haru no Yorokobi" (Frauen Chor) — Reichenau
3. a) "Tokiwa" — Arbeidt
   b) Der tote Knabe — Brahms
4. a) Die Primel
   b) Die Nachtigall — Mendelssohn
5. a) "Ochiba" — Schubert
   b) Hear Us Singing (Männer Quartett) — Crüll
6. Chor der Pilistiae aus "Samson et Delilah," Zweiter Aufzug, Szene II — Saint-Saëns
7. Kyrie Eleison aus der XII Messe — Mozart

○ 1. 郷宮の歌 — ビーデルマン
○ 2. イ) かへれ — スウヱデン民謡 ハンゲスト編
   ロ) 春のよろこび（女聲合唱） — ヘトーフスン
○ 3. イ) 龍 野 — アルヌデルト
   ロ) 亡 兒 — ブラームス
○ 4. イ) 櫻 草
   ロ) 鶯 — メンデルスゾーン
○ 5. イ) 落 葉 — シューベルト
   ロ) 歌ふを聞けや（男聲詩重唱） — ヌ ル ト
○ 6. フィリスティア人の合唱「サムソンとデリラ」第二幕第二場 — サンサヤン
7. 主よ御恵を（男十二聲合唱） — モツアルト

1927（昭和２年）第一回発表会プログラム（内側）



第一回発表会　指揮　森本芳雄　　昭 2.11.19　同志社公会堂



第三回発表会　指揮　エフゲン　クレーン　昭 4.2.23　京都市公会堂



京都放送局（ＪＯＯＫ）よりラジオ全国放送　指揮　エフゲン　クレーン　昭12.12.29



ベートーベン「荘厳ミサ」発表会　指揮　朝比奈 隆　昭18，7.3 同志社栄光館

京都合唱報國團第一回定期演奏會

……壯烈なる護國の闘魂に捧ぐ……

昭和18年7月3日午後4時　　於 同志社　榮光館

―― 曲　　目 ――

Ⅰ 交響曲「海道東征」　北原白秋詩 信時　潔曲

第一章　高千穗
第二章　大和思慕
第三章　御船出
第四章　御船謠
第八章　天業恢弘

獨唱者
ソプラノ……園中節子
メッゾソプラノ……藤島晴子
アルト……服部善子
テノール……高橋恒治
バス……福本正

Ⅱ セロ獨奏　伊達三郎　伴奏：伊達靜子

イ、詩……ブルック曲
ロ、メヌエット……ヴァレンシン曲
ハ、ガヴォット……ポッパー曲

―― 休　　憩 ――

Ⅲ 莊嚴彌撒曲　ニ長調　作品123　ベートーヴェン曲

1、キリエ　（主よ憐み給へ）
2、グローリア　（神の榮光）
3、サンクトス　（聖なる主）　引續き
4、ベネディクトス　（我唯一の神を信ず）

獨唱者
ソプラノ……加藤千惠
アルト……加藤貞
テノール……木村岡郎
バス……藤堂顯一郎

指揮……朝比奈隆
伴奏　パイプオルガン……中瀨古和子
ピアノ……嚴尾蕾子

主催　京都合唱報國團



第一回合唱まつり　指揮　上村けい　　昭25.7.2. 円山音楽堂



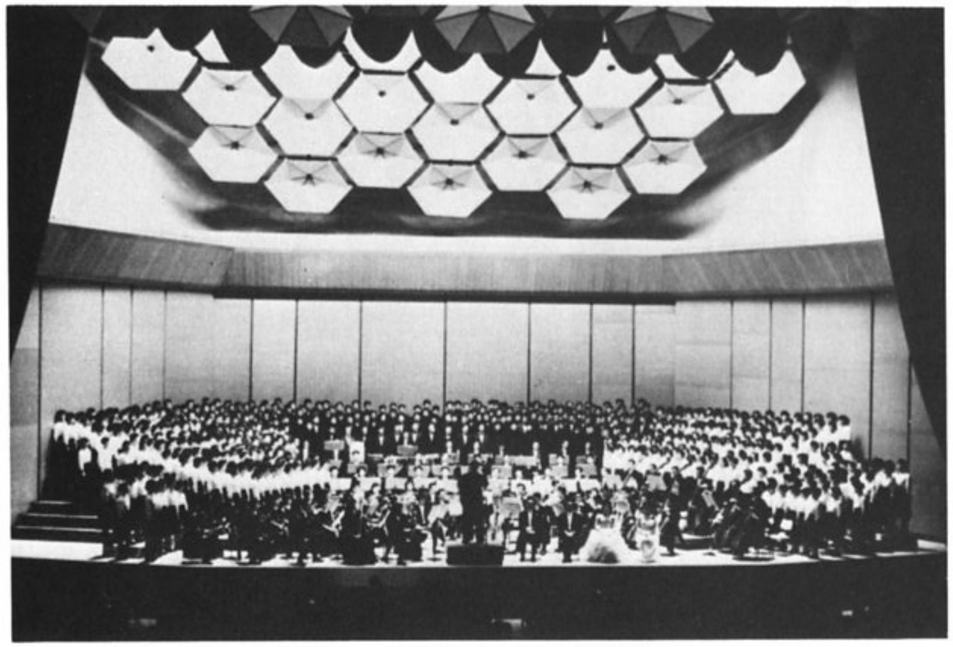
バッハ「マタイ受難曲」演奏会　指揮　山田和男　　昭25.12.10　同志社栄光館



クリスマス キャロル　昭26.12.24　京都キャバナ　京都市公会堂



定期演奏会「ドボルザーク; スタバト マーテル」指揮　青山政雄　昭30.4.17 成安会館

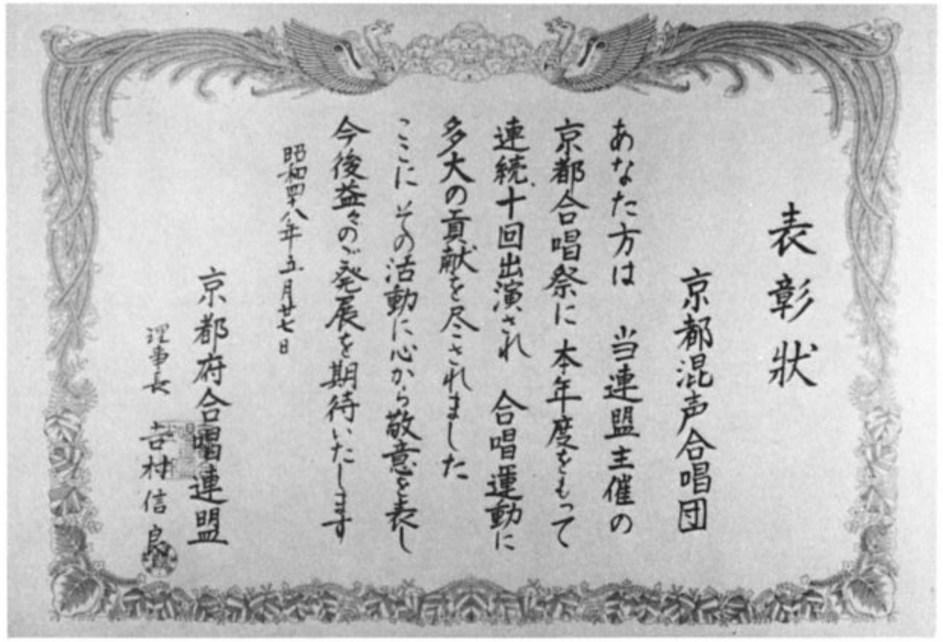


京都会館開館記念演奏会「ベートーベン第九交響曲」指揮　カール チェリウス

昭35.4.29　京都会館第1ホール

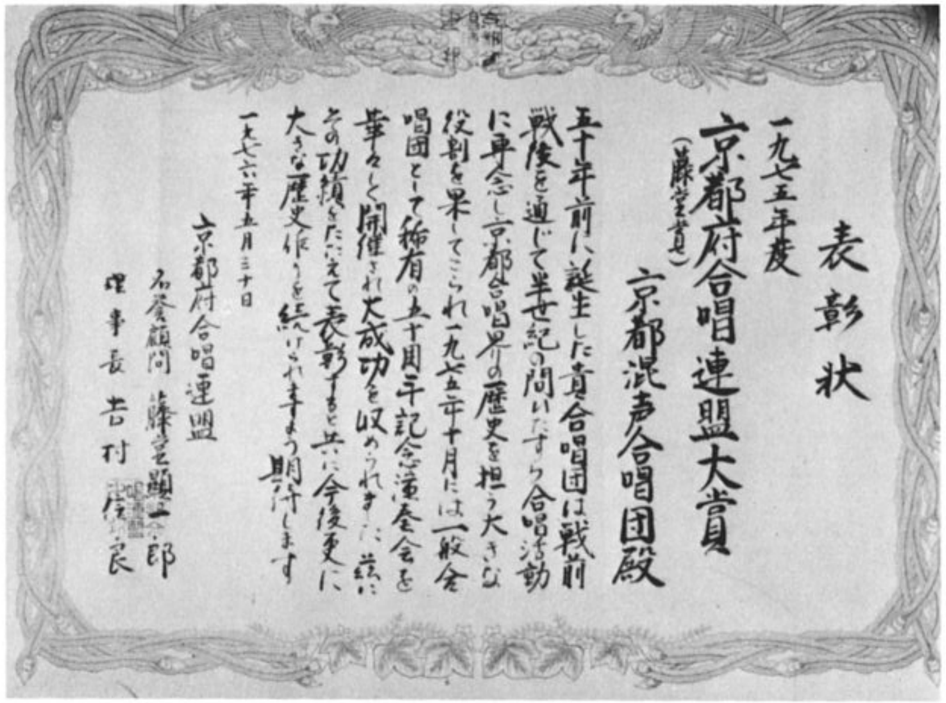


定期演奏会「モーツァルト戴冠ミサ」　指揮　伊吹新一　昭41.11.14　大谷ホール





50周年記念祝賀パーテー　昭50.10.10　農協会館



表彰状

一九七五年度

京都府合唱連盟大賞

（藤堂賞）

京都混声合唱団殿

五十年前に誕生した貴合唱団は戦前戦後を通じて半世紀の間いたずら合唱活動に専念し京都合唱界の歴史を担う大きな役割を果してこられ一九七五年十月には一般合唱団として稀有の五十周年記念演奏会を華々しく開催され大成功を収められました。茲にその功績をたたえて表彰すると共に今後更に大きな歴史作りを続けられますよう期待します

一九七六年五月三十日

京都府合唱連盟

名誉顧問　藤堂顕一郎

理事長　吉村俊良

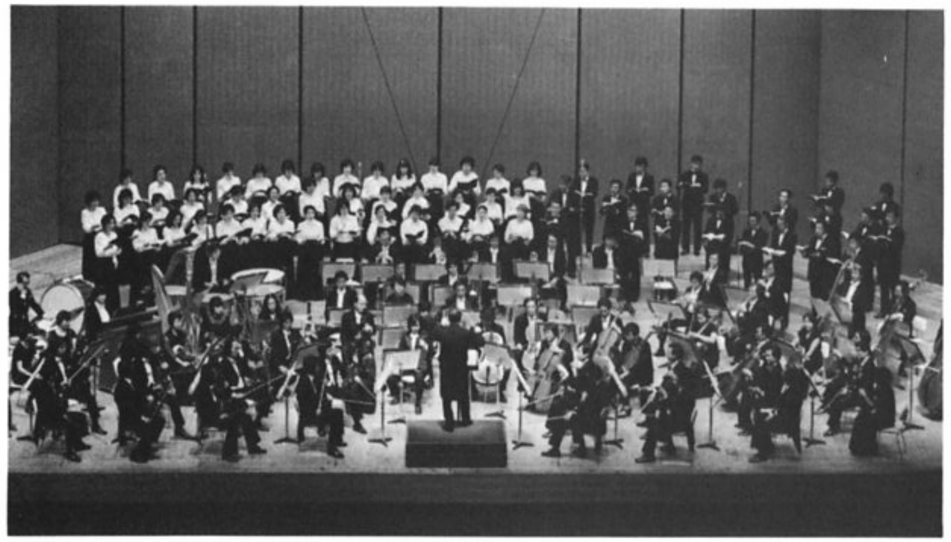


第13回京都合唱祭　指揮　牛丸紘一　昭51.5.30　京都会館第1ホール



定期演奏会「バッハ:マタイ受難曲」指揮　青山政雄 昭53.5.27 京都会館第1ホール





55.4.19. 讀賣新聞

鑑真和上が音楽に

京都 不屈の生涯 来月28日に演奏

【京都】布教のため日本へ渡航、奈良に唐招提寺を開いた唐の鑑真和上の不屈の生涯を描いた詩「鑑真和上東征賦」が、国文学を専攻する大学教授の手によって完成。友人の音楽家が曲をつけ、五月二十八日、京都市左京区の京都会館で、京都市交響楽団と京都混声合唱団が発表会をする。小説や映画にもなった鑑真だが、音楽に登場するのは初めて。発表会は、奇しくも中国に〝里帰り〟している鑑真和上像が日本に帰って来る日となった。

作詞したのは大阪市立大名誉教授で竜谷大教授の小島憲之さん(六七)。学士院恩賜賞を受けた「上代日本文学と中国文学」などで知られる国文学者で、若い時から鑑真に関心を持っていたが三年前、鑑真和上像がパリに渡ったさい、その生涯を〝奈良朝風〟の詩にうたいあげることを思いついた。

詩は、パリの初夏を描いた「序章」に始まり、鑑真が日本渡航を決意、いくたびの困難を乗り越えて渡海する「決意」「飛雪」「大海遭難」「南の島」「海東大和へ」の五章のあと、終章として異国で他界するまでを、主として五七調でまとめている。

山川は国異なれど
天日照る同じ大地よ
青き海国距(へだ)つれど
同じ光よ流るる月は
いざや来たれいざわ
日出る国はま秀(ほ)ろばの国
(第一章「決意」より)

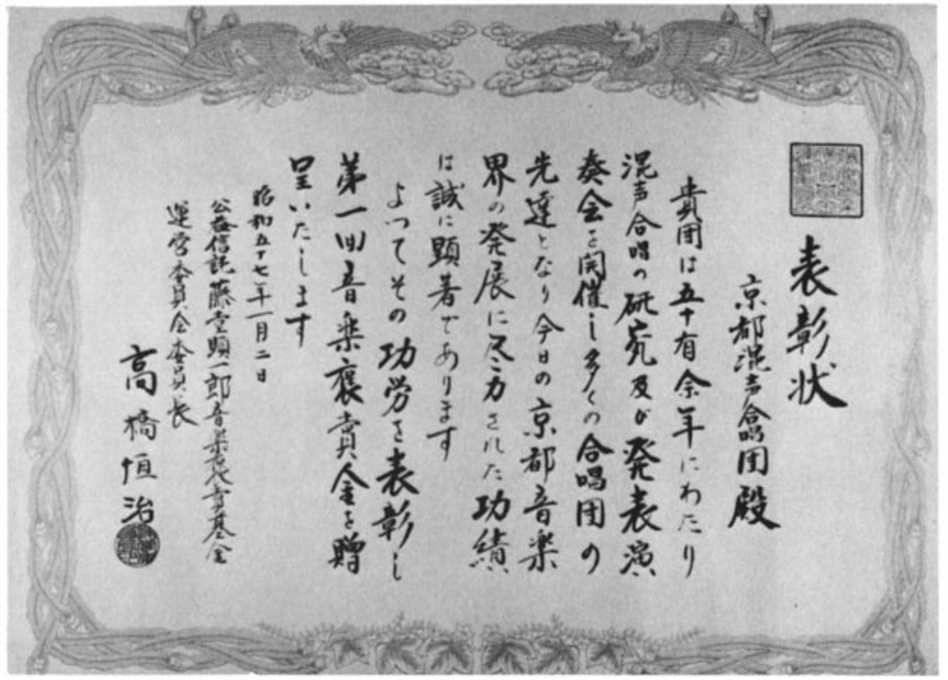
もとになったのは奈良時代の学者・淡海三船が漢文で書いた「唐大和上東征伝」だけで、資料が少なかった。作詞するにあたっては、できる限り奈良時代の言葉を使うように心がけ、瞼(まぶた)は「まなぶた」、涙(なみだ)は「なみだ」などと国文学者らしい配慮や、漢詩の対句表現、仏教用語なども取り入れた。

作曲は友人の九州大谷短大教授青山政雄さん(六三)(京都市伏見区在住)が引き受けた。青山さんはかつて東北の劇団「わらび座」にも属したことのある異色の音楽家で、原詞が生かせるよう日本やヨーロッパ、中国、南方のメロディーなどもふんだんに取り入れて、オーケストラと混声合唱による約四十分の〝交声曲〟にまとめ上げた。発表会では、京都市交響楽団と京都混声合唱団を指揮する。



交声曲「鑑真和上東征賦」のレッスンにはげむ京都混声合唱団
(京都市下京区のヨハネ教会で)

定期演奏会「青山政雄; 鑑真和上東征賦」
指揮　青山政雄
昭55.5.28　京都会館第1ホール


表彰状
京都混声合唱団殿
貴団は五十有余年にわたり
混声合唱の研究及び発表演
奏会を開催し多くの合唱団の
先達となり今日の京都音楽
界の発展に尽力された功績
は誠に顕著であります
よってその功労を表彰し
第一回音楽褒賞金を贈
呈いたします
昭和五十七年一月二日
公益信託藤堂顕一郎音楽褒賞基金
運営委員会委員長
高橋恒治





終演後のパーティーにて
ベルニッツイと青山政雄

昭57.11.10



常任指揮者　青山政雄

京都混声合唱団六十年史

Ⅰ. 草創展開期 〝合唱への憧れと耀き〟…… 1 頁
Ⅱ. 戦時衰退期 〝暗き底流の歌唱に耐えて〟…… 17 頁
Ⅲ. 戦後再興期 〝光さす楽のいざない〟…… 45 頁
Ⅳ. 興　隆　期 〝夢多き歌曲の日々を〟…… 78 頁
Ⅴ. 調　整　期 〝和して支うる〟 …… 123 頁
Ⅵ. 確　立　期 〝神韻の煌めきに似て〟…… 157 頁
Ⅶ. 隆　盛　期 〝合唱と管弦の高鳴りを〟 …… 176 頁

Ⅰ.草創展開期　〝合唱への憧れと耀き〟

昭和元年＝大正15年(1926)――昭和5年(1930)

指揮者　近藤義次　森本芳雄　エフゲン クレーン

昭和元年(1926)

京都混声合唱団（以下京都混声と略称）発足の年である。創設者の一人であった故上村けい女史（京都女子大名誉教授）の述懐によれば「私が京都に参りました頃は、京都の音楽高揚に私財を投じてご尽力下すった稲畑勝太郎さん（元京都商工会議所会頭）の奥様であられた登美子さんが東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）の第一期生（明治27年卒）で南禅寺近くのお屋敷によく集っておりました。メンバーは柳宗悦氏（同志社大教授）夫人の柳兼子さん、竹内栖鳳画伯のご子息に嫁いでいらした竹内禎子さん、いま山形でご活躍中の加藤千恵（栄）さん、男性では吉田恒三さん、テノールの近藤義次さんなどがいらっしゃいました。（中略）当時の京都には音楽らしい音楽がございませんでした。それに耐えられなくなり、同声会（現東京音楽学校音楽学部同窓会）でコーラスをしようという声が高まり同声会を核にして京都の音楽愛好家が加わって京都混声が発足しました。」（朝日新聞抜粋昭51・7・4）

また吉田恒三氏は「これは当時京都唯一の合唱団として参加者ようやく多くその名関西に冠たるものあるまでに進歩した。指揮者は初め**近藤義次**より森本芳雄、イフゲン・クレインに移り（下略）」とその著「京都音楽史」に記している。

発足当時はそれぞれ音楽専門コースを履修した人たちを中心に実力を備えた合唱集団であった。しかしこの年の12月25日大正天皇がお亡くなり

になり、日本中喪に服して音楽は勿論新年のお祝いなども自粛又は禁止の状態であって、京都混声も表立った活動は慎しまねばならなかった。

昭和２年（ 1927 ）

天皇の葬儀も２月に終り、世相も次第に明るさを回復するに従って京都混声も合唱活動を具体化し活発化しつつあった。この年はベートーベン没後100年に当ることが楽界の刺激となって種々の催しが行なわれ、バイオリンのモギレフスキーやピアノのカバロフなど外国人の京都来演なども相次ぎ、京都帝国大学（現京都大学）音楽部を中心とするストリングオーケストラの第一回演奏会が催されるなど、音楽活動蘇生の華やぎがみられるようになった。

京都混声では銅駝小学校音楽室（現市立銅駝美術工芸高校）や十字屋三階ホール（旧木造社屋）などを練習場として演奏会への準備と努力が進められていった。

11月19日（土）**「第一回発表会」**　同志社公会堂にて　午後７時開演

指揮　森本芳雄　　伴奏　船阪すま子

曲目

1. 郊宴の歌……ズーデルマン作曲
2. イ. かえれ……スエーデン民謡　ユングスト編曲
   ロ. 春のよろこび（女声合唱）……ベートーベン作曲
3. イ. 常　磐……アルカデルト作曲
   ロ. 亡　児……ブラームス作曲
4. イ. 桜　草……メンデルスゾーン作曲
   ロ. 鶯……同　上
5. イ. 落　葉……シューベルト作曲
   ロ. 歌うを聴けや（男声四重奏）……カルリ作曲
6. フィリステア人の合唱

「サムソンとデリラ」第二幕第二場……サンサエン作曲

7. 主よ御恵みを（第十二弥撒曲）……モツアルト作曲

ソプラノ　竹内禎子、加藤　栄、浦川絹子、新実　愛、福原玲子
三浦みつ子、工藤ふじ、小笠原礼子、喜多梅香
小堀八重子、坂本しづ枝

アルト　柳　兼子、上村いさを（けい）、小野吉恵、加藤きく
梶原秀子、中村ぬい

テノール　近藤義次、太田黒養二、牧　常彦、杉本秀治、藤井直樹
神田治美、小西公次郎

バス　上家　熙、油谷　栄、市田　勇、小笹蔵之助、山田基男
岩田三郎、谷村左十

上村けい女史は当時を回想して「第一回発表は昭和２年でして、練習場には十字屋楽器店もお借りしました。本格的な合唱運動の先がけで、当時は関西をリードし、いろいろな音楽会で模範演奏をして参りました。」（朝日新聞抜粋昭51・7・4）

因みに**十字屋楽器店**は明治31年田中伝七氏によって現在地（三条寺町東入）に創業され、大正３年伝七氏の没後は妻ゆきさんが継承されていたが、綺麗な白髪と温和な風貌のうちに男まさりの俠気と指導性をもって、京都楽壇の育成に深い理解と助力を惜しまれなかった。

京都混声も十字屋専属の合唱団のように扱われ"十字屋の小母さん"の援助によって多くの便宜や恩恵を受けたことであった。昭和32年新社屋が改築され昭和42年に店内の新設計に至るまで40余年にわたって京都混声の練習場として、また拠点としての役割を担っていただいたのであった。

昭和３年（ 1928 ）

新しく天皇即位の年として世を挙げて祝典の気運豊かな新春を迎えた。

京都混声は着実な努力と研鑽を積み世評の期待に応えるべく４か月間の成果を世に問うことになった。

２月４日（土）**「第二回発表会」**　岡崎　市公会堂にて　午後７時より

後援　京都音楽協会

指揮　森本芳雄　　伴奏　船阪すま子

1. カヴァレリア　ルステイカナ「開幕の合唱」……マスカニ作曲
2. イ．逝ける友……ベンネケ作曲
   ロ．夜……シューベルト作曲
3. イ．送別の歌……信時　潔作曲
   ロ．母の心……ブルック作曲
4. イ．帰　雁……ハウプトマン作曲
   ロ．鷲……メンデルスゾーン作曲
5. ドン　ファン（二重唱）……モツアルト作曲

   近藤義次　　竹内禎子
6. イゴル公より「山の乙女の祈り」(女声合唱)……ボロデイン作曲
7. 森の讃歌……ブルック作曲
8. 真の幸福への讃歌（二重唱）……ヘンデル作曲

   竹内禎子　　柳　兼子
9. 第十二弥撒曲より「主よ御恵を」「栄光神にあれ」…モツアルト作曲

今回の演奏会において京都音楽協会の理解ある後援を得ることになった。京都音楽協会とは京都楽界の健全な発達と好楽者の利便のために大正12年稲畑登美子、藤代禎輔、吉田恒三氏らによって発起され、幾多の準備検討を経て堅実な企画と組織の下に生まれた音楽集団であった。

当日のプログラムには「御注意、靴または草履を御用意下さい。」と印刷されており、音楽会場における聴衆のマナーに対する配慮の一端が窺われる。またプログラムは原語と日本語とが対照的に印刷されており、全歌詞の日本語訳の別紙が添えられるなど洋楽普及への啓蒙的な心遣いが思いや

られることであった。

京都において発足以来２年余のうちにその実力が認識され、世評の注目を得るに至った京都混声は、大阪朝日新聞社の要請を得て大阪に進出する機会に恵まれた。

３月23日（金）**合唱の夕」**大阪中之島　朝日会館にて　午後６時半開会

主催　大阪朝日新聞社社会事業団

指揮者　森本芳雄　　伴奏者　船阪すま子

1. カヴァレリア　ルスチカナ「開幕の合唱」……マスカニ作曲
2. A．アヴェヴェルモ　コルプス……モツアルト作曲
   B．サムソンとデリラ……サンサアーン作曲
3. 女声合唱
   A．山の乙女の踊り（イゴル公より）……ボロデイン作曲
   B．春の喜び……ベートーベン作曲
4. A．さくら草……メンデルスゾーン作曲
   B．うぐいす……同　上
5. 二重唱　ドン　ファン……モツアルト作曲

   竹内禎子　　近藤義次

――休　憩――

6. A．郊宴の歌……ゼーデルマン作曲
   B．母の心……ブルック作曲
7. 森の讃歌……ブルック作曲
8. 二重唱　真の幸福への讃歌……ヘンデル作曲

   竹内禎子　　柳　兼子
9. 第十二弥撒曲より「主よ御恵を」「栄光神にあれ」…モツアルト作曲

当時芸術活動にもっとも理解と権威を有するとされた大阪朝日新聞社社会事業団の主催によって、音楽の殿堂とされた大阪朝日会館に進出し、単独公演を為しとげたことは大きな実績として大いに自負する所があった。

吉田恒三著「京都音楽史」(P. 121) には「大阪朝日新聞社社会事業団が京都の音楽に関与したのは、昭和3年3月25日（注：23日の誤）京都混声合唱団のため"合唱の夕"を大阪中央公会堂（注：朝日会館の誤）で催したことにはじまる。」と記されてある。

昭和4年（1929）

大阪進出に成果を収めた京都混声は、年改まると共にこの春を期して第3回発表会を企図して努力を傾けることになる。先ず指揮者に芦屋在住のソ連の指揮者エフゲン・クレーンを迎えるべく苦心の折衝が続けられ、幾多の曲折の後にその承諾を得るに至り、曲目も宗教曲、歌劇などの大曲、難曲に取り組むこととなる。この事は京都混声の長い歴史の上において、常に宗教曲をレパートリーとする一貫した方針の基盤ともなり発端でもあったというべきであろう。

吉田恒三著「京都音楽史」には「昭和4年の楽壇は2月の京都混声合唱団第三回発表会から始まる。（中略）この楽団としては最も立派であった時期の一つである。」と当時を回顧している。

2月23日（土）**「第三回発表会」**　京都市公会堂にて

後援　京都音楽協会

指揮者　エフゲン・クレーン　　伴奏者　松村静子　今津寿美

Ⅰ. 混声合唱　第十二弥撒曲……モツアルト作曲

イ. キリエ　エレイソン

ロ. グロリア　イン　エキセルシス　デオ

ハ. クイトルリス　ペカタ　ムンデイ

ニ. クォニアム　ツ　ソルス　サンクツスドミヌス

ホ. イン　グロリア　デイ　パトリス

――休　憩――

Ⅱ. 混声合唱

イ. 朝の祈り……メンデルスゾーン作曲

ロ. 春の弥生……信時　潔作曲

ハ. 流浪の民……シューマン作曲

ソプラノ　加藤　栄　　アルト　上村いさを

テノール　近藤義次　　バス　上家　熙

Ⅲ. ソプラノ独唱　竹内禎子

イ. 豊年を讃美して……ラフマニノフ作曲

（注：京都音楽史には「イ，ゴパック…ムソルグスキー作曲」とあるも今は正確を期し難し）

ロ. もし我れ園丁なりせば……シャミナード作曲

――休　憩――

Ⅳ. 二重唱　ソプラノ　竹内禎子　アルト　柳　兼子

歌劇「ピックダム」より二曲……チャイコウスキー作曲

Ⅴ. 混声合唱

歌劇「オルフォイス」より……グルック作曲

オルフォイス（アルト）　柳　兼子

オイリディケ（ソプラノ）　竹内禎子

アモール（ソプラノ）　浦川絹子

第1幕合唱　オルフォイスの友

第2幕合唱　歓喜の歌

第3幕合唱　牧人と森の女

この音楽会のプログラムには、柳兼子の帰朝と、竹内禎子の渡欧を記念するための発表会であること、慈善音楽会として音楽協会の援助を得たことを記すと共に、エフゲン・クレーンについて次のごとく紹介を記している。「クレーン氏は、今更改めて述べるまでもなく、有名な提琴家であるが、また名指揮者としても定評がある。モスコーで2か年間、イサドラ・ダンカン（世界的舞踊家）の伴奏指揮を受持っていたのをはじめ、ハルピンシムフォニーの主任指揮者であり、また新交響楽団（現N響）のグエスト・コンダクターとして非常に好評を博している。」

プログラムに添えられた新しい団員名簿には、第一回演奏会の時の団員の外に次の人たちが加わっている。ソプラノに井野加代子、今津寿美、原田喜久子、近藤敏子、浅地静枝、杉原ミチ子。アルトに今井愛、井街緑、植本章子、松村静子、水野勇子。テノールに岩内二郎、西井親夫、鳥海一郎、野村成仁、土方（現西邨）辰三郎。バスに藤堂顕一郎、宇野勇次、芦田譲治、藤季浄、荒井清。

11月3日（日）**「明治節奉祝大合唱会」** 大阪中之島　朝日会館公演場
午後1時 ── 午後5時
主催　大阪朝日新聞社

第Ⅱ部　4. 京都混声合唱団（混声）　指揮者　エフゲン・クレーン

曲目　イ. マタイ受難楽……バッハ作曲
ロ. イゴール公……ボロデイン作曲
ハ. 歌劇「お蝶夫人」……プッチーニ作曲
ニ. 歌劇「椿　姫」……ヴェルディ作曲

11月3日（現文化の日）は当時明治節と称して明治天皇の誕生日を祝日とし全国的に祝典行事の日とされていた。大阪朝日新聞社はこの日の記念行事として大合唱会を大阪朝日会館に開くに当り、京都混声に参加の要請があり、京都からの出場団体は京都混声のみであった。当日は参加12団体により3部14ステージのプログラムが組まれ、京都混声は第Ⅱ部の終り（4）の順位であった。

11月6日（水）**「第四回発表会」** 岡崎　京都市公会堂にて　午後7時
指揮者　エフゲン・クレーン　　伴奏者　奥山俊子

Ⅰ. 馬太受難楽「吾等涙もてうずくまりぬ」……バッハ作曲
Ⅱ. 遁走曲「天父の栄光」……モツアルト作曲
Ⅲ. ラファエルの頌歌……ブラームス作曲
Ⅳ. 夜のロマンス……サンサーン作曲

────休　憩────

Ⅴ. 歌劇　道化師「鐘の合唱」……レオンカヴァルロ作曲
Ⅵ. 歌劇　イゴール公「農民の合唱」……ボロダン作曲
Ⅶ. 歌劇　お蝶夫人「ハミング合唱」……プッチニ作曲
Ⅷ. 歌劇　椿姫「舞踏曲」……ヴェルデ作曲

一年のうちに本格的な発表会を2回もつことは容易な業ではなかったが、京都楽壇の開拓期ともいうべきこの時期に敢えてそれを為しとげ成功を収めたことは、当時としては驚異的な実績として注目されるに至った。

この年の活躍について吉田恒三著「京都音楽史」には次のごとく記されている。「管絃楽ファンは京大演奏会に集り、合唱ファンは京都混声に集るという、京都の二大名物になった。」と。

またこの年に京都楽壇として特筆すべきは、東京音楽学校（現東京芸大音楽学部）によるベートーベンの「荘厳ミサ」（指揮　シャールス・ラウトルップ）と、新交響楽団（現N響）によるベートーベンの「第九交響曲」（指揮　近衛秀麿　合唱　東京高等音楽学院 ― 現国立音大）の京都初演が催され、東京楽壇の健在を示すと共に、京都楽壇にとっても良き刺激となり、大きな収穫ともなった。

昭和5年（1930）

前年の第4回発表会よりわずか3か月余にして本年度の発表会が催され、京都混声の存在と活躍とはいよいよ顕著となり好楽家の瞠目する所となった。

2月15日（土）**「第五回発表会」** 於・京都市公会堂　午後7時
指揮者　エフゲン・クレーン　　ピアノ伴奏　奥山俊子

第1部

1. 「マタイ受難楽曲」より……バッハ作曲
2. ドイツ民謡　“春を待ちつつ”“答ふる鶯”
3. スノオ　フレエク（雪の華）……ラモオ作曲

4. 歌劇「トロヴァトオレ」より……ヴェルデ作曲
（二重唱）アルト　上村いさを　　テノール　太田黒養二
5. 夜のロマンス……サン・サアンス作曲

第２部

6. おお　父よ　我を祝し給え……メンデルスゾオン作曲
7. 歌劇「リエンチ」より……ワグナア作曲
8. 歌劇「カヴァレリヤ　ルスチカナ」より
“オレンジの花”……マスカアニ作曲
9. 頭……リムスキイ・コルサコフ作曲

第３部

10. 鶯（独唱と合唱）……チャイコフスキィ作曲
テノール　近藤義次
11. ロンド……ラヴェル作曲
12. 歌劇「カルメン」より　“ハバネラ”
（行進及び合唱）終幕より……ビゼエ作曲
アルト　柳　兼子

4月8日（火）**「花祭音楽会」**　於・岡崎公会堂　午後７時

出演　京都混声合唱団　　主催　京都花祭同盟
指揮　エフゲン・クレーン　　伴奏　奥山とし子
独唱　北沢サカエ、上村いさを、太田黒養二、近藤義次、加藤栄子、

第一部

1. 花祭の歌……大中寅二作曲
2. マタイ受難曲……バッハ作曲
3. ラファエル讃歌……ブラアムス作曲
4. 夜のローマンス……サンサーン作曲

第二部

5. 歌劇“トウロヴァトーレ”中の二重唱……ヴェルディ作曲

6. カヴァレリヤルスチカナ……マスカニ作曲
7. 鶯……チャイコフスキー作曲
8. 独　楽……リムスキー・コルサコフ作曲

第三部

9. 春の弥生……信時　潔作曲
10. 歌劇“イゴール”……ボロデイン作曲
11. 歌劇“カルメン”の中より……ビゼー作曲
イ．ハバネラ　　ロ．終幕の合唱

４月８日は釈迦の生誕を祝って京都の各寺院では花祭が盛大に催される日である。この日京都花祭同盟からの要請に応えて、京都混声は花祭音楽会に単独ステージの面目を発揮する機会を得た。

11月3日（月）**「明治節記念音楽会」**　於・大阪中之島　朝日会館
午後７時
主催　大阪朝日新聞社

5. 混声合唱　京都混声合唱団（40名）
指揮　エフゲン・クレーン
（イ）パリアッチ“鐘の合唱”……レオンカバロ曲
（ロ）ウグイス……メンデルスゾオン曲
（ハ）カルメン“最後の合唱”……ビゼエ曲

菊の香り豊かな秋の祝日 ── 明治節に前年に引続き大阪朝日新聞社に招かれて大阪に進出する好機を得た。プログラムは初め会衆全員起立して国歌「君が代」斉唱。アサヒコーラスによる「明治節頌歌」斉唱に続き各団体の演奏に移る。当日は参加11団体。京都混声の順位は第五ステージ。因みに当日の出演団体は（括弧内は指揮者）アサヒコーラス（水野康孝）大阪商科大学グリー・クラブ（小泉功）大阪ゲミシュテンコール（田村忠信）大阪外語グリー・クラブ（小川謙）大阪市立盲学校楽友会管絃団　若葉会混声合唱団（水谷央）同志社大学プリムローズクラブ（土方辰三郎）関西

学院グリー・クラブ（岩尾謙二）大阪コーラル・ソサエティ（長井斉）などであった。

11月9日（日）**絵更紗画材資金募集「大音楽オペラの夕」**

会場　岡崎公会堂　午後6時

主催　繢布（かいふ）社

指揮者　エフゲン・クレーン　　伴奏　奥山俊子

1. サムソンとデリラ……サンサーン作
2. パリアッチ“鐘の合唱”……レオンカバロ作
3. カバレリヤルスチカナ……マスカーニ作
4. ハバネラ（カルメン）……ビゼー作

独唱　柳　兼子

――休　憩――

5. ビグダム……チャイコフスキー作

二重唱　上村いさを　　加藤　栄

6. 山の乙女（女声合唱）……ボロデイン作
7. マダム　バタフライ“ハミングコーラス”……プッチーニ作
8. タンホイゼル“祝歌”……ワグネル作

この日のプログラムに印刷された挨拶状によれば「更紗画塾は、大正11年10月開設以来、更紗とは別個な立場にあって（中略）洛西長岡の地に絵更紗画林の名称のもとに画室の新築準備中でございます。この度京都混声合唱団の好意により、資金募集の大音楽会を催すことに相成り云々。」と記されている。

この年にはフランス映画「パリの屋根の下」が上映され、ルネクレール監督のトーキー第1作として映画の主題歌が人々に口ずさまれ、その伴奏楽器アコーデオンが親しまれて軽音楽、映画音楽が飛躍的に流行の波に乗った時期であった。

草創期への追懐 —— ひたすらに合唱への憧憬と理想に情熱を傾けた草創期の人たちも永続の歩みと長期の変遷のうちにその動静や消息をつかむことが困難になった。草創期の頃に京都混声の中心となって活躍された方たちに創立50年記念行事を前に集っていただき「京都混声を回顧する座談会」を催した。草創展開期を終るに当り、座談会の一端を記して往時をしのび、その結びとしよう。

〔時〕　昭和47年6月22日　夜

〔所〕　中京　肥前屋

〔人〕　草創期の団員　近藤義次（夫人付添）　上村けい　藤堂顕一郎　西邨（旧姓土方）辰三郎

現団員　広瀬茂　小山弘　金子清明　桂京造　高野保

藤堂：「十二ミサ」（モツアルト作曲）名曲でしたね。“キリエ”も良いが“クイトリス”も。あんな感激はもうありませんね。練習をしている頃中山悌一が来たり、立川清登が来たりして……。二人共若くてね。こちらの方が偉そうにしていたものですよ。（笑声）

西邨：あの頃、スタンダードの高さにおいては京都混声がNo.1だった。本格的なコーラスにおいては。関西地区だけでなく、日本全国でもそうでした。混声合唱としては最初で最高だったでしょう。

近藤：あの当時は東京にもなかったよ。

西邨：“キリエ”よかったね。あの頃クレーンやメッテル（注：両者共ソ連の指揮者）が来て日本の音楽を高めたのですね。今は日本もレベルアップしているが、今日京都に来て献身的にああした指導をする外人があるだろうか。

上村：フィッシュはこの間帰っていったでしょう。土壌が違うといって。私たちはクレーンにコーラスというものを稽古してもらって、メンデルスゾーンとか……なんてこんなに美しい音楽があるのかしらと感動して……どこででも稽古に励んだものでした。練習の帰

りに出町の橋の上などで思いきり歌ってね。（溜息をつきながらしばし懐古の思いに感動のご様子）

西邨：先生のそうした感動が僕らにも伝わってくるんだなあ。そうだ、下鴨の柳原さんの家でもよく勉強した。"闘牛士"の合唱など。（先生方口ずさむ）お嬢さんたちが熱心で10時を過ぎても帰ろうとしないんだからね。それで近藤先生が気をもんで……。

近藤：そうそう。お嬢さんたちが下鴨の森の所を夜遅く帰るんでね……。今と違って女の子の夜の外出がやかましい時代だったし、街燈も暗い町だったもの。

藤堂：ほんとうにわれわれも熱中して努力したものです。男声が少くてね。

西邨：3時間も4時間もトレーニングさせられてね。今はインスタントでわがままな時代だからなかなか勉強しないんじゃないかなあ。

上村：あの時分の私たち素直だったんだもの。音楽的にも素直でね。あるいは無知に近かったかもしれない。それだけにあの人たち（クレーンやメッテル）に本当に無条件に高められた。それが続いて今日の京都混声に及んでいるのじゃないかしら。

西邨：京都混声は確かにズバ抜けてうまかったですよ。女声の人たちはよく頑張ったものです。主人は居る、子供は居る、お勤めはある。それでいて京都混声に来る喜びをもっていましたよ。遅刻しないでね。

上村：そうそう。そうでしたよ。

西邨：今の人は計算しすぎるようですね。すぐ損か得かと。言い訳もうまいし。

上村：そんなの空しいわ。すべて一所懸命にするということは、生きているということのためにするのであって、その外の何の目的のためでもないもの。

藤堂：だからクレーンの厳しさにも耐えられたのですよ。

西邨：クレーンはよく怒りちらすんだ。君と二人でクレーンを睨みつけてやったね。君は喧嘩腰で睨みつけるんだな。

上村：ほんとによくシゴかれたね。そしてあの人本番になるとアガるのよね。

西邨：あの人でも……。

上村：そうよ、アガるのよ。そういう時にはメンバーがしっかりしていて、こっちが引張るようにするとまた落ちついてきてね……。

近藤：クレーンは3年くらい居てくれただろうか。

上村：10年くらいに感じられるけど……。

近藤：印象深いんだなあ。

西邨：そんなに長くはなかった。それだけ影響が大きかったんですよ。

藤堂：あの"ラクリモーザ"。（メロデーを口ずさむ）もう一度みんなで歌いたいなあ。

西邨：僕も歌いたいなあ。（先生方、期せずして共感の嘆息）

II.戦時衰退期 〝暗き底流の歌唱に耐えて〟

昭和6年(1931)――昭和20年(1945)

指揮者　エフゲン・クレーン、土方辰三郎、森本芳雄
竹内平吉、水谷　央、朝比奈　隆（客演）

昭和6年(1931)

陽春を期して京都混声の主催によるレオ・シロタ、柳兼子のジョイントコンサートが先ず注目される活動であった。

4月18日（土）**「レオ・シロタ　柳兼子音楽会」**

於・京都市公会堂　午後7時

主催　京都混声合唱団　後援　京都音楽協会

Ⅰ. ベートーヴェン　ソナタ作品57
充分なる快速調　元気なる緩徐調　内輪なる快速調

Ⅱ. ベートーヴェン　懺悔歌
シューマン　イ. 月夜　ロ. 春の夜
ブラームス　イ. 鶯に　ロ. すみれ　ハ. 恋の歌

Ⅲ. ヴォルフ　イ. 離れ行きし少女　ロ. 飽くことを知らぬ愛
マーレル　イ. 我は世捨て人　ロ. 死の鼓手

Ⅳ. ショパン　イ. 幻想曲 f-moll　ロ. 円舞曲 as-dur
ドビュッシー　水中の影
マニュエル　イ. ドウ　フアラ・ロ. 火の踊
シュトラウス　イ. ローゼンタール　ロ. 維納の謝肉祭

11月5日（木）**「第六回演奏会」** 指揮　エフゲン・クレーン

（注：演奏会実施の資料不足につき詳細不詳）

この年9月18日には満州事変が勃発し世情は大きく軍国主義に転換の年であった。相次ぐ勝利の報に戦意は高揚し、文化的志向は軟弱軽薄なも

のとして一般から疎外される傾向をもつようになった。従って音楽活動も消極的となり、軍歌礼賛の時代に向って急速な進展をみるようになった。荒涼とした戦争志向へのせめてもの抵抗のごとく、歌謡曲には“酒は涙か溜息か”“影を慕いて”などの古賀メロデーが世上を風靡し硬質な世局の風調の中にあって、甘美な哀愁と色調を漂わせていた。

N響の前身である新交響楽団は日本交響楽団と改名して第一回演奏会を開き、東京音楽学校（現東京芸大音楽学部）にはドイツから指揮者プリングスハイムが着任したことなど、この年の特筆すべき楽界の出来事であった。

昭和7年（ 1932 ）

1月8日（金）“大阪朝日新聞”所報抜粋〈京都混声合唱団瞥見〉(ステージ写真掲載)「京大交響楽団を展望すると同時に忘れてならないのは京洛楽壇の花形として自他ともに許している京都混声合唱団である。これまた関西に重きをなしているが声楽家近藤義次氏、竹内禎子、柳兼子両夫人らの東京音楽学校出身者を中心に〈よき音楽を楽しもう〉として組織された同合唱団が、現在の名声を博し得たことはまことに当然のことというべきである。しかしこの団体もすでに幾星霜かを経てきた。最初はほとんど専門家の団体であったが今ではたくさんのアマチュアが混っている。そのメンバーはソプラノ竹内禎子、E．クレーン両夫人ほか9名、アルト柳兼子、上村いさを（けい）両夫人ほか7名、テノール近藤義次、野村成仁両氏のほか10名、バス藤堂顕一郎、野間口兼良両氏ほか9名、指揮者エフゲン・クレーン氏らで、しかもなおますます発展しつつあることは指揮者に当を得ているのと音楽学校出身者たちの真剣なるリードによるものである。

先年竹内、柳両夫人の洋行中に大阪朝日会館における明治節記念音楽会に出演して素晴らしい好評を博したのも近藤、野村両氏をはじめ若手の上村、加藤両夫人がいて熱心にリードしたからであろう。かくて同合唱団は

毎日曜日の午後4時からと毎木曜日の夕7時からといずれも約2時間ずつ十字屋三階の練習場で猛練習を積み、なお時折柳夫人の声楽講座や、クレイン氏の発声法講座を開いてこれまでに本邦初演曲を放送したり、また発表したことは少なくないがその一面においてまた幾多の波瀾曲折を経てきている。〈メンバーの一致団結〉この言葉こそ1932年を迎えて同合唱団に呈するただ一つの有意義なる贈り物であろう。」

1月21日（木）“大阪朝日新聞”所報抜粋「京都混声合唱団は22日4時から5時まで、三条寺町東入ル十字屋三階で初練習を行ない、引続き総会を開いて役員改選、終って新年晩餐会を催す。」

11月3日（木）**「明治節奉祝大音楽会」** 於・大阪　朝日会館

主催　大阪朝日新聞社社会事業団

指揮者　土方辰三郎　　伴奏　ミス・クラップ

1. アベ　マリア……アルカデルト曲
2. 「メサイヤ」より……ヘンデル曲
   イ．一人のみどり子われらのために生まれ給えり
   ロ．いと高きところ神にあり

翌日の大阪朝日新聞には〈京洛楽壇のため気を吐く〉の標題のもとに京都混声のステージ写真を添え次のように報じている。「京都から出演した同志社プリムローズ・クラブと京都混声合唱団とは何といっても当夜の王座を占めて断然群を抜き京洛楽壇のために大いに気を吐いた。（中略）京都混声合唱団はさすがに堂々たるプログラムを発表して先ず会衆をアッといわせ、プリムローズ・クラブの後を承けて場も割れんばかりの拍手に迎えられて出演、土方辰三郎氏の指揮、ミス・クラップ氏の伴奏で（中略）二曲を歌ったが、メンバーの中には柳兼子、上村いさを、加藤栄の三夫人と近藤義次、野村成仁の二氏があり、そのボリュームといいハーモニーといい実に遺憾なく聴衆を魅了して、さかんなアンコールを受け大成功をおさめた。」

12月19日（月）同情週間のために ―**「京都楽壇連合大音楽会」**

京都市公会堂にて　午後7時から　会費1円

第Ⅱ部　混声合唱　京都混声合唱団

指揮　土方辰三郎　　伴奏　イー・カーブ

「メシヤ」抜粋……ヘンデル曲

1. 第4番　主に栄光顕わる

第12番　吾等の中に独りのみどり児生まれ給えり

第17番　至高所神に栄光あれ

演奏会に先立って12月17日の大阪朝日新聞は同情週間音楽会の予告に、京都混声と同志社グリークラブのステージ写真を掲載し、三段抜きで上記プログラムを報じている。

12月20日（火）**「第七回発表会　クリスマスの夕」**

於・同志社公会堂　　午後7時

指揮　土方辰三郎　　伴奏　エドワード　S．コッブ

第Ⅰ部

1. オルガン　プレリュード……ヘンデル曲

「メサイア序曲」独奏　エドワード　S．コッブ

2. 聖書と祈り　　司祭　堀　貞一

3. 合唱「ミサ　ブレービス」……パレストリーナ曲

A．キリエ　エレイゾン　　B．グローリア

C．クィ　トリス　ペカタ　ムンディ

D．サンクトウス　　E．ホザンナ

F．アグニュス　デイ

ソプラノ　和田スマ　　アルト　中原春江

テノール　小川哲太郎　バ　ス　藤田成弘

第Ⅱ部

4. 合唱「クリスマス讃美歌」

A．ウエスリー　110

B．サイレントナイト　105

C．イングリッシュカロル　102

5. ダブル　クヮルテット

「リッスン　トウ　ザ　ラム」（小羊に聴け）……

R．ナザニエル　デット曲

ソプラノ　加藤　栄　　高良よし子

アルト　上村いさを　　水野勇子

テノール　土方辰三郎　　近藤義次

バ　ス　藤井義久　　藤堂顕一郎

6. アルト独唱　　柳　兼子

おお　シオンへの神の便りを語りしは汝なり…ヘンデル曲

第Ⅲ部

7. 「メサイア」より……ヘンデル曲

A．主エホバの栄光はあらわれいで

B．世に御子をば給う

C．ソプラノ詠唱　第二部8.　9.　10.　11.　13.

ソプラノ　加藤　栄

D．神に栄光あれ

8. 奉献頌　　エドワード　S．コッブ

9. 合唱　ハレルヤ……ヘンデル曲

10. もろ人こぞりて　88……ヘンデル曲

前年に起った満州事変以来世情は次第に軍国主義右傾化の色調を強め、政治の腐敗、農村の疲弊、ロンドン条約による米英の圧力に屈した軍備の低下などを憂える現役軍人の烽起によって犬養首相殺害等の5・15事件が国内を騒がせ、外地では上海事変の発生による中国派兵など、国をあげて戦争への傾斜を強くすると共に、文化の軽視は助長され音楽活動も軍歌に

取って代られる風潮が濃くなって行く年であった。

昭和8年（ 1933 ）

3月には日本は国際連盟を脱退して国際的に孤立化し、国内にあっては5月に京大の滝川事件が起り、京都は時代の混濁に巻き込まれていった。国家権力による学問・文化に対する圧力が加わり、戦争目的への速度を早めていった。音楽会なども祝祭日における官製のものか当局のお声がかりのものが多く、京都混声の独自の発表会開催も困難となりつつあった。この年は資料も乏しく、唯一の参加ステージに次の催しがみられる。

11月12日（日）京都市教育会三十周年**「音楽と舞踊の夕」**

於・京都市公会堂

合唱　京都混声合唱団

曲目　春の弥生……信時　潔

うぐいす……メンデルスゾーン

夕焼小焼……山田耕筰

天地創造……ハイドン

※指揮者伴奏者未詳

昭和9年（ 1934 ）

音楽活動が次第に窮屈になっていく中で、京都混声の真摯な練習の続けられたことが朝日新聞によって窺がわれる。

朝日新聞所報「一時休止の状態に陥っていた京都混声合唱団では、その後京都在住同声会（現東京芸大音楽学部同窓会）の支持を得、従来通りエフゲン・クレーン氏を指揮者として更生することになり、40余名のメンバーを擁して本月上旬からいよいよ練習を開始したが、その輝やかしく古い歴史を真向に翳して今後猛練習云々」

6年後に開催予定のオリンピック東京大会に大合唱団の組織が話題にな

り、京都もその影響によって合唱団体の合同による大コーラスの抱負が具体化しつつあったようであるが、時代の大きな流れに打ち消され、殊に男子は兵役に服するために合唱の組織が次第に困難になる時期であったことは好楽家の大きな悩みであった。

昭和10年（ 1935 ）

この年に関してはいささかの資料もなく、当時の団員であり、現在兵庫県養父町にて医院を開業されている井上弘氏の厚意による日記の抜粋によって往時をしのぶこととする。

4月13日（土）　三宅君（旧団員）の所から葉書がきて「京都混声に入会せんか。」とのことであったので午後7時半に三条十字屋に行く。約40名。上手な人ばかりである。主力メンバーの外には竜谷大、大谷大、同志社大、府医大などのコーラス部の主力メンバーが加わり、（注：当時は男子のみの大学）女声には堀川高女（旧制）の卒業生が多かった。会費1円也。

4月27日（土）　練習は外人の指揮（注：エフゲン・クレーン氏）でやる。イタリーへ旅行に行かれた時の話からイタリーの歌手の話。それから発声法。一人一人歌わせられた時には汗をかく。あまり下手ではなかったらしい。6月中旬宝塚と共同で**ラジオ放送**するとのこと。

6月3日（日）　午後5時20分**華頂会館**に着く。午後7時より入場者続続とつめかける。女性も多い。7時30分開演。

曲目　1. マンドリン　オーケストラ

2. 合唱　京都混声合唱団

“アベ　マリヤ”　“Heimweh”

3. 四重唱（曲名不詳）　ソプラノ　加藤　栄

アルト　上村けい　テノール　小川哲太郎　バス　藤堂顕一郎

4. 合唱　“Nachtigall”　“Comitat”

5. マンドリンと合唱（合同演奏）　“麦祭”

午後9時30分終了。賛助出演の方々にタクシーを拾ってくる。四条の菊水で大祝賀会を開く。

6月23日（日）　午後6時**ＮＨＫ京都放送局**集合。京大管絃楽部が部屋を使っているので二条高女（旧制、現二条中学の校舎）の講堂で練習する。午後8時より放送。大そううまくいった。

10月12日（土）　午後4時より上村先生宅にて練習。コールユーブンゲン27、コンコーネ4番までやる。夜は京都混声に行く。“ミサ”とクレーン氏の作曲作品を練習する。

11月3日（日**・明治節**）　午後6時30分**演奏会**始まる。京都混声は最後のステージ。上手に歌えた。

11月16日（土）　華頂会館にて**「京都混声合唱団発表会」**。合唱はみなうまくできてクレイン氏も大喜び。辻久子、松尾陽子の二人、まだやっと9才のお嬢さんだが、このヴァイオリンにはとても及ばない。正しく天才だ。　〔以上は井上氏の日記による〕

11月23日（土・祭日）「近江療養院慰問演奏会」

午前9時25分京都駅発。近江八幡下車。バスにて長命寺着。ガラリヤ丸に乗船して琵琶湖東部周遊の後、下船して近江療養院にて慰問演奏会。夕食後近江兄弟社教育会館にて演奏会。京都駅帰着午後11時30分。

昭和11年（1936）

2月26日東京では一部の過激な青年将校による叛乱が勃発し、首相官邸、朝日新聞社、ＮＨＫなどを襲撃または占拠し、天皇側近の内大臣斎藤実、蔵相高橋是清らを殺害、東京には戒厳令が布かれて内乱状態になった。4日後には鎮定されたが、この2．26事件を契機として軍部の政治支配は強化され、戦争への直進に一層拍車がかけられていった。それに反して音楽はじめ文化活動の軽視や締めつけはますます厳しさを加えつつあった。京都混声のみならず合唱団では男子の兵役召集によって一層練習に支障をきたすようになりつつあった。

5月15日（金）「オリンピック応援歌発表会」於・京都朝日会館

この夜、前年（昭和10年）河原町三条に竣工した京都朝日会館においてオリンピック応援歌・行進曲“輝く朝日”の発表演奏会が催された。京都混声は当夜賛助出演してその健在を示したが、4年後（昭15年）に東京において行なわれるはずであった第12回オリンピック大会は、昭和13年7月に至って非常事態の故に遂に中止されることとなった。（昭13.の項参照）

兵士となって戦地に赴く男子、その手不足を補うために強制的に狩り出される女子の職場進出など身辺の移動のあわただしい時代になって各合唱団とも合唱活動がむずかしくなると共に、当局からは文化活動抑制の意図による指導もあって合唱団の大同団結が余儀なくされていった。12月には「京都合唱連盟」が結成され、その最初の公演として同情週間の大合唱祭が催された。

12月5日（土）同情週間のために ―**「大合唱祭」**

於・京都朝日会館　午後7時　会員券50銭

主催　京都合唱団連盟

後援　大阪朝日新聞社社会事業団

第一部　（5）混声合唱　　京都混声合唱団

指揮　エフゲン・クレーン　　伴奏　梅田しづ

A．主よ……セザール・フランク

B．蒼きドナウの流れ……ヨハン・ストラウス

第二部　（13）混声合唱　　京都合唱連盟

指揮　近藤義次　　伴奏　高橋敏夫

A．青年の歌……山田耕筰作曲　北原白秋作詞

B．昭和の黎明……同　上

この日の参加は15団体500人の予定であったが、当日は12団体の出演となった。京都混声は第一部の5番目に出場。最終の合唱は参加団体全員

による大合唱をもって幕を閉じた。

この年には京都楽壇に特筆すべき二つの行事があった。その一つは京都帝国大学（現京大）音楽部創設20周年記念行事と銘打って11月17日ベートーベンの“第九交響曲”が関西人のみによって初演されたことである。指揮 ── エマヌエル・メッテル、管絃楽 ── 京都帝国大学音楽部、独唱 ── ソプラノ永井八重子　アルト加藤千恵　テノール水野康孝　バス藤堂顕一郎、合唱 ── 大阪音楽学校合唱団（現大阪音大）であった。会場は今春竣工した京都宝塚劇場（注：現在は縮小されたが当時は京都最大の演劇映画劇場であった）であり、当夜は開場を待つ人によって河原町通りは人に埋まり、市電も通れなくなって警官が整理に当ったが警官も人の渦に呑まれる有様であった。いよいよ扉が開かれ開場になると雪崩うつ人の波はパニック状態となり、入場券を渡すこともできず、場内の通路も人で埋まり身動きもできなくなった。第四楽章はＮＨＫラジオで（注：当時まだテレビなし）全国に中継放送され、ニュース映画にもなるほどの大評判であった。因みに入場券は3円、2円、1円。定員1800人のところへ2800人入場という想像を絶する大演奏会であった。

いま一つの行事は、新交響楽団（現Ｎ響）が新しい指揮者として迎えたヨーゼフ・ローゼンシュトック指揮による初めての演奏会が11月27日京都朝日会館において行なわれ、好楽家の熱狂的歓迎を受けたことである。ローゼンシュトック氏はその後滞日10年の間に日本の管絃楽を世界的レベルにまで育成した楽壇の恩人であり、現Ｎ響の名誉指揮者である。現在はメトロポリタンなどの指揮に当り、昭和58年は米寿のはずである。

昭和12年（1937）

京都混声にとっても京都の合唱界にとってもこの年は振幅の大きな年であった。その第一は京都混声が一層の充実を期するために京都音楽連盟合唱団と合同して一時「京都合唱団」となったことである。第2には大阪朝

日新聞京都支局が「朝日コーラス団」を結成したのであるが、その主要メンバーは京都混声の団員によって形成されていたことである。これらの働きの背景には、当時朝日新聞京都支局の文化担当者であった築山新三氏の京都の音楽振興に尽くされた格別の熱意と貢献が大きな力となっていた。

京都混声の創設者の一人であり、京都楽壇の開拓者でもある吉田恒三氏はその著「京都音楽史」に次のように記されている。

「（省前）柳兼子の発起によって合唱団を組織することとなり、同氏並びに竹内禎子、近藤義次を中心として京都混声合唱団を創立したのは昭和2年の春（注：前述のごとく創設は昭和元年、第一回発表会が昭和2年である）であった。これは京都唯一の合唱団として参加者ようやく多く、その名は関西に冠たるまでに進歩した。指揮者は初め近藤義次より森本芳雄、エフゲン・クレインに移り、朝日新聞京都支局築山新三氏が京都音楽連盟を結成せし時、一時朝日コーラス団となったが、再び復帰し、さらにクレインによって大いに完成し現今（注：昭和16年頃）は竹内平吉によって指揮されている。同志社においては昭和3年頃より竹内禎子によって混声合唱団が組織され練習せられ、その後森本芳雄の帰朝と共に同氏の指揮のもとに練習に努め成績大いに挙り、現今は京都混声合唱団と共に双璧である。（中略）昭和12年12月京阪神を一貫せる全関西合唱連盟は成立し、さらに京都の（中略）16合唱団を合して京都合唱団連盟を組織した。」

この頃の京都混声並びに京都合唱団の経緯について具体的な二三の資料を記して当時の情勢を回顧してみることとする。

1月27日（水）京都混声ではこの日の集りにおいて、京都を代表する立派な合唱団をつくるために、他の合唱団との統合案について相談会を開き、主旨には賛成であるが種々の困難の伴うことについて特に意見の交換を行ったけれども結論をみるに至らなかった。

2月1日（月）京都音楽連盟合唱団としてもこの日朝日新聞京都支局において本年度の初会合を開き、合唱団の統合について協議が行なわれた。

この日の会合は3日付の朝日新聞に、会議風景の写真入りで次の記事が掲載された。「京都音楽連盟コーラス団では1日午後7時から本社京都支局会議室で本年度の初の茶話会を開催。中原、山田両マネージャの挨拶に次ぎ指揮者森本芳雄氏の抱負や方針についての話があり、懇談を終って和気藹々のうちに同10時に散会。」

結局「京都合唱団」「音楽連盟合唱団」あるいは「朝日コーラス」など名称や組織が変ってもそれらの中心は常に京都混声の団員が主体となっており、出席者の顔ぶれも各会合に重複しながら、戦時態勢下の困難な合唱活動をいかに維持運営し、実りあるものにしていくかという努力と悩みの姿であった。

3月15日（月）新合唱団創設委員会から次のような案内状が発送された。「かねて御依頼相受け候京都コーラス（注：京都混声のこと）音楽連盟コーラス合併の上、新コーラス誕生の件、その後順調に協議進捗し候については、来る3月18日（木）夕6時朝日会館内にコーラス全員初顔合せ致し発表を兼ねて云々（後略）」

4月13日（火）京都混声では発展的解散の集りを開いているが、当時の団員井上弘氏の日記によれば「京都混声合唱団解散のための会合を明治製菓店（注：現三条リプトンの店）で行う。新たに『京都合唱団』が誕生して15日に初めて会合がある。今夜は朗らかに談笑して10時散会」と記されている。

4月15日（木）京都朝日会館会議室において午後7時から「京都合唱団の創立総会が開かれた。翌日の朝日新聞は<新陣容を備えて**「京都合唱団」**生る>の見出しのもとに次のように報じている。

「今回京都の全音楽家を網羅して合同成った京都混声合唱団と京都音楽連盟コーラス団では委員に吉田恒三、野村成仁、近藤義次、森本芳雄、山田健三、浅山明、大石保明、中原都男、加藤てい、加藤栄、新実愛子、梅田しづ、平田淑子、上村圭以子、築山新三の15氏を選び（中略）5月より

毎週木曜日午後7時から十字屋で練習を行うことにして、指揮者（第一シーズン）をエフゲン・クレーン氏、伴奏を梅田しづ、奥山俊子の両氏に決定した。（下略）」と伝え、新合唱団の規約など詳細に報じている。規約の一部を摘記してみると、目的 ── 合唱を楽しみ向上をはかる。組織 ── 合唱を愛好する者をもって組織する。会員 ── 新たに入会せんとする者は会員の推薦により役員の承認を要す。役員 ── 委員若干名、常務委員3名、会計委員、役員会（下略）会費 ── 毎月50銭。

5月1日（土）中原都男氏よりエフゲン・クレーン氏に指揮依頼。その交渉の書翰の内容は、「月2回の練習、謝礼25円。音楽会前のエキストラ1回10円。指揮者は1シーズンを単位とす（再任を妨げず）。曲目はベートーベン曲“ハレルヤ”を希望する。音楽会の時の謝礼金100円也とす。」などがその条件であった。

5月4日（火）クレーン氏より指揮者受諾の通知あり。（注：当時クレーン氏は芦屋に住んでいた。）

5月10日（月）クレーン氏の支障により練習日を金曜に変更。

5月21日（金）第1回練習開始。曲目ベートーベン曲“ハレルヤ”ワグナー曲“ローエングリン”

7月2日（金）練習曲にムソルグスキー曲“ボリスゴドノフ”追加。

7月6日（火）練習曲にボロデイン曲“プリンス　イゴール”とクレーン曲“祖国の柱”を追加。

“祖国の柱”は初め大木惇夫氏に作詩を依頼し、クレーン作曲の予定であったが、大木氏の承諾が得られず、クレーンがドイツ語で作詩することになる。後に改題して“英霊に寄せる歌”という。当時すべてのものが何らかの形で国策の戦争に寄与し協力することが要請される時代であり、更に外国人を白眼視する傾向の強まりつつある時代であったためにクレーンの“英霊に寄せる歌”の作詞作曲は、時局に順応する機宜を得た姿勢を示すものであったようである。

11月3日（水・祭）**「明治節奉祝大音楽会」**

京都朝日会館にて　午後6時

主催　大阪朝日新聞社京都支局

10. 混声合唱　京都合唱団

指揮　エフゲン・クレーン　伴奏　奥山俊子

A.「ボリス　ゴドノフ」中

巡礼の歌……ムソルグスキー作曲

B. 楽劇「橄欖山の基督」中

ハレルヤ……ベートーベン作曲

C.「英霊に寄せる歌」……エフゲン・クレーン作詞作曲

当日は吹奏楽、マンドリン合奏、男声合唱、独唱、弦楽四重奏、ピアノ独奏、女声合唱などの後、京都合唱団はプログラム第10番目に最終ステージを飾ることになった。

この演奏会に先立って朝日新聞には「在京一流の顔を揃え、明治節奉祝音楽会」と三段抜きの見出しにて大きく取扱かわれ、「入場無料、ただし往復ハガキで申込むこと、その返信を会員章とする。会員章のない者はお断わりします。」とPRされた。

また翌日の朝日新聞には三段抜き写真入りで〈明治節音楽会盛況を極め感激に渦巻く朝日会館〉と立錐の余地もなかった大盛況の模様が報じられた。折しも中国大陸における戦争拡大による出兵のあわただしい世相の中にあって、せめてもの清々しい文化の香り漂う催しであった。

12月6日（月）同情週間のために ―**「大合唱祭」**

京都朝日会館にて　午後6時　出演13団体　300名

主催　京都合唱連盟

後援　大阪朝日新聞社京都支局

〔2〕混声合唱　京都合唱団

指揮　エフゲン・クレーン　伴奏　奥山俊子

A.「スタバト　マトリ」中の

第三合唱　エーマータ……アントン・ドボルジック作曲

B.「楽劇橄欖山終曲」ハレルヤ……ベエトウヴェン作曲

〔14〕大合唱　京都合唱団連盟

指揮　近藤義次　伴奏　中原都男

A. 大日本帝国礼讃歌……本郷基次作詞　近藤義次作曲

B. 大日本（愛国歌）……飯田亀代司作詞　下総皖一作曲

C. 国民の歌……北原白秋作詞　山田耕筰作曲

12月29日（水）NHK京都放送局（JOOK）より**「ラジオ放送」**を行う。

大阪朝日新聞所報「本社京都支局後援　京都合唱団は29日午後8時から15分間JOOKからクレーン氏指揮のもとに"スタバト　マトリ""ハレルヤ"を放送することに決定したが、京都における最高の権威ある合唱団としてJOBK（注：NHK大阪放送局）中継で全国放送することになった。」

昭和13年（1938）

エフゲン・クレーンの指揮による昭和12年度を終り規約により新年度の指揮者の選考と契約を急がねばならなかった。クレーン氏との契約を終り、次は森本芳雄氏を招くことになってその折衝を中原都男が当ることになった。しかし森本氏は健康上の理由と、同志社混声合唱団に専念したいことを挙げて辞退された。便箋11枚に亘って縷々綴られた3月3日付の手紙には、アメリカで宗教音楽を学んで帰国された森本氏と、音楽学校系を主軸とする京都合唱団との二つの流れの齟齬が底流にあることも辞退の理由の一つであることが窺われた。しかし森本氏も京都合唱団のメンバーであり、役員でもあるので、指揮者となることは辞退するが、団員としての努力を全うすることには変りないことを表明して諒解を求められたのであった。

3月21日（月）ＮＨＫ京都放送局（ＪＯＯＫ）より**「ラジオ放送」**

午後0時15分より20分間

伴奏　吉田輝子（指揮者未詳）

曲目　混声合唱　「春の弥生」

男声合唱　「海ゆかば」

女声合唱　「川」

混声合唱　「凱旋の行進と合唱」

3月28日（月）臨時委員会　上村邸にて　午後7時より

次期の指揮者として初め東京音楽学校教授橋本国彦氏を推挙の声があったが、種々の困難が予想されるので、次に宝塚の竹内平吉氏に依頼することが有力となり近藤義次と加藤貞の両名が交渉に当ることになった。その際の条件として謝礼は月25円ということになった。

4月8日（金）「今日、加藤貞女史と宝塚へ行って竹内平吉氏に面会、快諾を得て帰りました。」（近藤義次より中原都男宛の書翰より）

5月3日（火）竹内平吉指揮による練習第1日。曲目はメンデルスゾーン曲“ローレライ”とケルビーニ曲“レクイエム”。因みに当時の団員数は女声41名、男声54名。

8月27日（土）**「国民歌の夕」**　円山音楽堂にて　午後6時30分

主催　京都市

指揮　森本芳雄　（詳細未詳）

10月9日（日）ＮＨＫ京都放送局（ＪＯＯＫ）より**「ラジオ放送」**

午後0時15分より15分間

曲目　女声合唱　橋本国彦作品2曲

混声合唱　山田耕筰曲「国民の歌」

メンデルスゾーン曲“ローレライ”中

「ラインの河精」

（指揮・伴奏未詳）

当時1年のうちに2回もラジオ放送の機会の得られたことは珍しいことであり、京都での実力と評価の高かったことが窺われる。

10月17日（月）「ヒットラー・ユーゲント歓迎演奏会」

円山公園音楽堂にて　午後3時

主催　京都市

曲目　“アイーダの大行進曲”　指揮　中川牧三

京都合唱連盟300人の大合唱は、京都吹奏楽連盟及び京都市民交響楽団の大演奏と共に真葛が原をゆるがす音楽集団であった。加藤千恵外三氏の独唱もあったが詳細を得る資料がなく未詳である。

11月3日（木・祭）**「明治節奉祝音楽会」**に出演するも詳細不明。

12月1日（木）歳末同情週間義捐金募集**「大音楽会」**

京都朝日会館にて　午後6時30分

主催　大阪朝日新聞社　協賛　京都合唱団連盟

14. 混声合唱……京都合唱団

指揮　竹内平吉

“レクイエム”ハ短調より……ケルビーニ曲

A．イントロイトス　B．神の窓の日

15. 大合唱……京都合唱団連盟

指揮　吉田恒三　伴奏　中原都男

A．国民の歌……山田耕筰曲

B．愛国行進曲……瀬戸口藤吉曲

橋本国彦編曲

この日の出演は混声合唱6団体、男声合唱7団体、女声合唱1団体であって、京都合唱団は順位第14番目に単独の合唱団として最後のステージを飾ることになった。第15ステージの全員合唱は舞台に溢れんばかりの大集団による華麗にして力強いフィナーレとなり深い感銘のうちに幕を閉じた。

この年は4月1日に国家総動員法が公布され、戦争目的達成のために人的物的資源の統制や締めつけが一層厳しくなり、7月15日には2年後に予定されていた東京オリンピック大会の開催延期（事実上の取止め）が閣議決定になり戦争遂行への動きが急を告げるようになった。

昭和14年（1939）

日本軍は中国南端の海に浮ぶ海南島を占領し、東南アジヤ進出の意図を示して英米仏の抗議を受け、ヨーロッパではドイツ軍のポーランド進撃によって英仏はドイツに宣戦布告して第二次世界大戦の不幸な幕開けとなる。国内では軍事教練が大学の必須課目となって、大学は陸軍の予備軍化する事態を迎えるに至った。

2月25日（土）「ルイ・マルシャン送別コンサート」

京都日仏会館にて

第Ⅱ部　Ⅴ.　1.　送別の歌……大須賀一作詞　信時潔作曲

2.　いろは歌　日本古謡……信時潔作曲

3.　あかがり　日本古謡……信時潔作曲

指揮　竹内平吉

ルイ・マルシャンは当時蹴上九条山にあった京都日仏会館（現東大路一条）の館長として夫人と共に日仏文化の交流やフランス語の指導などに当り、長い京都生活のうちに顕著な功績を遺して、惜しまれながら日本を去られることになった。京都の文化人の間では種々の送別の催しが企画されたが、音楽関係の人たちによって送別コンサートが開かれ、京都合唱団は当日9ステージの終りに出演してマルシャンへのはなむけとした。

11月18日（土）**「京都合唱団発表会」**

当時の記録や資料などどうしても入手できず内容は不明である。18日付の井上弘氏の日記の断片によれば「ケルビーニの“レクイエム”は少々むずかし過ぎて聴衆にはほとんど判る人はなかっただろう。」とある。

その頃京都合唱団は名簿の上では女声41名男声54名の団員を擁していたが、日支事変などの緊迫した世情の影響によりメンバーは急速に減少しつつあったもののごとく、発表会前日の井上弘氏の日記には「テノール5名、明日の発表会うまくいけばよいが……。」と危惧の念が記されている。

昭和15年（1940）

1月10日（水）全関西合唱連盟名簿（附、規約・日誌抄）発行。

昭和14年12月末日現在の関西における合唱団の趨勢を一括した小冊子である。合唱団は大阪に23団体、京都に16団体、神戸に10団体があり、連盟総長永井幸次はじめ厳めしい役員名が列記され、連盟規約などよく整備されていて京阪神の合唱団を緊密に組織化された様子などよく窺われる。因みに連盟の加盟金は5円、連盟費は年額3円也など当時の世相の一端を知る資料ともなろう。

「京都混声合唱団（注：京都合唱団となっていない）については、

事務所　京都市三条寺町東入　十字屋楽器店内

練習所　右に同じ

指揮者　竹内平吉　　代表者　近藤義次　中原都男」

となっている。

前記の名簿の外この年の資料は何も入手することができなかった。当時の団員であった井上弘氏の日記の抜粋のみが心頼みになる拠り所であり、その抜粋を借りて当時を偲ぶよすがとする。

1月30日（土）　十字屋で開かれた京都合唱連盟の評議会に出席する。紀元節（現建国記念日）の演奏会について話合う。

2月4日（日）　全関西合唱連盟の紀元節演奏会の打合せと練習。当日は出場者700名くらいの大集団になるらしい。

2月11日（日・祭）　「橿原神宮奉納音楽会」に出場のため京都駅前集合。11時過ぎ京都発。12時30分橿原着。午後1時30分ブラスバンドを

先頭に行進開始。女子団の後に男子団が続いて野外公堂に入る。すでに聴衆1万人の盛況である。われわれの演奏は午後3時より3時30分まで。状況はラジオ放送され、トーキー（発声映画）に撮られる。

（注：この日行政当局、軍部などの指示により京阪神を中心とする関西合唱連盟を総動員し、戦意高揚、国家護持、戦勝祈願をこめて、橿原神宮神苑の野外公堂において大音楽会が催された。但し詳細未詳）

3月8日（金）　定例の練習に集り指揮の竹内平吉先生もお見えになったが、竹田宮妃殿下がお亡くなりになったという知らせにより練習を中止し、新委員を紹介して終る。

3月15日（金）　夕食後十字屋へ行く。集る人が少なく心配する。こんなだったら委員を断わろうかと思う。時間がたつと少しずつ集ってきてソプラノ8名、アルト4名、テノール6名、バス6名になる。新しい人たちが多い。

3月16日（土）　藤堂さんの所へ楽譜を返しに行き、また新しい練習曲を探す。“軍艦行進曲”ベルディの“ジャンヌダルク”メンデルスゾーンの“森にちかう歌”“大島節”などを選ぶ。

5月10日（金）　竹内平吉先生に練習を休むことを通知したのに連絡不備で知らずにおいでになり恐縮する。でも女声9人、男声7人の居る者だけで練習する。終ってから同志社オーケストラの賛助出演について相談し、出演することにきめる。そして本団の春の演奏会を中止し、秋に行うことにする。（注：秋の演奏会実施の資料なし）

5月27日（月）　今日の音楽会のことで近藤先生吉田先生を訪問する。京都合唱連盟の最後の曲“軍艦行進曲”は下手に歌われたことを反省する。

（注：5月27日は海軍記念日であり、朝日会館にてこの日を記念して音楽会が催されたもののようである。）

6月15日（土）　同志社オーケストラ演奏会に賛助出演する。

〔以上は井上弘氏の日記に拠る〕

この年中央では〈大政翼賛会〉なるものが結成され、戦争国策推進の政治組織が確立され、10月12日にはそれを支える下部組織としての〈隣組制度〉が義務づけられるに至る。11月10日には日本暦による1600年記念式典が挙行され、日本の右傾化に一層の拍車がかかる。

昭和16年（1941）

この年に入ってヨーロッパでは独ソ戦争が始まり、日本では次第に対米英戦争辞せずの気運が高まってきた。指導者層の体制づくりによって日本必勝の信念のもとに国を挙げて決戦を謳歌する世相となっていった。食糧は急迫して自由に買えず米は配給制になって1日1人2合3勺では到底三食の腹を満たすことはできなくなった。陸軍大将東条英機を首相とする内閣が組織される（10月16日）に至って日本対米英の関係は緊迫の度を加え、ついに12月8日真珠湾攻撃によって太平洋戦争の火蓋は切られた。

戦うための士気高揚には文化活動は無用のものとして疎外視され、戦争気運に直結しないもの或いは消極的なものはすべて消滅の悲運をたどらねばならなかった。京都楽壇もその存続を期するためには国策に協力の意志表示を余儀なくされ「京都音楽新体制促進同盟」なるものを組織してその意向を表明しなければならなかった。

「京都音楽新体制促進に関する趣意書」

〈今や肇国以来未曽有の聖戦に国家総力が発揮されている。ここに吾々国民は高度国防国家の建設を目指しつつ一億一心新なる世界観を基礎とする体制を打ち建つべき第一歩を踏み出した。在来の文化に対しては新しき検討が加えられ、国家目的に裏づけられた形態をとるべき気運が熟している。音楽文化の分野においてもその本質を再び認識し、在来の自由主義を排撃して新しき民族文化創造の一翼とならねばならぬ。先ずより高き文化性とより広き綜合性とを目指しての一元化組織を形造るべくすでに中央においては、その運動は着々具体化しつつある。

翻って京都音楽界はいかなる状勢にあるだろうか。千年の輝かしき日本音楽の伝統を持ちながらいたずらに消極化してはいないだろうか。かの日清、日露当時の愛国歌運動は忘れられたのだろうか。否、かかる見解は皮相に過ぎない。千載の古都には真の民族文化運動の根源が古くより胚胎しているのを看過してはならぬ。この京都独自な文化の歴史と伝統の中に育まれた芽に光を与え水を撒ぐのは吾々の任務ではないか、音楽はかよわき温室の花であってはならぬ。嵐に堪え吹雪に倒れぬ、真に国民生活をたくましく、強く団結せしめる力とならねばならない。そのために要求される高き文化性とひろき綜合性に基づき京都の音楽文化を飛躍発展させる事こそ、吾々音楽人の奉公であり翼賛であらねばならぬ。

この理念の下に全京都の音楽人は過去の情実因習を擲って一丸となり、京都独自の文化に立脚した新しきものを生み出すべき機能の結成を促進すべく、敢えて諸兄姉の御協力を得んものとここに主旨を述べる次第である。

昭和16年4月7日　　京都音楽新体制促進同盟〉

京都の音楽集団は一応趣意書を公表したもののその実体は曖昧模糊たるものであり、趣意書もまた抽象的形式的なものであって、官憲の圧迫がいつ及ぶとも図り知れない体制下における音楽家集団としての自衛的手段に過ぎなかったもののようである。

この事は音楽関係のみならず、それぞれの文化部門においても同様に、自発的に国家体制に協力する姿勢を示すことによって自己防衛の知恵とせざるを得ない時代に立至ったもののごとくである。

本格的な芸術音楽は夷狄の音楽として排除されもっぱら戦争への志気を鼓舞する軍歌と吹奏楽が世を風靡する有様であった。ただ昭和15年に締結された日独伊同盟の関係からドイツ、イタリア及びその関連国の曲目をプログラムに組むことは当局も黙認する所であった。

昭和17年（1942）

前年に勃発した太平洋戦争（第2次世界大戦）は燎原の火にも似て日本軍勝利のうちに中国大陸及び南方洋上の諸島に進撃し、1月にはフィリピンのマニラ占領、2月にはシンガポール占領、3月に入るとラングーン占領と破竹の報が相次ぎ、大いに気勢があがると共に国内は戦争一色に塗りつぶされて狂的なまでに戦意が湧き立った。その一方では甲子園の中等野球大会（現高校野球）は戦争に不必要のものとして中止され、その他の文化活動も閉塞の状態であった。肉親と生別し、死を期して戦場に赴く兵士を送る軍歌は町に氾濫し、ラジオから流れる戦争賛歌と勇壮な吹奏楽の響きとは、いやが上にも戦争気慨をあふる興奮剤にも似て音楽の本質に背く方向に駆りたてられ利用されていった。

当時の軍歌と共に口ずさまれる情緒的な歌としてはラジオを通して喧伝される国民歌謡があったが、これとても歌詞の中に何らかの戦争関連の意図を織り込むことが多かった。

京都混声では緊迫する時局の中にあって合唱継続の悲願を抑え難く、一夜百万遍の神戸屋喫茶店（現甾屋菓舗）の二階に合唱希求に燃えるメンバーを集め、合唱の維持継続についての真摯な検討を試みた。その結論として、軍歌の合唱を中心とすることを表面に立てて何らかの形で合唱を持続して行こうということになり、「京都合唱報国団」の名称をもって活動を続けることを申合せた。

昭和18年（1943）

戦線を拡大しすぎた日本軍はこの年に入って次第に戦況の不利が窺がわれるようになってきた。しかし報道や言論は当局によって厳しく統制されていたので決して敗北の事実は報道されず紛飾されたニュースの不合理な点に懸念を抱くうちに風聞のごとく疑念が広がっていった。南方洋上のガダルカナル島での敗退、連合艦隊司令長官山本五十六大将の戦死等々遂に

日本軍隊の総力と国民総決起の力をもってしても如何とも為し難い極限状況の危機は明らかとなりつつも学徒動員体制の名のもとに大学生30万人が学業を放棄して兵役に服する事態に立ち至った。世はすべて戦争国策の犠牲として悲壮な災禍に直面することを余儀なくされていった。

音楽演奏に係わる制限は一層厳しさを加え、1月には当局によって米英楽曲1000曲の演奏禁止が指示された。

前年に結成された京都合唱報国団はもっとも不遇な非常事態の中にあって思いきった一つの企画を試みた。そしてこの年の京都楽壇唯一の収穫ともいうべき音楽会が"闘魂に捧ぐる"の名のもとに開催された。

7月3日（土）**「京都合唱報国団第一回定期演奏会」**

―――壮烈なる護国の闘魂に捧ぐ―――

於・同志社栄光館　午後4時

主催　京都合唱報国団

Ⅰ. 交声曲「海道東征」……北原白秋詩　信時潔曲

第一章　高千穂　第二章　大和思慕　第三章　御船出

第四章　御船謡　第五章　天業恢弘

独唱者　ソプラノ　畑中節子

メゾソプラノ　藤島晴子

アルト　服部善子

テノール　高橋恒治

バ　ス　福本　正

Ⅱ. セロ独奏　伊達三郎　伴奏　武沢　武

イ. 禱　り……ブルック曲

ロ. メヌエット……ヴァレンシン曲

ハ. ガヴォット……ポッパー曲

Ⅲ. 荘厳弥撒曲　ニ長調　作品123……ベートーヴェン曲

1. キリエ（主よ憐み給え）

2. グローリア（神の栄光）
3. サンクトス（聖なる主）引続き
4. ベネディクトス（我唯一の神を信ず）

独唱者　ソプラノ　加藤千恵

アルト　加藤　貞

テノール　木村四郎

バ　ス　藤堂顕一郎

指揮　朝比奈　隆

パイプオルガン　中瀬古　和

ピアノ　飯尾恭子

"海道東征"は日本紀元2600年（西紀1940年）記念作品として日本の歴史を誇示すべく特に作曲されたものであり、"荘厳弥撒曲"は戦没の英霊に捧げる犠牲称賛と英霊追悼の曲として当局の指弾を免れることを得た音楽会であった。そして京都の好楽家には待望久しい名曲の演奏会であり、出演者は勿論、聴衆にとっても生涯心に残る記念として限りなく感銘深いものであった。

昭和19年（1944）

戦況はいよいよ日本に不利になったが、軍部の公表は常に日本軍優勢、作戦上の転進などと称して、戦線の縮小や敗退の真相は国民に知らされなかった。しかし国内では敵機の襲来に備えて家屋の疎開命令が発せられるようになった。疎開命令の期日までには居住している家を取り壊さねばならないのである。京都の堀川通、御池通、五条通は特に防火地帯として道幅を広げるために町内全部が犠牲となって現在の広さになったものである。

中央公論や改造などの公正な評論雑誌の筆者や編集者は国策の非協力者として検挙投獄され、全国19の大劇場（南座・日劇など）は無用の享楽施設として当局によって閉鎖を命ぜられた。

日本海軍はマリアナ海戦において壊滅的敗北を喫して西太平洋の制海制空権は米軍の手中に握られ、グァム島など南の島々の日本守備隊はすべて全滅の悲運に陥る窮境であった。11月にはB 29米軍重爆撃機70機による東京大空襲の惨事をみるに及んだ。

前年に京都合唱報国団として変貌を余儀なくされた京都混声の運営も、男子は兵役に徴集され女子は挺身隊として当局の命令によって軍関係の勤労に強制的に服さねばならなくなり、合唱団としての形態をなさなくなっていった。ステージに立つ者は当局に申請して「芸能人証」を所持しなければ忽ち処罰されることになったが、この時期に至ってはステージに立つ機会など全然なく、生き続けることすら逼塞の状態のこととて音楽活動は終熄の止むなきに至った。スチールギター、ウクレレ、バンジョーなどは敵国の楽器として使用を禁止され、音楽レコードや楽器の響く家には警察の取締りが及ぶほどであった。

昭和20年（1945）

政府や軍部の強がりは虚勢であることを示すかのようにアメリカの爆撃機は日本の各地を存分に空襲する日が続くようになった。切歯扼腕する国民の気慨も限界に近く、かりそめにも口にしなかった敗戦の悲運は日を追って切迫の度を深くしていくのをどうすることもできなかった。食糧は欠乏し体力の維持すら危ぶまれるようになった。食生活を支えるのに御所や鴨川原のタンポポなど柔かい無毒な雑草は競って摘み取られて食糧とされる貧窮の生活に陥った。大阪空襲の夜は西南の赫らんだ空が京都から望見され、風の流れによってはその灰が京都にも降ってくるし、京都もいつ敵機によって生命財産が脅やかされるか判らない不安の日々であった。京都は数か所に少数の爆弾を落されたが大空襲の惨事を免れることを得たのは不幸中の幸であった。8月15日の敗戦による動揺と恐慌の幾日かを虚脱のうちに過した後、アメリカ占領軍の懐柔政策によってようやく危機感も薄らぎ生活の息吹きを得て次第に心落ちつくようになった。

その頃京都混声の散り散りになったかつてのメンバーがいつとなくうごめくように連繋を取りだしてきた。市電もようやく間遠に動く程度の不便な交通事情の中にあって自転車はもっとも便利な乗り物であった。然し壊れたまま錆ついたままの自転車を動くようにするのには修理の道具もなく部品もなく大変な辛苦を要した。チグハグな部品を継ぎ合せてやっと動くようになった自転車を、栄養不足な体力に鞭打ってペダルを踏み、消息の知れぬ団員の家々を探し当てて一人二人とメンバーの掘り起しによる合唱団づくりの動きがいつのほどにか始められた。その最先端に立って利害損得を顧りみず情熱を傾倒したのがテノールの広瀬茂（昭55年没）であった。時に34才。府庁の吏員であった彼は勤務を終ってから生来の器用さを利して自転車を修理し、思いつめたら為し遂げるまで断じて引かぬ執拗頑迷な性格に支えられて、京都混声再建に向ってたゆまぬ努力を続けていった。不退転な彼の根気と熱意に動かされて人は人を呼び、心は心を繋ぎ、遂に12月には真摯な好楽家の集団として歌えるまでの人数を集め合唱団としての形態を一応整えるまでに纏め上げることができた。そして指揮者として**水谷央**氏を迎え、ささやかではあるが誠実と善意に凝集した力強くゆるぎない**京都混声再生**の発足をみるに至った。正に戦災を免れた文化都市京都の黎明期における京都楽壇の先駆ともいうべき希望に満ちた呱々の声であった。

12月24日（月）クリスマス　キャロル開始。

日誌抄「多くを巡回して歌いたかったが、街燈の乏しい夜の町は暗く不安な歳末であり、交通の便も悪く徒歩にて先生、先輩の家々を歌って廻る。蠟燭もマッチも乏しく思うにまかせぬキャンドルサービスではあったが心和む師走の夜であった。」

III .戦後再興期 〝光さす楽のいざない〟

昭和21年(1946)――昭和26年(1951)

指揮者　川端義雄、藤堂顕一郎、上村けい
森本芳雄、前窪一雄、木下　保(客演)

昭和21年(1946)

戦争は終った。日本は敗れ、米軍政の厳しい支配下に年は改まって昭和21年を迎えた。政治・経済・教育・思想などの制約と指揮命令下の中から次第に日本復興の曙光がようやく見え初めた。新しく浸潤してきた自由主義・民主主義の傾向は従来の日本にみられなかった新時代への期待をつなぎ得る動きであった。屈託のないアメリカイズムとでもいうべき開放的な明るい余裕も窺われるようになってきた。歌声による生気の回復もその一つであった。戦争末期にはアマチュア合唱団といえども、ステージに昇る場合には、当局の許可する証明書を所持しなければ処罰を受けるような世情であったが、そのような束縛から解放され、自由に歌声を楽しむ明るい息吹きが甦ってきた喜びがあった。ＮＨＫの〝素人のど自慢〟放送やＮＨＫと音楽協会などによる〝第一回児童音楽コンクール〟などの催しが行なわれるようになったのもこの年であった。

京都混声では古い同志の糾合を懸命に続けた甲斐があって、再発足をみるまでに団員を集めることができた。しかし練習開始に至るまでには思いがけぬ支障と難題を克服しなければならなかった。練習場の確保、夜間の照明設備、伴奏楽器や楽譜の入手、プリントなど、何しろ未だ衣食住さえままならず、先ず生きることの努力に精一ぱいの荒廃の中から立上ろうとする生みの悩みは容易なことではなかった。団員一人一人の自覚と奮起の結果はやがて大きな結実となって京都混声再生の第一歩を世に示す機会に

恵まれた。すなわち大阪朝日会館における第一回関西合唱コンクールに参加出場の好機を得たのがそれである。

11月3日（日）**「第一回関西合唱コンクール」**　大阪　朝日会館にて

主催　関西合唱連盟　大阪朝日新聞社

指揮　川端義雄

課題曲　森に別るる歌……メンデルスゾーン曲

津川主一訳詞

随意曲　独楽遊び……リムスキーコルサコフ曲

桃井京次訳詞

出場団員数　S．20　A．16　T．16　B．13

結果は混声合唱の部において第一位、総合において第三位を獲得。因みに総合第一位は関学グリークラブ、第二位は同志社グリークラブであった。

なお今回のコンクールには“京都コーラス”の名称を用いて参加したのであるが、すぐに元の“京都混声合唱団”に復して以後の変更はない。後年京都に京都コーラスなる合唱団が存在したが全く別個のものである。

12月21日　団内ニュース「京都混声」創刊。謄写印刷。10ページ。

発刊の辞に「音楽は一人のためのものではない。その美しい旋律は、調和音は、律動は、われわれの耳より心に入り琴線に触れ、そして共感と救済に導く。共感といい救済というのは、神を識らしめることである。芸術がついには宗教的雰囲気にまで高揚されるのはこのためではなかろうか。（中略）合唱団向上の要件は要約すると、1.　団内の団結・融合　2.　団員の人格・個性の研鑽　3.　音楽的技術の練磨（中略）われわれの音楽への努力は、また社会人としての人間完成への修業でもあるべきだ。こうした目的をはっきりとつかめば、個・全体などの相対的な気持はないであろう。道徳観念、特に犠牲などという観念は消失するであろう。すべてが生き、楽しむ社会を形成するであろう。（中略）優しい叡智と清らかな愛情と純潔な理想と、これこそわれわれが求めるものである。その目的への手段

として、本紙が発刊されたのである。

われわれは誇らかな気持で合唱団を熱愛し永遠の発展を祈念して止まない。」と軒昂たる意欲のほどが窺がわれる。

「京都混声」創刊号にはこの外、川端義雄「美について」　蓑輪生「音楽愚考」　三浦秀雄（注：後の京都府警音楽隊長）「芸術について」　その他随筆日記詩などを掲載。「コンクール特集」として去る11月3日の記事三篇が記されている。「団歌募集」荘重で愛唱歌になる健康・明朗・堅実・荘厳・実にすばらしいもの……。一節4～7行、三節程度。11月18日〆切。三浦・小谷まで。の記事もある。

この年の「会計報告」の収入には〈アメリカンソサイティ出演謝礼金500円〉〈松竹吹込謝礼金980円〉〈京都コンクール（注：関西合唱コンクールか）副賞300円〉〈京都放送謝礼金227円90銭〉などにこの年の活動の一端が窺がわれる。収入総額は3658円30銭。支出には〈会場費140円〉〈合唱連盟入会金10円〉〈楽譜印刷代212円50銭〉など当時の貨幣価値の様子を知ることができよう。

当時の団員数は11月末日現在でソプラノ20名、アルト16名、テノール16名、バス13名、計65名であるが9月から11月までの練習日出席率の平均は、57パーセントである。

12月24日（火）　クリスマス　キャロル

「有志18名によって、クリスマス　キャロルを行う。午後7時第二日赤前集合。各所にて熱烈なる歓迎を受けつつ翌朝5時まで歌い歩く。誰も彼も喜び楽しむ。」（日誌抄）

昭和22年（1947）

戦争という破壊的な暴挙による後遺症からの復原は、遅々として容易ならざるうちにも再建の萌芽をみせつつ昭和22年に入った。戦災によって甚大な打撃を被った東京、大阪の復興は到底覚束なく、今や京都こそ文化

都市として、それらに代って新時代の新興都市としての存在が価値づけられねばならぬものと思われた。しかし東京、大阪の活力は京都文化の無気力と虚飾を尻目に、大いに新生都市としての面目を発揮して再興、進展の速度を力強く加えつつあった。

アマチュア合唱団への移行：元来京都混声は、音楽学校出身者、及び音楽を専門とする人たちによって創建され維持されてきたのであったが、戦争中は国家の至上命令によって兵役や勤労動員に徴集されたために団員の減少や不均衡により、アマチュアの好楽家を推薦によって迎え入れるようになったのであるが、戦後は創設以来の専門家は顧問とし、アマチュア合唱団としての組織、構成によって維持されるよう変貌するに至った。

合唱団の合同：前年の関西合唱コンクールによって得た成果によって京都混声は、斯界の注目を引き、次第に京都における合唱活動の中核として期待されるよう大きくなっていった。そうした余勢の赴くところ京都混声を中心として、一層充実した合唱活動の、展開と飛躍を期して、合唱団統合の気運が起りつつあった。当時京都混声には、他のアマチュア合唱団の指揮者及び役員の人たちがメンバーとして加わっていたこともあり、合同気運の醸成に好都合であったことも幸したのであろう。かくて市民合唱団と、人文学園合唱団を、京都混声に迎え入れる問題が具体化するに至った。併合された合唱団はそれぞれ独自の自立性と性格を有していただけに種々の難関や紛糾はあったが、合唱を愛する者の善意と努力とによって、京都混声は2団体を合流する運びとなった。京都混声の再興に献身した広瀬茂の真摯な健闘と熱意とが、他の合唱団の賛同と共鳴とを喚起して、大同団結への成果となったことは特筆すべきことであろう。当時のメンバーであった現在の在団者には、小山弘（B）金子清明（T）、市民合唱団からは、桂京造（B）、そして現在京都楽壇の指揮者として活躍中の伊吹新一も市民合唱団から移った京都混声の団員であった。

1月3日（金）　新年会を松井宅にて開く。35名出席。新年会は以後

永続して開かれ、後には、新年ニコニコ大会と名付けて親睦と融和の一夕を楽しむ恒例の年中行事となった。

1月12日（日）　国立病院へ音楽慰問に行く。

日誌抄「涙を流して喜ばれ、歌う者もまた感激に目うるませた。」

1月25日（土）　ニュース「京都混声」第2号発行。4ページ。

記事に三浦秀雄「ヒューマニズムに就て」　蓑輪英隆詩「雪原」　紫花生「長谷川千秋著"ベートーベン"に就て」などあり。

3月8日（日）　ニュース「京都混声」第3号発行。4ページ。京都混声のバッジを制定発表。楽譜の原型を図案化したもの。創案者蓑輪英隆。

記事に旅役者「幕間い」　KCC「ゆめ」　MM生「おもいで」などあり。

4月20日（日）**「京都混声合唱団小演奏会」**　於・日仏会館

1. 混声合唱　「さくら」
2. ピアノソロ　「熱情ソナタ」
3. 混声合唱　「Ave Verum Corpus」
   「Sanctus」
4. バス独唱　「カルメン」より
   「ファウスト」より
5. 混声合唱　「流浪の民」
   「青きドナウ」

（指揮者・伴奏者・独唱者など不詳）

4月20日（日）　ニュース「京都混声」第4号発行。2ページ。記事にACU「あこがれ」　ソプラノN「苦言」その他「新日本の歌」楽譜掲載。

（5月3日円山音楽堂にて発表）

5月3日（土）新憲法施行記念**「全京都コーラス団合同大合唱」**

場所・円山公園音楽堂　　午後3時

主催　京都市文化課　後援　毎日新聞社

京都混声合唱団　　指揮　川端義雄

A．アリエッタ……（デュラン）

B．さくら……（下総皖一）

この日の出場８団体。（括弧内は指揮者）　ＹＭＣＡ混声合唱団（藤井十四代）　京都師範学校混声合唱団（高橋恒治）　京声会（福本正）　同志社高商リーダークラブ（未詳）　人文学園混声合唱団（佐藤清）　同志社グリークラブ（森本芳雄）　大丸ミドリコーラス（駒宮末造）

最後のステージは「新日本の歌」発表。

合同合唱「新日本の歌」（毎日新聞社撰定）　土井一郎作詩

福沢真人作曲

指揮　中原都男　　伴奏　高橋恒治

「新日本の歌」の発表ステージは在京都全合唱団の外に、女子中等学校（旧制）音楽連盟、京都児童合唱団連盟も加わり、大合唱のうちに幕を閉じ盛況を極めた。

5月18日（日）**「第一回定期小演奏会」**　於・大毎会館

Ⅰ　混声合唱　さくら　　日本古謡　下総皖一作曲

巻と殿様　　西条八十作歌　中山晋平作曲

松山徳彦編曲

Ⅱ　ピアノ独奏　　岸田圭子

Chopin　　Mazurka　op.7　No.1

List　　Dream　of　love

Chopin　　Waltz　op.64　No.4

Ⅲ　混声合唱

L. van　Beethoven　　Die Ehre Gottes aus der Natur

W. A.　Mozart　　Ave　Verum　Corpus

N. F.　Durante　　Arietta

Ⅳ　バス独唱　　藤堂顕一郎

Händel　　Lalgo

Meyerbeer　　Adamastor

Gounod　　Avant　de　guitter　ces　lieux

Ⅴ　混声合唱　流浪の民　　シューマン

美しく碧きドナウ　　ストラウス

合唱指揮　川端義雄　　ピアノ伴奏　飯尾恭子

5月末日収支決算報告書（ニュース「京都混声」第６号より）

収入			支出		
3月30日残高繰越	1925円	10銭	会場費	80円	00銭
会費	560	00	通信費	101	45
楽譜売上	212	00	新聞費（印刷費等）	153	80
演奏会々員券売上高	1130	00	Die Ehre Gottes 印刷費	120	00
			さくら伴奏用五線紙	7	50
			巻と殿様印刷費	120	00
			小演奏会広告費	45	10
			小演奏会招待券印刷費	20	00
			バッジ代	2260	00
			小演奏会当日心付	100	00
			同上会場費	250	00
			ピアノ伴奏者謝礼	100	00
			受付方謝礼	90	00
			立誠校借用謝礼	100	00
計	3827円	10銭		3547円	85銭
差引残高				279円	25銭

ニュース「京都混声」第1号（S．21．1．）にて募集された京混団歌は、ただ一篇の応募がありそれも採用に至らなかった。

前月のニュース「京都混声」に引続き6月にニュース「京都混声」第6号発行。浅田摂子「京都混声第二回ハイキング　西芳寺（苔寺）── 松尾神社 ── 嵐山 ── 鳴滝へのコース」　新参生「断想」　白石雅子「練習」その他の記事あり。

10月17日（金）**第二回市民文化祭**　京都合唱連盟**「大合唱祭」**

午後2時　所・同志社栄光館　主催　京都市

京都混声合唱団　　指揮　川端義雄

a．アリエッタ（デュラント作曲）

b．落　　葉（シューベルト作曲）

c．野辺が薫れば（エンセン作曲）

京都混声は参加17団体中、15番目にステージに上る。

プログラムには市民文化祭の主旨が次のように記されている。「市民文化祭は何故行われるか。文化日本建設は民衆生活の中に根を下した、新しい生命を持つ文化を作り、それをたかめるにある。市民文化祭は、この為の市民運動であって京都市民の文化的実力の尺度をこゝに示そうとするにある。」

12月24日　クリスマス　キャロル　バスにて各所を歌い巡り深夜に及ぶ。

この年には2月1日のゼネストによる全国の全産業のストライキが計画されていたが、マッカーサーの中止命令により米占領軍の威厳が誇示された。六三三制の教育改革も進駐軍の指導の下に公にされ、5月3日には新しい日本国憲法が公布されるなど新日本建設への歩みが具体化されつつあった。然しすべて進駐軍の指揮下に呻吟するの思いは拭い難いものであった。そうした社会情勢の中にあって、「肉体の門」（田村泰次郎）「ビルマの竪琴」（竹山道雄）などの作品が出版され、音楽では関西交響楽団、東

宝交響楽団などの発足があり、歌謡では「鐘の鳴る丘」など健全な歩みがみられる救いがあった。

昭和23年（1948）

前年に市民合唱団と人文学園合唱団を併合した京都混声では、各方面からの新らしい合唱活動を期待されてはいたものの、合同以来いまだ日も浅く合唱団体としての基盤の樹立などの内部事情と、不安定な世情環境の中にあって十分な実績を挙げ得なかったもののごとく資料にも乏しい。

練習場はしばしば変更を余儀なくされた。この頃電話のある家などほとんどなくその連絡には個別に家を訪ねて伝達しなければならなかった。練習中の停電も困りものであった。練習を終了後の帰路は間を置いて来る市内電車を待たねばならなかった。中心街でも夜は店じまいが早く、街燈も少くて道は暗く時間がかかった。練習に通う交通の不便を克服することにさえ大きな努力を要した。楽譜を探すのも一仕事であった。楽譜をプリントする用紙も容易に入手できなかった。手先きの器用であった広瀬茂はきちょうめんに精魂尽くして原紙に楽譜をきり、ようやく手に入れたズズ黒いザラ半紙の表裏に謄写板で一枚一枚手刷りの、専門家のように綺麗な楽譜をプリントして練習に支障のないよう努力を惜しまなかった。京都混声の再起胎動の苦節の年であったといえよう。

4月29日（木）天長節祝日（注：23．7．20．国民の祝日制定により"天皇誕生日"と改称）

「第23回　春季大合唱祭」　午前9時　所・大阪朝日会館

主催　関西合唱連盟　　後援　朝日新聞社

京都混声合唱団　　指揮　川端義雄

A．グローリア……作曲モツアルト

この日47団体参加、京都混声は第14番目に出場。京都からは京都混声の外に（括弧内は指揮者）　同志社グリークラブ（織田幹雄）京都YMC

A混声合唱団（高橋恒治）京大附属医専合唱団（福田哲雄）同志社高商リーダークランツ（松本哲）などの参加があった。

7月4日（日）**「全京都合唱コンクール」**

午後1時　於・堀川高等学校

審査員　上村けい　近藤義次　竹内禎子　藤堂顕一郎
中原都男　中川牧三　森本芳雄　吉田恒三
京都放送局長（NHK）　京都市文化課長

男声合唱課題曲　「こだま」　ドイツ民謡　津川主一編曲
永井慶三作詩

混声合唱課題曲　「送別の歌」　大須賀績作詞　信時潔作曲

京都混声合唱団　　指揮　蓑輪英隆　　伴奏　橋本東久子

自由曲「グローリア」12ミサより……モツアルト

混声合唱参加団体（括弧内は指揮者）愛善苑本部合唱団（野村芳雄）京声会（福本正）京都師範学校合唱団混声部（高橋恒治）京都大学混声合唱団（大野春男）京都YMCA混声合唱団（藤井十四代）大丸ミドリコーラス（木村斗伎子）京福電鉄混声合唱団（青山政雄）。混声参加8団体中京都混声は第三番目に出場。因みに男声合唱は参加6団体。女声合唱なし。コンクールの結果順位など未詳。

12月24日（金）　クリスマス　キャロル　　貸切バスにて歌い巡る。

敗戦後4年目を迎えたもののいまだ政治経済をはじめ国家整備の確立は遅々たる歩みであった。片山内閣から芦田内閣に移り、更に第2次吉田内閣へと政府は短命に転換し、アメリカ政府による経済安定9原則の強力な指示、労働問題の混迷、日常生活における衣食住の不足と困難などが続き、教育問題では関東地方の大学高専24校の同盟休校に引続き、全国113校の一斉ストが行なわれ、外には朝鮮の南北分割などの複雑な年であった。人々は生きるための心労に追われがちで、恒常的に合唱に励むためには余程の熱意と努力を傾注すると共に多くの犠牲をも強いられる状況であった。

昭和24年（1949）

新年を迎えての朗報は日頃の着実な蓄積の開花ともいうべきNHK京都放送局（JOOK）からラジオ放送の依頼であった。それは団の結束と協力への励ましともなり、京都における合唱活動を活発にする好個の刺激ともなる契機でもあった。

4月12日（火）NHK京都放送局（JOOK）より**「ラジオ放送」**

指揮　藤堂顕一郎

曲目　「空しく老いぬ」　スエーデン民謡
H．フングスト編曲

「森に別るる歌」　メンデルスゾーン曲
津川主一編曲

出場者　女声　17名　　男声　14名

10月23日（日）**「故稲畑勝太郎氏追悼音楽会」**　午後2時

主催　京都音楽協会　会場　鴨沂高校講堂

合唱　京都混声合唱団　　合唱指導　上村けい

独唱　ソプラノ　田野辺教子　　アルト　木村斗伎子
テノール　佐藤　清　　バス　大賀　寛

指揮　木下　保　　ピアノ伴奏　本田　瞭

Mass in G　Mozart　　ミサ　ト長調　モーツアルト

1. Kyrie
Kyrie eleison　　1. 主よ憐み給へ
2. Gloria　　2.
a）Gloria in excelsis Deo　　a）天に於ては神々に栄光あれ
b）Qui tollis peccata mundi　　b）世の罪を除き給ふ主よ
c）Quoniam tu solus sanctus　　c）蓋し主のみ聖にして唯一の主
d）Cum Sancto Spiritu　　d）聖霊と共に
3. Credo

a) Credo in unum Deum　　a) 我は一の神を信ず
b) Et incarnatus est　　b) 御托身したまひ
c) Et resurrexit tertia die　　c) 三日目に蘇り給ひ

4. Sanctus
a) Santus Sanctus Sanctus Dominus Deus Sabaoth　　a) 聖なる哉
b) Benedictus qui venit　　b) 来れる者は祝せられさせ給へ

5. Agnus
a) Agnus Dei　　a) 神の羔よ
b) Dona nobis pacem　　b) 我等に平安を与へ給へ

なお当日の案内状には次の一文が添えられていた。

「木下保氏によるモツアルトのミサの演奏会を催します。

あらゆる面の事情が困難な近頃の状況の下で、いろいろな方々のご理解とご支援、団員と関係者全体の努力と奉仕によって、ここに半歳にわたる私達の勉強の結果を皆様に無料でお聴きいただけることを大変うれしく存じます。

この喜びを本団創立当時からの援助者であり、京都音楽界の恩人であった稲畑勝太郎氏の霊前に矜持たかく捧げたいと存じます。

どうぞお誘い合せお越し下さい。」

（注：当日演奏のモツアルト作曲とされる「ミサ　ト長調」は作曲者に疑義があるとされており種々の経緯の結果、ツーレーナ作曲（Zulehner）が今日では定説となっているようである。）

因みに故稲畑勝太郎氏は大正９年京都音楽奨励会の設立、大正12年京都音楽協会の設立等に当っては発起人となり、設立後は役員として、京都楽壇の育成に絶大の支援を寄せられ、社会的立場にあっては、京都商工会議所会頭などの要職につかれた方であった。また登美子夫人は京都混声の創設者の一人であり、その発展に私費を投じたり私宅を練習場に提供するなど限りない援助を惜まれない方であった。

この演奏会を催すに当り、モーツアルト「ミサ」の従来の謄写印刷の楽譜には誤りが多く、正規の楽譜は東京音楽学校にも所蔵されていないことを知り、百方手を尽して探し求めた結果、福田哲雄氏の手引により大阪音楽学校教授（現大阪音大）長井斉氏が所持されていることを突きとめ、同氏のご好意によって借用のうえ、先ず指揮者用と伴奏者用の二部を、桂京造、山口昇、安井チヅ、豊田薫団員の努力によって全曲を書き写し、製本して演奏に支障なきを得たのであった。後にこの事を知った指揮者木下保氏はその真摯な努力と熱意に深く感銘され賛辞を惜しまれなかった。

12月24日（土）　クリスマス　キャロル　例年のように実施。

昭和25年（1950）

1月1日（日）　「練習日誌」の記録が起筆され団員持廻りで記入することとなる。その冒頭に浜島高彰の筆と覚しき次の一文がある。

日誌抄「合唱団の練習はそれが立派な団体の性格をなす骨子となるものであるからには、僕等の最も関心を持たなければならない事柄である。それは楽しいものであるが、内には真摯なものが含まれていなければならない。厳しいなかにも和やかでなければならない。（中略）　非協力的であったり、ひとりよがりであったり、高慢であってはならない。そして建設的な意見を持ち合せている人、善意の願望を持つ人は遠慮なく意見を吐いて戴きたい。── この日誌はそんな意味ですべての団員の協力によって永続させたい。度はずれた理想論でもよい、警句も可、絵のできる人はカリカチュアの登場もよい。一年二年経って、“ああ、こんなこともあった。”“あの時は苦しかった。”“楽しかった。”そんな思い出のすべてがこの誌上に集められて、僕らの永遠の魂の記念となるのだ。

僕らの私たちの愛する京都混声よ！永遠に栄光あれ！」

以後継続された日誌の一部を抄出して当時を思いみることとする。

1月13日（金）　出水小学校音楽室にて練習。指導　上村けい　ピアノ　橋本東久子　曲目　カルメンより行進曲と合唱。

日誌抄「冬休みが終って一月ぶりの練習のために初めのうちは容易に声が出ず伴奏に圧倒される。本日で出水校における練習を終る。思えば一昨年11月山田（後広瀬）泰子さんとそのお姉さんの戸倉先生の御努力と御厚意によってこの会場をお借り出来たことの有難さは忘れられない。」

1月20日（金）　鴨沂会館にて練習　曲目　Carmen March and Chorus, Die Jahreszeiten　春№2　№6　chor。

日誌抄「梅田しづ先生の御尽力により今日から鴨沂会館をお借り出来ることとなった。練習場に支障なきを得て新春とともに嬉しいスタートである。練習場変更の通知によって久しぶりの人達の顔もみえる。この調子でメンバーがふえていけばよいが。」

4月28日（金）　指導　上村けい　出席者数　35名　曲目　可愛らしいフィリス。

日誌抄「関響の伴奏によるバッハ曲"マタイ受難曲"の話が以前から語られてきたが種々の困難を乗り越えて次第に具体化しつつある様子。その成否は京混の一人一人の双肩にかかっていることを思わねばならない。上村先生の大へんな御努力をしっかり心に刻みつけて……。」

5月19日（金）　指導　上村けい　練習曲目　バッハ曲　マタイ受難曲。

日誌抄「不安ながら待望していた"マタイ受難曲"にとりかかる。上村先生や浜島さんなどの一方ならぬ御尽力の結果である。最初から複雑な音程でピアノなしではとても音がとれない。でも初見で15ページまで何とか目を通すことができたのはいささか心強い思いである。」

7月2日（日）京都合唱連盟**「第一回　合唱まつり」**

於・円山音楽堂

8.　混声合唱「野辺が薫れば」（イエンゼン）

「永遠の栄光」―"四季より"（ハイドン）

指揮　上村けい　伴奏　橋本東久子

当日の出場団体は混声合唱11団体、男声合唱6団体　京都混声は8番目に出演。

7月14日（金）　指導　浜島高彰　弥栄小学校音楽室にて　練習曲目　マタイ受難曲。

日誌抄「今日から弥栄小学校音楽室にて午後6時より練習開始。京大より"マタイ受難曲"のために約10名参加される。」

8月11日（金）　指導　林達次　ＹＭＣＡ講堂にて　マタイ受難曲。

日誌抄「上村先生の御令兄が危篤の由、高知に行かれたので今回に限り急に練習場をＹＭＣＡに変更し林達次氏の指導を受ける。ＹＭＣＡの合唱団も協力を願うことになり前回から参加して居られたので好都合であった。」

8月22日（火）　指導　森本芳雄　練習曲目　バッハ曲　マタイ受難曲。第一回合同練習　京都混声、同志社合唱団、ＹＭＣＡ合唱団、京大合唱団にて約90名。

10月22日（日）　親睦ハイキング　参加者　15名。

日誌抄「阪急桂に集合、桂川のほとりを嵐山に出る。美しい秋のさなかを楽しく歌いまくり、帰りの電車の中でも合唱。何もかも忘れ、マタイも忘れて楽しい一日でした。」

10月31日（火）**「芸術文化祭前夜祭」**出演　於・公楽会館

（注：公楽会館は現在の高島屋百貨店の位置にあった映画常設館であり、折々音楽会に使用されていた。）

「天地創造」　ハイドン作曲

指揮　森本芳雄　管弦楽　真美交響楽団

合唱　京都混声合唱団　ＹＭＣＡ合唱団

京大混声合唱団　同志社混声合唱団

11月11日（日）**「キリスト教合唱大会」**出演　　於・大阪中央公会堂

「マタイ受難曲」 Nr. 78　バッハ作曲

指揮　森本芳雄

管絃楽　関西交響楽団

合唱　京都混声合唱団有志　28名参加

ＹＭＣＡ合唱団

11月17日（金）**バッハ二百年記念のための「讃美歌の夕」**

「マタイ受難曲」の序章と終章

指揮　森本芳雄

オルガン　中瀬古　和

合唱　京都合唱連盟　（約70名）

12月10日（日）

ヨハン・セバスティアンバッハ二百年祭記念

「マタイ伝福音書による受難曲」

於・同志社栄光館　午後6時　￥140.－

主催　京都合唱連盟　　共賛　京都市教育委員会

指揮　山田和男（現一雄）

独唱　福音者（テノール）　木下　保

イエス（バリトン）　林　達次

ピラト、ユダ、司祭長（バス）　大賀　寛

ピラトの妻（ソプラノ）　田野辺教子

証人、女中（アルト）　木村斗伎子

合唱　京都合唱連盟

京都混声合唱団　全同志社合唱団

京都ＹＭＣＡ合唱団　京大混声合唱団

同志社ホザナコーラス

伴奏　大阪放送交響楽団

パイプオルガン　中瀬戸　和

ピ　ア　ノ　本田　皞

当時の団員であって演奏会に参加し、現メンバーである小山弘は当時を回想して次のように思い出を記している。

「戦争で中断されていた合唱活動が再び芽ぶいてから数年、思いがけずマタイ受難曲を歌えるようになったのは、昭和25年のことでした。御膳立てをしていただいた上村けい先生故森本芳雄先生はじめ先輩諸氏の御苦労は大変なものだったと思いますが、当時はまだ全曲を聞く機会もなく、バッハのむつかしさを今ほど身にしみて感じなかった我々は、こおどりして飛びついていったものでした。

音程を取るのに夢中で、森本先生の丁寧な説明もなかなか音楽的情景に結びつかないままに当日がやって来たという有様でした。継ぎ足した舞台に、オーケストラとソリストが並び、パイプオルガンの前には、今は亡き中瀬古先生がモンペのようなズボン姿で、度の強い眼鏡を光らせ、黒髪の山田先生の方を眺めておられたのが目に浮びます。

学生の為のマチネー、夜の本番と何曲かを省いての演奏とはいえ、なかなか大変な演奏会でした。27年を経た今でも鮮やかに脳裏に浮ぶことを一つ……。

77番のMein Jesu, gute Nacht! がくり返された後、終曲の前奏が響き出す頃、急に目頭にジーンと走るものがありました。そしてWir setzen uns, mit Tränen niederと歌い出す頃から何ともいえないきれいな涙が頬を伝い、心の洗われるような爽やかな気分になったのでした。

たとえ本人は曲におぼれていたとしてもそれは一人の男の心に強烈な影響を与えた事柄でした。同時に終曲の "mit Tränen" のこの涙が72番のコラールのような悲しみにくれた涙とは全く異なったものであることを実感として悟ったような気がしたものでした。

軍歌と童謡しか歌えなかった戦争当時のことを考えると夢のような喜び

でした。純粋に我々をとりこにする数多くの名曲 ── それらが歌えなくなるような世の中を二度と繰返えさせないようにと思う願いの切なるものを覚えます。」（京響友の会機関誌 "シンフォニー" 第17号「マタイ受難曲の思い出」より抄出）

12月20日（水）　クリスマスの夕　於・京都キャバナ（岡崎公会堂）
午後6・00～10・00

指揮　浜島高彰

曲目　Ave Maria　Glory to God　The Engel's Song
Jingle Bells.　独楽遊び　讃美歌 88、99 等

「永松校家庭科室にオルガンを運び込んだりなどして、練習を積んだ甲斐あって、英語の歌詞でアメリカ進駐軍慰問に喜ばれる。特にこの催しに斡旋努力をされた、ミス　オードさんは大変喜んでくれた。」（日誌抄）

12月14日（日）　クリスマス　キャロル　指揮　浜島高彰

「恒例の行事。客員を合せて30名。午後6時第一日赤に集合。病棟を歌い廻った後、アメリカ進駐軍京都キャバナ（岡崎）へ行き、折りからクリスマスの夕べに上演劇の合唱を受けもつ。上村先生宅では先生御自身指揮をして下さる。大沢ハウスでは招じ入れられケーキを戴く。藤堂先生宅、京都ホテルなど廻って最後に浜島さん宅へ集って朝まで楽しむ。」（日誌抄）

昭和26年（1951）

戦後次第に国内の整備が進みつつあるものの、未だ米進駐軍の支配下にあって、京都各所には米軍関係の建物や住宅がわれわれの視野に大きく立ちはだかっている状態であった。

合唱練習の苦労も前年に変らぬままに努力と団結と和をもって克服しなければならなかった。然し幾多の障害を乗り越えて忘れ難い大きな収穫に恵まれた記念すべき年であった。それは京都の合唱団によって初めて歌われたベートーベンの「第九交響曲」の演奏と、京都混声単独のステージによるフォーレの「レクイエム」関西初演という二大行事であった。

1月12日（金）

日誌抄「本年の指揮者を森本芳雄先生に交渉中であるが、決定をみるまで浜島高彰、伊村和夫、天津学、前田裕志（委員長）らの団員の間で交替して指揮することとする。

この日練習場は十字屋楽器店、出席28名。今年の初練習であるがマタイ受難曲演奏の反省や、委員改選の話合いなどに時間をとる。」

1月15日（月）　「マタイ受難曲」演奏会参加者慰安会　於・YMCA　午後0時30分より。

日誌抄「演奏会の録音が同志社理工学部の好意によって披露されたが、レコード20面のうち9面は録音の時が夕方で、家庭の電力消費の時間帯であったために、電圧の変動によって録音が中断されたり、部分的に録音されたりしていて惜しまれた。

2月9日（金）　指揮　森本芳雄　於・十字屋三階　練習曲目　メンデルスゾーン曲　春を憶ふ、モツアルト曲　アヴェ　ヴェルム　コルプス。

今回から森本芳雄を迎え京都混声の正指揮者とする。

森本芳雄の指示 ── 1.　各パートはⅠ、Ⅱに分れること。2.　メンバーの出入りがないようにすること。3.　コーラスでは声を震わせないこと。4.　みんなが同じ声を出すこと。

団の申合せ ──── 1.　5時半集合発声練習、小曲練習。森本指揮は7時頃より。2.　練習には必らずバッジをつけて入場すること。

綱　領 ──────── 自分が楽しみに来るのではなく、美しく歌われた合唱を楽しむのでなければならない。

3月6日（火）　練習曲目　ベートーヴェン曲　第九交響曲
指揮　森本芳雄　　於・永松校　　参加者　200名以上

京都合唱連盟の“第九交響曲”練習開始。毎週火曜日。

3月9日（金）　練習曲目　フォーレ曲　レクイエム。　ヘンデル曲　ハレルヤ。　メンデルスゾーン曲　鶯。

日誌抄「折々の停電あるも暗い中で美しい和音を楽しむ。」

3月24日（土）　明日がイースター（復活祭）なので岡崎の京都キャバナ慰問。

指揮　浜島高彰　　参加者37名

曲目　1. カバレリア　ルスチカーナ　　2. 聖史曲

3. グローリア　　4. アベ　マリア

5. 讃美歌　144、133、225　　6. 鶯

7. 春を憶う　　8. ハレルヤ

日誌抄「午後6時からミス　オードの案内でアメリカ兵の病棟を巡って患者を慰問し、疲れのなかに喜びを噛みしめる。」

3月25日（日）　“イースター”に歌う

指揮　浜島高彰

曲目　1. ガバレリア　ルスチカーナ　　2. アベ　マリア

3. グローリア　　4. 讃美歌　144、133、225

5. うぐいす　　6. 山の子供　　7. 春を憶う

8. こま遊び　　9. 聖史曲　　10. ハレルヤ

「第一日赤病院（東福寺）は米軍に接収されており、朝鮮戦争の傷病兵が収容されていた。市役所前に集合。午後1時30分進駐軍より迎えのバスに乗って第一日赤病院に行き“昼の部”を歌って慰問する。

午後7時30分京都キャバナ（岡崎）に集合。当時珍しかったコーヒーの接待を受ける。今日は病舎を廻らずホールに集まった傷病兵にステージから歌を贈る。」（日誌抄）

4月15日（日）「英語による音楽礼拝」　　於・西本願寺

―― 二世及びアメリカ人仏教徒のために ――

曲目　1. The Nembutsu（504）　2. Evening Gather（528）

3. Ti-sarna（502）　4. 四弘誓願　　5. 仏教青年会歌

指揮　上村けい

日誌抄「西本願寺にて試みられた、英語による音楽礼拝である。終ってから午後宝ケ池に行き楽しい団欒の集いを開き夕方解散する。」

4月18日（水）「Cavalleria Rusticana」

京都放送合唱団に応援参加（詳細未詳）

5月5日（土）**「第26回春季大合唱祭」**　主催　関西合唱連盟

於・大阪朝日会館　　午前11時より

20. 京都混声合唱団　　指揮　森本芳雄

Frühlingsahnung ……F. Mendelssohn

Spinnenlied……Swedishe Volkslied

28. 京都合唱連盟　　指揮　森本芳雄

伴奏　加藤みゆき

“Lohengrin”より Hochzeit Chor　　Wagner

日誌抄「40余の合唱団が一堂に会しての競演は実に壮観であった。京都混声は20番目のステージ、もう少しボリュームが欲しかった。母音、子音の発声も大事にしたかった。」

6月25日（月）**「関西交響楽団六月定期演奏会」**　　於・公楽会館

午後7時　　指定席券250円

主催　都新聞社

歌劇「フィデリオ」序曲　　ベートーベン曲

「第九交響曲」（合唱）ニ長調作品125　　ベートーベン曲

指揮　　朝比奈　隆

独唱　　ソプラノ　三宅春恵　　アルト　川崎静子

テノール　柴田睦陸　　バス　　秋元清一

合唱　　京都合唱連盟（京都混声参加）

京都における京都の合唱団によって歌われた記念すべき演奏であった。

7月15日（日）**「発表演奏会」**フランス音楽の夕

於・成安会館

午後7時　会員券50円

A．ソプラノ独唱　上村京子　ピアノ伴奏　飯尾恭子

薔　薇　フォーレ

夢の国　〃

恋の歌　〃

マンドリーヌ　〃

B．ピアノ独奏　野間瑠璃子

前奏曲第11集より　ドビュッシイ

霧　葡萄酒の門　花火

C．ソプラノ独唱　上村京子　ピアノ伴奏　飯尾恭子

蜂　雀　ショーソン

時　〃

牢屋にて　アーン

風　車　〃

――休　憩――

D．合　唱　京都混声合唱団

「鎮魂曲」（関西初演）　フォーレ

ソプラノ　上村京子　バリトン　林達次

指揮　森本芳雄　ピアノ伴奏　野間瑠璃子

日誌抄「当日は開演間近になってドシャ降りの雨。それでも定刻に開幕する。雨の為に遅れて来た聴衆は多勢入口の外で待たされたという。開演後もひどい雨で、演奏中にも稲光が閃めく有様であった。上村先生は御病気の由であったが、毛布まで準備されて来聴して下さった。従来から荒い荒いといわれていた京都混声が関西初演のフォーレのレクイエムを取りあ

げたことは相当の冒険であった。しかし荘重なIntroitus et Kyrieもうまく出た。おのゝくような感動が湧く。アルト"O, Domine"――実に綺麗で、つづいて入るTenorも美事。――歌い終って汗のしたたり落ちるのも打ち忘れて感激にひたる。満場急霰の拍手に感動の極に達する。上村先生から指揮者に花束をいただく。」

7月28日（土）**「新制定京都市歌合唱大会」**

於・三条鴨川原（花火大会々場）

指　揮　諸井三郎

歌唱指導　青山政雄

合　唱　京都混声合唱団

伴　奏　京都市立堀川高等学校（音楽コース）管弦楽団

日誌抄「紅白の縁取りのある大きなステージが特設されている。高山市長の新市歌についての祝意と讃辞が述べられ、次いで合唱に移ったが野外のステージではいささか普段と勝手が違って平素の盛り上りに至らずに終る。」

8月20日（月）晴

NHK京都放送局（JOOK）より

フォーレ**「レクイエム」全国中継放送**

同志社栄光館より

指　揮　森本芳雄

ソプラノ　上村京子　バリトン　林達次

合　唱　京都混声合唱団

パイプオルガン伴奏　中瀬古　和

ピアノ伴奏　野間瑠璃子

日誌抄「午後二時に集合、テストを重ねるが全国への中継放送（当日はナマ放送であった）なので時間丁度に終ることに苦心してテストを繰り返す。伴奏の位置も離れているしハーモニーに問題があって指揮者は配慮に

苦心される。電力事情が悪く停電なども心配されたが幸に本番は万事好調に終る。」

9月12日（水）　浜島高彰氏送別会　　於・新京極蛸薬師上ル薬師堂

出席者　上村けい　森本芳雄外約40名　午後6時半より

日誌抄「昭和23年に京都混声に他の合唱団が合流して以来第一線に立って多大の犠牲を払って全力を尽して下さった浜島さんである。お別れの会といっても物資の乏しい折柄、お茶と一袋のお菓子が各人の前に置かれているだけである。森本先生の巧みなリードで輪唱や合唱や、果てはいろいろな対抗競技に興じる。

夜が更けると共に近くの寄席“富貴”から聞こえるジンタの奏楽もわびしい。新潟県の十日市とかへ行かれる浜島さんが今まで京都混声や合唱連盟を育てて下さったご苦労を今更のように有難く思い、御多幸を祈るや切なる思いである。」

9月28日（金）　1951年度合唱コンクール　混声合唱課題曲“夜明けの森”の練習にとりかかる。　指揮　森本芳雄　場所　十字屋三階　曲目“夜明けの森”作曲　リンテル　作詩　堀内敬三

日誌抄「電力事情悪くこの頃停電頻繁にあり、夜の練習に支障。停電といえども練習を休むことは出来ない。蠟燭の火を頼りに練習を続ける。

しかし、後一か月後に迫った合唱コンクールに、今から課題曲と選択曲をマスターすることの困難を果して克服することが出来るかどうか……。」

10月5日（金）　全員協議の結果、今年度の合唱コンクールは棄権することに決定。

10月6日（土）「木下教室研究発表会」　京都混声有志合唱に参加

於・成安会館

主催　京都音楽研究会

Ⅱ部　3. 合唱　「愛のワルツ」18曲　　ブラームス曲

指揮　木下　保

伴奏　飯尾恭子　　本田　暐

10月19日（金）曇

日誌抄「山田和男氏より“京都の合唱団によって東京以上に素晴しい成果を得る機会を持っては……”との呼びかけが京都混声にあり、“ヴェルディー”の曲を我々の力で完成してはとの熱気あるニュースがもたらされる。」

10月28日（日）　六甲へハイキング。参加19名。日誌抄「案内係が道を尋ねながらの案内で頼りないことこの上なし。弁当を開くと豊田さんのおにぎりとかまぼこがコロコロと走り出す。今井さんのお弁当余り小さいので心配したら大型をもう一つ持参。市瀬さんと私（広瀬茂）とは山道にかかっても元気旺盛、得意満面先頭をゆく。四条大宮で“コマ”と“アベ　マリア”を歌って解散。

11月16日（金）

日誌抄「森本先生病気の由今更のように先生の有難さを痛感する。」

11月20日（火）　午前7時　**森本芳雄先生御他界。**

11月22日（木）**「森本芳雄先生音楽葬」**　　於・平安教会

バッハ曲“マタイ受難曲”No. 78

指揮　前窪一雄

合唱　京都混声合唱団

同志社混声合唱団

日誌抄「あのマタイ受難曲をもう一度歌いたいというのは昨年の演奏会の折の感激を共にした者の共通の念願であった。それが今、森本先生の御霊前に捧げるために再び歌うことになろうとは……。“安らかに憩え”―じっと眼を閉じていると次々と想い出が去来して胸を塞ぎ歌うことができなくなってしまう。丁度去年の今頃、森本先生の指導で一所懸命に練習していた頃であったのに。

人の命の余りにもはかなく、今にして森本先生の存在があまりにも大き

かったことを痛感する。

音楽葬の後、この日予定していた、26日の放送録音の曲を平安教会で同志社混声と合同練習する。」

11月23日（金）

日誌抄「先に浜島委員長を送り出し今また敬愛する森本先生を失って私達の心は空をさまよう思いである。天も慟哭するかのように雨脚はいよいよ激しさを加える。正に悲しみの極みである。

中学では音楽を教えておられたが、大学では神学の教授であった。アメリカでは神学研究と共に宗教音楽をも学ばれたと聞いている。音楽の授業は、ピアノがチャペルにあるのでいつもチャペルが音楽教室であった。生徒たちはチャペル先生と呼んでいた。チャペルの横のポプラに身を寄せて、腕白どもの整列し終るのを気むづかしい顔で待って居られた先生。その腕白のお願いを聞き入れて“ヴォルガの舟歌”を歌って下さった先生。ただ一人ほの暗いチャペルのオルガンに向かわれ、何かを弾いておられた先生。込み合った市電の中で吊り革にぶら下りながらいつも読書しておられた先生。今は亡き痩身の先生の姿があれやこれやしのばれて懐しさは尽きない。

“マタイ受難楽”演奏会を終った時、皆に囲まれ涙ぐみながら成功を喜んで下さった先生。ベートーヴェン“第九”の練習の頃いかにも苦しそうな息づかいだった先生。一体私達は先生から何を奪ってしまったのだろうか。もし私達が先生に御無理をお願いしなかったら……。再び帰り来ぬことであり、いかに悶えても返らぬこととは知りながら諦めきれぬ思いに繰返し先生を失った悔いの恨みが甦ってくる。

今にして思へばせめて、先生が多年の宿望であった“マタイ受難楽”を先生の指導によって演奏出来たことは小さな慰めともなることであった。そして私達から毎月差し上げるお礼金を“多いな”といわれたことも、多少なりとも私たちのなすべきことを果したような慰めとなる思い出である。

東京で戦災に遭われ、蔵書などすっかり焼失されたということである。

そして京都に移られたことによって、私達は先生の御指導を得る奇縁となったことが何よりのしあわせであった。

銀髪を加えられ丈高く広い肩巾の細っそりとした先生の背広姿がなぜか余りにも痛々しく余りにも物悲しく脳裏に浮んで堪え難い痛恨の思いをどうすることも出来ない。」

11月26日（月）進駐軍向け**クリスマス放送の録音**（NHK京都放送局）

於・岡崎京都キャバナ

指揮　前窪一雄　　伴奏　中瀬古　和

合唱　京都混声合唱団　　同志社混声合唱団

1. Hallelujah Chorus
2. With a Toach Jeannetto Isabella
3. Lo, Haw a Rose

12月16日（日）初雪

「故森本芳雄先生追悼音楽会」　於・同志社栄光館　午後2時より

Faure「Requiem」より

1. Introitus et Kyrie（序章と主よ憐み給へ）
7. In paradisum　（天国にて）

指揮　山口　昇　ピアノ　野間瑠璃子

パイプオルガン　中瀬古　和

———私どもは先生が居て下さることを

当り前と思い過ぎていた———　中瀬古　和

当日の出演は同志社ホザナコーラス（指揮中堀愛作）　同志社クローバークラブ（指揮前窪一雄）　京都混声合唱団（山口昇）　カレジェート・コーラル・ドウシシャ（指揮日下部吉彦）　大阪放送合唱団（指揮未詳）　同志社グリークラブ（指揮日下部吉彦）　アルト独唱（加藤貞）　同志社混声合唱団（指揮前窪一雄）などの順で演奏され最後に同志社グループによるヘンデル曲「救世主」の演奏が行われた。

12月23日（日）

日誌抄「クリスマス　キャロルの歌、讃美歌を携えて進駐軍提供のバス二台に分乗、午前中は大津、午後神戸に慰問にゆく。」

12月24日（月）　クリスマス　キャロル　　指揮　清水　弘

讃美歌　88、91、94、97、99、102

105、106、464、598

Row how a rose.　Deck the hall.

X'mas Bells.　Glory to God.

万軍の主なる（Saint Saëns）.　ものみなこぞりて.

Ave Maria（Arcadelt）.

訪問先　京都キャバナ（進駐軍：岡崎）── 進駐軍将校の家 ── 上村けい先生宅 ── 京都ホテル ── 河原町四条（市民へのサービス）── 円山公園米人宅 ── 都ホテル ── 大津皇子山進駐軍宿舎 ── 永観堂近辺二軒 ── 岡崎聖マリア教会 ── 植物園進駐軍ハウス ── 桂宅（午前5時）

（注：この頃アメリカ軍の日本進駐部隊が京都大津に駐屯しておりミス　オードの依頼を受けて病院慰問やクリスマスの夕べなどに招かれ大いに歓迎を受けた。）

Ⅳ.興隆期　〝夢多き歌曲の日々を〟

昭和27年（1952）──昭和38年（1963）

指揮者　青山政雄

昭和27年(1952)

1月3日（木）恒例の京都混声新年会を新京極薬師堂に開く。出席34名

日誌抄「指揮者の問題──昨年森本先生のご他界以来、主として清水弘を中心に伊吹新一、山口昇らが指揮に当ってきたがいつまでもこのままの状態で進むことは許されない。かねて懸案になっていた指揮者の問題について、新年になってから次第に論議が高まってきた。

先ず上村けい先生にお願いすることにしたが、現在では不可能というご返事であった。それでは上村先生のご承諾があるまで今までの状態を継続していくか、又は上村先生推薦の菱田氏か小畑氏にお願いするかの何れかについて検討を行ったが容易に結論は出ない。広瀬茂を委員長とする拡大委員会に一任することになる。

拡大委員会の奔走により事態は変化し、更に上村先生推薦の青山政雄氏が話題の中心となる。青山氏も躊躇の様子であったが、上村先生の懇望によって承諾の由。」

2月1日（金）新しい指揮者青山政雄を迎えて最初の練習である。曲目はベートーヴェン作曲の“稜威”(Die Ehre Gottes)、練習場は十字屋三階。この時から京都混声は長い青山時代を迎えることになる。

日誌抄「昨年の夏、三条河原の花火大会（新制京都市歌発表会）の時に合唱指導を受けた青山先生の指揮を受けるとは夢にも思わなかったことである。上村先生ご紹介による＜ビング・クロスビィ＞のような先生という

ふれこみでお迎えする。

面白おかしくお話になるその言葉の端々にも音楽の本当の気持（意義）が含まれていて、私どもの痛い所を突かれるようで、不勉強な私には笑うに笑えない気持である。森本先生とはお話ぶりは違っているけれども根本的には同じことを言っていらっしゃるのがよく判るので、真剣に勉強しなければならないとつくづく思った。先生の明朗さを充分に吸収して明るい合唱団になりたいものだ。」

2月8日（金）

日誌抄「初めに発声練習をする。少し趣の変った発声法であって　我々を真剣にさせるものがある。続いて“御稜威”“夜鷺”の練習にうつる。その一言一言によって今まで我々が求めていた疑問に対する答を見出したように思う。新しい指揮者青山先生の印象は実に我々を力強くしてくれるものがある。」

6月29日（日）

京都放送局開局二十周年記念「**モーツアルトの夕**」　於　弥栄会館

主催　NHK京都放送局ラジオサービスセンター

協賛　京都合唱連盟／京都市教育委員会／都新聞社

指揮　山田和男

演奏　大阪放送交響楽団

1　交響曲　　第35番……ハフナー作曲

Ⅱ　鎮魂ミサ曲　ニ短調……モーツアルト作曲

ソプラノ　伊藤京子　　アルト　木村斗伎子

テノール　木下　保　　バ　ス　横井輝男

合　唱　京都合唱連盟

合唱指導　上村けい　　青山政雄

7月5日（土）NHK大阪放送局（JOBK）「**土曜コンサート**」

去る6月29日に行なわれた　京都放送局開局20周年記念「モーツアルトの夕」の演奏会録音を午後2時より**ラジオ放送**あり。

8月2日（土）3日（日）　琵琶湖畔白鬚浜リクレーション

参加者約15名。折角キャンプの夜を楽しみにしていたのに、準備不足のためテントをはみ出す者数名あり。

日誌抄「正指揮者不在中の指揮代行者として京都混声の重要な存在であった清水弘さんは、この度四国に転勤となり別れが惜しまれる。」

10月5日（日）　青山前期「**第一回試演会**」

於　京都YMCAホール　　午後2時

指揮　青山政雄

曲目　ロシヤ民謡

1	1, コサックの子守唄	津川主一	訳詞
	2, 白樺の木	〃	〃
	3, ステンカ　ラーズィン	奥田準一	〃
	4, コサック	津川主一	〃
	5, 緋色のサラファン	〃	〃
	6, ヴォルガ下り	〃	〃
Ⅱ	7, コサックの悲歌	〃	〃
	8, トロイカ	〃	〃
	9, 炉辺	〃	〃
	10, 故郷の小川（ウクライナ民謡）	〃	〃
	11, ああ　ミンカ	〃	〃
	12, 若者よ	〃	〃
Ⅲ	13, 行商人	〃	〃
	14, ペトルスとマルーシャ	〃	〃
	15, 黒い瞳	〃	〃
	16, 庭先	〃	〃
	17, 夜鷺（アラビエフ作曲）	〃	〃

18, ヴォルガ曳舟の歌　　津川主一 訳詞

11月3日（月・祭日）　鞍馬方面ハイキング

11月16日（日）**「第二回　京都合唱祭」**　於・堀川高等学校講堂

午後　2時より

主催　京都市教育委員会

協賛　京都合唱連盟

指揮　青山政雄

曲目　「ロシヤ民謡」

1. ヴォルガ下り　　2. トロイカ

3. ペトルスとマルーシャ　　4. **庭先**

第一回合唱祭が円山音楽堂で開かれてから、2年ぶりの開催である。

日誌抄「合唱祭終了後、全員打ち揃って若王子にある森本先生のお墓に詣でる。この20日は御他界から丁度1年になる。墓地に登る頃に残っていた残照もすっかり暮れて、闇の中に蠟燭をともし讃美歌を捧げて、ご生前をお偲びする。先生愛唱の歌を繰返し歌いながら蠟燭の火も風に消されて真暗な坂道を、足探り手さぐりで下りる。」

11月29日（土）　アメリカ進駐軍大津キャンプ**「感謝祭」**の催しに出演。

指揮　青山政雄

曲目　Ⅰ　“Negro　Spiritual” より

1. Deep　River　　2. Nobody　knows

3. Bring　Back　my　Bonnie

Ⅱ　1. Auld　Lung Sync　　2. Ave Maria

3. Zum　Sancto

Ⅲ　讃美歌　424, 519.

Ⅳ　“日本民謡” より

1. 来いと言うたとき　　2. さくら

3. 夕焼と雁　　4. 大阪子守歌　etc.

12月24日（水）　クリスマス　キャロル

第二日赤病院――アメリカ進駐軍大津キャンプ――皇子山米人宅数軒――三条十字屋――今熊野――黒部君宅――故森本先生宅――植物園米人宅――桂宅。

日誌抄「大津キャンプでは劇中のコーラスを担当。ハレルヤなど喝采を受ける。京都に帰って十字屋に行くと白髪のおばさんがわざわざ起きてきて喜んで下さる。闘病三年余の黒部君も起きて髭の伸びた顔をみせてくれる。早くよくなって美しいバスを聞かせて欲しい。森本先生宅では奥さんが出て来られ殊の外、心深く迎えて下さる。青山先生が＜あの、森本先生のお家の前で歌ったあの時だけが非常にきれいでした。皆さんが森本先生に捧げるという純な気持になって、その気持だけで歌ったからです。大津のキャンプではどうしてもけれん味がある。多勢の人の前で平生と変らない素直な気持で歌えたら、その人は素晴らしい歌手だと思います。キャンプのステージでは皆さんはまだまだそこまでなりきれなかった。それが森本先生のお家の前では、何も気を使うものもない。ただ先生の前に〆というだけの気持になって歌ったのがよかったのです。どうかあの時の気持を忘れないで下さい。＞と切々と身にしみるお話であった。」

昭和28年(1953)

1月3日（土）　新年ニコニコ大会　於・山田泰子（A）さん宅

午後1時から。例によって楽しく賑やかなこと。夜7時30分頃　転勤して広島県福山在住の浜島高彰氏出席。

3月20日（金）「勤労貯蓄の歌発表会」　賛助出演

京都新聞ホール　午後5時30分より

指揮　青山政雄

曲目　1. Glory to God　　2. The Engels song

3. 山の子供　　4. 独楽遊び　　5. Hallelujah

4月26日（日）**「第二回　試演会」**　於・京大楽友会館　午後2時

指揮　青山政雄

曲目　第一部　カトリック聖歌

1.	Ave Maria	C.Franck
2.	Ecce Quomodo moritur Justus	M.Haydon
3.	Adora muste	G.P.Palestrina
4.	Tantum Ergo	E.Sullivan
5.	O Esca Viatorum	H.Isask
6.	Ave Verum Corpus	C.St,Saens
7.	O Bone Josu	G,P.Palestrina
8.	Salve Regina	F.Schubert

第二部　Missa Brevis　G.P.Palestrina

1, Kyrie eleison（哀願誦）

2, Gloria in excelsis Deo（栄光誦）

3. Credo in unum Deum（信経誦）

出演者　S,6　A,7　T,5　B,8

5月17日（日）　菖蒲谷ハイキング。

四条大宮――（新京阪）――嵐山――大覚寺――菖蒲谷（昼食）

6月6日（土）　演奏会形式による**「魔笛」**（モツアルト）賛助出演

於・成安会館　午後7時　会員券　¥100

主催　京都音楽研究会

後援　都新聞社、ＪＯＯＫ、

指揮　木下　保

ピアノ伴奏　ワルター　ノーウィック

解説　桜井武雄

合唱　京都混声合唱団有志、竜谷混声合唱団有志

出演　ザラストロ　横井輝男　パミーナ　鳥井晴子

タミーノ	田村幸次郎	パパゲーノ	林　達次
夜の女王	山本寿子	パパゲーナ	加藤雅子
侍女第一	上池春子	童子第一	鈴木芳子
第二	城下和子	第二	内藤花子
第三	藤田悠紀子	第三	木村愛子
	服部善子	武士第一	岩城恵一
モノスタトス	佐藤　清	第二	植田治男

8月27日（木）NHK京都放送局(JOOK)**「ラジオ放送」**録音〔29日放送用〕

指揮　青山政雄

曲目　1. 夜鷲　2. 行商人　3. ああミンカ

4. 白樺の木　5. とけずあれよ

6. 老いたる人

日誌抄「午後7時　ＮＨＫ京都放送局集合。8時頃から録音開始。

スタジオに小柳アナウンサーが入って来られる。25秒前です。＜この放送は8月29日0時15分から15分間“音楽の集い”の時間の放送です。京都からカンチュウ（注：関西中継のことか）です。10秒前……5秒前……0＞だんだん妙な気持になってくる。テーマミュージックが鳴り出す。いよいよ本番。アナウンサーの神妙な顔。＜音楽の集いの時間です。……今日は京都混声合唱団の合唱をお送り致しましょう ……指揮は青山政雄さんです。＞前田君がピアノの音をたたく。青山先生のタクトが動いた。ところが出始めに失敗。再び小柳アナの＜25秒前＞から始まる。どうやら歌い終ってやれやれと思ったところ＜15分より45秒はみ出してしまいました。＞というので、始めからやり直し。相談の結果初めの7曲の予定の中から“庭先”の一曲を省くことにする。再録音。また＜25秒前……。＞から始まる。今度は省いたはずなのにアナウンサーが＜……次は“庭先”＞と言ってしまったからさあ大変またまたやり直し、午後10時頃無事に終った時には緊張と立ちづめなのにすっかり疲れきってしまった。記念写真を撮し

てもらって解散。」

9月25日（金）　暴風雨（練習中止）

台風襲来にて京都はその通路に当り夕方から街の歩行も困難になる。どのような悪条件の中でも、年末年始でも金曜日の練習を休んだことのない京都混声も、この日だけは練習不可能となる。

11月22日（日）NHK京都放送局(JOOK)「**ラジオ放送**」録音

（26日午後6時45分放送用）

指揮　青山政雄

曲目　The seven last words.　Regina coeli.

出席者　S. 5　A. 6　T. 6　B. 4

11月27日（金）　青山政雄指揮者辞退を表明。

日誌抄「いつかはこのような事になることを皆も心のどこかに感づいていたのではなかろうか。私達のように不勉強で、出席率が悪くしかも偉そうなことだけ言い散らすのでは青山先生も愛想をつかされるのが当然だろうと思う。つまらぬ感傷にひたらずにこのような反省の機会を得たことを不幸中の幸としなければならない。熟慮して再出発の機とせねばならない」

12月4日（金）　練習を途中で総会に切替えて、青山政雄の指揮者辞退に関して討議する。種々論議の結果、団員が反省自覚の後に再度懇願することに落着く。その間の指揮は前田裕志を中心に天津実、伊吹新一など団員によって行うこととする。

12月24日（木）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後7時頃大津のアメリカ進駐軍から配車されたバスに乗って先ず第二日赤病院を慰問し、次に大津皇子山のアメリカ軍キャンプに行く。今年も例年のようにアメリカ軍西南指令部のミス　オードの招請によって大津キャンプに行く。前田裕志の指揮でクリスマス　キャロルと讃美歌十数曲を歌う。途中からアメリカ兵も加わって合唱を楽しみ、戦後珍しい外国のコーヒーやケーキなどの歓待を受ける。」

昭和29年(1954)

1月1日（金）　新年ニコニコ大会　　天津学・実宅にて

1月8日（金）　新春初練習　　指揮　前田裕志　　伊吹新一

曲目　毬と殿様　　通りゃんせ

中国地方の子守唄

4月9日（金）　青山政雄再び指揮をとる。

曲目　カトリック　コーラス

場所　十字屋三階

日誌抄「再び青山先生に来て戴けることになる。但し条件付きである。それは＜熱心に克く努力すること＞である。しっかり歌おう。サボらずに——。身勝手な行動は慎しみ、心を合せて歌うことだ。」

日誌抄「久しぶりに青山先生が来られて何かホッとした感じ、長い間の疲労が何となくほぐれていくような思いである。」

5月9日（日）「**第三回　合唱祭**」　於・堀川高等学校講堂　午後1時

主催　京都市教育委員会

京都合唱連盟

指揮　　青山政雄

曲目　“Catholic Chorus” より

Ave maria　　C. Franck

Tantum ergo　　E.M. Sullivan

Salve Regina　　F. Schubert

当日の出場 23団体。京都混声は第3番目にステージに上る。

日誌抄「歌い慣れた曲ではあるがそれだけによりよい効果をあげなければならないことと、青山先生復帰後最初の発表ということもあって気分が重い。歌い終ってホッとする。ステージを下りる時、先生がソッとピアノで終りの和音をたたかれる。いつものことながら音が下っていてヒヤッとする。私たちの不勉強をいつも指摘される先生に済まなく思った。」

5月23日（日）　ハイキング実施。

12月24日（金）　クリスマス　キャロル実施。

昭和30年(1955)

3月1日（火）　週2回練習開始。

場所　火曜日は銅駝小学校　午後6時30分より

指揮　青山政雄

曲目　"Catholic Chorus"より　Salve Regina

Ecce, Quomodo moritur justus

Adoramus to

日誌抄「今月から発表会に向って磨きをかけるために火曜日を加えて、週2回にふやす。増田さんのご尽力で、銅駝校音楽室をお借りする。歌い易い教室で、久しぶりの人や新人を迎えて練習に打ちこむ。終りを告げられた時には、もうそんな時間なのかと驚くほど熱のこもった練習日であった。」

4月17日（日）**「定期演奏会」**　於・成安会館　午後7時

曲目　Ⅰ　合唱

1. アドラムス　テ　G.P.パレストリーナ
2. レジナ　チェリ　A. カルダラ
3. エクチェ クォモド モリトウル ユストス　M. ハイドン
4. サルヴェ　レジナ　F. シューベルト
5. 最後の七つの言葉　Ch. グノー　Th. デュボア
6. アヴェ　マリア　C. フランク
7. アヴェ ヴェルム コルプス　C. サンサーン

指揮　青山政雄

Ⅱ　管絃楽

1. ドイツ舞曲　W.A. モーツアルト
2. ウインナ舞曲　L. ベートーヴェン

京都室内オーケストラ

指揮　青山政雄

Ⅲ　合唱　スタバト　マーテル　A. ドヴォルザーク

指揮　青山政雄

独唱　ソプラノ　神代節子

アルト　阿蘇加奈子

テノール　広瀬義彦

バス　林　達次

伴奏　管弦楽　京都室内オーケストラ

ピアノ　加藤明子

4月29日（金）

委員会での決定事項伝達

1. 関西合唱祭には人員不足のため不参加とする。
2. 京都合唱祭（六月上旬）には是非参加する。
3. 秋のコンクールには出来るだけ参加しよう。
4. 秋には発表会を持とう。
5. 毎年5月中旬又は下旬に京都混声の定期演奏会をもつようにしよう。

7月30日（土）**「第35回　土曜コンサート」**——音楽堂改装記念——

市民合同交響楽団演奏会

午後7時　於・円山音楽堂

挨拶　京都市長　高山義三

祝辞　京大教授　長広敏雄

曲目　1. シベリウス　交響詩　フィンランディア

指揮　青山政雄

2. チャイコフスキー　組曲「白鳥の湖」

指揮　青山政雄

3. ヴェートーヴェン　交響曲「第五」(運命) ハ短調

指揮　山田忠男

4. シューマン　流浪の民

指揮　青山政雄

ソプラノ　坂根豊子　アルト　藤田悠紀子

テナー　広瀬義彦　バス　山本　徹

5. ハイドン　「天地創造」より

“天は御神の栄光を語り”

出演合唱団　京都混声合唱団　同志社混声合唱団　京大混声合唱団　京都フラウェン・コール　京都労音混声合唱団　立命館混声合唱団　島津混声合唱団　京大職員混声合唱団　紫明混声合唱団　大丸みどりコーラス

8月13日（土）～14日（日）　琵琶湖マイアにキャンプに行く。

8月27日（土）**「土曜コンサート」**

曲目　「ロシヤ民謡」　指揮　青山政雄

1. 夜のうぐいす　2. コサックの悲歌

3. 白樺の木　4. 行商人

9月24日（土）～25日（日）　ハイキングとキャンプ

日誌抄「四条大宮集合――広河原――八丁(キャンプ)――釜ケ原――佐々里――広河原――京都。

難行軍で道に迷ったり怪我をしたり、村人の親切に助けられ、終バスに遅れて京都からハイヤーを呼んだり、公民館で仮泊する者も出るなど。」

参加者　7名。

9月30日（金）

日誌抄「詩文に忠実なエロキューション、イントネーションに応ずるよう発唱しなければならない。それにはハッキリした口の形を整えて発声すること。不用意に後れて音を出して、あわててすり上げすり下げ気味に発声したりしてはならない。」

10月7日

日誌抄「いささか我田引水ながら、京混はやっぱりいいなあと思う。職場で歌うのも、他の合唱団と合同で歌ったりするのもまた意味はあるけれども、ほんとうに歌うことそのものの喜びをこんなに深く味わわせてくれる所はどこにもない。歌うことの苦しみと喜びが少しずつ判ってきたのもひとえに京混のお蔭、先生のおかげ――今の私の一番楽しいのは京都混声に行くこと。そしてウンとしぼられること。どうやら私も一生コーラスはやめられない人の仲間に入りそうだ。」

10月29日（日）**「第10回 勤労者音楽会」**於・成安会館

主催　第10回勤労者音楽会準備会

京都勤労者音楽協議会　京都市

指揮　青山政雄

曲目　夜　鶯（ロシヤ民謡、津川主一編）

白樺の木（　〃　　〃　）

行 商 人（　〃　　〃　）

今回は28日より31日の4日間にわたり参加65団体による演奏会であり京都混声は第二日（29日）に出演した。また松下電子・新三菱京都の合同ステージに応援参加する。曲目は“おお雲雀”（メンデルスゾーン）と“野ばら”（ウエルナー）指揮　青山政雄。

11月3日（木・祭）**「第10回 関西合唱コンクール」**

於・大阪朝日会館　午前9時から

主催　関西合唱連盟

後援　朝日新聞社　文部省　労働省

課題曲　混声四部合唱　「風に寄す」　人見東明　作詞
小山章三　作曲

自由曲　混声四部合唱　「最後の言葉」四曲

当日は午前10時20分三条十字屋三階に集合。約1時間練習の後、午後3時大阪朝日会館に集合。結果は選外となる。

12月24日　クリスマス　キャロル実施。

昭和31年(1956)

4月29日（日）**「第11回 勤労者音楽会」**

於・成安会館　午後5時35分から

主催　第11回勤労者音楽会準備会
京都勤労者音楽協議会

曲目　混声合唱「レクイエム」（フォーレ）より
Libera me　In Paradisum

指揮　青山政雄

伴奏　加藤明子　独唱　植田治男

25日より29日まで4日間にわたり62団体出場し、京都混声は29日の15番目に歌う。各日共、歌唱指導による全員合唱あり、“シュワジベチカ”（ポーランド民謡　東大音感作詩）“世界をつなげ花の輪に”（篠崎正作詞　箕作秋吉作曲）を歌う。

5月27日（日）**「定期演奏会」**　於・成安会館　午後6時30分

指揮　青山政雄

独唱　ソプラノ　神代節子　バリトン　植田治男

伴奏　ピアノ　新井省吾

曲目　Ⅰ　ジプシーの歌　ブラームス(Op.103)

1. He! Zigeuner!　ジプシーよ
2. Hochgetürmte Rima-flut　リマの流れ

3. Himmelgabes Liebe　授かった恋人
4. Einst ein Küsschegab　唯一度の接吻を
5. Der Tanz　踊り
6. Ledig bleiben Sünde wär！　独身でいるのは罪悪
7. Heiligem Eide　聖き誓い
8. Gute Nacht！　別れ
9. Meine Abendstern　我が夕星
10. Mond verhüllt sein Angesicht　月さえかげる
11. Abendwolken　夕雲

Ⅱ　独唱と二重唱　歌劇「魔笛」より　モーツアルト　k.620

1. パミーナとパパゲノの二重唱
2. パパゲノの詠唱
3. パパゲナとパパゲノの二重唱

Ⅲ　混声合唱「レクイエム」　フォーレ(Op.48)

1. Introitus et Kyrie （入祭文とキリエ）
2. Offertorium （奉献頌）
3. Sanctus （聖なる哉）
4. pie Jesu （憐れみ深きイエスよ）
5. Agnus Dei （神羔頌）
6. Libera me（我を解き放ち給え）
7. In Paradism（天国にて）

7月1日（日）**「合唱祭」**　於・成安会館　午後1時

主催　京都合唱連盟

京都混声合唱団　指揮　青山政雄

A. 森にわかるる歌　メンデルスゾーン曲　津川主一訳
B. うぐいす　〃　〃
C. 狩猟の歌　〃　〃

当日の参加18団体。京都混声は第18番目に出場し最後のステージを飾る。

12月24日（月）　クリスマス　キャロル実施。

昭和32年(1957)

1月2日（水）　新春ニコニコ大会　午後1時　天津宅にて、32名集まる。

1月11日（金）　32年度　練習始め　練習曲目

祖国、吟遊詩人（メンデルスゾーン曲）

レクイエムより“Dies irae”（ピゼッティ曲）

1月15日（火）

日誌抄「委員会の決定により金曜日以外に男声女声が火曜日の隔週に練習を行う事となる。開始は2月第一火曜日より大橋さんの勤務校新洞小学校音楽室を借用することとなった。曲目は“メンデルスゾーンの歌曲集”とピゼッティの“レクイエム”である。

3月1日（金）

日誌抄「新年度役員の紹介。役員もいろいろと呼びかけているが人数の集りが大変悪い。7時頃から始まって終りは大てい9時半頃。遠くの方や女性は大変である。」

4月12日（金）

日誌抄「日誌には大変良い事が書かれているが、より多くの人達に読んでもらうように出来ないものだろうか。今のままでは自由に皆が読むというのではなく、日誌を書く時になってから書くために読んでみるというのでは何にもならない。機関誌にのせるとか何とか出来ないだろうか。」

4月30日（火）

日誌抄「定演にそなえて男女別の練習日も混声練習の日として週2回となる。いよいよしんどくもあり張り合いもあるというものである。」

5月12日（日）**「第13回　勤労者音楽会」**　京都合唱連盟**「合唱祭」**

於・成安会館　午後6時30分

挨拶「若葉のみどり濃い五月、今回は第13回勤労者音楽会と京都合唱連盟合唱祭とを一緒にして音楽会を開くことになりました。」

主催　京都勤労者音楽協議会

京都合唱連盟、京都市

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

「レクイエム」より（ピゼッティ）アニュスディ　リベラメ

祖国（メンデルスゾーン）

「今年は12日から3日間にわたり64団体が出場した。その上、合唱連盟の合唱祭と労音各サークルの発表会とが合流したため質、量ともに充実し、水準の大きな上昇がみられた。（中略）中ではやはり京都混声、労音混声、京大混声、同大グリー、京大男声、紫明混声等が群を抜き、市職員合唱が著しく向上したのが特に注目された」（ミュージアル　キョート　第3号　S. 32. 6. 1.より）

5月19日（日）**「定期演奏会」**　於・成安会館　午後7時　¥80

指揮　青山政雄

独唱　ソプラノ　神代節子

バリトン　植田治男

伴奏　ピアノ・オルガン　矢田部宏

曲目　I　混声合唱「六つの野外歌曲」　メンデルスゾーン

1. きたれや　わが君　Op. 41　Nr. 2
2. 霜降りきたり　〃　Nr. 3
3. 緑葉墓をおおい　〃　Nr. 4
4. 桜　草　Op. 48　Nr. 2
5. 羊飼の歌　Op. 88　Nr. 3
6. 祖　国　〃　Nr. 5

Ⅱ　独唱と二重唱

1. バリトン独唱「白鳥より」　　シューベルト
　愛のたより　セレナーデ
2. ソプラノ独唱「三つの歌曲」　　ブラームス
　永遠の愛　五月の夜　甲斐なきセレナーデ
3. 歌劇「ドンジョバンニ」より　　モーツアルト
　ドンジョバンニとツェルリーナの
　二重唱“お手をどうぞ”
　レポレロのアリア“カタログの歌”
　（バリトン独唱）

Ⅲ　混声合唱「鎮魂弥撒」　ピゼッティ

Requiem	憩　い
Dies irae	怒りの日
Sanctus	聖なる哉
Agnus Dei	神の仔羊
Libera me	我を解き放ち給え

日誌抄「当日は折りしも過日お亡くなりになった京都混声の生みの親吉田恒三先生御葬儀の日であった。開演に先だち全員で成安会館に近い先生のお宅での告別式に参列した。その出棺の時間が近づくにつれて小雨が降り出し先生の喪を悼むかのようであったが、私たちは小雨にぬれながらピゼッティの“レクィエム”を捧げて御冥福をお祈りした。演奏会のステージでは第Ⅲ部“鎮魂弥撒”の演奏に先立って吉田先生と共に京都混声創設者の一人である上村けい先生からこの“鎮魂弥撒曲”を故吉田先生に捧げる旨の挨拶をして戴いた。ステージ前の中央に故吉田先生のブロンズの胸像を飾って、京都楽壇の父であり、京都混声の創設者である吉田先生の御霊前に本邦初演であるピゼッティの“レクィエム”を捧げた事は、ブロンズの胸像の前に飾られた真白な花束の何ともいえず美しかった事と共に団

員にとって決して忘れることの出来ない演奏会となった。最後のフレーズを歌い終った時は会場はしんと静まり返り厳粛な終曲の極致であった。青山先生が踵を返される音にはじめて拍手が湧き上ってきた。この時の演奏について音楽に詳しい人達が＜今の日本でこのような音楽は仲々聞けるものではない。とても感心した。＞＜大変いい音楽会であった。そしていい演奏であり、ピゼッティの抒情的なしかも荘厳な面をあのように美しく聞けるとは思わなかった。＞　など思いがけない程の好評を戴いた。

5月24日（金）定演反省会　午後7時より　於・志津屋（河原町二条東入）

日誌抄「反省会と慰労会とを兼ねてのこの集りは例によってお菓子をほうばりながらのおしゃべり。参加者　41名。

各人の話では＜部分的には乱れはあるが概して評判はよく団員もそれぞれ満足感を味わう事が出来た。＞ようである。

最後に青山先生のお言葉＜チェリウス先生に『あの晩寝られたか』と聞かれ『ハイ』と言ったら『本当か』と言われた。『何故ピゼッティを選んだか』と言われたので『美しいから』と答えたら『無理だ』とおっしゃった。そして＜fの音は勿論P. PP. を充実させること。いつもやわらかい温かい心で気持を充実させる事、また普段の練習のとき音楽の中にある心の糧、喜びを感じて自分の人間を高めること。おこがましいが、それを歌うことによって他の人にも分けて上げる事。そして音楽家が我々のためにつくってくれた音楽で我々を高めながら、世間の人の共感を呼ぶこと、それは我々が練習のうちに出来ていくものである事を自覚すること。だからこそ常の練習時に全員出席して練習することこそ大切である。＞と貴重な先生の御教示を心に銘記して意義深い集いを終った。」

5月26日（日）**「京都府青年婦人団体文化活動者講習会」**賛助出演

於・中立小学校　午後3時

主催　京都府社会教育課

指揮　青山政雄

曲目　メンデルスゾーン　　6曲

ピゼッティの「レクィエム」より

レクイエム　アニュスデイ　リベラ　メ

演奏に先だち舞台で練習風景の実演があり、初見の簡単な楽譜を渡されて、先生の指導に従って短時間に歌う楽しみを披露する。

6月29日（土）**第87回土曜コンサート「合唱の夕」**

於・円山音楽堂　午後7時　　入場無料

主催　京都市

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

イ．4つの歌曲　　メンデルスゾーン　Op.100

a．想い出　b．春の頌　c．春の歌　d．森にて

ロ．冬から春へ　　はら　たろう作詞作曲

1．山おろし　　2．いろり

11．京都混声合唱団・プリムローズ合唱団・労音混声合唱団

〔合同演奏〕

イ．野ばら　　ベルナー作曲　　ロ．別れ　ドイツ民謡

ハ．さようなら、みなさま

当夜は出場9団体。京都混声は第3・第11ステージに出演した。

7月1日（月）NHK京都放送局(JOOK)にて「**ラジオ放送**」録音

指揮　青山政雄

曲目　1．4つの歌曲　　メンデルスゾーン　作品100

イ．想い出　ロ．春の頌　ハ．春の歌　ニ．森にて

2．冬から春へ　　はら　たろう作詞作曲

イ．山おろし　ロ．いろり

7月9日（火）

日誌抄「7月から火曜日も十字屋の三階ホールで練習できるようになる32年度関西合唱コンクールの課題曲「あられふりける」（三好達治作詞・

寺内昭作曲）の練習に入る。今年こそ賞に入りたい。入賞を最大目標にしてたとえ実現しなくとも、その努力の跡だけでも認められるよう練習に励みたい。きっと多くの人達も同じ思いであろうが、夏がれというか集りの方はよくない。

7月17日（土）18日（日）　山の家夏季合宿　　比叡山玉照院

9月28日（土）第100回記念「**土曜コンサート**」　於・円山音楽堂

指揮　山田忠男

合唱　京都合唱連盟

オーケストラ　京都オーケストラ連盟

曲目　a．タンホイザー序曲より“祝歌”　ワーグナー

b．“ハレルヤ”　ヘンデル

c．土曜コンサートの歌　安部幸明

10月11日（金）

日誌抄「またしても集りが悪い。遅刻してくるものが多い。最終的には27人になった。とうとう先生にきびしく叱られた。こんなことではコンクールに出場も覚束かない。3年も出ていて入選出来ないのは恥ずかしい。団員が一団となって自分からもり立てなければならないのにみんな意気悄沈してますます歌えず、とうとう先生は途中で投げ出して帰ってしまわれた。みんな茫然としていた。先生に見捨てられたような気持になって不安で落着かなかった。そしてぼそぼそ心配な気持を話し合った。でもやはり先生に来てほしいと言いつつも、努力のたりなさを深く反省し淋しい気持で帰路についた。」

10月15日（火）

日誌抄「やはり先生はお見えにならない。渡部さんの指揮で全員真剣な練習に入るが、不安定な気持はどうすることも出来ない。練習後みなでどうしてこうなったのかを話し合った。誰もが青山先生に来てほしいという一致した気持をのべ、何度でもお願いしようということになった。そして

あとわずかなコンクールまでの日数を全力を尽くして練習しようと強く約束しあった。みな真剣だった。」

10月18日（金）

日誌抄「やっと先生はこられた。そして＜客演指揮者です＞と言われ、指揮に立たれた。みな一応ほっとしながらも真剣にとりくんだ。やっと先生の＜お客様で来た方がみな上手にうたってくれるからこれからもお客様で来ようか＞と冗談を言われた。私達は久しぶりに笑顔になった。全員この事は忘れず、毎回の練習にはげもうと誓い合った。そして次の事項を約束し合った。

1. 練習は午後7時より始まる。終りは午後9時。
2. 但しコンクール迄は9時30分まで。
3. 欠席・遅刻の時は必ず連絡をとること。」

11月3日（日・祭）**「第12回 関西合唱コンクール」**

大阪朝日会館（職場・一般）午後2時から

主催　関西合唱連盟　朝日新聞社

後援　文部省　労働省

京都混声合唱団（混・53名）　指揮　青山政雄

伴奏　矢田部宏

曲目　課題曲　あられふりける　三好達治　作詩

寺内　明　作曲

自由曲　ベネディクトゥス（ミサ　ブレービスより）

ツオルタン　コダーイ曲

日誌抄「とにかく青山先生の指揮で歌える事は全員の喜びであった。課題曲はまあまあであったが、自由曲は難かしすぎた様だ。やはり入賞は出来なかった。（1位クローバークラブ）私達の少数が多人数の安定さに負けたと言えばそれまでだが、少数でも普段の練習や個々の発声練習などを考え、青山先生の表現について行けるように努力しなければと思いながら

帰路についた。

後日（11月25日）京大楽友会館にてコンクール批評会の折、審査委員長長井斉先生の評＜純芸術的純音楽的高度の自由曲を歌われたことの熱意に敬意を表する。然しコンクールはややジャーナリスティックであるために折角の価値が採点上に現われないので不利であり審査員も一半の責任を負うべきだろう。演奏もよかったのに…＞とのお話に心慰む思いであった。」

11月12日（火）**「第14回勤労者音楽会・第8回勤労者文化祭」**

於・成安会館　午後6時30分

主催　京都市　京都市勤労者音楽協議会

京都混声合唱団　指揮　青山政雄　伴奏　矢田部　宏

曲目　あられふりける　（寺内　明　作曲）

ベェネディクトゥス　（コダーイ）

4日間にわたり67団体参加。京都混声は12日の第12番目に出場。

合評会では「音色は豊かであるが発声があいまい。ハーモニーも良いし、よくねれていて面白く聞けた。」と。

日誌抄「今年も全部の活動が終り、ふり返ってみると定演の時以外は少ない集合人員や遅刻が目だった。それが皆の気持にも影響したのか自主的な積極的な行動は見られなかった。32年度の練習日における平均出席人数は約33人である。但し日誌に記載されたものを資料とした人数であって正確は期しがたい。」

12月24日（火）　クリスマス　キャロル

日誌抄「恒例により午後6時30分より12時すぎまで蠟燭の灯に心こめて知友の家をバスにて訪い歌う。

第二日赤――安岡氏宅――中央病院――チェリウス先生宅――青山先生宅――堀場学長宅――故森本先生宅――故吉田先生宅――藤堂先生宅――上村先生宅――天津さん宅――スマート――十字屋。」

昭和33年(1958)

1月2日（木）　京都混声新春ニコニコ大会

日誌抄「天津さん宅にて、参加者30名。御家族の御好意とはいえ毎年のこと。さぞかし大変だと思います。」

1月10日（金）

日誌抄「初練習である。曲目は Kodály の “Missa Brevis” である。」

2月4日（火）「十字屋の会場が火曜日支障のため＜京混音楽教室＞を再び新洞小学校音楽室に変更する。（金曜日は十字屋）音楽教室は狭隘を感ずるほど出席状況は良いが、金曜日の出席が不充分なので発表会が危ぶまれるため度々檄文を飛ばす。」（日誌抄）

2月15日（土）大学寮歌**「ラジオ京都」**放送録音　於・電通

「ああ　玉杯に花うけて」

「紅萌ゆる丘の花」

「琵琶湖周航の歌」

日誌抄「男声の有志を糾合して心一つにし、指揮者も伴奏もなしにまとまりよく録音を終り気勢をあげる。謝礼3,000円は半額を団に寄附・半額をコンパ補助とする。」

4月4日（金）

日誌抄「今日は勤音の出演日が4月25日に定った事が発表された。昨年の低迷を反省奮起したと思っていたのに今年に入ってから出席率低し。25人に満たない日がめずらしくない。このままでは何月に発表会が出来るのやら……。自信を持って発表会をもちたいものである。アマチュアの団体だからもう少し魅力的に。

曲がむずかしくなればなるほど団員同志の親密さが必要ではないか。その為に難曲と平行して楽しい小曲も練習したい。ロカビリーなど、歌手も観客も狂った様になる今日此頃、年令を越えて皆一緒になって心静かに名曲にふれ合う時を持てる我々は本当にしあわせだと思う。」

4月25日（金）**「第15回　勤労者音楽会・合唱連盟音楽祭」**

於・成安会館　午後6時30分

指揮　青山政雄

曲目　きじがなく　ねずみ　春の足音

日誌抄「私達のコーラスが終って合唱指導が青山先生によって行われた。例によってユーモアたっぷり。ところが観客のリズムがはっきりしないためにとうとうダンスを始めてのリズムの実演となったので、会場は爆笑のうず。何度か歌って清々した気分になる。」

6月1日（日）　京混　ハイキング　　行先　嵯峨野めぐり

日誌抄「シーズンをやや過ぎたのか比較的静かな嵯峨野へと出発した。竹藪を通りすぎ野々宮――二尊院――釈迦堂――化野の念仏寺――落合――保津峡　金子氏の説明を聞きながら歩いた。楽しい一日であった。」

7月5日（土）**「第115回　土曜コンサート」**

〔第9回　五大都市体育大会京都選手団結団式〕

――合唱と吹奏楽の夕――　於・円山音楽堂　午後7時

1. 天地創造より　“み空は語る神の栄光”　（ハイドン曲）
2. 美しく碧きドナウ　（ヨハンシュトラウス曲）

合唱　京都合唱連盟

吹奏楽　京都府警察音楽隊

指揮　藤本雄一

7月11日（金）　新洞小学校で実施中の合唱教室の火曜日の練習場が十字屋三階・土曜日に変更となる。

8月23日（水）24日（木）　京都混声　夏期　山の家（一泊）

宿泊地　左京区　宝泉院　参加費500円　参加18名。

日誌抄「あいにくの曇り空であったが夕方から遂に雨が降り出した。誰かが歌い出すと皆それに和して夜のふけるのも忘れて合唱を楽しむ。翌日雨の中を朝からの参加者も加えて宿舎でのんびりくつろぐ人、三千院・寂

光院へと出かける人などもあって夕刻まで過ごす。」

8月28日（木） NHK京都放送局(JOOK)にて「**ラジオ放送**」録音

午後6時30分～8時30分

曲目　きじが鳴く　大島節　さくら

指揮　青山政雄

9月20日（土）「**第126回　土曜コンサート**」

――ハーモニカと合唱の夕――

於・円山音楽堂　午後7時

曲目　a. 大島節　b. さくら

指揮　青山政雄

伴奏　加藤明子

9月21日（日）

日誌抄「Bass の　百中正郎さんがなくなられた。肺葉切除の手術の後の事である。一旦意識をとりもどされたが、再び帰らぬ人となられたとの事である。前年に府立医大を卒業され、本当にこれからと言う彼であった。歌うことが大そう好きだったのに入院加療のため大変残念がって欠席のお詫びをいただいた昨年12月11日のハガキが絶筆となった。団からのささやかな弔意に対してお父さんからの手厚い礼状をいただいた。心から御冥福をお祈りいたします。現役メンバーのご他界は初めてのように思われる。」

11月14日（金）「**第16回　勤労者音楽会**」

於・成安会館　午後6時30分

曲目　囚人の歌　（シシリー民謡）

麦打ち歌　（サンディロ）

マレキャーレ　（トスティー）

指揮　渡部兼治

当日のメンバー24名の出演。今回は11月13日(木) 14日(金) 15日(土) 16日(日)の、4日間にわたり74団体参加。

12月24日（水）　クリスマス　キャロル　　約30名 参加。

12月26日（金）

日誌抄「今年最後の練習日は22名の出席。しめくくりとしてはいささか淋しい事でした。この一年間の平均出席率は約53％。27名平均でした。懸命の努力を重ねながら確かな盛り上りを欠き、遂に発表会を開き得なかった心残りの年であった。」

昭和34年(1959)

1月2日（金）　京混新春ニコニコ大会　於・朱雀高校礼法室

午後1時より　参加者23名

1月9日（金）

日誌抄「新春初の練習日。昨年に引き続き“笛吹き八郎が亀をたすけた話”で始まる。今年こそ定期演奏会へ猛進の年としたい。先生は＜練習日も合唱教室にも確実に出席しますが、メンバーの自覚に乏しい現状ではダメ。＞と厳しい宣告。いかに人数を増やすのかが最大の課題となりました。しかし5月の定期演奏会は無理。11月15日となる。」

3月11日（水）

日誌抄「京響創立三周年記念演奏会賛助出演のための“メサイヤ”の練習が出雲路の音大校舎で始まりました。希望者20名が参加しました。」

4月24日（金）**京都市交響楽団「第22回定期演奏会」**　創立三周年記念

於・祇園ヤサカ会館　午後7時

指揮　カール・チェリウス

合唱　京都合唱連盟

市立音楽短大合唱団

合唱指導　上村けい　桜井武雄

ヘンデル「ハレルヤコーラス」（オラトリオ“救世主”より）

5月15日（金）

日誌抄「寒さが終り春になっても20名余り。先生はお休みなくその上熱心に指導して下さる。申し訳ない様な気になる。最近、先生のカミナリがおこらなくなった。かんで含めるように指導される。私達の限界をみられたのだろうか。先生が不満を圧えて先へ進まれるつらさ。何度やり直して頂いても半分も表現できない。」

6月14日（日）　奈良西の京方面ハイキング 唐招提寺――薬師寺――奈良公園　　参加者22名　“凍れる音楽”といわれる天平時代の建築と世界的宝物でもある白鳳天平の仏像を心ゆくばかり鑑賞し、奈良公園では存分に歌って研修と親睦の一日を過す。

8月1日（土）2日（日）**「鳥羽演奏旅行」**1泊

京都混声合唱団鳥羽演奏会

賛助出演　神鋼電機混声合唱団

会場・鳥羽小学校講堂　午後7時より

主催　鳥羽音楽同好会　後援　鳥羽市教育委員会

曲目　Ⅰ　混声合唱　　京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　伴奏　椿園子

「フルートと混声合唱のための昔話」

“笛吹き八郎が亀を助けた話”作詞作曲　清水脩

Ⅱ　ヴァイオリン独奏　　橋本氏

ワルツ（ブラームス）

Ⅲ　ホルン二重奏　　黒沢勝義　松原千代繁

埴生の宿（ビショップ）

ロマンス（モーツアルト）

狩の歌

Ⅳ　女声合唱　　京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　伴奏　椿園子

ぶらんこ　　夏の思い出

Ⅴ　ホルン独奏　　独奏　松原千代繁　　伴奏　椿園子

チリビリビン　　アヴェマリア（グノー）

夕日は落ちて　　子守歌（ブラームス）

Ⅵ　男声合唱　　神鋼電機混声合唱団男声部

指揮　菅原一郎

げんべさんの赤ちゃん（ジョージア　マーチ）

ボルガの船唄（ロシヤ民謡）

お爺さんの古時計（H. C. WOCK）

Song of Soldiers　（未詳）

Ⅶ　混声合唱　　京都混声合唱団

レクイエム（フォーレ作曲）

指揮　青山政雄　　伴奏　椿園子

メゾソプラノ　粂田倫子

バリトン　植田治男

解説　金子清明

Ⅷ　混声合唱　　神鋼電機混声合唱団　指揮　菅原一郎

日本の歌六曲

Ⅸ　混声合唱（合同）　　京都混声　神鋼電機全員

指揮　青山政雄

泉のほとり　（編曲　石井寛）

日誌抄「京都混声総勢41名は午前8時30分京都駅集合。鳥羽では青山先生のお姉様で鳥羽市教育委員の田中さん（美鈴さんのお母様）のお出迎えを受け、珍海堂旅館に疲れを休める。休息の後、日暮れ時から丘の小学校へ集る。満堂の聴衆はなじみのない私達の合唱団のために集って下さって大変喜んでいただいたことが何より喜びであった。翌日は二見が浦で海水浴の後帰洛する。沈滞気味の京都混声にとって何よりの良い刺激となる有意義な演奏旅行であった。

10月19日（月）

日誌抄「定期演奏会を1ケ月後にひかえて、月曜日が臨時練習日となり、練習場は久しぶりの新洞小学校である。小さな机とシロホンが並んでいるのがなつかしいが、集まった男性軍はたったの4人。先生に申し訳ない気がする。」

11月13日（金）

日誌抄「月曜日のオケ合せについで最後の練習である。何となく背水の陣と言った感じで悲壮なほど真剣である。」

11月15日（日）**「定期演奏会」**　於・成安会館

午後7時　入場料金　¥100（プログラム付）

指揮　青山政雄

独唱　メゾソプラノ　　粂田倫子

　　バリトン　　植田治男

フルート独奏　　熊谷健二

管弦楽　京都室内オーケストラ

Ⅰ　前田裕志作曲　「帆・ランプ・鷗」

——丸山薫詩集より——

1. 河口　　2. 錨　　3. 帆の歌

4. ランプの歌　　5. 鷗の歌　　6. 離愁

7. 暗い海

Ⅱ　清水脩作詩作曲　「笛吹き八郎が亀を助けた話」

——昔ばなし——

Ⅲ　G. Fauré 作曲　　「Requiem」

1. Introitus et Kyrie　（入祭文と主よ憐み給へ）
2. Offertorium　　（奉献文）
3. Sanctus　　（聖なるかな）
4. Pie Jesu　　（主イエスよ）

5. Agnus Dei　　（神の仔羊）
6. Libera me　　（我を解き放ち給へ）
7. In paradisum　　（天国にて）

日誌抄「2年半ぶりで迎えた定演である。美しく澄みわたった秋空のようにとは言われない2年半であった。出演者は34名。急にカゼの流行でメンバーの面々故障続出ながら3時集合。早速練習に入る。特に今回は旧団員前田裕志さんの曲を演奏出来たことは何かほこらしい気がしました。出来、不出来はともかく本当に良くここまでこぎつけることが出来たと思いました。」

11月20日（金）　京大学友会館にての反省会。午後7:00より

日誌抄「少人数でオケに負けたのではないかとの心配もあったが、案外にフオーレの曲が好評であった。皆の真剣な態度が良い結果をもたらしたものとみられる。観客の批評はともかく毎年定演が持てる様に団員一人一人が努力しなければと身にしみて感じたことであった。参考までにチケットと¥100が700枚、総決算の赤字¥1,960。」

12月24日（木）　クリスマス　キャロル　午後7時20分集合

参加者45名。

日誌抄「例年通り貸切バスを利用し巡回する。第二日赤——安岡さん宅——藤井さん宅——チェリウスさん宅——上村先生宅——藤堂先生宅——故吉田先生宅——故森本先生宅——堀場先生宅——天津さん宅——十字屋——スマート。あちこちで歓迎されてとても楽しい歳末の夜でした。1年をふりかえって苦しかったが何となく明るさが見えて来た様な年ではないかと思われるが、平均出席数25人でした。」

昭和35年(1960)

1月2日（土）　恒例の新年ニコニコ大会　朱雀高校礼法室にて
午後2時 ～ 9時　楽しい新年の一日を過ごす。

1月8日（金）

日誌抄「本年の初練習。“ロシヤ民謡”“ロマンス”で先ず幕をあける。先生は所用でお休み。青山先生欠席の時は渡部兼治さん小山弘さんが指揮することになる。」

1月20日（金）　役員会決定報告。(1) 土曜教室を廃止する。廃止に伴って新入団員の手続を次のようにする。イ．役員の推薦を通して係委員に申出る。ロ．発声など簡単な素質を青山先生にみてもらった後決定していただく。ハ．旧団員及び支援者を団友として組織化し，連繋を密にして会費収納などを図る。(2) 京都会館のこけら落し（4月29日）の際のチェリウス氏指揮による京都市交響楽団の第9交響曲の合唱に協賛参加する。(3) 役員改選を1月29日，2月5日に行う。(4) 練習開始時間を厳守すること。

4月29日（金）30日（土）**京都会館開館記念**行事
両日共京都会館第1ホールにて　午後7時より
「ベートーベン第九＜合唱＞シンフォニーの夕」
演奏　京都市交響楽団　　指揮　カール　チェリウス
ソプラノ　伊藤京子　　アルト　市来崎のり子
テノール　柴田睦陸　　バリトン　中山悌一
合唱　市民合唱団体有志（46団体）
合唱指導　桜井武雄　伊吹新一

合唱には京都混声より有志多数参加し、中心となって祝意を表した。

8月19日（金）～22日（月）　小豆島旅行

日誌抄「青山先生はじめ参加者26名家族4名。京都駅――大阪――神戸を経て早朝小豆島に到着。観光バスにて島めぐりをする。眠る者騒ぐ者

さまざま。泳いだり山登りしたり魚釣りをしたり、のどかに過すうちすぐ3日目を迎える。午後坂手港より出発。日焼けして帰京。青山先生はずーっと島にいらっしゃるのでわれわれの到着を迎え、出発を見送って下さった。費用約2,350円。」

10月16日（日）**「京都自治記念市民合唱の夕」**
（NHK土曜コーラス公開録音）
京都会館第2ホール　午後7時
京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　ピアノ　椿　園子
流浪の民　　賛助出演　鳥井晴子　藤田悠紀子
アベマリア　　竹内光男　林　達次

当日は参加7団体。京都混声は第3ステージに出演。

日誌抄「＜スケールは小さいが京都混声らしい気持の良い演奏＞との批評。この調子で定期演奏に入りたいものである。」

12月11日（日）**「定期演奏会」**於・成安会館　午後7時
出演メンバー　48名　　入場券100円
指揮　青山政雄

Ⅰ　ロシヤ・ソビエトの歌
夜鶯……アラビエフ
コサックの子守歌……ロシア民謡
白樺の木……ロシア民謡
ロマンス……ノヴィコフ
道……ノヴィコフ

Ⅱ　カトリックの小曲
Ave Maria ..... J. Arcadelt
Sanctus et Benedictus ..... Fr. Schubert
Ave Maria ..... C. Frank
Deus meus ..... Th. Dubois

Consummatum est ..... Th. Dubois

Ⅲ　ソプラノ独唱　粂田倫子　伴奏　椿　園子

リラの季節……E. ショーソン

夢のあとに……G. フォーレ

月の光……G. フォーレ

歌に翼ありせば……R. アーン

――休　憩――

Ⅳ　聖譚曲「切支丹物語」……藪田義雄　作詩

松本民之助作曲

ソプラノ　粂田倫子　　バリトン　植田治男

児童合唱　植柳小学校合唱団　指導　細川正臣

朗読　藤沢　薫（京芸）

ピアノ　椿　園子

オーケストラ　京都室内オーケストラ

フリュート　熊谷健二

第1部　朗読

序章　預言（バリトンと混声合唱）

第1章　農民（混声合唱）

第2章　天童（児童合唱）

第3章　久留守の旗（バリトンと混声合唱）

第2部　朗読

第4章　歌合戦（混声合唱）

第5章　乙女の祈り（ソプラノ独唱）

第6章　或る対話（バリトンと混声合唱）

第7章　流燈（バリトンと混声合唱）

日誌抄「出演人数が多く全員団結の実を挙げ得たことは何よりであった。緊張の余り不安定な部分もあったが順調に進む。プログラムⅣに入ってソ

ロに助けられたこともあるが、皆割合に素直な気持で歌えたのではないかと思われる。そして聴衆に何らかの感動を与えたのではないかと思われた。最後に讃美歌“もろびとこぞりて”“聖しこの夜”“荒野の果てに”をアンコールとして終了した。」

12月24日（土）　クリスマス　キャロル　　午後6時15分集合

日誌抄「例によって先ず第二日赤に集る。ストライキ実施中にて表の扉は閉ざされているが我々は支障なく入れてもらう。各病舎を廻りながら歌って患者さんに喜ばれる。小山さんは理事者側で団体交渉の対象なので出て来られない。順次貸切バスにて先生宅や団員宅14ケ所を歌って廻り、最終の十字屋前で解散したのが12時すぎであった。今年は後半人数が増え定演も盛会裡に終ることが出来て本当によかったと思う。この調子でずっと続けて行ける事を祈っています。1月～6月　平均出席数　27名。

7月～12月　平均出席数　35名。」

昭和36年(1961)

1月2日（月）　新年会（京混ニコニコ大会）

於・西円寺（河原町今出川下ル）午後2時～9時

日誌抄「食べて遊んで笑って笑って、歌うことを忘れる会。」

5月7日（日）〝夕刊京都新聞〟所報抜粋

「音楽の純粋性と伝統を誇る合唱団として他に類をみない。創設は古く大正の中頃と言われている。（中略）大正14年に鳥海一郎、森本芳雄、西邨辰三郎の各氏が参加したため〝京都混声合唱団〟として成立した。（中略）現在は音楽短期大学の青山政雄先生の指導を受け、他の合唱団の指導的地位を占めている。厳然たる指導方法をモットーとしているだけに選ぶ曲も一般に比べて宗教曲が中心となっているが、しかし民謡などの小曲も多数もっている。いわば保守的なにおいのする合唱団だけに平均年令が高いことも特徴で、（中略）音楽祭当日は米国から持ち帰ってきた“小さな

太鼓打ちの少年”という本邦初演の曲を発表するなど期待されている。

5月14日（日）夕刊京都創刊15周年記念「**市民音楽祭**」

午後1時30分　京都会館第1ホール

主催　夕刊京都新聞社

後援　京都府　京都市　府・市教育委員会

ラジオ京都

5. コラール（カンタータ第66より）　バッハ作曲

クルチフィックス（ロ短調ミサより）バッハ作曲

ザ　リトル　ドラマ　ボーイ　　シモン作曲

指揮　青山政雄　　伴奏　椿 園子

当日は12団体出場。京都混声は第5番目に出演。

日誌抄「京都会館第1ホールに始めての単独のステージであって心配もあったがまず無事終了。演奏後の話題の中で、女子の演奏用ドレスを揃えることの提起があり共鳴者多し。」

6月19日（月）「**定期演奏会**」

於・京都会館第二ホール　午後7時

曲目　Ⅰ　ミサ　ハ短調K427 ……モーツアルト

キリエ

エス　クリステ

クム　サンクト　スピリツ

Ⅱ　シューベルトの女声合唱曲

挽歌　　セレナーデ

Ⅲ　小品集

今ぞものみなすべて神に謝せん……バッハ

クルチフィックス……バッハ

たよりまつる……メンデルスゾーン

ザ　リトル　ドラマー　ボーイ……シモン

苦しい夢……ドイツ民謡

独楽遊び……リムスキーコルサコフ

我が歌の君よ……フォスター

Ⅳ　合唱のための物語

「鼻長き僧の話」……清水　脩　作曲

芥川龍之介 原作　松平　進 脚色作詞

指揮　　青山政雄

ソプラノ　　鳥井晴子

バリトン及朗読　植田治男

ピアノ　　椿　園子

オーケストラ　京都室内オーケストラ

日誌抄「梅雨の長雨の間の珍らしく晴れた日、幸先きよい幕あきだ。切符の売れすぎを心配するほどの前景気、女声部のドレス姿が晴れがましい。オケの出だしの素晴しかった事！　コーラスも上々のすべりだし。今回特別の企画として、団と団員の紹介をプログラムに折込むことにした。聴衆にはしらけたものにならないかと危惧する向きもあったが、清水弘氏の諧謔を交えてのスマートなそして家族的な雰囲気のうちに、団内部のエピソードや沿革が紹介され好評を受けた。今夜の演奏会を終ってバスの藤井さんは明日富山へ転勤されることとなり、お名残り惜しいこと。せめてもの送別の記念演奏会となった。」

8月18日（金）　米子市　皆生温泉～大山旅行　3泊4日

日誌抄「午後8時20分 京都駅発　参加者33名。翌朝、米子皆生温泉着。小島瑶子さん（A）のお世話で松風閣別館にくつろぐ。この日（19日）当地の伽羅木合唱団と交換演奏会を開く。」

8月19日（土）　午後7時より　於・皆生社会福祉施設奨徳学園

Ⅰ　京都混声合唱団　童謡集　1. もんく　2. てまり唄

3. こま遊び　4. ひらいたひらいた

5. うさぎ　6. 通りゃんせ

指揮　渡部兼治　　伴奏　安井喜久子

Ⅱ　合唱団「伽羅木」

1. 山の娘ロザリエ　2. 貝殻漕歌　外

指揮　井川氏

Ⅲ　京都混声合唱団　1. たよりまつる（女声合唱）

2. コサックの子守唄

3. ザ　リトル　ドラマボーイ

Ⅳ　合同演奏　1. 夕焼け小焼け　2. 赤い靴

日誌抄「最後に期せずして施設の子供達と〝夕焼け小焼け〟の大合唱となり終生忘れ難い感銘のうちに音楽会を終る。この催しはＮＨＫのラジオ及び山陰テレビに録画放送されることとなった。演奏会の後懇談会を開き終了後バスに乗り、合唱に送られて夜更けの大山登山道を大山寺白雲荘へ向った。」

8月20日（日）

日誌抄「翌20日（日）は大山登山をする者（第1班）、豪円山へ行く者（第2班）、桝水高原を散策する者（第3班）、遠くは出雲大社まで足を伸ばす者（第4班）などあり、21日（月）の午後に至って京都に向う。」

9月22日（金）

日誌抄「次々に新しい曲を与えられて初見での厳しい練習が続く。丁度試験問題の前に坐ったような思いがする。ソプラノの頼りの綱である安井喜久子さんが盲腸炎で入院の由、一層心細いこと。早くよくなって出席して下さるように。」

10月22日（日）　ハイキング　菖蒲谷池へ　参加人員 15名

日誌抄「雨模様のために服装は色とりどり。昼食後円陣を作って歌を楽しむが皆さんご存知の曲は演奏会用の曲が多くてちょっと歌える小曲の少いのが新入者の私どもには残念。」

12月24日（日）　クリスマス　キャロル　参加者60名　会費150円。

例年通り貸切バスで廻る。午後6時第二日赤に集合。各階ホールと小児科病棟で歌う――安岡さん――藤井さん――青山先生（お子様ご病気のところなのに歓待して戴く）――上村けい先生――堀場音大学長――清水さん――故森本先生――藤堂先生――天津さん――十字屋――スマート。

昭和37年(1962)

1月2日（火）新年会　於・河原町今出川下ル西円寺　午後2時～9時　参加者41名　童心にかえって楽しくすごす。

1月5日（金）　初練習　　指揮　小山弘、清水弘、青山政雄

曲目　　森の太鼓のひびく朝　　冬はきらいだ

日誌抄「青山先生は音大オペラの練習で遅参ということにて小山弘、清水弘のタクトでカトリックの曲の練習、シャンソンの譜読みなどを始める。今年の初練習に馳せつけてみると十字屋三階の練習場は売出し用の商品の物置きとなっている。女子店員の人たちではラチがあかないのでメンバーも手伝って二階へ荷物をおろす。十字屋では＜正月早々まだ練習しはらへんと思うてましたんで……＞との挨拶に＜京混には正月も盆も休みはあらしまへんのや＞とシンドイこと。」

3月10日（土）「ヤマハ　エレクトーン　コンサート」

京都会館第2ホール　午後7時

指揮　青山政雄

エレクトーン　矢田部　宏

曲目　1. Inviolata　（カトリック聖歌）

2. 五ツ木の子守唄

3. 私の亭主

4. お日さまとフーロン

参加者　S．12　A．10　T．10　B．9　計41名

3月11日（日）**「第一回　京都市合唱コンクール」**

午前10時～午後4時　　主催　京都市

指揮　青山政雄

曲目　五ツ木の子守唄　日本民謡　平井康三郎編曲

お日様とフーロン　ラッソー作曲

この日合唱コンクールには参加せず、引続いて開かれた発表演奏会に出場。参加者40名（資料不備）

4月6日（金）　指導　青山政雄　十字屋にて　　曲目　あこがれの人（ドビュッシー曲）　スタバト　マーテル（ベルデイ曲）

日誌抄「京混新人の評――他の合唱団に比し団歴の長いメンバーが多く年令層が広いせいか発想など細かくスマートであるが反面力強さ豪放さに欠け、スケールが小さく感じられる。」

4月20日（金）　指導　青山政雄　十字屋にて　　曲目　月と良寛　冬はきらいだ　森の太鼓のひびく朝

日誌抄「次の発表会には男声もユニホーム（上着）を揃えることになりその見本が来る。タキシード風の襟刳りで割に良い形なので決定したが、生地が安物でペラペラなのはどうかなあ……。　今後の臨時練習日に日曜日、火曜日などを追加し、音楽大学講堂にてオケ合せなども予定する。」

5月28日（月）**「定期演奏会」**　於・京都会館第2ホール　午後7時

指揮　　青山政雄

独唱　　植田治男

ピアノ　椿　園子

管絃楽　京都室内オーケストラ

Ⅰ　シャンソン

コラール　エチュード…… William Schuman

シャルル　トルレアンの三つのシャンソン…… Claude A Debussy

あこがれの人　　森の太鼓のひびく朝　　冬はきらいだ

私の亭主が…… Orlando di Lasso

お日様とフーロン…… 〃

Ⅱ　女声合唱

組曲「月と良寛」…… 宮地廓慧　作詩

大中　恩　作曲

手毬　　忘れん坊　　月のうさぎ

夕やけ　　月かげ

Ⅲ　カトリック聖歌

Beati Mortui …… Charles F Gounod

Inviolata …… 〃

Tu gloria Jerusalem …… Cesar Franck

Ave maris stella …… Edvard H Grieg

Adoramus te Christe …… Theodore Dubois

Ave Maria …… Igor Strawinsky

Pater Noster …… 〃

Ⅳ　Stabat Mater …… Giussppe Verdi

“Quattro pezzi sacri” より

なお今夕最後のステージ、ヴェルデイ作曲スタバト　マーテルの演奏を京都楽壇の育ての親でもあられ、そしてまた当団創立者の一人でもあられた、竹内禎子先生の御霊に捧げさせて頂きたいと存じております。――

日誌抄「アンコール曲は五ツ木の子守唄（無伴奏）。初めて男子制服として着用したタキシード型の上衣が立派にみえたと言われて俄然嬉しくなる。終演後花に飾られたステージで記念撮影をする。例のごとく皆で寺町三条のスマートへ繰り込んでカンパイ！　録音テープを聞いて喜びと反省を噛みしめる。」

6月3日（日）**「第37回 春季大合唱祭」**

大阪朝日会館にて　　午前9時

主催　関西合唱連盟　朝日新聞社

京都混声合唱団　　指揮　植田治男

曲目　Tu Gloria Jerusalem　……フランク作曲

Adoramus te Christe　……デュボア作曲

日誌抄「この日青山先生は京都で開かれた勤労者音楽会の審査員として出席のため、植田治男氏の指揮で歌う。当日の参加者28名。＜少数だが京混健在なり＞と合唱連盟の先生方の認識を得、特に委員長長井斉先生には＜久しぶりにカソリックらしい響きを聞いた＞との御感懐であったと聞かされ努力の報いられる思いであった。」

この年の秋―― 10月31日をもって大阪朝日会館が閉鎖されたので、多くの思出多いこの会館出場も6月3日が京都混声には最後のステージとなった。

6月15日（金）　指導　青山政雄　　於・十字屋

曲目　津軽の旋律（夜神楽）

日誌抄「大渕覚氏（B）東北弁による名調子の講義を聞き、心得たつもりで歌うものの、しどろもどろの歌いぶりに民謡を民謡らしく歌うことのいかに至難の業であるかを痛感する。」

8月10日（金）　指導　青山政雄　　於・十字屋

曲目　田植歌　宮古の子守唄　みこの踊り

日誌抄「長い間京都混声の中心として努力され、バスの中核的存在であった渡部兼治さんが新潟に転勤のため、今夜お別れに来られたのは大きな衝撃であった。青山先生不在の時はよく指揮をとり繊細な指導もしていただいていたのに名残り惜しい限りである。期せずして皆の口に“神ともにいまして”の歌声が起り、しみじみとした思いのうちにお送りした。」

8月25日（土）26日（日）　山の家リクレーション　比叡山玉照院

参加32名　　一泊三食900円　登山バス代300円。

日誌抄「西瓜の大きいのを3ケ交代で持ちながらの山のコースは大変な苦労。台風情報的中し夜に入って最悪のコースがこの比叡山無動寺谷に当るかと思われるばかり次第に嵐が激しくなる。夜半にお坊さんが大勢きて雨戸をガッチリ閉めて下さって救われる思い。800メートル余の山上の老杉をゆすって響く雨風のすさまじさに驚きながらも、歌や余興に賑やかな楽しい夜を過ごす。翌日睡眠不足の目をこすりながら下山する。」

9月21日（金）**ラジオ関西「コーラス　ア　ラ　カルト」**放送録音

於・大阪梅田　関西テレビ局　第3スタジオ

指揮　青山政雄　　ピアノ　椿　園子

曲目　五ツ木の子守唄（日本民謡）

トウ　グローリア　エルサレム　外（カトリックコーラス）

田植歌　外（津軽旋律より）

おお　暗い夜　外（ロシヤ民謡より）

9月28日（金）　ロシヤ合唱団を聞くために練習休み

日誌抄「正月お盆歳末はもとより風水災害といえども金曜日の練習を休むことのない京都混声にして、本日の休みは稀有のことである。」

10月30日（火）　　十字屋にて　曲目　プーランクの譜読み

日誌抄「京都混声定例練習日が火曜日になるとは珍しいこと。実は次の金曜日11月2日は青山先生指揮の京都音大創立10周年記念定期演奏会当日となるために、当日は全員聞きに行って勉強することとし、その振替えとして本日火曜日に練習することとなる。」

12月24日（月）　クリスマス　キャロル　例年通り第二日赤病院に集合。病棟を巡ってクリスマスの歌を捧げ、貸切バスに乗って先生宅を巡回して深夜に及ぶ。

昭和38年(1963)

1月2日（水）　新年ニコニコ大会　午後2時より　出町西円寺にて

3月10日（日）**「第二回　京都合唱コンクール」**　主催　京都市

第2部発表会の部に出演

母さんのうた……窪田聴　作詞　作曲

Adoramus te……Th. Dubois　作曲

指揮　青山政雄

4月15日（月）　稲畑登美子女史**「受賞記念音楽会」**

京都会館第2ホールにて　午後6時30分

主催　京都音楽協会

第Ⅱ部　Ⅳ交声曲　春の日のファンタジー

花法師（近藤義次）作詩

網代栄三　作曲

指揮　　青山政雄　　独唱　浅尾多恵子

合唱　　京都混声合唱団

管弦楽　京都市立音楽短期大学

4月16日（火）〝京都新聞〟所報抜粋　＜感謝こめて合唱＞

稲畑女史に贈る音楽会（三段ぬき）

「京都楽壇の育ての親として音楽文化の普及につくしてきた稲畑登美子さん（96）が、この二月京都文化団体懇話会賞を受けたのを記念してその功績をたたえる音楽会が開かれた（中略）稲畑さんは老齢のため会場に姿を見せなかったが、孫にあたる稲畑絢子さんや東京からかけつけた柳兼子さんらをはじめ出演者は感謝の気持ちをこめて演奏、最後に稲畑さんの長寿をことほぎ、この日のためとくに作曲された交声曲“春のファンタジー”が京都混声合唱団、京都音大管弦楽団などの出演で演奏された。（後略）」注：稲畑登美子氏は京都混声合唱団創設時の発起者であり、物心両面にわたって京都混声を支えられたことについては草創期に記述した通り

である。因みにこの翌年昭和39年6月6日御他界になる。

5月27日（月）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール

指揮　　青山政雄

ソプラノ　　鳥井晴子

バリトン　　植田治男

ピアノ　　田中美鈴

オーケストラ　京都室内オーケストラ

Ⅰ　世界の民謡

アヴィニヨンの橋の上で

Wade in de water

Shenandoah

Der　schwere Traum

誰かが誰かと

麦うち

あかがり

Bengawan Solo

鐘の音

バンジョー弾いて

つばめ

百姓娘

Ⅱ　七つのフランスの子供の歌　　深尾須磨子　作詞

中田　喜直　作曲

つきよ　　げんきなこども

ねえねえおじいさん　　ひつじかいのむすめ

パパおふねも　　こもりうた

かあさんおねがいよ

Ⅲ　Requiem　　G. Fauré　Op. 48

1. Introitus et kyrie （入祭文と主よ憐み給え）
2. Offertorium （奉献文）
3. Sanctus （聖なるかな）
4. Pie Jesu （主イエスよ）
5. Agnus Dei （神の仔羊）
6. Libera me （我を解き放ち給え）
7. In paradisum （天国にて）

この演奏会を最後に指揮者青山政雄は京都混声を辞し、京都市音楽短期大学教授の職を捨て、所信に基づいて秋田県田沢湖畔の＜わらび座＞の指導者として京都を去ることになる。よって演奏会のプログラムに次の挨拶が掲載された。

御挨拶＜上村けい先生が堀川高校音楽コースにお見えになって、京混の指導をする様にと申されたのが昭和二十六年の春でした。

合唱経験と言えば学生の頃だけの私は全くの素人で、これは大変なことになったと思いました。それでも少しは勉強になるだろう位に思って（合唱団の方々には少々お気の毒でしたが）とにかく、京混の方々が一緒に勉強してみませんかと言って呉れましたのでやってみる気になったわけです。もう十二年も経ってしまいましたが、何をすることが出来たかしら、と一寸わびしい気がしないではありませんが、私にとっては、大変によい勉強になりました。とても学校などでは習うことが出来なかったような体験を得たのですから、嬉しい限りです。

この間、音大コースの有志たちが助けて呉れたおかげで宗教曲などではナィーブな表現をすること、魂の浄化といった高度な表現（少くとも心の中ではそのつもり）、 民謡による健康な、素朴な表現の研究等々これらはみんな独りでは到底出来ないことばかりです。

お蔭さまで、自分は何もしないで色々と勉強させて頂いたのですから、全く感謝の他ありません。此の度の発表会で一応京混の方々との勉強は終

って、次期の担当者には、独唱にもアンサンブルにも合唱にも豊かな経験と才能を有っておられる植田治男氏があたることになりましたので京混の方々と共に期待をしています。皆さまも、きっとよろこんで下さると思います。永い間御声援下さいましたお蔭で細々ながら続けて参りましたがこの度、秋田のわらび座に参りまして日本の数多くのすぐれた民謡を基礎にした民族音楽の研究と創作を京混を通じて発表させて頂きたいと希っておりますので今後共どうぞよろしく御声援下さいますよう、お願い申上げます。

尚今夕のフォーレのレクイエムは京都音楽界の育成と発展に寄与せられた今は亡き諸先輩のみ霊に捧げたいと存じみす。 青山政雄＞

5月28日（火）「青山政雄先生送別会」 三条木屋町東洋亭にて

日誌抄「青山先生がわらび座の指揮者として赴任されることになりささやかな送別会を開く。先生の磊落なご性格から諧謔交りのご挨拶や雑談によって、談笑の湧く賑やかなお別れの集りとなったことはせめてもの慰めであった。」

6月21日（金）

日誌抄「青山先生の後任として前々からお話のあった新指揮者に植田治男先生を迎え、打ち解けた懇談に時の経つのも忘れ、今後しっかり手を携えて励むことに大きな期待をもつ。」

6月28日（金） 練習曲目“離別歌”

日誌抄「新指揮者植田先生による初めての練習。緻密な発声練習の後、少しの時間を歌唱する。

7月19日（金） 練習曲目“三つのモテット”

日誌抄「青山先生が突然秋田から帰って来られ、休憩の時にわらび座での庶民的で自律的な集団生活の珍しい話を聞かせてくださる。」

8月16日（金）～18日（日） 関金温泉・蒜山高原方面夏季旅行 参加者約50名。

日誌抄「16日午後8時30分京都駅に集合。山陰本線にて倉吉を経て関金温泉に到着。翌日は蒜山高原に遊び、湯原湖を巡って楽しい旅行を続けたが、精進が悪かったのか雨に祟られたのはいささか残念であった。

12月3日（金）　練習曲目　クリスマス　キャロル他讃美歌　29名。

日誌抄「遅刻や欠席のことは植田先生の誠実なお人柄から余程辛棒して居られるように感じられたが、それも極限なのであろうか、先生は先週に続いて今週もお休みになる。小山さんが代って指揮して下さる。今日は折角テノールがよく揃ったのに.....。」

12月14日（火）　京響第60回定期演奏会「**第9シンフォニの夕べ**」

京都会館第1ホール　　午後7時

指揮　森　　正　　合唱　京都市民第9合唱団

京都音大合唱団

ソプラノ　伊藤　京子

アルト　　佐々木成子

テノール　森　　敏孝

バリトン　中山悌一

京都混声有志も京都市民第9合唱団に参加し賛助出演する。

12月24日（火）　クリスマス　キャロル　午後6時　第二日赤集合。

京都新聞所報「クリスマスケーキ500円見当のもの 飛ぶように売れる（中略）交通事情の悪化から町をいくキャンドルサービスも減ったが、京都混声合唱団はこの夜6時すぎ第二日赤病院に集り、十字架とキャンドルを手にクリスマス　キャロルを歌い、入院患者を楽しませた後、 12時すぎまで市内各所をキャロリングした。」（写真掲載）

日誌抄Ⅰ「キャロリングに参加しはじめてから何回目だろうか。参加するたびに感慨深い思い。蠟燭の火のゆらぐ寒空に親しい人の家族を訪れるのは、毎年のことながら歌える仲間をもつ幸せを私に与えてくれる。」

日誌抄Ⅱ「入団初のキャロリングをどんなに楽しみにしていたことか。

期待通り実に楽しいクリスマスイブであった。」

12月26日（木）　Brass Concert　　京都会館第1ホール

午後8時　有志参加16名

曲目　クリスマス　キャロル

ハレルヤ（ヘンデル曲）

指揮　三浦秀雄（警察音楽隊副隊長）

合唱　京都混声合唱団　ブリーズ合唱団

キャッスルフレンド合唱団（大阪）

日誌抄「指揮の三浦さんは10余年前に京都混声の団員であった方。左利きなのでギッチョの指揮は初めてのこと。ブラスとコーラスの場合、女声はサックスに、男声はトランペットに声が吸われるように思われる。」

Ⅴ.調整期　〝和して支うる〟

昭和 39 年（1964）――昭和 44 年（1969）

指揮者　植田治男　伊吹新一

昭和 39 年（1964）

1月2日（木）　新年ニコニコ大会　　出町　西円寺にて

日誌抄「恒例により終日打ち解けた笑い声の絶えない一日。今年も楽しく明るく心を合わせて歌いましょう。」

1月17日（金）　指揮　植田治男　十字屋にて　練習曲目 〝スペインの歌〟より　1. みやぶった　2. 夢　3. ジョンアンダーソン

日誌抄「今日の三曲はそれぞれ異った曲想をもっている。頭の切替えが必要である。発表会後の聴衆の声を聞くと＜京混らしさ＞というものがあるそうだ。何かよく判らないが口の悪いのに言わせると＜どの曲も同じように聞える＞とも言う。我々に気付かぬ短所ではないだろうか。

今日の練習で植田先生は＜お経は上手だけれどもカルメンにはなれない＞と言われた。確かに思い当るものがある。実際われわれがどの曲でも真剣に取り組んで来ただろうか。ミサ曲にとり組むと同じように小曲に取り組んだであろうか。やはり考えねばならないことだ。（中略）民謡でもシャンソンでも現代の曲でもその曲を生かすように歌わなければならない。(中略）演奏会が済めばその曲とサヨナラをしてしまって、その曲の意味など判らずじまいに終っては魂のないものになってしまう。（下略）」

2月28日（金）

日誌抄「〝習慣は第二の天性なり〟と日誌の片隅に記されているのが目にとまりました。毎週金曜日に十字屋の一室に集る習慣は、善良な人々の

集団による Chorus の天性を培ういしずえとなることでしょう。マンネリに溺れることなく、常に新しいもの、新しい方法、新しい方向を求める態度で前進しましょう。」

3月8日（日）**「京都市合唱コンクール」**　京都会館第2ホール
午前10時30分～午後4時30分
第二部発表会の部（12団体）に出場
指揮　植田治男
曲目　あかがり　　日本民謡　信時　潔作曲
Ave Verum Corupus　モーツアルト作曲

4月17日（金）　指揮　小山　弘　　練習曲目　シューマン集より

日誌抄「植田先生から指揮者辞意を洩らされた由、話題となる。ご健康の関係もあり折々お休みのこともあったが、我々の不勉強のことも大いに理由となっていると思われる。」

4月24日（金）　植田治男指揮者辞退を表明につき練習を切替えて善処を協議する。

日誌抄Ⅰ「昨年の6月植田先生を指揮に迎えて心機一転京都混声の飛躍を約束し合ったのに一年も経たないで植田先生が辞退を申出られたというのは正に青天の霹靂である。団員は寝耳に水のこととて茫然たる思いであった。委員の中にはある程度の状況を捕えていた人もあったようであるが、状況判断が甘く善処に手ぬかりがあったとも反省された。今夜と次回の5月1日の練習は休んで前後措置について団員の討議を重ねることになった。」

日誌抄Ⅱ「過去無難に運営されてきたのは人々の善意に縋ってきたからであろう。しかし私たちはそれを余りに過信しすぎたのではないだろうか。善意をもって支え合うことは尊いことであるには違いないが、裏を返せば無気力の一面を持っていることも否めない。」

日誌抄Ⅲ「ここに至る概略や経過についてなぜ今まで不明のままにきて事ここに至って突然表面化したのであろう。先生の指摘される問題点（省

略）はすべて当然であると思っているのに。」

日誌抄Ⅳ「過去の栄光が今でも心のどこかに無意識に生きているのではないのだろうか。現在の京都混声を考える時、もっと厳しい態度で自己批判しなければいけないと思う。」

日誌抄Ⅴ「京都混声をよくするためにはいろいろの問題がありますが、合唱する上に一番の問題点は団が冷たいということです。」

5月1日（金）　先週に引続き意見交換や討議や反省を重ねたが堂々めぐりを繰返した後、後任指揮者を迎えることは更に検討を重ねることとして、当分の間メンバーの中から牛丸紘一、明石好中を指揮担当者とすることにきまる。

6月28日（日）**「第1回　春季大合唱祭」**　本願寺会館　午後1時
主催　京都合唱連盟　朝日新聞京都支局
京都混声合唱団　　指揮　明石好中　　伴奏　田中美鈴
蜂は蜜を吸い……アーン作曲　シェクスピア作詩
津川主一訳詞、編曲
なき子の子守唄……フィンランド民謡　津川主一編曲
渡辺忠恕、青木爽訳詞

当日の出場33団体あり、京都混声は第6番目にステージに上る。出場者50名。

10月5日（日）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール
午後7時

1　Negro Spirituals

指揮　明石好中　　ピアノ伴奏　田中美鈴

Ol' Man River
Nobody Knows De Trouble I've Seen
Swing Low Sweet Chariot
Go Down, Moses!

Ⅱ　中田喜直「童 謡 集」　　指　　揮　明石好中

めだかのがっこう　　カニサンオメメ　　ピアノ伴奏　田中美鈴

あひるの行列　　みどりのおにわ

かざぐるま　　よるのそら

ゆうらんばす　　も ん く

Ⅲ　F. Mendelssohn　「Drei Motetten」

指　　揮　牛丸紘一

1　*Herr, nun lassest du deinen Diener in Frieden Fahren*

2　*Jauchzet dem Herrn alle Welt*

3　*Mein Herz erhebet Gott, den Herrn*

12月12日（土）**「第九交響曲の夕」**　神戸国際会館　午後7時

曲目　歌劇「フィデリオ」序曲　作品72　ベートーベン作曲

指揮・森正　演奏・京都市交響楽団

交響曲　第9番　ニ短調　作品125　"合唱つき"

指揮・森正　演奏・京都市交響楽団

ソプラノ・伊藤京子　　アルト・佐々木成子

テノール・石井昭彦　　バリトン・中山悌一

合唱・京都市民第九合唱団・京都音大合唱団

合唱指揮　桜井武雄

合唱（18日大阪会場）・大阪学芸大特設音楽科

相愛女子大学音楽学部

武庫川女子大学音楽学部

神戸土曜会合唱団・京都音大合唱団

京都市民第九合唱団

12月14日（月）15日（火）　**京響定期演奏会「第九交響曲の夕」**

京都会館第1ホール　午後7時

12月18日（金）　**京響演奏会「第九交響曲の夕」**

大阪・フェスティバルホール　午後7時

14日15日18日共に12日と同様に京都混声は京都市民第九合唱団に有志多数参加して協賛の意を表した。

12月24日（木）クリスマス　キャロル　第二日赤病院に集合。寒い夜をいとわず親しい仲間の家々に歌を捧げて廻る。

昭和40年（1965）

1月2日（土）　新年ニコニコ大会　　出町　西円寺にて

3月14日（日）　**「京都合唱コンクール発表会」**

京都会館第2ホール

マトナの君

ねむれわが君

お日さまとフーロン

6月27日（日）　**「第2回　合唱祭」**　京都本願寺会館　午前10時

主催　京都合唱連盟　朝日新聞京都支局

京都混声合唱団　　指揮　牛丸　紘一

エホバよ吾はうたわん…… J.S. バッハ作曲

来よ　甘き死よ！…… J.S. バッハ作曲

当日の出場14団体あり、京都混声は第7番目のステージに上る。出場者50名。

7月16日（金）

日誌抄「日誌係の努力にもかかわらず、団の日誌を紛失しブランクの出来たことは真に残念である。（中略）過日の委員会で復活することを決議されたので早速今日から書き始めることにする。」

（注：日誌紛失により本年前半の活動状況不備）

9月24日（金）

日誌抄「牛丸君は新婚旅行で不在のため安井喜久子さんの指揮。目立たないが確かなサインと表情をもってよく判る。そして不備の点を遺感なく指摘される。

退任の青山先生の後を受けて、植田治男氏指揮の期間を経、自主的に練習し発表しようとの気概をもって新生京都混声を目ざし、当分牛丸君、明石君を指揮者と内定したが、明石君の退団によって牛丸君一人の双肩に負担がかかっていたのに安井さんの実績は有力な存在となった。」

10月2日（土）3日（日）　合宿練習

日誌抄「合宿練習は京混では初めての試みである。2日午後4時　寺町通今出川上ル光明寺に集合。3日午後4時解散まで牛丸さん、小山さん、安井さんの指揮で練習に励む。

10月11日（月）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール

午後7時　入場券¥150

指揮　牛丸紘一

ピアノ伴奏　安井喜久子　田中美鈴

Ⅰ　マドリガル

山彦　O.ラッソ曲

お日様とフーロン　〃

夜には安らぎを　〃

マトナの君よ　〃

Ⅱ　古典合唱曲

Komm süsser Tod！　J.S. バッハ曲

Dir, dir, Jehova„ will ich singen　〃

Der Greis　J. ハイドン曲

Hostias　W.A.モーツアルト曲

Dir Ehre Gottes aus der Natur　L.ベートーベン曲

——休　憩——

Ⅲ　女声合唱　組曲「沙羅」　信時　潔作曲

福永陽一郎編曲

1. 丹沢　2. あずまやの　3. 北秋の

4. 沙羅　5. 鴉　6. 行々子

7. 占うと　8. ゆめ

Ⅳ　Missa Brevis　W.A.モーツアルト曲

Kyrie　Gloria

Credo　Sanctus

Benedictus　Agnus Dei

ソプラノ　牛丸玲子　アルト　荒田喜子

テノール　森脇栄一　バス　肥田　明

アンコールに応えて、〝小夜曲〟ビショップ作曲竜田和夫作詞を歌う。

11月19日（金）

日誌抄「合唱団のメンバーであるからには出席するのが当然。その当りまえのことができないようでは話にならない。練習によく出席するのを感心するよりは、練習を休むのを寒心すべきだと思います。金曜日は残業もデートも一切お断りです。」

12月17日（金）

日誌抄「今夜は40年最後の練習である。そして結婚のためおやめになる安井喜久子さんとのお別れの日でもある。牛丸さんが病気でお休みなので“クリスマス　キャロル”の曲を安井さんに指揮をしてもらう。安井さんのタクトもこれが最後だと思うと名残り惜しくて…。」

12月24日（金）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後6時第二日赤病院集合、病棟の患者さん慰問——安岡さん宅（旧団員）——藤井さん宅（ソプラノ）——聚楽小学校。聚楽校ではこの夜青少年補導委員会主催の〝クリスマスの夕〟が催されているのに招かれてステージに立ち、会衆の拍手に送られてバスに乗る。——西陣アパー

ト―― 植田治男氏宅―― 伊吹新一氏宅―― 青山先生宅―― 上村先生宅―― 堀場学長宅―― 故森本芳雄先生宅―― 藤堂顕一郎先生宅―― 天津さん宅―― スマート喫茶店―― 十字屋へ。

昭和 41 年（1966）

1月2日（日）　恒例の新年懇親会　午後2時～9時　西円寺

1月14日（金）

日誌抄「いよいよ正指揮者として伊吹先生を迎えることにきまる。青山先生の＜わらび座＞行きの後、植田先生になったが短期間で辞退され、その後、牛丸・明石両君による一年半の指揮ほんとうにご苦労さまでした。その間は京混にとって真に受難な期間でした。この低迷、辛苦を通して団員の得たものは、結局団員各々の自覚に待たねば何も出来ないということ。我々の合唱団という自覚と認識と結束とをもってすれば混迷の中から立直れるということを悟り得たことが大きな収穫であった。そこで二，三の苦言を述べてみたい。

＜練習が面白くない＞というのは、そうしたあなたの気持にこそ原因が潜んでいるのです。積極的に団の空気や練習を面白くするための努力こそお互いの責任です。

＜ちょっとくらい遅刻しても……＞という人は、練習時間をどんなに変えても遅れる人です。その人は真面目な団員の連帯意識を傷つけている人です。遅れそうになった時高いタクシー代を払ったとしても、あなたは団の皆さんに金銭に代えられない貴い奉仕をなさったことになるのです。

＜欠席も遅刻もせずまじめに歌っている＞と自認する人には全く頭が下ります。心から有難うと言いたいのです。でもそうした人は更に周囲の人一人でも二人でも、より親密の度を加えて、合唱を離れても温かい友情に結ばれた雰囲気を培って戴きたいと思います。合唱を楽しむ一人から合唱を楽しむ集団を守り育てるあなたになって戴きたいものです。そして一人

一人がかけ替えのないメンバーになるのです。

＜偉そうなことばかり求めて……＞と反問される方へ―― 以上のことはもう一人の私がテノールの私への苦言でもあります。」

1月28月（金）　指導　伊吹新一　　曲目　Cantate Domino

日誌抄「この日から元団員であった伊吹新一氏を常任指揮者として迎える。＜一年毎にお互の意志により継続か否かを話合って無理のないように歩み続けよう＞との挨拶あり。」

2月25日（金）　　於・十字屋　　指揮　伊吹新一　伴奏　田中美鈴

練習曲　モーツァルト曲「戴冠ミサ」Kyrie, Gloria, Sanctus, Agnus Dei

日誌抄「京都混声創立以来その足跡のほとんどがこの十字屋楽器店三階の練習場で培かわれてきた。＜十字屋の小母さん＞と呼んで親しんできた会長田中ゆきさんの深い理解とご支援の賜であった。その十字屋が改装される為に、練習場の変更を余儀なくされるに至った。そして今夜の練習をもって一応十字屋とお別れせねばならなくなったのは辛く寂しい限りである。」

3月4日（金）　　指揮　牛丸紘一（伊吹氏欠）　練習曲目　Mozart「Missa C-dur」より　Credo, Gloria　於・聖ヨハネ教会ホール

日誌抄「今月から練習場を聖ヨハネ教会に移る。十字屋楽器店の改築のため手を尽くして努力した結果十字屋の森吾市さんのご斡旋と岡野利治神父さんのご厚意を得て教会半地下のホールをお借りすることになり練習を支障なく継続できるようになった。」

3月25日（金）

日誌抄「新しく入られたメンバーに他の合唱団と違ってすげない感じを与えるようであるが、迎える側のわれわれとしては余りこまごまと子供扱いしては却って無作法のようにも思って応揚にしているのが冷たく感じられるのではないのだろうか。しかし内心で歓迎している心持はやはり態度に表わして皆で努めて温かく新人を迎えてあげる事を心掛けなくてはなら

ない。

1年以上も経つような人から＜新米だから＞などと言われると妙なショックを受けることがある。新旧とか年数など問題ではない。縁あって京都混声の団員になったのだから一つ心になってお互に大らかな気持ちを持ちましょう。何気ないうちに10年20年が経ってしまいます。そして皆さんの子供さん達がやがてメンバーに加わって下さるまでガンバッて下さい。」

4月1日（金）

日誌抄「合唱団の根性に関する毒舌的考察。

（1）出席について――真に特別の事情を除いてズル休みはいけない。演奏会前になると練習に参加する人が多くなる現象は、何とか努力すれば出席できることを如実に物語っている。団員でありながら練習を怠りながら演奏会に出る人を＜演奏会族＞という。この族は演奏会をぶち壊しに来るようなもので決して演奏に寄与しない。却って人数の割に声が出ていないなどの批評を受けるのが落ちである。京混が一今日来ん一にならぬよう無理を押しきって出席しよう。

（2）遅刻について――仕事の都合などでどうしても遅刻せねばならないこともあるが、大半の人は7時に都合がつかないとは思えない。学校の統計などでは、近くて余裕のある者ほど遅刻するということである。怠慢、気のゆるみ、認識不足、気まぐれ、無責任を返上して、折角練習に出るなら7時から出よう。

（3）予習復習について――小学校ではあるまいし……と思う人は居ないだろうが、案外やってないのではないか。合唱歴も長くよく歌える人の中に予習復習を励行している人が多いということは見習うべきことである。楽譜や発音が判らなかったら仮名をふったり、仲間に尋ねたりして何としてでも努力しなければならない。そのうち実力がついてくるに違いない。練習日以外の日にもぜひ楽譜を開こう。

（4）マンネリについて――ただ何となく来て何となく歌っていればマ

ンネリに陥る事は必至である。合唱に限らず芸術には＜これぐらいでよい＞という限界はないはずである。一応歌えるようになったら自分でよく反省し課題を作って習得を深めるように心掛ける。例えば――音程やリズムは確かだろうか。歌詞の発音はこれでよいか。ブレスは適切か。ブレスの前の音は短くないか。フレーズの息の配分はよいか。曲想はよいか。＜　＞ p.　f.　rit. .....etc.　心はこもっているか。――指揮者に言われるまでもなく常に自分で確かさを持っておればマンネリに陥ることはない。

（5）お客様根性について――練習を休んでは仲間から＜来て下さいね＞と言われて＜今度からは必ず来ます＞などと言っては気の向いた時にしか練習に来ず、椅子を並べてもらい、畳んでもらい、楽譜をもらい、委員に任せ、人の尻について歌い、勝手な時に息抜きをし、聞くべき時にお喋りし、集団練習の中でわがままな無責任な言動をすることをお客様根性という。但し京都混声にはそんな人は居ないはずであるが……。」

4月8日（金）

日誌抄「練習中よく感じるのは曲の頭の音やフレーズの出はじめの音がハッキリしないことである。これは各パート共通して言える。何か思いきって声を出しきれない雰囲気があるのだろうか。

練習の帰りにヨハネ教会の掲示板に京都混声の名称と練習時間が書かれているのが目についた。きちょうめんな教会らしい。

帰り道に京都混声の人達が行く憩いの店がある。ここは役員の会議場でもあり、団員の意見交換の場でもある。元来コーラスは音楽の技術的なハーモニーと団員の精神的なハーモニーがなければ本当のコーラスとはいえない。歌は感情の美しい表現なのだから心のない技術的なものばかりだとしたら非常に冷たいものになってしまう。だからコーラスの人達が楽しく語り合うことはよいことだと思う。」

4月29日（金）

日誌抄「僕が音楽に興味をもったのは三年くらい前からである。だから

まだ音符にも弱く声に自信もありません。そのため最初のうちは練習に出てもみなさんにとてもついてゆけそうにないからやめようと思ったことも何度もありました。しかし歌が好きで歌った後は気分がすっきりします。それで迷惑かもしれませんが、ずーっと京混に置いてもらおうと決心しました。」

5月15日（日）北山大悲山へハイキングを行い楽しい一日を共にする。

6月24日（金）

日誌抄「6時に会社が終ったので少し早いなあと思いながらもすぐ教会に向った。着いたのが6時30分少々廻っていた。私がこんなに早く来たのは珍しい。やっぱり早く来るということは気持のいいことだなあとつくづく感じた。（注：当時の練習は6時30分～9時）今日は合唱祭最後の練習日。（中略）とにかく合唱は楽しいものである。ただしそれは皆が一つになって指揮者に従い、一所懸命になって歌うときはじめて合唱する――歌うという楽しみが生れてくる。そういう時には快楽という言葉がぴったりと当てはまる。

6月26日（日）**「第3回合唱祭」**　京都会館第2ホール

午前10時より

主催　京都合唱連盟　朝日新聞京都支局

後援　京都市

京都混声合唱団　　指揮　伊吹新一

かざ車（ロシア民謡）…リムスキー　コルサコフ編曲

アヴェ　マリア……ビットリア作曲

カンタテ　ドミノ……ハスラー作曲

伊吹新一を指揮者に迎えて初めてのステージである。当日の出場42団体あり、京都混声は第15番目にステージに上る。出場者40名。

7月1日（金）　以後ミュージカルの練習に取り組む。

オクラホマ　　南太平洋　　Bari Hai

魅惑の宵　　みどりの6月　　Tonight

回転木馬　　君住む町ゆえに　　Dites moi

王様と私　　オール　マンリバー

日誌抄「演奏会の後の練習日は集りが悪いのが常であるが、今回も合唱祭の後やはり集りが少く、伊吹さんにはやや期待外れの様子にて申訳なし。」

7月29日（金）　聖ヨハネ教会　指揮　伊吹新一　ピアノ　田中美鈴

練習曲目　モーツァルト　“ ミサ ”

ミュージカル

日誌抄「久しぶりに田中美鈴さんの伴奏。“ミサ”は始めての練習とはいえひどいもの、有りがたみのない“ミサ”でガタガタ。ピアノについていくのに必死の有様。京都混声の得意とするハーモニーが聞かれずじまい。ミュージカルをやればムードがないといわれるし、新しい魅力づくりに努力が大切。」

8月5日（金）　聖ヨハネ教会　指揮　伊吹新一

練習曲目　ミュージカル　　クレド（ミサから）

噴水のある風景

日誌抄「磯部氏作曲の“噴水のある風景”を自分で歌わないで女声の声を聞いていると、とても美しい。評判の通り大人の声だ。さすが京都混声の女声コーラスであると自慢したくなる。（中略）新入団員は好きで飛び込むのならどんなことも善意に受けとめて続けねばならない。技術の差は別として、どんな努力も苦しみも乗り越えるだけの覚悟はしていると思う。今時歌の社交場と思って京混に来る人はいないだろう。とかく新陳代謝の激しいコーラス団の時代に、割合出入りの少いのがこの団の特色である。新しい人も若さと熱で苦しみをのり越えて欲しい。努力の後に美しい楽しみが待っている。」

10月22日（土）23日（日）　合宿練習　洛西善峰寺宿坊

日誌抄「来月に控えた発表会の為に合宿練習をする。22日二班に分れ、

マイクロバスで善峰寺へ。泊り込みのせいか皆腰を据えての練習。伊吹先生の指導も徹底的に厳しい。

翌朝は6時頃から起き出し、爽やかな早朝の空気を一ぱいに吸いながら朝日に対してラジオ体操から日課が始まる。訓練の成果を楽しみ親睦の実を喜び一団となって山を降る。」

10月29日（土）　心身障害者の為の**「慈善バザー　音楽の夕べ」**

主催　京都聖ヨハネ教会　ヨハネ文化教室

指揮　伊吹新一

ミュージカル

1. バリハイ（南太平洋より）　2. 魅惑の宵（南太平洋より）
3. みどりの6月（回転木馬より）
4. 君住む街ゆえに（マイフェアレディより）
5. オクラホマ（オクラホマより）

モテット

1. テネブレ　パレストリーナ曲
2. アヴェ　マリア　ビットリア曲
3. アヴェ　レジナ　ラッソ曲
4. カンタテ　ドミノ　ハスラー曲

他にヴァイオリン、ピアノ演奏、8㎜　映画上映、講演などあり。

11月14日（月）**「定期演奏会」**

於・大谷ホール　午後7時　¥150

指揮　伊吹新一

エレクトーン　高橋一男　ピアノ　田中美鈴

曲目

16世紀の教会音楽

Ave Maria ..... Victoria
Tenebrae factae sunt ..... Ingegneri

Ave Regina coelorum ..... Lasso
Cantate Domino ..... Hassler
Agnus Dei (Missa brevisより)..... Palestrina

女声合唱組曲「噴水のある風景」　作詞　高田敏子　作曲　磯部　俶

公園で　噴水　ペンギン　林のなか
ハイキング　日だまり　子守うた

Missa C-dur（戴冠ミサ）K.317..... Mozart

Kyrie　Gloria　Credo　Sanctus
Benedictus　Agnus Dei

ミュージカル　ハイライト

バリ ハイ　魅惑の宵
イフ アイ ラブド ユー　ディト モア
みどりの六月　トウ ナイト　君住む街ゆえに
シャル ウィ ダンス　オール マン リバー
オクラホマ

日誌抄「今年は京都会館がとれなくて大谷ホールを使用する。楽屋は少し狭いが新しい建物で綺麗だし、会場の広さも手頃である。3時集合。ステージのリハーサルは随所に不手際な危い所があって気懸りである。開場が遅れて6時40分。7時定刻開始。照明を消したまま“Little drummer boy”を歌いつつ幕が上る。ピアノと合わないでひやひやする。

A cappellaの“16世紀教会音楽”では心配していた“Agnus Dei”がやはり途中で声が消える。女声合唱は客席のうしろで聞く。いろいろ批判はあるだろうが、聴衆には楽しんで聞いてもらえたようだ。例年よりも声が出ていたし、何よりも暗譜が嬉しく、女声部の努力に感謝する思い。“ミュージカル　ハイライト”は伊吹先生のアドバイスで楽譜を持って（見るのではなく）歌うことになる。残念ではあるが万全を期する意味で妥協す

る。しかし来年はキット暗譜でやろう。高橋先生のエレクトーンの流れるような美しさが素晴しかった。アンコールの“砂山”を無難にこなして毎年のことながらホットする。終始キメ細い指揮をして下さった伊吹先生に感謝すると共にあちらこちらの乱れのあったことをお詫びします。アナウンスの大原さん、受付などお手伝下さった方達に御礼申します。みんなみんなご苦労さま。」

12月9日（金）

日誌抄「伊吹先生の欠席を利用して団費値上げについて意見交換する。いろいろの考え方はあるが要するに毎月が赤字であるそうだ。営利団体ではないのだから団費を滞納しても楽譜代が未払いであっても催促されることがない。これはわれわれを信頼して下さっている証拠なので嬉しいことだけれども、そういう善意をいいことにしてつい甘えが出てルーズになっているのではなかろうか。一人一人が自覚して委員さんが不快な思いや心を煩らわされないようにみんなで協力しましょう。

決定事項　毎月の会費￥200。別に年間会費￥1,000とする。」

12月24日（土）　クリスマス　キャロル

日誌抄「例年通り貸切バスで廻る。

第二日赤午後7時集合――旧団員安岡さん――団員藤井さん――西陣公団住宅――聖ヨハネ教会と五条公団住宅――団員広瀬さん――植田治男氏――上野さん――堀場音大学長――渡辺さん――故森本芳雄先生――上村けい先生――藤堂先生――天津さん――スマート喫茶店――十字屋楽器店（解散）。」

昭和42年（1967）

1月8日（日）　恒例のニコニコ新年会　芝蘭会館　午後4時～9時

日誌抄「例年新年会は新年早々に催していたが、一週間遅く開いたせいか集まりが多い。アメリカ在住のメンバー清水弘さんに今日の挨拶や余興の様子などをテープに取って送ることにする。今日の会費350円。

1月13日（金）　指導　伊吹新一　　ヴォイストレーナー　牛丸玲子

聖ヨハネ教会にて

練習曲“ミサ”よりキリエ　グローリア（ハスラー曲）

からたちの花（山田耕筰曲）

日誌抄「前年に引続きボイストレーナー牛丸玲子さんの発声練習あり。溜息の練習に始まって、腹筋の使い方、咽喉のゆるめ方など多くのことを学びたいが時間の短いのが残念。発声練習の度毎に新しいものを見出すような喜びを抱く。」

4月21日（金）

日誌抄「元京都混声の指揮者で秋田のわらび座に行かれた青山政雄先生がわらび座を辞して京都に帰られた由、京都混声の顧問的存在として連繋を保って行くことを期待する。」

5月13日（土）　第319回**「土曜コンサート」**

＜合唱とエレクトーンの夕＞　円山音楽堂　午後7時

主催　京都市　入場無料（雨天中止）

第二部　合唱

Ⅰ．京都大学グリークラブ　（指揮　弘山知直）

Ⅱ．京都高島屋混声合唱団　（指揮　宮川　茂）

Ⅲ．京都混声合唱団　　指揮　伊吹新一

エレクトーン伴奏　高橋一男

童謡集（山田耕筰作品集から）

あわて床屋　青蛙　砂山　この道　青い小鳥

Ⅳ．混声合唱団京都木曜会（指揮　前田毅彦）

Ⅴ．合唱団京都エコー　（指揮　浅井敬壹）

Ⅵ．京都木曜会・京都エコー合同演奏

他にエレクトーン独奏、エレクトーン合奏あり。

6月25日（日）**「第4回　京都合唱祭」**　京都会館第1ホール

午前9時半～午後5時

主催　京都合唱連盟　朝日新聞京都支局

京都市

京都混声合唱団　指揮　伊吹新一

Missa Secund　から　“Kyrie”と“Gloria”

（H. L. Hasler　曲）

Shenandoah　(sea chanty・Solli Terri　編曲)

当日の出場47団体あり、（欠場4）京都混声は第23番目にステージに上る。出場者40名。

8月26日（土）27日（日）　合宿練習

洛東黒谷　金戒光明寺にて

9月14日（木）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール

午後7時　入場券 ￥150

指揮	伊吹新一
ソプラノ	牛丸玲子
バリトン	植田治男
ピアノ伴奏	田中美鈴
エレクトーン	高橋一男
ナレーター	大原都伎子

S.17　A.11　T.8　B.11

Ⅰ．American Folk Songs

The Streets of Laredo

Skip to My Lou

Shenandoah

Ⅱ．Missa Secund..... H. L. Hasler

Kyrie　Gloria　Sanctus　Benedictus

Agnus Dei

Ⅲ．女声合唱　女人和歌連曲……信時　潔作曲

いつの世か	長沢美津子
あかねさす	額田王
こし方を	和泉式部
大江山	小式部内侍
夜をこめて	清少納言
我袖は	二条院讃岐
あらざらむ	和泉式部
春の夜の	周防内侍
めぐり逢ひて	紫式部
有馬山	大貳三位

Ⅳ．Schön Ellen .....M. Bruch 作曲

E. ガイベル原詩

—— Soprano & Baritone Sol & Chorus ——

——休　憩——

Ⅴ．山田耕筰作品集

青い小鳥	赤とんぼ	あわて床屋
砂山	青蛙	ペイチカ
この道	待ちぼうけ	からたちの花

12月14日（日）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後5時30分 第二日赤集合。5階4階新館2階慰問——京大附属病院中央病棟に入院中の堀場音大学長を訪ねる——聖ヨハネ教会キャ

ンドルサービスに参加――青山先生宅――植田先生宅――旧団員安岡さん宅――藤井玲子さん宅――西陣公団住宅――上村ケイ先生宅――故森本芳雄先生宅――旧団員天津さん宅――スマート喫茶店。午後11時解散。

昭和20年進駐軍のクリスマスの夕べに参加して以来、毎年キャロリングを続け、今では要請要望を受けた施設や、個人宅、京混関係の家々を訪れる恒例となり毎年継続してきたが、交通輻輳の世相となり巡回バスを駐車することが次第に困難になってきつつある。」

昭和43年（1968）

1月14日（日） 新年ニコニコ大会　出町西円寺にて　午後2時～8時

1月26日（金） 聖ヨハネ教会　7時～9時15分

指揮　伊吹新一

練習曲目　Missa (Kyrie, Sanctus, Benedictus, Agnus Dei)

千曲川の水上を恋うる歌

三つの無伴奏混声合唱曲

日誌抄「今年の初めから入団して一か月経ちました。練習回数4回です。回数が少いだけに一回一回の練習の重要さを痛感します。そして週1回の練習の2時間がすごく短く感じられます。（中略）大学時代の練習と違うことはパート練習もなく、発声練習もないことで、これには正直言って全く困ってしまいます。＜パート練習は各自が家ですればよい＞そうです。その通りです。しかし学生時代の経験からいっても、判っていながらなかなか無理なことです。出来ないことです。」

2月4日（日）委員会（S―藤井玲子，林田靖子，A―広瀬泰子，T―広瀬茂，高野保，B―小山弘，牛丸紘一）

演奏会（42，9，14）の決算の件……（決算書次頁）

今年の演奏会予定日6月29日は土曜日なので会場費が1万円以上高くなるため、入場券を200円に値上げすることとする。

42，9，14　演奏会決算

収入			支出		
	入場券売上	174,000		入場券税金	19,000
	(150×1,160)			会館先払	19,160
	税金返戻	3,700		会館附属人件費	50,110
				プログラム・チラシ	31,200
				謝　礼	31,620
				花・テープ	13,000
				著作権協会	3,600
		177,700			167,690
				差引収入	10,010

――――――――――　○　――――――――――

その他合宿の件、夏のリクレーションの件、委員会に新人選出の一案として委員の半数交代制の件などを決定する。

2月16日（金） 練習曲目　スコットランド民謡集

日誌抄「今年から仲間に入れてもらいました。中学時代からコーラスに触れてきたのですがコーラスを愛する気持は変りません。ハーモニーの快さ、思いきり歌った後の爽快さ。今夜も帰り道で知らず知らず練習した曲を歌っていました。心も顔も晴々として明日への勇気が湧いてきます。

この合唱団に入った時の最初の印象は、一人一人が何と音楽的なんだろう。そして一人一人がとても温い人達だという感じが致しました。

4月6日（土）7日（日）第一回合宿練習　於・山崎天王山　宝積寺（通称宝寺）　宿泊費￥1,000

練習曲目

Vere languores, O magnum mysterium, Ave Maria, Choral Messe, 中田喜直童謡曲集、千曲川の水上を恋ふる歌、月光とピエロ、スコットランド民謡

日誌抄「山崎駅から盛りの桜が咲き続き山内から天王山にかけて花盛り

である。重要文化財の三重塔、十一面観音像などを眺めながら集合を待つうちに花見客に交じって三三五五メンバーが集ってくる。初め女声練習。夕食時分に第二班が到着し、女声17名、男声12名になる。まだ少い。夕食は麩の汁と、マトンと野菜のいためたものとで一汁一菜の修業食。一汁一菜を五年続ければ城が建つといわれるほどの粗食であるが、それでもうまかった。伊吹先生が来られたので集合の上、自己紹介を済ましてから練習にとりかかる。午後10時頃まで約3時間。畳に座っての練習は足がもたない。」

「7日（日）――合宿ならではの早朝の目覚め、桜の花に交じって気品ある赤い椿が美しい。竹藪道の散歩も清々しく小鳥の鳴き声も普段には味わえない趣。

素晴しい環境と昨夜の鍛練のせいか今日はよい気分に乗って楽しく歌うことができて嬉しくなってくる。」

4月12日（金）　聖ヨハネ教会　午後7時～9時

指揮　伊吹新一　　伴奏　田中美鈴

練習曲目　ブルックナー曲“ミサ”

日誌抄「今日は合宿直後の練習。合宿は平素の練習の5回分以上の時間量だっただけに有意義であった。

演奏会への心構えはいつも問題になります。気持の上では解決できていながら、現実には行き届かないことがあって、わだかまりや不安を残したまま演奏会に直面しがちです。それをなくすことは決してむずかしいことではありません。一つのポイントを間違えさえしなければ――。そのポイントとは、京都混声に入団したのは＜私自身＞であるということです。」

6月9日（日）**「第5回　京都合唱祭」**　　京都会館第1ホール

午前9時30分～午後4時30分

主催　京都府合唱連盟　京都市　朝日新聞京都支局

京都混声合唱団　　指揮　伊吹新一

Vere languores（カトリック経典，ヴィットリア作曲）

O magnum mysterium（　〃　　〃　　）

当日の出場44団体あり、京都混声は第22番目にステージに上る。出場者40名。

日誌抄「女声二列で前へ、男声一列で後に並ぶ。藤堂顕一郎氏評＜きれいに歌われて結構でした。指揮については何一つ言うことはありませんが、歌う方が理解不十分の為か指揮にぶら下っている。そのために殊に後半重く感じられました。そして迫力に欠けるようになりました。もう少し積極的に歌って戴きたい。人数の加減かテナーが少し弱いようでした。＞という意味であった。初めに団の紹介で＜京都でもっとも古い合唱団の一つで……＞というのは、古いという重荷を感じさせられる。

暗譜で歌うのとそうでないのとでは迫力が余程違う。たとえ譜を持っていても、頭を上げて歌うのと下げて歌うのとでは大いに違う。とにかく指揮者にくいついていって欲しい。」

6月15日（土）16日（日）両日　第2回合宿練習

山崎天王山　宝積寺（宝寺）

指導　伊吹新一

練習曲目　Choral Messe　　O vos omnes

千曲川の水上を恋ふる歌　　スコットランド民謡

月光とピエロ　　ブルックナー“ミサ”

日向地方民謡　　女声合唱曲

Ave verum corpus　　The little drummer boy

15日　午後4時集合 － 10時終了。16日　起床午前7時 － ラジオ体操 － 9時朝食 － 9時30分練習開始 － 午後1時昼食－午後1時30分練習開始 － 午後4時10分練習終了解散。

「ねえ、ねえ、ホトケさまお許しを。

お線香をたかないで

コーヒーのにおいをたちこめさせる　私たちを♪
抹香くさいお経をあげないで
バターくさいお経をあげる　私たちを♪
同じ三拍子でも
ナム　アミ　ダ……でなく
Kyrie elei son…… とリズムとる　私たちを♪
でも　ホトケさま
私たち　平素は十字架のもとで
“観音の在しますからは……”と歌ってもいるんです。
だからアイコでしょ。
お寺さんで“Jesu Christe”と、
まあ、今日のところは歌わせてね。」（Alto　山本光　詩）

6月23日（日）　臨時練習　　於・京都音大

指揮　伊吹新一　　ピアノ　田中美鈴

出席　S. 13名　A. 8名　T. 7名　B. 10名。

日誌抄「“千曲川”は全員ほとんど覚えたが、“月光とピエロ”は暗譜というにはほど遠い。ビットリアの“モテット”は合唱祭で歌った二曲はよく歌えるが、他の二曲は旋律がつながるまでいっていない。“Ave Maria”がもっとも不出来。“ミサ”は間違いは極く少いがもともと盛り上りの余りない曲なので、発表会までに入魂の練習をせねばならない。“スコットランド民謡”は一番無難。今日はほんの少しの休みを挟んで4時間ぶっ通しで歌う。俄雨の降ったのも気付かないで。疲れた。」

6月29日（土）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール　午後7時開演

指揮　伊吹新一　　伴奏　田中美鈴

千曲川の水上を恋うる歌……藪田義雄作詞　小山章三作曲

1. 水上　　2. 若き日　　3. 落石に搏たれしもの
4. 牧歌を偲ぶ　　5. 水上は母のふところ

スコットランド民謡……前田三恵子作詞　鷲見五郎編曲

アンニー　ローリー　　肩をならべて
チャーリー　　わたしのボニー
アフトン川　　１００人の笛吹き
ロビン　アデア　　ロックローモンド
美しい牧場の堤

Motet……T.L.de Victoria

Ave Maria　　O vos omnes　　Vere languores
O magnum mysterium

── INTERMISSION ──

中田喜直童謡曲集〝女声合唱〟

もりのよあけ＜与田準一作詞＞
もんしろ蝶々のゆうびんやさん＜サトウハチロー作詞＞
きんきんきんぎょ＜小林純一作詞＞
はなのおくにの　きしゃぽっぽ＜小林純一作詞＞
夕方のおかあさん＜サトウハチロー作詞＞
豆っこ打ち＜結城ふじを作詞＞
お月さんと坊や＜サトウハチロー作詞＞

組曲「月光とピエロ」……堀口大学作詞　清水脩作曲

1. 月光　　2. 秋のピエロ　　3. ピエロ
4. ピエロの嘆き　　5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

Choral Messe F dur…… J.A. Bruckner

Kyrie　Gloria　Credo　Sanctus　Benedictus　Agnus Dei

聴衆は800名を越え、第2ホール満員の盛況となる。

7月5日（金）於・ヨハネ教会

日誌抄「伊吹先生は演奏会の後、団員による次の指揮者選択についての自由な意志表示を求められるのを常とした。勿論継続を依頼して更に一致

結集の実を発揮して来年の演奏会に備えることとする。」

7月27日（土）28日（日）　志摩リクレーション　賢島ロッジ宿泊

文団懇フェスティバル（9月6日）及びフルトヴェングラーを偲ぶ夕べ（10月13日）出演に備えてリクレーションの間に練習に励む。

8月9日（金）

日誌抄「伴奏の田中美鈴さんが外遊のため8月の終りまで門弟の田村さんの助力を受けることになる。

京混に入団して約4か月。初めに思ったことは＜少人数だなあ＞ということ。高校の頃は100人近い人数で合唱をやっていたので驚きました。(中略）“スコットランド民謡”の練習になったので、知っている曲だと思って嬉しくなりました。そのうちに気がついたのは皆の声が＜大人の声だ。大人の歌だ＞ということでした。あたりまえのことですが、＜さすが京混だな＞と感じました。

次は譜読みです。新しい曲を始める時、皆さんすらすらと読まれるのには感心すると共に自分が情なくなりました。3年間高校でやったコールユーブンゲンでは心細く、ソルフェージュも117番で止ったままの自分が憎くらしくなりました。

演奏会―― 6月29日の演奏会はやっぱり印象的でした。結果も重要なのですが、それまでの過程はそれ以上に大切なものではないでしょうか。1年間、練習と努力を重ねられて毎年演奏会をもたれるということは大変意義のあることであり、団員として仕合せなことではないでしょうか。

でも、私はまだまだ駄目です。練習日が楽しみなんですから。歌うことが苦痛になるほどに歌わなければ――。早くそうなりたいものです。」

9月6日（金）**「第6回文化団体懇話会フェスティバル」**

京都会館第2ホール　午後7時～9時

指揮　伊吹新一　林達次　桜井武雄　吉村信良　浅井敬壹

ピアノ伴奏　高橋一男

曲目　男声合唱　「いざ起て戦人よ」「柳河」

女声合唱　「夏の思い出」「小さい秋見つけた」

混声合唱　「ロッホ　ローモンド」

「おじいさんの古時計」

「飛べ鳩よ」「前線にも春が来た」

「アヴェマリア」「遥かな友に」

500人の大合唱と銘打って京都混声も参加し、他の芸能と共に合唱も錦上花を添える。

10月13日（日）**「フルトヴェングラーを偲ぶ夕」**主催　美松映画事務所

京都会館第1ホール　午後6時30分

A.￥900（当日￥1200）　B.￥600（当日￥800）

第1部　京都混声合唱団公演　　指揮　伊吹新一　伴奏　田中美鈴

曲目　モテット …… ビットリア曲

アヴェ　マリア …… ブルックナー曲

ヴェレ　ランゴーレス …… ブルックナー曲

コラール　ミサ …… ブルックナー曲

第2部　長篇音楽記録映画　「フルトヴェングラーと巨匠たち」

美松映画館の依頼を受け、特別試写会に出演する。

12月11日（水）　京都市交響楽団第110回定期演奏会

「第九シンフォニーの夕」出演　京都会館第1ホール　午後7時

主催　京都市

プログラム　別宮貞雄：弦楽オーケストラのための小交響曲

ルードウィヒ　バン　ベートーベン

交響曲第九番ニ短調　作品125「合唱つき」

指揮　外山雄三

独唱　ソプラノ　蒲生能扶子

アルト　石光幸子

テノール　丹羽勝海
バリトン　大橋国一
合唱　京都市民第９合唱団　京都音大合唱団
大阪労音フロイデ合唱団
合唱指揮　桜井武雄

京都混声の有志多数、京都市民第９合唱団に参加して賛助の功を示す。

12月13日（金）

日誌抄「これ程団員の年令の差の大きい合唱団は少ないと思う。年令差はあっても唯一つ誰にも共通なことは＜コーラスが好きだ＞ということだと思う。コーラスの魅力は一人では味わえない。自分が楽しむためには他の人をも楽しませる義務があると思う。そして自分が居らねば京都混声は成り立たないという自負心（自惚れではない）を持たねばならない。団歴が新しいとか古いとかはまったく問題ではない。＜古い人が初見でよく読む、とてもついてゆけない＞という人があるが、何年か譜読みをして居れば少しは早く読めるようになるのは当り前のことである。＜あんなのに負けるか＞と気張って欲しい。指揮者を見ながら、他のパートを聞きながら歌ったらコーラスは必ず楽しくなる。コーラスを歌って身震いするような心の底までジーンとするような、涙の滲むような感じ――それは度々味わえるものではない。私は一年に一度でも味わえればいいなあと思う。

（中略）欠席した後は連絡が不十分でその後出席しにくくなる場合がある。もっと積極的に、休んだ時には前に何か連絡がなかったかを聞いて欲しい。私たちは常にこの心掛けが大切である。終戦直後などは練習場の確保がむずかしく毎週小学校や貸室を探しては転々と練習場を変わったものである。そんな時、休むと＜次は何処や＞と委員に電話で尋ねながら練習を続けたものである。」

12月24日（火）　クリスマス　キャロル

日誌抄「恒例により午後６時第二日赤に集合して、牛丸さんの指揮によ

りクリスマスキャロル集の歌を歌って貸切バスで巡回する。

第二日赤――上野さん宅（双子の身障児慰問）――藤井玲子さん宅――西陣公団アパート――牛丸紘一さん宅――故森本芳雄先生宅――田村さん宅――上村けい先生宅――聖ヨハネ教会――五条公団アパート――植田治男さん宅――青山政雄先生宅――天津さん宅――スマート喫茶店　午後11時30分解散。

日誌抄「２番目に行った上野さんの所は、何万人に一例という難病の双子の兄弟のお家である。一昨年に行った時は次のクリスマスまで寿命がないかもしれないということだった。年令は20才近いだろうか。体格は立派なのだが二人共歩くことができず、小柄なお母さんや近所の小母さんにおんぶされながら、私たちの歌を喜んで聞いて下さった。そのお気の毒な姿に私たちは思わず泣きながら歌った。そしてお別れをした。昨年はどうしてか訪れなかった。今年お二人の車椅子とはいえ元気な姿を見た時はホントによかったと思った。そして今年は泣かないで歌おうと思った。たびたびふり返りなから手を振ってお別れをした。しみじみと児童福祉、身障者福祉、医療保護ということを考えさせられる。」

昭和44年（1969）

１月15日（水）　ニコニコ新年会　出町西円寺にて

日誌抄「寒い北風の日であったが、成人式の日のこととて美しい和服姿の女声団員の姿に目をみはる。上村けい先生もおいでになりゲームに加わられて伝統のある家族的な楽しい午後を過ごす。」

２月12日（金）

日誌抄「今日も男声少なく、女声合唱を約１時間。私の提案――日曜日でもいい、パート練習をしようという有志を募りたい。自分自身のために。一人で練習できない私のために。幸せなことに私の会社から三人京都混声に入っているので三人でパート練習をしている。思いきり歌う。そして思

い切り間違う。間違いが判ることによって進歩につながる。大変おもしろい。そして金曜日の楽しみが三倍にも四倍にもふくれ上る。

5月25日（日）**「第6回合唱祭」**　京都会館第1ホール

主催　京都府合唱連盟　京都市
朝日新聞京都支局

午前9時30分～午後5時

指揮　伊吹新一　　伴奏　田中美鈴

ミサソレムニスより「クレドー」……ハイドン曲

当日の参加44団体あり、京都混声は第22番目にステージに上る。出場人員32名。京都府合唱連盟より5年連続出場により他の16団体と共に表彰を受ける。

日誌抄「合唱祭の夜、反省懇談会をらんぶる熊野店にて開く。（午後5時～午後8時）司会谷口勝彦（T）出席29名。親睦のためのリクレーション、ハイキング、夕食会などの案があったが何れも支障があり、合唱祭の反省と懇親の茶話会を催すことになった。5年連続出場表彰を祝し、自己紹介などの後、忌憚ない意見を表明し合う。

京都会館第1ホールの広いステージのせいか十分声を出したと思えず、萎縮していたように思う。9月の演奏会までに余程ピッチをあげて十分歌い込んで、曲を自分のものにしなければならないと思う。」

6月13日（金）聖ヨハネ教会　午後7時～9時

練習曲目　私の願い　　指揮　牛丸紘一　　伴奏　鎌田

出席者　S. 10　A. 10　T. 2　B. 4

日誌抄「この頃男声の集りが悪い。久しぶりに出席されたメンバーに尋ねてみるとそれぞれに事情があるので責められない。しかしこのような状態では混声合唱にならない。

今日バスの大壁さん、平松さん、テナーの谷口さんの三人が団員募集のポスターを作って来て下さった。それはとてもおもしろく出来ていて、私たちに家での練習を、いやでもさせるように仕向ける巧みな要素も備えたものであった。指揮にしろ、伴奏にしろ、このようなポスターにしても各

各の力を発揮して団のために動いて下さるような人がいるのです。この方たちをみていると欠席などということはどうしても出来ないという気持に動かされないではいられないはずです。」

6月20日（金）聖ヨハネ教会　午後7時～9時

指揮　伊吹新一　　伴奏　広津英子

練習曲目　「Dona Nobis Pacem」（ハイドン）

「私の願い」

出席　S. 10　A. 12　T. 6　B. 4

日誌抄「10年間続けてきた合唱生活を断ち難く寂しく思っていた空白の時に谷口先輩に声をかけられて入団し、今日に至りました。しかし遅刻はする、欠席はするで皆様に大変ご迷惑をかけています。仕事のためとはいえこんなことではメンバー失格である。どうしても歌いたいという欲望が私を支えている以上、予習して来るくらいの責めは果たさねばならない。」

9月6日（土）7日（日）　強化合宿練習　　洛西　善峰寺にて

練習曲目　ミサ（ハイドン曲）

「私の願い」（高野喜久雄詩　高田三郎曲）

ラテン曲　ワルツ曲　その他演奏会発表曲

指揮　伊吹新一　牛丸紘一

伴奏　広津英子　花原やよい

出席　S. 13　A. 13　T. 10　B. 5

日誌抄「6日午後6時京都駅東口参集、貸切マイクロバスにて雷鳴の中を一路善峰寺に向う。約一時間で寺の麓に着く。空はすでに夕闇がこめ、樹木が鬱蒼と林立していて薄気味悪い。外燈一つない小川に添った坂道を登る。次第に心細くなるのを我慢して山路を上ると山門に行き当る。山門から道を右にそれて行くうち、左手上方に外燈らしい明りが見える。お寺の入口に着く頃には足は疲れ吐く息も荒い。

本堂は百畳もあるだろうか。ご住職の温い計らいでピアノを借りて部屋

に運ぶ。夕食はすべて精進料理だがおいしく戴く。若い人たちには物足りないかもしれないが大勢で食事するとホントに楽しく嬉しい。

食事の後小憩して発声練習、パート練習をするが蚊が多くてやりきれない。楽譜を左手に、右手では蚊を追いながら思いがけない苦闘の中に一所懸命である。10時過ぎに就寝ということになったが、雨上りの蒸し暑さにワイワイガヤガヤ。12時半頃にようやく静かになる。」

「7日――午前6時頃に目が覚めたがすでに数人が起きている。空模様は危いが雨は降っていない。境内は清々しく整然としてさすがに名刹のお庭らしく綺麗である。次々起き出した仲間と一しょに広場を求めて上の方のお寺に行き朝の体操をしながら爽やかな空気を胸一ぱいに吸う。年ぱいの人たちも一しょになって親しみが湧く。音楽も大事だがそれ以外にも心の通じ合う良い機会だ。

8時半本堂に帰って朝食。9時すぎ練習開始。伊吹先生到着。
パート練習を外に出て分散して始めたがしばらくするとドシャ降りの雨。それでも物陰に入って練習は止めない。（中略）午後5時練習終り。ああよく歌った。楽しかった。快い疲れを噛みしめながら名残り惜しみつつ坂道を下っていった。」

9月29日（月）**「定期演奏会」** 京都会館第2ホール　午後7時開演

指揮　伊吹新一

曲目　Ⅰ．ウィンナ　ワルツ　　作曲　ヨハン　シュトラウス

ピアノ伴奏　広津英子

1. ウィーンの森の物語　　堀内敬三作詩
小松平五郎編曲

2. 美しく碧きドナウ　　津川主一訳詩・編曲

Ⅱ．わたしの願い　　高野喜久雄作詩　　高田三郎作曲

ピアノ伴奏　花原やよい

1. いまわたしがほしいのは　　2. 雲雀にかわれ

Ⅲ．ラテン音楽　　水野汀子邦語訳　　末次寛八編曲

エレクトーン伴奏　高橋一男

1. 水晶の鐘　2. タブー　3. 唯一度の
4. カチータ

Ⅳ．磯部俶女声合唱曲集　　ピアノ伴奏　花原やよい

1. 時無草　室生犀星詩　　2. 貝殻　三好達治詩
3. 朝の讃歌　東条豊詩　　4. 犀川　室生犀星詩

Ⅴ．Missa Solemnis B-dur (Heilig Messe) F.J.Haydn

ピアノ伴奏　花原やよい

独唱　ソプラノ　　牛丸玲子
メゾソプラノ　　小室彰子
アルト　　荒田喜子
テノール　　尾形光雄
バリトン　　牛丸紘一
バス　　佐々木日出夫

1. Kyrie　2. Gloria　3. Credo
4. Sanctus　5. Benedictus　6. Agnus Dei

日誌抄「この日午後3時30分よりステージ練習に入る。“私の願い”練習にてテノールに一拍早く出る一人あり。指揮者は繰返し練習をするも再度同一人が誤りを犯す。指揮者は指揮台を蹴って怒声を発し罵倒するに至る。演奏直前に至って思いがけぬハプニングに消沈しようとする思いを鞭打ち気迫を新たにして、幸に難なくステージを終る。」

伊吹新一は京都混声の元団員であり熱意をもって団の育成に全力を傾けていたが、昭和41年1月指揮者就任の挨拶で＜一年毎にお互の意志により継続か否かを話合って無理のないように＞という約束があった。今年もまた演奏会後の反省と共に指揮者について団員内部の意見交換が行われた。しかし今回は伊吹を継続して指揮者とすることが容易にまとまらなかった。

演奏会を前にしてゲネプロで指揮者に罵声をあげさせたことに対する団全員の反省と贖罪の意味で、しばらく指揮者なしで実力を蓄積し、指揮者を迎えるにふさわしい自立と自覚の見通しを得てから、再度伊吹を迎えようという結論に達した。

演奏会後４回の練習日を犠牲にして団の自主性と指揮者問題など討論し、10月24日夜10時を過ぎてから伊吹の自宅を訪ね指揮者をお断りする旨の釈明をすることになった。使者は委員長林田靖子（S）、委員谷口勝彦（T）、年輩の故をもって金子清明（T）が行くことになった。釈然としない伊吹との長時間の対談に使者三名は脂汗をかく思いで釈明に努めたという。

以後牛丸紘一を指揮者として先ずコールユーブンゲンから基礎づくりをすることになり、やがて年末のクリスマスキャロリングを迎えることになる。

10月31日（金）　聖ヨハネ教会　　指揮　牛丸紘一

練習曲目　コールユーブンゲンⅢ．No.1　No.51

日誌抄「長かった反省会、未来像を議論して数週間過ぎてしまった。今日は久しぶりの声出しで複雑な気持。理想と現実の隔りを思えば情なくて涙が出る思いである。今まで話して来たことが重荷になっているのか今夜の練習は何となく重苦しく張りがない。我々自身で決めたことでありながら、言うは易く実行は容易でない。生まれ変わった気持になって今まで以上の覇気と努力をもって奮い立たねばならない。」

12月24日（水）　クリスマス　キャロル

指揮　牛丸紘一　　曲目　聖しこの夜　他キャロリング集より

日誌抄「いいイブだった。第二日赤をはじめとして、何処へ行っても歌うことの充実感に満たされて何べんか涙の出るような感激を覚えた。私事ですが、伊吹先生がやめられた時、僕も京混をやめるつもりでいました。でも今日のキャロリングですっかり決心がつきました。京都混声でいつまでも歌っていきたい。と――。」

Ⅵ．確立期　〝神韻の煌めきに似て〟

昭和45年（1970）――昭和49年（1974）

指揮者　青山政雄

昭和45年(1970)

１月９日（金）　指揮者交代の経緯

初練習の途中休憩の時間に谷口勝彦委員長より、次の指揮者に青山政雄先生を迎えることになったと報告あり。10月の演奏会を終って４回に亘る論議検討の結果、深く自己反省して自立再起の充足を得てから指揮者を迎える事が約束され、当分は団員牛丸紘一を指揮者とすることになっていた。

そしてその目的達成の後には再び伊吹新一を迎えるとの予想も含めて、一応伊吹新一に指揮者を辞退してもらった。事後処理については拡大委員会を組織してこれを信頼し、善処方を任すこととした。然るにわずか２か月余にして何ら申合せを具体化する実績もなくして、突然指揮者の推薦があった事に団員の唖然たる思いは拭い難いものがあった。谷口委員長の説明は「拡大委員会で次期指揮者の件は委員会に一任された」とのみ語られて経緯の詳細は質問があっても至極朦朧としたものであった。

その外、委員会や拡大委員会の運営が少数独裁的であって不明朗の感を免れ難く、団員の自己批判による甦生自立の立証もなく、しかも短期間のうちに新指揮者を迎えることの不条理追求の声が多かったが、驚きのうちにも現時点での応急措置として止むを得ないとする者もあり、委員会案は強行される形となった。青山先生を迎え入れる事に不服の者はなかったが新指揮者を受入れる態勢の不備を気遣う声が多かった。

日誌抄「谷口委員長から＜次期指揮者がきまりました＞ の一声に一同ポカ

ン、キョトン、ツーン。(中略) 誰に振って戴くにしても、体質改善の具体策がなければ同じ事が二度三度起るだけだ。自分を含めてしっかりしなくては、とつくづく思う。」

1月15日（木）成人の日　例年の通り新年ニコニコ大会を出町西円寺にて催す。

2月6日（金）　場所　聖ヨハネ教会　　指揮　牛丸紘一

練習曲目　マドリガル

日誌抄　「思いがけない事に藤堂顕一郎先生が練習場に来られ拍手をもって迎える＜懐しくなったのでのぞいてみた＞とのお話。雑談や昔話の中で＜合唱コンクールが朝日新聞から離れたので今後の方針を考えねばならない。＞などのニュースもお話になっていた。」

3月6日（金）**＜後期青山時代の発足＞**

場所　聖ヨハネ教会　　指揮　青山政雄

練習曲目　フォーレ曲“レクイエム”

指揮者交代について紛糾すること4か月――今日から再度、青山政雄を指揮者として迎えることになった。青山は“わらび座”を辞して京都に帰り再び京都混声と結ばれることとなった。京都混声の後期青山時代の発足である。そして最初に取り上げた曲が、かつて森本芳雄指揮によって関西初演を成功させたフォーレの“レクイエム”であった。

5月31日（日）**「第7回　京都合唱祭」**　京都会館第1ホール

午前10時――午後5時

主催　　京都合唱連盟　京都市　朝日新聞京都支局

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

鳥の歌……ジャヌカン作曲

当日の出場46団体あり、京都混声は第46番目にステージに上る。出場者33名。青山政雄再起の第1回目のステージとなる。　　午前の部の終りに“EDELWEISS”の全員合唱あり、ついで京都合唱連盟より連続出場の表

彰により、他の団体と共に京都混声も表彰を受ける。終了後京都会館別館2階にて懇親会開催。

9月26日（土）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール　　午後7時

指揮　　青山政雄　　ピアノ　　田中美鈴

管弦楽　　京都フィルハーモニーオーケストラ

曲目　Ⅰ，マドリガルとシャンソン

1. たのしく　うたいましょう（H，ウェルラント曲）
2. たのしい　うれしい　あの日（J，グウラント曲）
3. 鳥の歌　　（C，ジャヌカン曲）

Ⅱ，わらべうたと民謡（青山政雄採譜）

1. 草とりうた……京都八瀬
2. かぞえうた……京都福知山
3. うえみれば……秋田　　あられやこんこん……秋田

とんびとんび……秋田

4. かんちょろりん……福島
5. 米とぎ唄……秋田
6. 酒造り唄……秋田
7. 子守り唄……秋田
8. ひでこ節……秋田
9. 長者の山……秋田

Ⅲ，「レクイエム」　J.フォーレ作曲　Op.48

1. 入祭頌と主よ憐みたまえ（Introit et Kyrie）
2. 奉献頌（Offertory）
3. 聖なるかな（Sanctus）
4. 主イエスよ（Pie Jesu）
5. 神羊頌（Agnus Dei）
6. 解き放ち給え（Libera me）

7. 天国にて（In paradisum）

独唱　ソプラノ　浅尾多恵　　バリトン　植田治男

10月10日（土）**「秋の京都合唱祭」**

会場　京都会館第２ホール　午後１時―― ５時

主催　京都合唱連盟　京都市

指揮　青山政雄　　伴奏　京都フィルハーモニーオーケストラ

曲目　八瀬の草取り唄　　京都民謡（採譜編曲　青山政雄）

参加16団体中、16番目に出場。出場者50名。

12月21日（月）**「第九交響曲の夕べ」**　　大阪フェスティバル　ホール

主催　京都コンサート協会　　梶本音楽事務所

指揮　渡辺暁雄　　管弦楽　京都市交響楽団

独唱　ソプラノ　砂原美智子　　アルト　佐々木成子

テノール　森　敏孝　　バリトン　平野　忠彦

合唱指揮　佐藤功太郎

合唱　京都市立芸術大学音楽学部合唱団

京都市民第９合唱団

Ⅰ．序曲「レオノーレ」第３番　作品72―a　L.V.ベートーヴェン

Ⅱ．交響曲　第９番　ニ短調　作品125「合唱つき」

L.V.ベートーヴェン

例年のように今年も京都市民第９合唱団に、京都混声より有志多数参加して第９に協力する。但し23日（水）の京都会館第１ホールの“第９交響曲の夕べ”には、京都混声の“クリスマス オラトリオ演奏会”のため不参加となる。

12月23日（水）**「第１回クリスマス　オラトリオ演奏会」**

京都府立文化芸術会館　午後７時

1.「クリスマス　オラトリオ」　　J.S.バッハ作曲

第１部　クリスマス第１日に

第２部　クリスマス第２日に

指揮　青山政雄

ソプラノ　浅尾多恵　　アルト　小室彰子

テナー　菊池勝哉　　バス　植田治男

オーケストラ伴奏　京都フィルハーモニー

2.「カンタータ」51　　J.S.バッハ作曲

――すべての地において神を歓呼せよ――

指揮　青山政雄　ソプラノソロ　浅尾多恵

オーケストラ伴奏　京都フィルハーモニー

3.「クリスマス　キャロル集」

指揮　青山政雄

きよしこのよる　　もろびとこぞりて

あゝベツレヘムよ　　あらののはてに

まきびとひつじを　　あめにはさかえ

あめなるかみには　　エンジェルスソング

クリスマス　オラトリオ演奏会のため本年のクリスマス　キャロルは中止となる。

昭和46年(1971)

１月15日（金）　成人の日　新年ニコニコ大会を梨木神社にて催す。

５月30日（日）　**「第８回京都合唱祭」**　　京都会館第１ホール

午前10時30分―― 午後６時

主催　京都合唱連盟　京都市　朝日新聞京都支局

京都混声合唱団　指揮　青山政雄　　伴奏　田中美鈴

マドリガル……A.シルベセトル作詩　　北原直彦訳

G.フォーレ作曲

当日の出場47団体あり、京都混声は第４番目にステージに上る。出場者

35名。

6月21日（月）**「定期演奏会」**　京都会館第2ホール

午後7時開演　300円

指揮　青山政雄

ソプラノ　瀬野光子　　アルト　　小室彰子

テノール　菊池勝哉　　バリトン　牛丸紘一

ピアノ伴奏　田中美鈴

管弦楽　京都フィルハーモニーオーケストラ

Ⅰ．混声合唱組曲「筑後川」　丸山豊作詩　団伊玖磨作曲

1. みなかみ　　2. ダムにて　　3. 銀の魚

4. 川の祭　　5. 河口

Ⅱ．NHK「みんなの歌」より

1. お祭り――ドイツ民謡
2. ドナドナ――フォークソング
3. ミッシェルおばさん――フォークソング
4. 春は呼んでいる――ポーランド民謡
5. 五匹の蛙――いずみたく作曲
6. ともしび――ロシヤ民謡
7. ふるさとの空は――ハンガリー民謡

Ⅲ．Vesperae Solennes de confessore　(KV－339)

（信仰告白者の祝日の荘厳晩課）W.A.Mozart作曲

1. Dixit(天主わが主にのり給え）C-dur
2. Confitebor（我心を尽して主を祝いまつらん）Es-dur
3. Beatus vir（主のしもべよ畏む者は幸なり）C-dur
4. Laudate　pueri（主のしもべよ頌めまつれ）D-moll
5. Laudate Dominum（くにたみよ　主をたゝえよ）
6. Magnificat（聖母マリア讃歌）C-dur

11月14日（日）「第Ⅲ回京都府医師会コンサート」賛助出演

会場　京都府医師会館大ホール　午後1時～午後5時

主催　京都府医師会　　日本医家芸術クラブ京都支部

混声合唱　　京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　ピアノ伴奏　田中美鈴

組曲「筑後川」　　作詩　丸山豊　　作曲　団伊玖磨

プログラム19曲の中、京都混声は第17番目に出場。

医師会関係者には小山弘（B）浜孝洋（B）牧野ツルエ（S）荒田喜子（A）などがあり、要請に応じて賛助出演することにしている。この日の出場者35名。

12月15日（水）**「第2回クリスマス　オラトリオ演奏会」**

会場　京都府立文化芸術会館　　午後7時開演

指揮　青山政雄

ソプラノ　浅尾多恵　　アルト　穴沢源子

テナー　　菊池勝哉　　バス　　石崎宏男

エレクトーン伴奏　田中美鈴

管弦楽　京都フィルハーモニーオーケストラ

Ⅰ．クリスマス　オラトリオ　　J.S.バッハ作曲

第1部　クリスマス第1日に（抜粋）

1. コーラス　4. アリア（アルト）
5. コラール　9. コラール

第2部　クリスマス第2日に（抜粋）

10. シンフォニア（羊飼いの音楽）
17. コラール　23. コラール

第3部　クリスマス第3日に（全曲）

24. コーラス　25. レシタティーヴォ（テノール）
26. コーラス　27. レシタティーヴォ（バス）

28. コラール　29, デュエット（ソプラノとバス）
30. レシタティーヴォ（テノール）
31. アリア（アルト）
32. レシタティーヴォ（アルト）
33. コラール　34. レシタティーヴォ（テノール）
35. コラール

第4部　新年割礼祭に（全曲）

36. コーラス　37. レシタティーヴォ（テノール）
38. レシタティーヴォとアリオーソ（ソプラノとバス）
39. アリア（ソプラノとエコー）
40. デュエット（ソプラノとバス）
41. アリア（テノール）　42. コラール

Ⅱ. クリスマス聖歌　――キャロルと讃美歌――

きよしこの夜	コベントリーキャロル
ベツレヘムの光	声高く
もろ人こぞりて	Lo, How a Rose
ゴールデン　キャロル	あらののはてに
Deck　the Hall	エンジェルスソング
きよきみ子イエス	

出場者40名。

昨年末に“クリスマス　オラトリオ”第1部、第2部を全曲演奏し、今回第3部、第4部を全曲演奏し、明年第5部第6部を引続き演奏して完結の予定。交通事情によりクリスマス　キャンドルサービスのバス運行に支障がある為、バスによる巡行を中止してこの演奏会に代え、一応の成功を収めたことは幸であった。

昭和47年（1972）

1月9日（日）新年ニコニコ大会例年のごとく楽しく催す。

5月28日（日）**「第9回　京都合唱祭」**　京都会館第1ホール

午前10時30分―午後5時

主催　京都合唱連盟・京都市

朝日新聞京都支局

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

マドリガル　マリニヤンの戦い

C.Janneguin作曲

吉田隆子訳詞

当日の出場45団体あり、京都混声は第43番目にステージに上る。出場者40名。

6月22日（木）昭和50年は京都混声創立50年に当るため、京都混声懐古の話題収集と、記念行事の一環として、創立当時の団員であった先生方に集まっていただき、現団員の代表たちと懇談の席を設けた。（当日の座談については昭和5年<草創期への追懐>参照。）

7月11日（火）**「定期演奏会」**　京都会館第1ホール　午後7時

指揮　青山政雄

ソプラノ　浅尾多恵　　アルト　小室彰子

テノール　菊池勝哉　　バ　ス　石崎宏男

管弦楽　京都フィルハーモニーオーケストラ

Ⅰ. シャンソン ……ジャヌカン作曲

1. 鳥の声　2. あのころ　3. マリニャンの戦い

Ⅱ. 奈良混声合唱団賛助出演……　指　揮　池田光政

“山田耕筰作品集”

からたちの花	かやの木山	あわて床屋
風　鈴	青い小鳥	母のこえ

すかんぽの咲く頃　　待ちぼうけ　　夕焼雲

この道

Ⅲ. Messe　C-dur Op.86,　L.V.Beethoven

1. Kyrie（主よ憐み給え）C-dur
2. Gloria（天に在りて主にみ栄えあれ）C-dur
3. Credo （吾は唯一の天主を信ず）C-dur
4. Sanctus （聖なるかな）A-dur
5. Agnus Dei（世の罪を除き給う天主の子羊）C-moll

Ⅳ. 京都混声・奈良混声合同演奏

ハレルヤ　コーラス

オラトリオ“メサイヤ”より　　G,F.ヘンデル作曲

11月９日（木）京都市文化団体懇話会賞受賞

京都市文化団体懇話会（以下文団懇と略称）は昭和34年に発足。（注：昭和55年「京都市芸術文化協議会」と改称。昭和56年「京都市芸術文化協会」となる。）

本年11月９日都ホテルにおいて文団懇のパーティーが開かれ、その席上京都混声と女流京花会が本年度の「文団懇賞」を受賞の栄誉に浴した。

11月18日（土）心身障害者の為に「アイリッシュハープと混声合唱の夕べ」賛助出演。会場　聖ヨハネ教会（詳細不明）

11月19日（日）**「奈良混声合唱団第22回定期演奏会」**賛助出演

会場　奈良文化会館大ホール　入場料 300 円

Ⅱ. フォーレ作品集

マドリガル

「レクイエム」より　　タントム　エルゴ　リベラメ

指揮　青山政雄

Ⅴ. 合同演奏　ヘンデル「メサイヤ」より

ハレルヤ　　指揮　地主忠雄　　伴奏　村田明里

＜クリスマス　オラトリオ演奏会中止＞

一昨年から続けてきたクリスマス　オラトリオ演奏会の第３回を12月開催に決定し、勤労会館の予約も取り、チケットの販売も順調に進み、演奏会に向けての練習も順調に運んで万事手順が整って演奏会当日を待つばかりの態勢であった。従来伴奏を依頼していた京都フィルハーモニーとは暗黙のうちに例年通りの伴奏が得られるものと渉外係も安易に構えていた。然し京都フィルハーモニーは先般プロ団体に移行し、規約を整備して自主自立の活動形態を確立するようになっていることを知らなかった。京都混声から正式に京都フィルハーモニーに接渉を持った時には前年までの内部的協調の姿勢と異なり、規約に基づく形式的事務的処理にしか応じないという京都フィルハーモニーの新組織に合致せず、出演は不成立という思いがけない暗礁に直面することになった。然し演奏会開催のためには京都フィルハーモニーの伴奏を必須要件としてきた京都混声は何としても京都フィルハーモニーを説得し契約を取り付けねばならぬため、高野保、牛丸紘一、谷口勝彦の委員を派遣し、京都フィルハーモニーの後を追って演奏先を訪ね、その善処を懇請したが、すでに京都混声演奏会当日は他のスケジュールによって埋められていた。

京都混声では思いがけない状況に対処すべく全員討議を幾度となく重ねた結果ついに今年のクリスマス　オラトリオは中止、販売したチケットは回収払い戻し、会場及びソリストは解約するなど京都混声の歴史の上に未だかつてなかった醜状と大きな損失を被る結末となった。

当面の責任者であった広瀬茂も厳しく自己反省と悔悟の念を表明し、毎週の全員討議は＜雨降って地固まる＞べき方向への善処と努力を如何に進めるべきかについての苦心の討議を重ねながら拭いきれぬ混迷のうちにこの歳を送ることとなった。

昭和48年（1973）

クリスマス　オラトリオ演奏会中止の衝撃は容易に癒え難く、新しい年に向かって如何に再起すべきかの課題に対して前年に引き続き真摯な検討を続けていった。特に失態に直面した委員組織の改革、常任委員制度の設置など京都混声の根本からの組織改変のことなども議に上り、関係当事者らの討議は深夜に及ぶこともあった。

紆余曲折ののち取りあえず新生京都混声の団結と進展を期して練習に取りかかることになった。

広瀬茂は戦後の京都混声再起の先頭に立って献身した功労者であり、その後の京都混声の充実と隆昌への柱石となって努力を惜しまない貴重な人材であった。しかし今回の思いがけない蹉跌からついに京都混声を遠去かるようになり、再三翻意を促したのであるがついに休団の止むなきに至ったことは遺憾なことであった。

5月27日（日）**「第10回記念京都合唱祭」**　京都会館第１ホール

午前10時半――午後5時

主催　　京都合唱連盟　京都市　朝日新聞京都支局

後援　　社団法人全日本合唱連盟

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

Gaudent in coelis　　Victoria曲

Vere languores

京都混声は10回連続出場団体として、他の10団体と共に表彰を受ける。

当日の出場団体45あり、京都混声は第43番目に登場。出場者35名。

7月1日（日）**「奈良混声合唱団第23回定期演奏会」**賛助出演

会場　奈良県文化会館大ホール　　午後1時　　¥ 300

Ⅱ．京都混声賛助出演

「15Motetten」より　　Victoria　作曲

1. Vere languores

2. Gaudent in colis

3. O magnum mysterium

指揮　牛丸紘一

Ⅴ．合同演奏　歌劇「タンホイザー」第２幕より

芸術と平和の殿堂　　R.Wagner 作曲

指揮　地主忠雄

伴奏　村田明里

11月12日（月）**「定期演奏会」**　京都会館第２ホール

午後７時開演

Ⅰ．混声合唱組曲「焔の歌」　作詞　藪田義雄　作曲　清水　脩

プロローグ　　焔の歌Ⅰ　　焔の歌Ⅱ　　火の山

指揮　青山政雄　伴奏　田中美鈴

Ⅱ．“15のモテット集”より　　作曲　L.da　Victoria

Vere languores

Sancta Maria

Gaudent in coelis

O magnum mysterium

Ⅲ．「奈良混声合唱団」賛助出演

混声合唱組曲「心の四季」より

作曲　高田三郎　作詞　吉野　弘

風が　　みずすまし　　雪の日に　　真昼の星

指揮　池田光政　伴奏　村田明里

Ⅳ．Missa Solemnis in C　　―k.337―

作曲　W.A.Mozart

Kyrie　Gloria　Credo　Sanctus　Benedictus

Agnus　Dei

指揮　青山政雄　伴奏　田中美鈴

Ⅴ．合同演奏

歌劇“タンホイザー”第２幕より　　作曲　R.Wagner

芸術と平和の殿堂

指揮　青山政雄　伴奏　田中美鈴

11月18日（日）「第５回医師会コンサート」賛助出演

会場　京都府医師会館大ホール　　正午開演

主催　京都府医師会　京都医家芸術クラブ　入場無料

混声合唱組曲“焔の歌”より　清水脩作曲　藪田義雄作詞

指揮　青山政雄　ピアノ　田中美鈴

プログラム17曲中出演順位第15番・出場者35名。

医師会関係団員　Ｓ．牧野ツルエ（会員）Ａ．荒田喜子（家族）

Ｂ．小山　弘（会員）　Ｂ．吉田孝洋（家族）

12月17日（月）**「第九交響曲の夕べ」**

大阪フェスティバルホール　　午後７時

主催　大阪コンサート協会

L.v. ベートーベン曲　「エグモント序曲」　作品84

L.v. ベートーベン曲　交響曲　第９番　ニ短調　作品125

（合唱つき）

指　揮　山田一雄

管弦楽　京都市交響楽団

ソプラノ　小池容子　　アルト　石光佐千子

テノール　田口興輔　　バリトン　木村俊光

合　唱　京都合唱連盟（京都混声有志参加出演）

京都市立芸術大学音楽学部合唱団

合唱指導　植田治男

12月19日（水）**「第九交響曲の夕べ」**

京都会館第１ホール　　午後７時

主催　京都コンサート協会

プログラム及び演奏者はすべて17日に同じ。

昭和49年（1974）

２月７日（木）委員会を開き本年度の方針を決定する。（１）明年の50年記念演奏会に向けて団員の獲得、充実、向上に全員努力すること。（２）指揮者青山政雄は九州大谷短大教授として毎週出講のため副指揮者を制度化し、牛丸紘一を副指揮者とする。（３）ピアノを購入し団の資産とする。（４）指揮者の謝礼を増額し１万５千円とする。（５）団員の会費を１月に逆上って月額600 円に値上げする。

５月26日（日）**「第11回京都合唱祭」**　　京都会館第１ホール

午前10時――午後６時

主催　京都府合唱連盟　京都市　朝日新聞京都支局

後援　社団法人全日本合唱連盟

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

曲目　Tantum ergo　　G.Faure 作曲

Tristis est anima mea　F.Poulenc 作曲

当日の出演47団体のうち、京都混声は第22番目に出場。出場者35名。

７月　創立50年（明年）記念準備委員会発足。当分の間委員会代行とする。

上村けい先生の提唱により創立50年記念祝典歌の制作を決定し、作詞を大阪市立大学教授小島憲之博士に、作曲を青山政雄に依頼することに決める。

７月７日（日）**「奈良混声合唱団第24回定期演奏会」**賛助出演

奈良県文化会館大ホール　　午後１時

Ⅱ．賛助出演　京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

伴奏　田中美鈴

組曲　「白い世界」より　助川敏弥作曲

1. 雪原　2. 雪山　3. 冬を送る

Ⅳ. 合同演奏　オペラ合唱曲　指揮　地主忠雄

伴奏　高橋明里

1. 「自由の射手」より　花環の歌

ウェーバー作曲　津川主一訳詞

2. 「自由の射手」より　猟人の合唱

ウェーバー作曲　津川主一訳詞

3. 「イゴール公」より　ダッタン人の舞曲と合唱

ボロディン作曲　津川主一訳詞

10月29日（火）**「定期演奏会」**　大谷ホール　午後7時より

Ⅰ. 混声合唱のための 組曲 “白い世界”

助川敏弥作曲　永井　浩作詞

指揮　青山政雄　伴奏　田中美鈴

Ⅱ, 賛助出演　奈良混声合唱団

混声合唱のための組曲　“蔵王”より

佐藤　真作曲　尾崎磋瑛子作詞

（1）蔵王讃歌　（2）投げようリンゴを

（3）苔の花　（4）どっこ沼

指揮　地主忠雄　伴奏　高橋明里

Ⅲ. 合同演奏

歌劇 “売られた花嫁” 第1幕より　B.Smetana 作曲

ポルカ　花はうるわしく

指揮　青山政雄　伴奏　田中美鈴

Ⅳ. “レクイエム”　M. デュルフレ作曲

指揮　青山政雄　オルガン　田中美鈴

アンサンブル　ドウ　デュルフレ

Ms. 武曽節子　Br, 次田和彦

1. Introit　2. Kyrie　3. Domine Jesu Christe

4. Sanctus　5. Pie Jesu　6. Agnus Dei

7. Lux eterna　8. Libera me　9. In Paradisum

11月17日（日）「第6回医師会コンサート」賛助出演

京都府医師会館大ホール　午後1時より

主催　京都府医師会　京都医家芸術クラブ

混声合唱　“ロシア民謡”より　京都混声合唱団

指揮　青山政雄

出場数40名。プログラム19曲のうち出演順位第16番目。

医師会関係者　S. 牧野ツルヱ（会員）　B. 小山　弘（会員）

A. 荒田　喜子（家族）　B. 吉田孝洋（家族）

11月　旧団員であり、京響のマネージャーであった北川久雄氏より京都会館サービスセンター志牟田専務理事を紹介され、50年記念演奏会の援助を依頼すると共に京響との接触を保つ。

12月20日（金）クリスマス　キャロル

日誌抄「白梅町の整肢園に午後6時30分集合。病棟を廻って身体障害児に歌を捧げ、喜びの声を後にして、第二日赤に行き、各病舎を歌い巡って慰問する。」

Ⅶ.隆盛期 〝合唱と管弦の高鳴りを〟

昭和50年(1975)――昭和60年(1985)

指揮者　青山政雄　F.ヴェルニッツィ(客演)
　　小泉和裕(客演)

昭和50年(1975)

昭和元年に呱々の声をあげた京都混声は半世紀の歩みの結集として記念行事を計画することとなった。先ず発表会の曲目はモーツァルトの「レクイエム」に決定して京都市交響楽団の協賛と一流独唱陣の協力を得ることになり、その主軸を決定して団員の結束を堅くし、その他の記念行事への取り組みを具体化していった。

4月19日（土）〝京都新聞〟所報抜粋「京都で最も伝統を誇る京都混声合唱団が創立50周年を迎えて今秋、京都市交響楽団の協力で記念演奏会の開催や、半世紀の歩みをまとめた＜京混団史＞編さんの計画をすすめている。

京都混声合唱団の誕生は1926年にさかのぼる。当時の東京音楽学校（現東京芸大音楽学部）の同窓会員で、京都にいた吉田恒三、柳兼子（民芸運動創始者柳宗悦夫人）らによって発案され、上村けい（京女大名誉教授）ら約30余人が参加して結成。第一回演奏会は昭和2年11月19日同志社公会堂で開かれている。

当時音楽団体としては専門の声楽家がそろっていただけに水準が高く、文化都市京都の象徴的存在としての注目を集めたほど。（中略）半世紀の歩みのうちで、ただ一度、戦争の激化で昭和19年に一時活動を休止したことがあるが、終戦とともにいち早く再開して今日に至っている。

特に同合唱団では創設以来、グレゴリオ以降の荘厳な宗教曲を選曲の中心にしており、レパートリーではバッハの〝マタイ受難曲〟〝クリスマス

オラトリオ〃をはじめ、ハスラー、モーツァルト、ベートーベン、ハイドンなどのミサ曲、昭和26年にはフオーレの〝レクイエム〃（関西初演）などと多彩。今秋、10月10日に京都会館第１ホールで予定の京響との記念演奏会でも、同合唱団の青山政雄指揮でモーツァルトの〝レクイエム〃(ほかにロシア民謡）を予定している。（以下略)」

秋の記念演奏会に先立って記念行事の一つとしてＬＰレコード＜**ロシヤ民謡**＞を２月25日テイチクより発売。

４月23日（水）〝毎日新聞〟京都文化欄　抜粋「還暦を過ぎたお年寄りから高校生まで、さまざまな職業を持つ人たち60人が週１回集まり、楽しいコーラスのひとときを過しているアマチュア合唱団の京都混声合唱団が、創立50年を記念してＬＰレコードを吹き込んだ。４チャンネルステレオ盤〝合唱・ロシア民謡〃（テイチク　2,500円）

京都混声合唱団は、昭和元年同声会の会員を中心に結成された。(中略）指揮者も近藤義次、森本芳雄、エフゲン・クレーン、竹内平吉、朝比奈隆らを迎え、たゆみなき活動を続けてきた。（中略）

今回吹き込んだレコードは、Ａ面が〝ともしび〃〝赤いサラファン〃〝カチューシャ〃など６曲。Ｂ面が〝ポルシュカ　ポーレ〃〝バイカル湖のほとり〃〝囚人の歌〃〝モスクワ郊外の夕べ〃など６曲。（下略)」

５月10日（土）11日（日）春の合宿練習

琵琶湖畔の佳景の地、唐崎メリノールハウスに10日（土）午後３時集合。11日（日）午後４時30分解散。50年記念演奏会曲目に取組む。モーツァルトの〝レクイエム〃〝ロシア民謡〃の外に50年祝典曲として大阪市大教授小島憲之博士に作詩を依頼し（小島瑶子夫人は団員）青山政雄作曲による新曲をも加え、合宿は団員の意欲と熱気に溢れる効用の高い習練の成果を挙げることを得た。２日目の練習後、メリノールハウスの中庭の芝生にてすき焼きの野外懇親会を催し、談笑のうちに結束を確かめ合った。

５月25日（日）**「第12回　京都合唱祭」**　京都会館第１ホール

午前10時――午後６時

主催　京都府合唱連盟　京都市

朝日新聞京都支局

後援　社団法人全日本合唱連盟　入場料　￥300

京都混声合唱団　指揮　牛丸紘一

伴奏　田中美鈴　内海憲子

ともしび　トロイカ…ロシア民謡　青木望編曲

この日参加56団体中、京都混声は38番目に出場。参加者45名。

６月18日（水）〝夕刊京都〟所報抜粋　藤井薫の〝わが町〃欄に＜すばらしいアマチュアたち＞＜ホールには熱気と興奮＞＜みんな生き生きと輝く目＞などの見出しのもとに６段抜きの記事掲載。

「（前略）私はそこの地下ホール（練習場）に入るなり、アッと思った。私が思っていたよりも、すべてがあまりにも堂々としている。そしてすごい迫力がある。そういう力のようなものがホールいっぱいに充満している。（中略）アマチュアというものは要するに、所せんは趣味にすぎず、男女がなんとなく寄って、無統制にダラダラとやっているのでは……というふうなことを思っていたのだが、こういう私の思いは一瞬にして吹っ飛んでしまった。（中略）

けいこが終わってから、京混の人々と一緒に近くのビアホールへ行った。私の前に見るからに上品な長身の紳士がいらっしゃった。〝本業は医者です。しかし私の医院はもう二、三十年も前から、金曜の夜（練習日）だけは絶対に休診ということになっているんです。金曜の夜が楽しくて楽しくて、待ちかねるほどなんです。〃（中略）Ｋさんは理学博士で、京大教養部で地質鉱物学の講師をしていらっしゃる。その他月カ瀬なんとかいう甘党屋さんや亀末広という古い和菓子の老舗の若旦那もみえていた。(中略）

京混は今秋、プロの京都市交響楽団をバックに、創立50年の記念演奏会

を開くという。その日が今から楽しみである。」

7月6日（日）　夏のリクレーション

大曲モーツァルトの〝レクイエム〟演奏に当って団員の増加を計ったので新団員の理解と融和を計るためのリクレーションに比叡山へのハイキングを予定したが、前日が大雨であったので中止して練習場に集まって焼肉パーティを催す。

9月14日（日）15日（月・敬老の日）　秋の合宿練習

春と同じ大津唐崎のメリノールハウスに14日午後集合。強化練習に熱気がこもる。翌日は隣接の同志社ハウスに移って練習に励む。

10月2日（木）〝朝日新聞〟所報抜粋「古い伝統をもつ京都混声合唱団は、ことし創立50年を迎え、10日、京都会館第1ホールで、記念演奏会を開く。（中略）戦時中を除いて、たゆまぬ活動を続けてきた。戦後は関西合唱コンクール一般の部で1位、総合3位に入賞したり、フォーレの〝レクイエム〟を関西初演するなど、活躍した。（中略）現在団員は100余人、高校生から60歳の人まで、幅広い層が参加しており、在籍30年を超す人もいる。結婚して一度は退団した女性で、こどもに手がかからなくなったため復帰した人もいるそうで、団の温かみを感じさせる。（中略）京響と共演にて、京混が本格的オーケストラと共演するのは初めてであり、京響がアマチュア団体の自主公演に出演するのも初めてだという。」

10月3日（金）〝毎日新聞〟所報抜粋「大正15年創立以来、太平洋戦争が激化した昭和19年をのぞき、歌を歌い続けてきたアマチュア合唱団＜京都混声合唱団＞が今年創立50年を迎え、10日の記念演奏会では京都市交響楽団と共演する。アマチュアのコーラスグループの演奏会に京響が参加するのは初めて（中略）戦争の激化とともに男は兵隊に召集されて段々いなくなり、18年7月の定期演奏会が最後の演奏会となった。当時はアメリカ民謡やロシア民謡などは〝ご法度〟でわずかにイタリア、ドイツ民謡が歌えただけ。最後の演奏会も交声曲〝海道東征〟（北原白秋作詞、信時潔作

曲）〝荘厳弥撒（ミサ）曲〟（ベートーベン曲）がプログラムだった。

戦後は早くも20年後半から活動。21年の関西合唱コンクールには一般の部で優勝した。このころは練習会場難で苦労した。物騒な時代だったため、小学校などもなかなか貸してくれず、毎週小学校などを転々としたという。それでも大みそかと正月三が日をのぞき、毎週金曜日の練習は欠かさなかった。

指揮者には森本芳雄、エフゲン・クレイン、近藤義次、竹内平吉、朝比奈隆（現大フイル指揮者）の各氏らを迎え、27年からは現在の青山政雄九州大谷短大教授が指揮に当っている。会員は昭和10年入会という高校の国語の先生が最も古いが、戦前入会の人もかなりあり、職業も学生、学校の先生、サラリーマン、主婦、会社の重役さん、お医者さんと実に多彩である。（下略）」

10月3日（金）〝サンケイ新聞〟所報抜粋「（省前）戦中戦後の2、3年間を除き、毎年秋に演奏会を開いており、こんな息の長い合唱団は全国でも例がない。（中略）戦争へと突入する暗い時代に〝敵国の歌〟であるアメリカ民謡を、ドイツ民謡だとごまかして演奏するなど〝文化的抵抗〟も試みたが、徴兵、徴用のため団員も減り、ついに一時活動を休止。

しかし、終戦直後の20年12月、〝歌〟を求める元メンバーらが集まって早くも再建。翌年には第1回合唱コンクールに出演して優勝した。（中略）

演奏会には、全国から京混ＯＢが支援にかけつけ、終了後は府農協会館で祝賀パーティーを開き30年間京混メンバーとして歌い続けた小山弘さんら四名を表彰する。また、団員の京大講師桂京造さんは＜半世紀も続いた合唱団は世界でもあまり例がないようです。絵画などと違い、京都の音楽文化は東京に比べるとだいぶ立ち遅れており、今後は〝100周年〟を目指し、がんばっていきたい。＞と話している。」

10月10日（金）〝京都新聞〟所報抜粋＜元団員が戦前の貴重な資料保存＞「（省前）50年の歴史を記念して、同団では〝京混団史〟の編さんを計

画。（中略）合唱団の活動を物語る資料の収集を続けてきた。ところが、半世紀の間にはメンバーの流動が激しく、とくに戦争をはさんで初期の資料集めに苦労していたが、このほど第１回演奏会当時のメンバーだった京都市伏見区深草ススハキ町、中村ぬいさん（70）が第１回演奏会のプログラムをはじめ、戦前の演奏活動を示す貴重な資料を保存していることがわかった。

資料の主なものは、プログラム、チラシ、新聞記事などで、第１回のプログラムは和文と独文で“鶯”“春を思う”といった曲目が印刷され、表紙の日付が“一千九百二十七年十一月……„と和数字で書かれている以外は、今日の各種プログラムと変わりないスマートなデザイン。また、昭和４年12月23日に当時の京都市公会堂で開かれた演奏会のチラシには“Ａ２円、Ｂ１円、学生券50銭„といった入場料金なども明記され、ソプラノ、アルトなど各パートのメンバーなども記録されている。

資料を大切に保存していた中村さんは京都女子師範学校を卒業後、京都市内の小学校教諭（注：昔は訓導）をしながら同合唱団に参加していた第１回演奏会以来のメンバー。戦争の激化した昭和18年ごろに退団しており＜最近まで京混の活動を知らず、もう永い間、すっかり解散したと思っていました＞と資料が役に立って大喜び。第２回以来、10年近く指揮者だったソ連のエフゲン　クレーンさんの練習などを思い出しながら＜練習の時はゼスチュアーまじりでしたが、きびしい指導をする人で、こわいと思った印象がいまも残っています。だけど、当時の合唱に対して打ち込む意欲がいまのメンバーにも引きつがれ、50年ものすばらしい歩みになってきたのですね。＞と、演奏会の招待券を手に楽しそうに話していた。（後略）」

10月10日（金）**「創立50周年記念定期演奏会」**

京都会館第１ホール　　午後２時

主催　京都混声合唱団

共催　京都市

後援　京都府合唱連盟

マネージメント　（財）京都会館サービスセンター

料金　S ¥1,600　A ¥1,300　B ¥1,000　（全席指定）

Ⅰ　京都混声合唱団祝典歌　　作詞　小島憲之　　作曲　青山政雄

指揮　青山政雄　　バス　山本禎二

管弦楽　京都市交響楽団

琴伴奏　和田泰子　堀岡やよい

1. 春さり来れば都べに　　さくらやなぎの霞織る
   空の光に暖かく　　こぞりて友よ歌はなむ
2. 秋雲白く静まりて　　天(あめ)の大海(おほみ)の雁(ね)が聲よ
   櫓の音高く響かひて　　われらはともに歌ふなり
3. 幾年月の流れゆき　　ことほぐ今日の足(た)れる日ぞ
   行くさ来るさを思ひつつ　歌びと歌はこだませむ

Ⅱ　ロシア民謡　　編曲　青木　望

指揮　青山政雄　　テノール　菊池勝哉

バス　山本禎二

管弦楽　京都市交響楽団

1. トロイカ　2. ともしび　3. カチューシャ
4. バイカル湖のほとり　5. カリンカ　6. 赤いサラファン
7. 囚人の歌　8. ステン　カラージン
9. ポルシュカ　ポーレ　10. モスクワ郊外の夕べ

Ⅲ　レクイエム　　作曲　W．A．モーツアルト

指揮　青山政雄

ソプラノ　田中千恵子

アルト　森池日佐子

テノール　田原祥一郎

バス　木川田　誠

管弦楽　京都市交響楽団

1. レクイエム　2. ディエス イーレ
3. テューバ ミル　4. レクス トレメンダ
5. レコルダーレ　6. コンフュタテス
7. ラクリモーサ　8. ドミネ イェズ
9. ホステアス　10. サンクトス
11. ベネデクトス　12. アニュス デイ

出演者126名

ソプラノ	牧野ツルエ	佐藤治子	高田　静	奥田美知子
若松信子	古川素子	浅井弘子	地主みち子	萩原日出子
志村世理子	小出政江	滝本文子	川本佳子	杉本礼子
由里啓子	荻野純子	杉本康子	宇津木玲子	粟津　愛
木村淑子	小宮一子	菅野由美子	吉田早利	井上由美子
高野敬子	岡野慶子	平山真理子	藤井　薫	泉　正子
山口陽子	山木政子	石附　敦	古屋陽子	深井恭子
アルト	広瀬泰子	小島瑶子	下田摩耶子	荒田喜子
近藤美津子	川井亘子	山末芙紗子	内海憲子	佐野都志江
辻井千晶	山本雅美	小泉多津江	北川道子	河合淑子
高島倭子	岡田久子	牧志多津子	前田美栄子	森口弓美
吉見とよ子	伊吹美智子	田中美代子	曽根道子	国松遊亀
奥田恵子	森永良子	志波啓子	•宮島俊子	
テノール	広瀬　茂	金子清明	高野　保	中川浩永
谷口勝彦	森脇栄一	石川正己	小梶勝也	佐竹裕幸
小泉幸夫	山本高夫	京島　徹	川添信介	和田一郎
金辻賢次郎	田畑三郎	福野　亮	永野　栄	指方秀雄
澄川健治	山田世也	今野龍彦	香川隆英	松井正男
•牧野晃久				

バス	小山　弘	桂　京造	牛丸紘一	平松利信
吉田孝洋	安達忠良	山本　稔	北川久雄	大渕　覚
熊井伸人	柴田恒雄	田村純夫	小林一郎	下村　肇
永井　滋	折田泰宏	中村和則	小原晴樹	志知　亨
藤井章雄	小松健志	森　茂起	川井陽一	春名哲也
武藤真一	江田拓雄	•前田裕志	•天津　学	•渡部兼治
•荒田利男			•印は特別参加の旧団員	

客演

ソプラノ	秦　祥子	志牟田廸子	沼崎靖子	山田晏子
	長谷川満里	加藤容子		
アルト	藤田ユキ			
バス	岩井　爽	吉田真一		

50周年記念パーティー　10月10日（演奏会後）午後5時30分

会場　農協会館（京都駅八条口南）

1. 開宴の辞　中川浩永委員長
2. 祝　辞　清水千里京都市文化観光局長
   上村けい京都女子大学名誉教授（創設者代表）
3. 経過報告並びに記念事業協力者紹介　小山　弘 実行委員長
   協力者（外部）志牟田幸夫京都会館サービスセンター専務理事
   北川久雄プロデューサー、小島憲之大阪市大教授
   京都市交響楽団
   独唱者　田中千恵子　森池日佐子
   田原祥一郎　木川田　誠
4. 指揮者挨拶　青山政雄
5. 物故団員に黙禱
6. 記念品贈呈　青山政雄（常任指揮者）　田中美鈴（永年伴奏者）
7. 乾　盃　発声　藤堂顕一郎

8. 永年在団者表彰　　広瀬　茂（T）39年　小山　弘（B）36年
金子清明（T）34年　桂　京造（B）28年
広瀬泰子（A）28年

9. 祝電、メッセージ披露

祝電　合唱団京都エコーより「創立50周年おめでとうございます。半世紀におよぶ輝やかしい歴史に団員一同心からの拍手を送るとともに明日からのますますのご活躍をお祈り致します」

同志社学生混声合唱団より「創立50周年記念演奏会おめでとうございます」

西邨辰三郎氏（草創期の旧団員）「ご盛会を心より祈る　浜松にて」

天津　実氏（旧団員）「ご盛会をお祝い申し上げます」

元浜綏子氏（京芸大）より「今日の良き記念演奏会をお祝いいたします　おめでとうございます」

小山千鶴子氏より「京都混声のご盛会を祈ります」

メッセージ　中村仁策氏（神戸中央合唱団指揮者）「創立50年定期演奏会お目出度うございます。かねて皆様の演奏会をじかに拝聴したいと願っておりました。

一と口に50年といってもこれだけの長い歳月を立派な演奏活動を続けて来られた事は全く敬服のほかはありません。実は40年近く昔、私も１年ほど貴合唱団の一ばんすみっこで歌わして頂いておりました。西邨さん（旧姓土方さん）に歌いに来いと引っ張って行かれて。同封のチラシには柳兼子様、藤堂顕一郎様のお姿も写っておりますが、このかたがたの側で一緒に歌わして頂く無上の光栄を体一ぱい感じながら歌わして頂いておりました。当時加藤千恵先生や上村けい先生も居られた事を記憶しております。

私は現在神戸中央合唱団に属しており、10数年前、客演指揮者ニコラルッチさんによってピツェツティの“レクイエムミサ”全曲を歌うことができましたが、この名曲難曲は到底私たちの力で取組むことができない“高嶺の花”を名指揮者ニコラルッチによって及ばずながら歌うことが出来、今でもこの感激は忘れることができず次次とピツェツティの他の作品をむさぼるように歌って居りますが、実は既にそれに先だち、貴合唱団がこのピツェツティの“レクイエム”の冒頭の“レクイエム”を関西合唱コンクールで見事に演奏なさったことは今でも私の頭の中に爽やかに残っております。

10月10日のよき日は生憎くどうしても馳せ参じる事ができないことはほんとに残念、ことにパーティーで懐しい先生方にお目にかかれる絶好のチャンスを逸する事は残念残念の繰返しですが、又後日練習場へでもお邪魔して皆様にご挨拶したいと願っております。

御盛会お目出度うございます。そして今後の御活躍をお祈り申上げます。」

10. 祝宴　　午後５時30分より立食パーティーを開き各界代表者のスピーチや京都楽壇の先輩、旧団員の追懐談などが次々と披露され時の経つのも打ち忘れて華やいだ饗宴の一夕を過し、二次会は地下のレストラン“なべしま”に席を移して夜の更けるまで歓興の尽きぬ賑わいであった。

○招待者

京都市　　清水千里文観局長、井上文化課長
京都会館専務理事　志牟田幸夫氏

報　道　　塚本　樹氏（朝日新聞）、粟飯原隆一氏（京都新聞）
田中さとる氏（近畿放送）

合唱連盟　　吉村信良氏、佐々木日出夫氏、浅井敬壹氏、池田光政氏

演奏会関係者　　鳥居一郎氏、西村順吉氏、八木茂夫氏　（以上京響）
小島憲之氏、青木　望氏、田中千恵子氏、森池日佐子氏
田原祥一郎氏、木川田誠氏、富井　宏氏、和田泰子氏
堀岡やよい氏、田中美鈴氏、芦田陽子氏

京混関係者　　近藤義次氏御夫妻、上村けい氏、藤堂顕一郎氏
香本世志生氏、川端義雄氏、森本芳雄氏夫人
北川久雄氏、北川道子氏、青山政雄氏夫人、北原道彦氏
地主忠雄氏

○旧メンバー出席者

Sop.　鳥海たへ氏、新藤雪子氏、林　正子氏、伊藤美也子氏
野間逸子氏、川勝幸子氏、安藤規子氏、前田滋子氏
牛丸玲子氏
Alt.　中村ぬい氏、小堀八重子氏、増田道子氏、安岡房子氏
高橋清子氏
Ten.　三宅正雄氏、人長清浩氏、葉谷　守氏
Bass.　橋本征園氏、井上　弘氏、　小谷政三氏、小川哲太郎氏

入場券売上枚数	S券	1,046枚
	A券	534枚
	B券	367枚
	計	1,947枚

収支	収入	入場券売上	2,734,800円	支出	3,148,187円
		プログラム	103,200円	（パーティ費を含む）	
		広　告	450,000円		
			3,288,000円		3,148,187円
		差引残高（収益）	139,813円		

10月11日（土）〝朝日新聞〟所報抜粋

＜創立50年記念演奏会お祝いに2000人＞「（省前）〝一般の合唱団で50年も続いたというのは、全国的にも例が少なく、＜京混＞は京都合唱会の誇り〟と吉村信良府合唱連盟理事長はいう。そのお祝いの演奏会というので、2000人の聴衆がつめかけた。（中略）演奏は、この日のために作られた“祝典歌”で始まった。創立時のメンバーの上村けい京都女子大名誉教授も一しょに歌い〝大変な感激です。五十年も若返りました。〟とうれしさいっぱいの様子だった。（中略）演奏が終わって、現役最古参の朱雀高校教諭金子清明さん（60）は＜私は昭和10年に入団しましたが、よくここまでやって来たと感慨無量です。ほんとうにコーラスをやっていてよかった＞と声をはずませた。また、最年少の団員の一人、滋賀大一回生の奥田恵子さん（19）は＜入団して3カ月ですが、いきなりこんないい時にめぐり合わせて幸運です。できたら100年記念の時まで続けたい。＞

団の先輩、藤堂顕一郎府合唱連盟名誉顧問は＜昔の“京混”はロマンチックな感じを出そうとしていたが、このごろはダイナミックになってきて時代の流れを感じる。　私が現役だった戦前には夢物語だったフル オーケストラと共演するまでに育ってくれた。これは50年を通じ団の一人一人が努力した結果だ＞と、現役の人たちの手を固く握っていた。

10月19日（日）〝京都民報〟「（省前）戦時中は18年7月の定期演奏会を最後に中断。戦後は早くも20年の秋から練習が始まり、今年で創立以来

50年目。団員は医師、主婦、会社員、学生などさまざまで、年齢も18歳から64歳まで幅が広いことが特徴。

指揮の青山政雄氏を迎えたのは27年、その後一時中断がありますが、同氏は今日まで18年間もタクトを振り続けてきました。（中略）今年は50年だけに、このほかＬＰレコード“合唱・ロシア民謡”（テイチク2500円）も発売、10日の演奏会めざして演奏活動をもりあげてきました。また、“祝典歌”の作詞者、小島憲之氏（大阪市大文学部教授）の夫人が団員で、家族あげての協力がありました。

とくに京響が外部の指揮者青山氏のタクトのもとで、アマチュアのコーラスグループと演奏会に参加するのは初めてでした。また有名なソリストや、関西オペラの山本禎二氏、京フィルの菊池勝哉氏らがこぞって協力出演したのも特徴の一つ。このほか、京都市が共催して成功に尽力したことも注目されました。

演奏を終って、指揮者青山政雄氏に感想を聞いてみました。＜団員の人たちはみんなまじめで齢を感じさせない若わかしさで一ぱいです。合唱が好きで好きでたまらない人達ばかりです。それが魅力になっていると思います。それと合唱の虫みたいな人たちの集まりですから50年も続いたと思います。

京響も20年前に市民の手でつくられたものですし、私たちも市民のあつまりですから、演奏の呼吸もまったくぴったり一致して大成功をおさめました。このような例は京都だけで、ほかの地方では見られないケースです。（中略）これを機会に毎年一回、できれば京響と合同演奏をしたいです。＞」

10月29日（水）　**京都市文化功労者**に、初めて音楽部門から、京都混声の創設者**上村けい先生**決定。

10月30日（木）　〝京都新聞〟所報「京都市の50年度文化功労者６人が29日決った。11月５日に市役所市長室で表彰を受ける。同市の文化功労者は

学術、芸術など文化の向上に貢献し、すでに国の文化勲章を受けたり、文化功労者に選ばれたことのない人を選ぶことになっている。同制度は43年から始められ、これまでに38人が表彰を受けているが、音楽部門の功労者は今回が初めて。（後略）」その業績については、

「上村けい（本名イサヲ）氏　大正七年東京音楽学校卒業後、京都市小学校音楽科指導員として赴任。京都音楽家クラブの設立や教壇生活など常に第一線で後進の育成につとめ、京都における洋楽界の基礎を築いた。京都市左京区浄土寺南田町。」と簡明に紹介されている。

因みに他の五氏は日本画の猪原大葉氏、浜田観氏、現代漆器の番浦省吾氏、新劇の毛利菊枝氏、茶道の藪内紹智氏であり、その表彰式は11月５日である。

11月30日（日）「第七回医師会コンサート」賛助出演

京都府医師会館大ホール　　正午開演

主催　京都府医師会　京都医家芸術クラブ

合唱「レクイエム」より　フォーレ曲　京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　ピアノ伴奏　田中美鈴

医師会関係者　牧野ツルヱ(S)　荒田喜子(A)　小山　弘(B)　吉田孝洋(B)

当日のプログラム出場22曲のうち、京都混声は第20番目に出場。　49名参加。

12月14日（日）　クリスマスパーティー開催

所　出町　御車会館にて　　時　午後２時――５時まで

食べて、おしゃべりして、アトラクションやゲームを楽しんで、みんなで歌って……嬉しい団欒の夕べでした。

12月19日（金）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後６時白梅町の聖ヨゼフ整肢園に集合。キャンドルの火のゆらぐ列をつくって各病棟病室を廻って歌う。寝たきりの幼児や手足の不自由な少年少女に迎えられ、歌を通じて心の触れ合いを感じ、涙ぐみつつ慰

めの思いをこめて歌う。幼い動かぬ手を振ってサヨナラをしてくれるのに心引かれつつ辞去する。

仲間の自家用車に全員分乗。第二日赤病院に向かう。小山さん、萩原さんを先立てて全館のナースセンター前で歌を捧げる。歩ける患者さんや、車椅子の患者さんに囲まれつつキャンドルサービスの心温まる夜を過す。

戦前、戦中、戦後を通じて広く時間の許す限り先生宅、旧団員宅、病院、施設、音楽関係など、貸切バスでキャンドルサービスに廻り、夜半に及んで十字屋前で歌って解散したものであるが、交通事情の輻輳から大型バスの路上駐車が不便になり、次第に規模を縮少して、昨今では整肢園と、第二日赤病院のみに制限するの止むなきに至った。

昭和51年(1976)

創立51年目の年を迎え、後半世紀への新しい出発点に立つ思いで、意欲に満ちた充実と団結の期待される年に入った。新しい企画の一つとして、団運営の分掌を全員で分担して先ず組織的に自覚と活性化に取り組もうとするものであった。すなわち一応委員は互選するが渉外、庶務、会計、楽譜などの部門を全員が委員に協力して手足のごとく充足していこうとする合理的な姿勢であった。1月に委員の改選が行なわれ、全員それぞれの希望を出して人員と部門を調整し、全役員制の形をとって新しい機構の年を踏み出すことになった。新しい企画の第二にはレコードの制作があった。

6月19日（土）〝朝日新聞〟所報抜粋「昨年創立50年を迎えた京都混声合唱団の記念演奏会の実況盤。京響と共演したモーツアルトの“レクイエム”が収められている。約200枚制作し、団員やOBに配った。<内祝いみたいなもので、外へ出すつもりはなかった>そうで、ジャケットに曲目も印刷されていない。しかし、郷土の伝統ある合唱団の記念盤というので、愛蔵したいという人も少なくない。」

5月30日（日）**「第13回 京都合唱祭」**　京都会館第1ホール

午前10時――午後6時

主催　京都府合唱連盟　京都市

朝日新聞京都支局

後援　社団法人 全日本合唱連盟

京都混声合唱団　　指揮　牛丸紘一

サルベ　レジーナ……プーランク作曲

当日の出場60団体あり、京都混声は第51番目にステージに上る。出場者55名。最多連続13回出場団体として表彰を受ける。

9月14日（火）　京響創立20周年記念**「京響フェスティバル」**

京都会館第1ホール　午後6時30分

主催　京響友の会

共催　京都市　　協力　京都信用金庫

R. ワグナー　楽劇「ニュールンベルクのマイスタージンガー」

前奏曲

L. Van. ベートーベン：交響曲第3番　変ホ長調

作品55「英雄」

J. シベリウス：交響詩「フィンランディア」作品26

J. シュトラウス：皇帝円舞曲　円舞曲「春の声」

G. F. ヘンデル：ハレルヤ　コーラス

（オラトリオ「救世主」から）

指揮　森　正　　管弦楽　京都市交響楽団

曲目の最後の“ハレルヤ　コーラス”に京都府合唱連盟の出演団体として京都混声外一般団体、ママさんコーラス、大学の部など計8団体が合同出演し錦上花を添えることになった。この外当日の参加団体には京都市少年合唱団、京都市民管弦楽団などがあった。

9月25日（土）　26日（日）　秋の合宿練習　　10月20日の定期演奏会の

強化合宿を琵琶畔の同志社ハワイ　ハウス（大津市唐崎）にて行う。

練習曲目　モテット（プーランク曲）、シャンソン

レクイエム（フォーレ曲）、海上の道（団伊玖磨曲）

合宿費用　3,000円（不参加者は 1,000円負担）

10月20日（水）**「定期演奏会」**　京都会館第２ホール

午後７時　¥1,300円（自由席）

指揮　青山政雄

管弦楽　京都市交響楽団

1. 海上の道……作詩　丸山豊　作曲　団伊玖磨

ピアノ　阪田誠康

朝の渚　海の旅人　夜の海　漂着　沖は紺青

2. MOTETS …… 作曲　F. Poulenc

ソプラノ　田中千恵子

Timor et tremor　Vinea mea electa

Tenebrae factae sunt　Tristis est anima mea

3. CHANSON ……編曲　青木望

バリトン　山本禎二

管弦楽　京都市交響楽団

Les feuilles mortes（枯葉）

Hymne á lámour（愛の讃歌）

Sous les toits de Paris（パリの屋根の下）

A Paris dans chaque faubourg（パリ祭）

Sous le ciel de Paris　（パりの空の下）

4. REQUIEM …… 作曲　G. Fauré

ソプラノ　田中千恵子　バリトン　山本禎二

管弦楽　京都市交響楽団

Introit et Kyrie

Offertoire

Sanctus

Pie Jesu

Agnus Dei

Libera me

In paradisum

11月28日（日）「第８回医師会コンサート」賛助出演

と　き　11月28日（日）　正午開演

ところ　京都府医師会館大ホール

主　催　京都府医師会　京都医家芸術クラブ

合唱　シャンソン　枯葉　パリ祭

パリの空の下セーヌは流れる 他。

指揮　青山政雄　ピアノ伴奏　阪田誠康

プログラム18曲中、第15番目に出場。49名参加。

医師会関係者

S. 牧野ツルエ、　A. 荒田喜子、　B. 小山弘、　B. 吉田孝洋。

12月22日（水）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後６時、白梅町の聖ヨゼフ整肢園集合。手足の不自由な幼い子たちの喜ぶ顔、動けない体をベッドに横たえて懸命に拍手しようとする幼児に胸が熱くなる。何人かの自家用車に全員分乗して第二赤十字病院に向う。小山さん萩原さんの案内に従って各階の病舎を廻りクリスマスの歌を捧げる。歩ける患者さんの何人かは合唱団と共に病舎を廻って歌を喜んで下さる。拍手に送られ名残り惜しみつつ歳末の街に出る。」

12月24日（金）　忘年会を綾小路　〝なべしま〟にて例年のごとく行う。会費男子 4,000円、女子 3,500円。

12月26日（日）“マタイ受難曲”の臨時練習を行い本年の打ち上げとする。

昭和52年(1977)

1月7日（金）　初練習に入る。練習曲には1月25日の三条キリスト教会にて歌う“マタイ受難曲”の抜粋を取り上げる。

1月25日（火）「教会統一会議コンサート」出演

カトリック河原町教会にて

曲目　J.S.バッハ作曲　「マタイ受難曲」より

36．アリア　63．コーラス　78．コーラス

5月1日（日）「伯牙会演奏会」有志賛助出演

京都府立文化芸術会館にて　午後3時開催

主催　伯牙会（会主　富小路雅楽女）

曲目　混声合唱曲「日蓮」　宮城道雄作曲　佐野前光作詩

指揮　合田史郎　　独唱　田畑三郎（京都混声団員）

合唱　京都混声合唱団有志　　管絃　伯牙会社中

この日京都混声は27演目の最終ステージを飾る。

5月14日（土）15日（日）　春の合宿練習

南区上鳥羽　京都府青年会館

練習曲目「マタイ受難曲」　参加費　3,500円

14日は14:30練習開始――17:30夕食――18:30練習――21:00自由時間

15日は7:00起床――8:00朝食――9:00練習開始――12:00休憩――

12:30昼食――13:30リクレーション――16:00解散

5月29日（日）**「第14回 京都合唱祭」**

京都会館第1・第2ホール　午前10時――午後5時30分

主催　　京都府合唱連盟　朝日新聞京都支局

後援　　社団法人全日本合唱連盟　京都市

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　　ピアノ　阪田誠康

「Matthäus　Passion」より　Nr.78…… J.S.Bach 曲

当日の出場64団体あり、京都混声は第2ホールにて第11番目にステージに上る。出場者55名。

6月4日（土）第512回土曜コンサート**「合唱の夕べ」**

円山音楽堂にて　　午後6時30分

主催　　京都市

曲目　1．混声合唱（全員）「土曜コンサートの歌」

作詩　中村正男　　作曲　安部幸明

指揮　佐々木日出夫

7．京都混声合唱団　　指揮　青山政雄

「マタイ受難曲」より№36アリア　№78コーラス

10．混声合唱（全員）　　指揮　青山政雄

「筑後川」より“河口”

11．混声合唱（全員）　　指揮　佐々木日出夫

“はるかな友に”

この夕べ、参加団体7、京都混声の外に（括弧内は指揮者）京都教育大学混声合唱団（金光一弥）伏見混声合唱団（高橋稔）同志社リーダー・クランツコール（石橋成之）仏教大学混声合唱団（甲元真寛）京都男声合唱団（佐々木日出夫）京都大学グリークラブ（深田吉彦）などによる納涼の夕べであった。

7月1日（金）“マタイ受難曲”演奏会に向けて貯蓄企画

“マタイ受難曲”上演の経理面からの見通しとして、京響及びソリストその他への謝礼、京都会館第1ホール借用などを見積って450万円 ～ 500万円の支出が見込まれ、団員各自の負担の過重を軽減する手段として、7月より明年3月まで一人1口2,000円ずつを積立てることの成案に賛成を得る。幸に団員小泉幸夫君が銀行員であることに便宜を得て実施することと

なる。

6月26日（日）　青山政雄の還暦をお祝いする会

日誌抄「梨木神社集会場にて午後5時より　会費4,000円。
指揮者青山政雄先生は誕生日5月9日をもって満60才の還暦を迎えられたので京都混声として全員こぞって祝意を表わすこととなり、記念品を贈り祝宴を開く。なお、すでに還暦を過ぎた団員をも招待して喜びを共にすることとなり、牧野ツルエ（S）金子清明（T）広瀬茂（T，休団中）三氏をも祝福し、時間を忘れて楽しい一夕を過す。

9月22日（木）23日（金・祭日）　男声強化合宿

南区上鳥羽　京都府青年会館　参加費4,000円

練習曲目“マタイ受難曲”“第九交響曲”

22日6:30夕食――19:00練習――21:00自由時間

23日9:00練習――12:00解散。

10月29日（土）30日（日）　秋の合宿練習

上京区　光明寺　　参加費4,500円

練習曲目“マタイ受難曲”“第九交響曲”“ロシア民謡”
“クリスマス歌曲”

29日17:30集合――18:00夕食――19:00練習――22:00門限――
23:00消灯

30日7:00起床――7:30朝食――8:30練習――12:00昼食――13:00練習
――18:00解散。

11月22日（火）大阪市民管絃楽団　第10回記念定期演奏会

ベートーヴェン歿後150年記念**「第九シンフォニーの夕べ」**

大阪厚生年金会館大ホール　午後7時

主催　大阪音楽文化協会（大阪音協11月例会）

Ⅰ．ベートーヴェン　歌劇「フィデリオ」序曲　　作品72b

指揮　井村圭吾　　管弦楽　大阪市民管弦楽団

Ⅱ．ベートーヴェン　交響曲　第9番　二短調「合唱」　作品125

第1楽章　アレグロ　マ　ノン　トロッポ　ウン
ポーコ　マエストーソ

第2楽章　モルト　ヴィヴァーチェ

第3楽章　アダージォ　モルト　エ　カンタービレ

第4楽章　プレスト

客演指揮　青山政雄

ソプラノ　井村美代子

メゾソプラノ　高坂幸子

テノール　畑　儀文

バリトン　柿木　功

合　唱　　京都混声合唱団

大阪市民合唱団アイヴィ・コーラス

高槻市第九合唱団

管弦楽　　大阪市民管弦楽団

12月8日（木）　京都市交響楽団特別演奏会

ベートーベン**「第九シンフォニーの夕べ」**

京都会館第1ホール　午後7時

主催　京都市

Ⅰ．辻井英世：アナムネーシス（京都市委嘱作品）

Ⅱ．ベートーベン：交響曲第9ニ短調作品125「合唱つき」

指揮　小泉和裕

ソプラノ　中沢　桂　　アルト　春日成子

テノール　鈴木寛一　バリトン　木村俊光

合唱　京都市立芸術大学音楽学部合唱団

京都混声合唱団　　ベリヨーズカ合唱団

合唱指導　植田治男

12月12日（月）**「京響巡回コンサート」**

京都会館第２ホール　午後７時

主催　京都市　左京区文化協議会

指揮　青山政雄　独唱　山本禎二（バス・関西歌劇団）

合唱　京都混声合唱団　演奏　京都市交響楽団

司会　田中さとる

Ⅰ．ウェーバー：歌劇　魔弾の射手　序曲

Ⅱ．ロシア民謡：モスクワ郊外の夕べ　ともしび

バイカル湖のほとり　ステンカラージン　トロイカ

Ⅲ．チャイコフスキー：組曲　くるみ割り人形

a. 小さい序曲　b. 行進曲　c. コンペイ糖の踊り

d. トレパーク　e. アラビアの踊り　f. 中国の踊り

g. あし笛の踊り　h. 花のワルツ

Ⅳ．クリスマス音楽　聖しこの夜　もろ人こぞりて

まことのおからだ　エンジェルスソング

Ⅴ．ヘンデル：メサイアから「ハレルヤ　コーラス」

12月25日（日）ヴィエール・フィルハーモニック特別演奏会

「ベートーベン第九交響曲＜合唱付＞・ピアノ協奏曲の夕」

京都会館第１ホール　午後６時30分

Ⅰ．ピアノ協奏曲第４番ト長調，作品58　ピアノ　小沢雅世

Ⅱ．第九交響曲＜合唱付＞

指揮　宇宿允人

独唱　ソプラノ　大西多恵子　アルト　山元法子

テノール　竹内光男　バス　中村利男

合唱　京都混声合唱団　大阪コールフィルハーモニー

京都市立芸術大学音楽学部（有志）

神戸山手女子短期大学音楽科

高槻市第九合唱団　神戸大学グリークラブ

管弦楽　ヴィエール・フィルハーモニック

12月30日（金）恒例の忘年会　午後７時から９時まで

綾小路　なべしま　会費　男子 4,500 円　女子 4,000 円

例年のクリスマス　キャロルは第九交響曲の演奏会のために中止の止むなきに至り、歳末忘年会を催す。あわただしい越年の一夜を賑やかに歓を尽くしてこの年を閉じる。

昭和 53 年（1978）

１月６日（金）　初練習　難曲“マタイ受難曲”演奏会まで後５ケ月――全員の奮起と団結を期して心機を新たに新年の出発を迎える。

４月22日（土）　23日（日）両日　合宿練習

上鳥羽　府立青年会館にて　費用 4,000円

練習曲目　バッハ　“マタイ受難曲”

集合22日17:30 ――夕食18:00 ――練習19:00 ――就床 23:00

23日起床 7:00 ――朝食 7:30 ――練習 8:30 ――昼食 12:00 ――練習 13:00 ――終了 16:30

５月21日（日）**「第 15 回　京都合唱祭」**

京都会館第１・第２ホール　10時―17時

主催　京都府合唱連盟　全日本合唱連盟関西支部

朝日新聞京都支局　京都市

京都混声合唱団　指揮　青山政雄　ピアノ　阪田誠康

マタイ受難曲より第35曲…… J.S. バッハ曲

この日参加70団体のうち京都混声は京都会館第１ホールにて第11番目午前の部の終りに演奏。出場者70名。演奏終了後15回連続出場合唱団として表彰状を受ける。15回連続出場団体は他に８団体あり。その他10回連続出場合唱団３団体、５回連続出場合唱団６団体も表彰あり。なお、15回連続

出場個人表彰も行なわれ、表彰者19人中京都混声は表彰者10名あり、小山弘、桂京造、牛丸紘一（以上バス）金子清明（テノール）広瀬泰子、小島瑶子、荒田喜子、川井亘子（以上アルト）牧野ツルエ、佐藤治子（以上ソプラノ）。

5月23日（火）〝京都新聞〟所報抜粋　「京都混声合唱団の定期演奏会が、27日午後6時から京都会館第1ホールで開かれ、バッハの大曲“マタイ受難曲”に取組む。同合唱団の青山政雄指揮、京都市交響楽団、京都市少年合唱団との協演で、独唱も常森寿子、鈴木寛一らトップメンバーによる強力な陣容、地元の一般合唱団のプログラムとしては初めての意欲的選曲として注目されている。（中略）全曲は2部78曲からなり、1部はイエスの受難の予告から捕縛までを描いた第35曲まで、第2部は第36曲〝ああ、いまやわがイエスはいってしまわれた〟にはじまる処刑から埋葬までに分けられている。音楽の形態はオーケストラを伴奏に、レシタティーボ風の朗唱を配した構成で、今回の演奏はもちろんピンカンデルの台詞にもとづくドイツ語のオリジナルで演奏される。独唱には“ミサソレムニス”“オラトリオ”“受難曲”など宗教曲のソロに定評のある鈴木寛一を福音史家（エバンゲリスト）に、日本のソプラノを代表する一人でもある常森寿子をはじめ、地元京都出身の山本禎二や辻宥子、田島好一とトップクラスが顔をそろえる。この独唱陣とともに今回もう一つの話題は、演奏低音部にパイプオルガンを用いている点である。日本ではこれまで、この種の演奏に際して、教会を除く一般のコンサートホールにパイプオルガンの設備のある所がほとんどないため、普通のオルガンやエレクトーンを代用する演奏会が少くない。そこで、今回は客演する津田能人が西独で部品を集めて製作した小型パイプオルガンを運び、この壮大な宗教曲のふん囲気を盛り上げようという。こうした本格的な“マタイ”の演奏会は、最近では昨年3月京響第193回定期以来。ただ京都の単独合唱団主催の定期演奏会では、初の意欲的な選曲（昭和25年に京都府合唱連盟で演奏しているが）。

京都市少年合唱団も昨年、京響の“マタイ”を歌っており、京都混声―市少年合唱団の大合唱がバッハの微妙なポリフオニーにせまるか、大いに期待される。なお、第29曲のバス・アリアなど全曲から8ケ所をカットしている。」

5月27日（土）**「定期演奏会」**　京都会館　第1ホール　午後6時

入場券　1,800円（全自由席）学生券　1,300円

主催　京都混声合唱団　（財）京都会館サービスセンター

後援　京都市　京都府合唱連盟

曲目　ヨハン　セバスティアン　バッハ作曲“マタイ受難曲”

指揮　青山政雄

独唱　テノール　鈴木寛一（福音史家、証人）

バリトン　田島好一（イエス）

バス　山本禎二（ユダ・ペテロ・大司祭・ピラト）

ソプラノ　常森寿子（ピラトの妻・女中A）

アルト　辻　宥子（証人・女中B）

合　唱　京都混声合唱団　京都市少年合唱団

管弦楽　京都市交響楽団

独　奏　バイオリン　尾花清光・西村順吉

フルート　伊藤公一

オーボエ　呉山平煥

イングリッシュホルン　槇和美・駒ケ嶺重成

チェンバロ　田中美鈴

パイプオルガン　津田能人

オルガン　八木萬里子

祝電　「演奏会おめでとうございます。ご盛会をお祈り申上げます」（京都木曜会）「演奏会のご成功を祈ります」（同志社学生混声合唱団）「京混五十四年の歴史の輝やかしき一頁を飾る今日の演奏会のご盛会を祝

し、皆様のご多幸を祈ります」（旧団員高野保）「ご盛会をお祝い申上げます。青山先生の棒を思出しつつレコードで皆様の歌声をしのびます」(旧団員佐藤靖子)

演奏時間約３時間近い大曲であり、その内容は第１部の「序章」より第２部の終り“安息”まで９篇78曲に亘る膨大なドラマ的宗教音楽であり、その音楽的、物語的進展は一般聴衆の理解に必ずしも容易なものではない。京都混声では聴く人の立場を慮り、全曲の内容を物語的叙事的部分と詩的叙情的部分に整理し、その内容を平易な表現に潤色することを意図し、団員金子清明と松本ミサヲとによって全訳国語構成の別冊を作り、プログラムに添付（無料）して曲の全貌把握の便に供した。さらに演奏の進行を表示して解説と曲想の関連を得るためにステージの下手に電気表示板を置き演奏曲の進行順位を感得できるよう配慮した。団員桂京造はこの電気表示板作製に夜を徹して腐心したが、全訳書と表示板を照合しながら演奏を聞く新企画によって、この大曲に新しく理解を深める便宜に恵まれたとの好評を多く寄せられたことは望外の幸というべきであった。

“マタイ受難曲”演奏会精算

収入		支出	
入場券売上	3,713,600	会場使用料その他	549,390
協賛金寄付金	445,000	出演料等演奏関係費	2,155,860
		印刷物関係費	505,140
		マネージメント料手数料等	98,754
		打上げ招待接待費等	239,800
		京都新聞社寄付	50,000
		雑　費	126,022
計	4,158,600	計	3,724,966
		差引残高	433,634

――マタイ受難曲を終って――

日誌抄Ⅰ「本番直前まで、いいえ歌い始めてからも、うまくいくのかしらと心配していましたが、最後の曲を歌い終えた時は信じられないほどの満足感を覚えながら、拍手に応えて居られる青山先生をみて居りました。先生の穏やかな笑顔とユーモアに装おわれた、陰のご苦労をお察ししている人なら、一様に＜ああ、よかった！＞と思われたに違いありません。＜今日は受難の日だ＞などとぼやいていた主人が、＜京都に来てから初めての睡くないコンサートだった＞と言ってくれました。忙しい時間をやりくりして聴きに来てくれた友人たちからも＜よかった！＞＜感激！＞の電話をもらって嬉しい思いに浸っています。訳詞と電光板は、とても役に立ったと好評でした。ご夫婦で聴きに来られた方で、ご主人の方が退屈してぶつぶつ言っては奥様にたしなめられていたのに、電光板に気付いてからは俄然熱心に訳詞のページを繰って最後には大いに感動の様子であったと聞きました。運営委員の方々の創意と努力とに改めて感じ入っています。それにしましても、今回の演奏会に来て下さった人たちの大多数は、今までにないマタイ鑑賞の経験をされたわけですね。親切な配慮と企画とによって、日本語の合唱を聞く以上にこの曲の内容が判ったはずですから。京混に入団してから１年足らずのうちに素晴らしい演奏会に参加できてほんとうに幸です。」

日誌抄Ⅱ「昭和25年ごろ京都ＹＭＣＡ合唱団に在団していてマタイの演奏会に出させていただいたことは、合唱を初めたばかりの私にとってもっとも強く深い合唱体験となりました。言葉と曲の難しさに圧倒され必死の気持で楽符を持ち歩いた事、また森本先生（注：当時の指揮者）の数々のお話に心打たれた事など、今になっても忘れられません。先生が身振り手振りを交え情熱をこめて話されるあまり、教壇を踏み外されることも度々でした。№１の曲の前奏、伴奏の時左手のオクターブで奏される４分音符と８分音符の単純なリズムを、＜重い十字架をみずから背負ってゴルゴダ

の丘を登ってゆくキリストの足音だ。この音をよく聞きなさい。＞と言って演奏された時の深い感動は今も心に焼きついています。それ以来私の心の奥に沈められた課題となったキリストの愛、また十字架上の死の意味が、20数年を経た今になってほんの少しずつ判るようになり、再びマタイを歌う幸に恵まれた事は、それこそ神の恩寵に外ならないと感謝して居ります。」

日誌抄Ⅲ「音楽は〝参加してはじめてその意味が解る〟とは誰しも認めることであろう。しかしオーケストラとコーラスとではどこが違うのだろうか。本格的なコーラスを体験した今、これが私にとって新たな問題意識として浮んできた。音楽学会でもしばしば取り上げられるハンスリックの音楽美学の最大の課題である。言葉のついた音楽と純音楽をめぐる論争が再び大きな課題となってきた。今回の演奏会は、その意味でも私にとっては非常に勉強になった。これを契機として、コーラスだけでなく音楽学の方もいろいろ研究してみたい。」

日誌抄Ⅳ「感想その１（中３・女）演奏の終ったあとが一番よかった。指揮者の青山さんがソリストの手を順番に握ってゆく、その姿に思わず涙があふれた。指揮者の威厳ではなしに、その姿に人間性が深く感じられたから。　感想その２（40才・女）１部が終ってロビーへ出た時、京都混声の女性があちらこちらに出てきていたが、やっぱりこのような大曲を歌う人たちは話し方や、物腰など気品があると感じた。これからは京都混声の演奏会には子供を連れて来ようと思った。　感想その３（独身のＯＬ30才）第一部がとっても長く息が詰まりそうだった。帰ろうかと思うほどだったが……。でも第２部は盛り上って素晴しかった。」

日誌抄Ⅴ「演奏会の翌朝目を覚ましてから再びあの興奮が湧いてきた。マタイのコラールの終曲№72から終りまで涙と汗とで楽譜も見えないほどでした。どうして涙が出てきたのか自分でも判りません。よかったですね。今でも嬉しさ一ぱいです。例えば、お互に好きになってきている者同志が、どうしても口に出して好きだとは言えないが、フトしたきっかけで二人は

めでたく愛し合っていることが確かめられた喜び――今そんな気持で喜びが湧いてきます。歌に対しても愛をもつということが言えるのではないでしょうか。そしてまた、人の一生でも事を成就するのには一歩一歩の努力が大切だということが改めて判った気がします。青山先生ってほんとうに魔術師ですね。音楽があんなに生き生きしてきたのも先生の真心が通じている一本の棒の力でした。これからどんな音楽に挑戦なさるかが楽しみでもあり、また恐しくもあります。“マタイを成功させる会”の実行委員長の小山先生、渉外に当られた桂先生はじめ金子先生、小梶さん、牛丸さん、平松さんはじめ皆様ほんとうに有難うございました。

日誌抄Ⅵ「マタイを歌い終えて、この１月から夢中になって歌ってきたことを思出しながら、多少の哀愁と共に軽い疲労感を味わっている。演奏会がうまくいって本当によかった。」

８月26日（土）村岡町「**音楽の夕べ**」合同演奏会

ところ　村岡町（兵庫県）町民センター　夜８時

主催　但馬文教府・但馬文化協会

村岡町中央公民館・村岡町文化協会

演奏者　京都混声合唱団　八鹿混声合唱団

曲目　Ⅰ．世界の歌　　京都混声合唱団　指揮　牛丸紘一

ピアノ　井上由美

a．Swing Low Sweet chariot　黒人霊歌

b．バイカル湖の畔 …… ロシア民謡

c．ステンカ　ラージン …… ロシア民謡

d．花うるわしく …… スメタナ作曲（チェコ）

e．パリ祭 …… シャンソン（フランス）

f．パリの空の下(セーヌは流れる)　シャンソン（フランス）

g．美しく碧きドナウ …… ヨハン・ストラウス作曲（ドイツ）

Ⅱ. 合唱組曲　八鹿混声合唱団　指揮　田村　尚

ピアノ　田村孝子

〝おかあさんのバカ〟　作詞　古田　幸

作曲　磯部　俶　中田喜直

――休　憩――

Ⅲ. 合唱組曲　京都混声合唱団　指揮　青山政雄

ピアノ　井上由美

〝筑後川〟　作詞　丸山　豊　作曲　団　伊玖磨

Ⅳ. 合同演奏　京都混声合唱団　八鹿混声合唱団

指揮　青山政雄　ピアノ　井上由美

a. アベマリア　作曲　アルカデルト

b. アヴェ ベルム コルプス　作曲　モーツアルト

昭和10年過ぎ京都混声の団員であった井上弘氏は、現在兵庫県養父町にて開業医のかたわら地方の文化活動に尽力されているが、たまたま現団員であり、京都府立医大の後輩である小山弘との企画が実り、ジョイントコンサートを兵庫県村岡町に催すことになった。京都混声は貸切バスにて生野鉱山など見学の後、村岡町に至り、演奏会場にて八鹿混声合唱団に合流、演奏会終了後はハチ高原の宿舎にて両合唱団の交歓パーテーを開き、ファイヤーを囲んで夜の更けるまでフォークダンスなどに興じ初秋の高原の清爽な空気を満喫し都塵を払う機会に恵まれた。

10月29日（日）　秋の特別リクレーション

日誌抄「午前９時西大路五条に集合、団員の車に分乗（50名分の自家用車確保)、福知山近郊の青山先生〝山の家〟に向う。素朴な野趣料理に舌づつみを打ち、栗拾い、野草採取など都会を離れてのどかな秋の野にのびのびと別天地の野趣にひたった。（会費2,000円　小人1,500円）

11月８日 ～ 10日「**京響巡回コンサート**」参加

主催　京都市　各区文化協議会

８日（水）午後７時　上京区　翔鸞小学校

９日（木）午後７時　伏見区　南浜小学校

10日（金）午後７時　北　区　立命館中学・高校体育館

指揮　青山政雄

合唱　京都混声合唱団

管弦楽　京都市交響楽団

司会及び解説　田中さとる

チャイコフスキー：序曲「1812年」作品49

――楽器解説――

ロシア民謡　バイカル湖のほとり　ステンカ　ラージン

シャンソン　パリ祭　パリの空の下

ビゼー：「アルルの女」組曲第２番

田園曲、　間奏曲　メヌエット

ファランドール

12月22日（金）　クリスマス　キャロル

例年通り白梅町の聖ヨゼフ整肢園を訪ずれ、団員の自家用車に分乗して第二赤十字病院に行き各病棟を巡って聖なる歌を贈る。

12月27日（水）「恒例の忘年会」　国際ホテル愛宕の間にてバイキング料理。飲物も豊かにこの年の終りを乾杯する。

昭和54年(1979)

１月14日（日）　京混ニコニコ新年会

於・出町　西円寺　午後４時～８時　会費￥1,200

日誌抄「クイズとゲームとギャンブルで楽しく取ろう豪華賞品を／呑み放題、食い放題で愉快にやろう。」

2月28日（水）**「京響　第212回定期演奏会」**出演

京都会館　第1ホール　午後7時

主催　京都市

指揮　山田一雄

ソプラノ　中沢桂　　バリトン　立川清登

合唱　京都混声合唱団（合唱指導　青山政雄）

Ⅰ．バルトーク：「管弦楽のための協奏曲」

――休　憩――

Ⅱ．フォーレ：「レクイエム」作品48

1. 入祭唱とキリエ　2. 奉献唱　3. 聖なるかな
4. ああ、イエズスよ　5. 神の小羊
6. われを許し給え　7. 楽園にて

合唱団紹介記事　「京都混声合唱団（通称京混）は本年で創立54年を迎えた京都の一般合唱団の中では最も長い歴史をもった合唱団である。京混の特色はメンバーが10代から60代という巾広い世代で構成されていることと、オーケストラ付きの宗教曲を主なレパートリーとしている点である。近年演奏した主な曲はバッハ“クリスマスオラトリオ”（昭和45，46）モーツアルト“ベスペレ　ＫＶ339”（昭46）“ミサソレムニス”（昭48）“レクイエム”（昭50）ベートーベン“ハ長調ミサ”（昭47）ディュルフレ“レクイエム”（昭49）フォーレ“レクイエム”（昭51）J.S.バッハ“マタイ受難曲”（昭53）などである。指揮者は1952年以来現在までほとんど青山政雄（元京都芸大教授、現九州大谷短大教授）がその任に当っており、一般合唱団で一貫してプロの指揮者の指導を受けているのも京都では珍らしい。昭和50年創立50年記念演奏会でモーツアルトの“レクイエム”を、昭和51年の定期演奏会ではフォーレの“レクイエム”を京響と協演、また昨年の5月にはバッハの“マタイ受難曲”を京響と協演し好評を博した。」

2月21日（水）〝京都新聞〟所報抜粋　「京響の第212回定期演奏会がソリストに立川清登、中沢桂を迎え、28日午後7時から京都会館第1ホールで行われる。（中略）合唱団として出演するのは京都混声合唱団で、創立54年を迎え京都の一般合唱団では最も古い歴史を持っている。同合唱団は、メンバーが10才台から60才台という幅広い世代で構成されているのと、オーケストラ付きの宗教曲を主なレパートリーにする特徴を持っている。今回は、指揮が山田一雄、オルガン鴛淵紹子。フォーレの“レクイエム作品48”バルトークの“管弦楽のための協奏曲”の2曲が披露される。（下略）」

5月12（土）13（日）両日　春の合宿練習　　所：青山政雄山の家

日誌抄「12日は交通不便のため夕方に集合、みんなで作った夕食後、7:30 ～9:00 まで練習。 13日爽やかな早朝の山気を吸ってラジオ体操に先ず今日の始動を試みる。午前中はパート練習。バーベキューの昼食の後1:30 ～4:30まで強化練習。参加費2,000円。」

5月27日（日）**「第16回合唱祭」**

京都会館第1ホール・第2ホール　午前10時――午後6時

主催　京都府合唱連盟　朝日新聞京都支局　京都市

後援　社団法人全日本合唱連盟

京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　ピアノ　阪田誠康

曲目　Requiem Op. 9より　　Maurice Duruflé作曲

Ⅰ．Introït　　Ⅱ．Kyrie

当日の出場80団体あり、京都混声は第1ホールにて第1番目にステージに上る。出場者70名。京都府合唱連盟より16年連続出場により他の8団体と共に表彰を受ける。

8月26日（日）**「御坊混声合唱団ジョイント演奏会」**

於・御坊市（和歌山県）紀州信用金庫4階ホール　午後1時30分より

Ⅰ．京都混声合唱団　　指揮　牛丸紘一

1. ラ　クンパルシータ……M. ロドリゲス
2. ピキン　ザ　ピキン……C. ポーター
3. パリの空の下……H. GRAUD　& J. DREJAC
4. 愛の讃歌……M. MONNOT　& E. PIAF
5. モスクワ郊外の夕べ……ロシア民謡
6. ステンカ　ラージン……ロシア民謡

Ⅱ．御坊混声合唱団　　指揮　天津　実

組曲「千曲川の水上を恋ふる歌」　藪田義雄　作詞

小山章三　作曲

1. 水上　2. 若き日　3. 落石に搏たれしもの
4. 牧歌を偲ぶ　5. 水上は母のふところ

Ⅲ．京都混声合唱団　指揮　青山政雄　伴奏　阪田誠康

ソプラノ独唱　牛丸玲子　バリトン独唱　牛丸紘一

「レクイエム」　作品48　フォーレ作曲

1. 入祭唱とキリエ　2. 奉献歌　3. 聖なるかな
4. ああ、イエズス　5. 神の小羊
6. われを許したまえ　7. 楽園にて

Ⅳ．合同演奏　　指揮　天津実　伴奏　碇英子

1. 「流浪の民」　シューマン作曲
2. 「グローリア」（12ミサより）　モーツアルト作曲

御坊市に在住の元京都混声団員天津実氏の尽力により、御坊混声合唱団と合同演奏を兼ねてリクレーション旅行を催す。前日より出発してその夜は両合唱団の交歓を楽しみ、翌日演奏会を開き、楽しく有意義な収穫を得て帰洛。

12月1日（土）有馬竜子バレエ団**「くるみ割り人形」**公演に女声出演

京都バレエ専門学校附属有馬バレエ団公演

京都会館第1ホール　P. M. 6:30

後援　京都市・日本バレエ協会

マネージメント　(財)京都会館サービスセンター

くるみ割り人形　全幕　曲：チャイコフスキー　原作：ホフマン

指揮　堤　俊作　　演奏　京都市交響楽団

コーラス　京都混声合唱団（女声）

演出・構成・振付・有馬五郎　石田種生

12月19日（水）　クリスマス　キャロル

日誌抄「午後6時白梅町の聖ヨゼフ整肢園会議室に集合、例年のごとく病室をめぐって身体障害の幼児たちにクリスマスの歌を贈る。団員の車に分乗して第二日赤病院に行き、各病棟を歌いめぐる。多くの患者さんたちに囲まれながら歳末の行事を果す。」

12月21日（金）**「クリスマス音楽会」**　午後6:30～8:00

京都ヨハネ教会礼拝堂

指揮　青山政雄　　オルガン　阪田誠康

Ⅰ．クリスマス　キャロル集

1. ひさしくまちにし　2. まき人ひつじを
3. 荒野のはてに　4. エンゼルス　ソング
5. きよしこの夜　6. まぶねの中に
7. 諸人こぞりて

Ⅱ．楽しいクリスマスの歌

1. リトル　ドラマ　ボーイ　2. ジングル　ベル
3. ホーリー　ナイト　4. ホワイト　クリスマス

Ⅲ．宗教曲集

1. アヴェ　ヴェルム　コルプス（W. A. モーツアルト）

2. アヴェ　マリア　（J. アルカデルト）

3. カンタータ 147番より“コラール”（J.S. バッハ）

4. ハレルヤ　（ヘンデル）

12月28日（金）　忘年会

堀川四条下　森幸にて（中華料理）午後６時30分より

会費　男子 6,000円　女子 5,500円

本年納めの会合をもち、一年の犒いと互慶の思いに親睦を深め楽しい交歓の夜を過し師走の行事を終る。

昭和55年(1980)

１月11日（金）　初練習。今年の演奏会用の青山政雄作曲“鑑真和上東征賦”とデュルフレ作曲“レクイエム”“ラテン音楽”を主軸として、明年発表予定のハイドン作曲“四季”を折り込んで練習する計画を立てる。発声練習用としてはパレストリーナ作曲“ミサブレーヴィス”を毎回練習初めに用いることとする。

１月13日（日）　恒例の新年ニコニコ大会　出町西円寺にて

日誌抄「午後３時集合。シャンソンを歌い、ゲームを楽しみ、余興に時を忘れ、新しい年への英気を養う。夕食を共にして歓を尽くし午後８時解散。」

２月17日（日）「第11回医師会コンサート」　賛助出演

京都府医師会館大ホール 午後０時 30 分開演

主催　京都府医師会・京都医家芸術クラブ

混声合唱　京都混声合唱団

指揮　青山政雄　　ピアノ伴奏　阪田誠康

ラテン音楽……青木望編曲

1. 時計　2. ラ　クンパルシータ　3. ビギン　ザ　ビギン

プログラム 17 種目のうち、 京都混声は第 15 番目のステージを飾る。

団員のうち医師会関係者は牧野ツルエ（S）荒田喜子（A）小山弘　吉田孝洋（以上B）。

４月12日（土）13日（日）　強化合宿練習　寺町頭　光明寺　￥3,200

練習曲目“鑑真和上東征賦”“ラテン音楽”“レクイエム”

12日　18:00発声練習――19:00鑑真和上東征賦――20:30ラテン音楽、レクイエム――21:45親睦懇親会。

13日　7:30起床――9:00発声練習、ラテン音楽――10:00鑑真和上東征賦――11:00レクイエム――13:00鑑真和上東征賦――14:00レクイエム、ラテン音楽。

５月18日（日）**「第 17 回 京都合唱祭」**

京都会館第１・第２ホール　　10 時～ 18 時

主催　京都府合唱連盟　全日本合唱連盟関西支部

朝日新聞社　京都市

後援　京都府　京都府教育委員会

京都市教育委員会

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　　ピアノ　阪田誠康

1. ラ　クンパルシータ　　2. 碧空

当日の参加80団体のうち京都混声は第２ホールの第１番目に出演。17年連続最多出場団体として他の８団体と共に表彰を受ける。

５月28日（水）**「定期演奏会」**

京都会館第１ホール　　午後７時

主催　京都混声合唱団

共催　京都会館サービスセンター

後援　京都市・京都府合唱連盟

料金　一般 1,600円　　学生 1,300円（全館自由席）

指揮　青山政雄

管弦楽　京都市交響楽団

曲目　1. 鑑真和上東征賦　　作詞／小島憲之　作曲／青山政雄
琵琶／一坊寺謙一
序章　　第一章 決意　　第二章 飛雪
第三章 大海遭難　　第四章 南の島
第五章 海東大和へ　　終章
2. LATIN MUSIC　　編曲／青木　望
Blauer Himmel　（碧空）
La cumpalsita　（ラ　クンパルシータ）
El reloj　（時計）
Estrellita　（エストレリータ）
Begin the Beguine　（ビギン ザ ビギン）
3. REQUIEM　　作曲／M. Duruflé
メゾソプラノ／志村年子　バリトン／久岡昇
Infroït　Kyrie　Domine Jesu Christe
Sanctus　Pie Jesu　Agnus Dei
Lux ae terna　Libera me　In Paradisum

5月9日（金）〝朝日新聞（夕刊）〟所報抜粋「鑑真像の中国へ＜里帰り＞が話題になっている折も折、交声曲“鑑真和上東征賦”が京都混声合唱団の定期演奏会で初演される。作詞・小島憲之、作曲・青山政雄。

小島氏は大阪市大名誉教授で、昭和40年に＜上代日本文学と中国文学＞で学士院恩賜賞を受けた国文学の権威。3年前、鑑真像のパリ訪問に心を動かされて作詞した。古代中国への学問上の関心と、クラシック音楽ファンであること、更に、戦争中にフィリピン沖で輸送船が沈没して九死に一生を得た経験があり、鑑真が度重なる危難の末に来日したのにかねて感動していたのだそうだ。

＜仏典や万葉集から拾った奈良朝の言葉を主に使っているのがミソでしょうか＞とのこと。京混とは、瑶子夫人が古くからの団員という縁。28日

午後7時から京都会館で青山指揮、京響と。ほかに“ラテン名曲集”など。」

8月8日（金）～10日（日）　夏のリクレーション

信州原村　第2ペンション　ヴィレッジ　ペンション「すみれ」

参加費　大人　23,000円　小人 14,000円

8日　8:00 京都発── 11:00 小牧── 15:00 伊那北── 16:00 ペンション着。

9日　9:00 ペンション発── 13:30 蓼科牧場── 15:00 横岳坪庭── 16:00 ペンション。

10日　8:30 ペンション発── 9:30 八島湿原── 12:00 松本── 21:00 京都帰着。

10月18日（土）・19日（日）　京混ファミリ秋の集い

ペンション北山　洛北　京北町　　会費 ￥1,600

日誌抄「18日は秋の夜長をゲームと歌とおしゃべりで頑張る。お風呂はちょっと遠いけれどいいお湯。19日のメインは、ミーティングと焼肉パーティー。先ず新人歓迎ということで紹介ゲーム。歌集の合唱では、夏の信州の時よりはよく合ったみたい。“森の教会”では、ソプラノのソロが綺麗でした。焼肉は会費の割に食べでがありました。レバーはもて余し気味。バラやロースをふやして置けばよかった。」

10月29日（水）　小山弘の還暦をお祝いする会　　梨木神社参集殿

午後6時30分　　会費 4,000円

日誌抄「昭和14年京都混声に入団。当時詰襟服だった小山弘先生ついにめでたく還暦を迎えられる。有志相集いささやかながらお祝の集りを催す。」

12月20日（土）　クリスマス　キャロル

日誌抄「夕刻、霙降る中を白梅町の聖ヨゼフ整肢園に集合。病棟を巡ってクリスマスの歌を捧げた後、仲間の車に分乗して第二日赤病院を訪れ、各病棟にキャンドルの灯と歌を贈る。

12月26日（金）　クリスマス　パーティー　聖ヨハネ教会
午後７時――９時　会費 ￥1,000

日誌抄「キャンドルサービス、歌、ゲーム、プレゼント交換など家族ぐるみの出席で楽しい交歓の一夜を過す。この夜、初めて試みた不用品供出によるオークションも大人気にて活況を呈し、アルコール類の提供も豊富にあり、歓声と哄笑に時と歳を忘れて賑やかなこと。」

昭和56年（1981）

１月18日（日）　新年ニコニコ大会　出町　西円寺にて　午後３時より

日誌抄「ゲーム、トランプ、百人一首など平素の練習の厳しさを忘れて楽しく賑やかな歓声にうつつをぬかし時をすごす。会費 1,500円。」

５月９日（土）・10日（日）両日　春の合宿　寺ノ内　妙顕寺にて。

９日午後、16:00集合練習――18:00夕食――19:00練習――21:00
親睦会自己紹介その他――23:00消燈。

10日　7:00起床、ラジオ体操――8:00朝食――9:00練習――12:00
昼食――13:00練習――17:00反省会――18:00解散。
参加費　5,000円。

５月19日（火）〝読売新聞〟所報抜粋「京都の混声合唱団のなかで、最も古い〝京都混声合唱団〟（小梶勝也委員長）は今秋の定期演奏会で、ハイドン作曲のオラトリオ“四季”に挑戦するが、この曲にはかなりの人数が必要、同合唱団は＜京都で初めてのことで、ぜひとも成功させたい。

意欲のある人はどしどし入団してほしい＞と団員を緊急募集している。同合唱団は大正15年、京都在住の同声会（現東京芸大音楽学部同窓会）のメンバーで発足。昭和２年から毎年１回、定期演奏会を行い市民に親しまれてきた。戦後、声楽家に加えて会社員や学生らが参加、庶民的な市民の合唱団に生れ変った。49年にはロシヤ民謡をレコードに吹き込み、昨年の定期演奏会では、鑑真和上像の帰国にちなんで、同和上の渡来を表現した

〝鑑真和上東征賦〟（小島憲之作詞、青山政雄作曲）を合唱するなど意欲的に活動している。

京都市内には大学のグリークラブなども含めて約50の混声合唱団があるが宗教音楽を中心に京都市交響楽団がバックで演奏するのは同合唱団だけ、現在の団員は約80人だが、最古の合唱団とあって高齢者が多いのも特徴。大学生から最高68才の女医までサラリーマン、ＯＬ、学生、医者や弁護士、大学教授など職種もさまざま。

“四季”は２時間以上もかかる大作で、牧歌的な田園の情景などを組み入れた自然賛歌。京都では一般の合唱団が取り組むのは初めてとあって、同合唱団はソリストにわが国を代表する声楽家の常森寿子さんや鈴木寛一さんらを招くなど意欲を燃やしているが、＜200人ほどの人数がなければ迫力が出ない＞といわれる曲で、団員不足に頭を悩ませている。（中略）

小梶委員長は＜京都のアマチュア音楽のためにも、何としても成功させたい。この曲は人数が多ければ多いほど演奏効果があるので、合唱を愛する人なら入団を心から歓迎します＞と言っている。（後略）」

５月24日（日）**「第18回 京都合唱祭」**

京都会館第１ホール・第２ホール　10時から６時まで
主催　京都府合唱連盟　(社)全日本合唱連盟関西支部
朝日新聞社　京都市
後援　京都府　京都府教育委員会　京都市教育委員会
京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　伴奏　阪田誠康
「四季」よりNo.31 …… スウィテン作詞　ハイドン作曲

当日の出場78団体あり、京都混声は第１ホールにて第36番目にステージに上る。出場者60名。合唱連盟より18年連続出場合唱団として他の８団体と共に表彰を受ける。その他に表彰団体数は15年連続出場１団体、10年連続出場３団体、５年連続出場６団体あり。

7月19日（日）　鑑真和上像に捧げる**「鑑真和上東征賦」**演奏会出演

奈良　唐招提寺　御影堂　午後３時

大阪の琴の会〝琴菊会〟会長五世菊田歌雄師は唐招提寺の鑑真和上像に和洋合奏による「鑑真和上東征賦」を奉納することを企画し、青山政雄に和楽の編曲を依頼の上、唐招提寺森本孝順長老の快諾を得て、聴者ただ一人の和上像に捧げる演奏会を催すに当り、京都混声はその企画に賛同し、京都より馳せ参じて合唱に奉仕することになった。

炎暑快晴の日盛りに一糸乱れぬ演奏会用服装にて流れる熱汗は淋漓として眼を塞ぎ楽譜を潤すばかりであったが、一同心を合せて和上東征の苦難をしのび尊像への熱禱を捧げる思いにて宗教的心頭滅却の境地をもって行事の遂行を期した。青山の指揮も、菊田師一門の管絃も克くその真価を発揮して絶妙の演奏を奉仕することを得た。翌日７月20日の各新聞は写真を添え当日の盛事を賛えた。

〝朝日新聞〟所報抜粋「奈良、唐招提寺の国宝鑑真和上像の前で19日、合唱、琴、尺八、ピアノなど約90人による和洋混成の交声曲“鑑真和上東征賦”（作詞、小島憲之大阪市大名誉教授、作曲、青山政雄前京都芸大教授）が披露された。

大阪の箏曲団体＜箏菊会＞（菊田歌雄会長）が、奈良での演奏会を前に＜ぜひお聞かせしたい＞と申し入れて実現、京都混声合唱団や、尺八の＜大和葵会＞と共演、約50分にわたって劇的な鑑真来日の時をおごそかに、高らかに歌いあげた。

同寺の森本孝順長老は＜和上は盲目の師だが、耳は確かです。ご満足のご様子でした。（像の）お顔がいつもより明るかったのがその証拠＞と緊張しきった奏者たちをねぎらった。」

〝毎日新聞〟所報抜粋「奈良、唐招提寺の開祖として知られる中国の高僧、鑑真和上の偉業をたたえる賛歌“鑑真和上東征賦”が和上像のある同寺御影堂で高らかに歌われ、奉納された。（中略）

お堂にピアノまで持ち込んだ奉納は同寺はじまって以来のことで、じっと聴き入っていた森本孝順長老は＜きょうの奉納は当寺1200年の新しい１ページ＞と感激もひとしおの様子。」

〝読売新聞〟所報抜粋「（省前）演奏には合唱団員60名をはじめ琴、尺八、ピアノなど総勢90人が参加、鑑真和上が苦難の末、唐から日本に渡って仏法を広めたさまを歌った。（中略）

琴菊会などが23日、奈良県文化会館で催す“鑑真和上東征賦”を中心とする演奏会の報告を兼ねて行われたもの。（後略）」

〝産経新聞〟所報抜粋「（省前）昨年は鑑真和上像が中国に里帰りしたこともあって奉納の機会がなかったが、琴菊会が23日夕、奈良県文化会館でこの曲を演奏することになったため＜ぜひ和上様に一度聞いてもらおう＞と奉納演奏が実現した。（後略）」

〝奈良新聞〟所報抜粋「（省前）この曲は、和上の苦難に満ちた渡航を表現したもので“決意”“飛雪”“大海遭難”“南の島”“海東大和へ”の五章から成る演奏時間50分の大作。荘厳な宗教音楽で和上の不屈の生涯を感動的に歌いあげている。（後略）」

〝京都新聞〟所報抜粋「（省前）この曲は本来はオーケストラ用で、今回新たに琴、尺八で演奏できるように編曲した。（中略）

鑑真像がただ一人の“観客”というこの日の演奏会に集ったのは琴菊会や合唱団のメンバー約100人。御影堂で演奏会が行なわれるのは初めてとあって、鑑真像を前にそれぞれ緊張した顔つきで熱演した。」

7月23日（木）**「韻（ひびき）」イブニング　コンサート**　出演

奈良県文化会館大ホール　午後６時30分

主催　菊田歌雄とその社中　後援　奈良新聞社

交声曲　鑑真和上東征賦　作詞　小島憲之　作曲　青山政雄

序章　第一章　決意　第二章　飛雪

第三章　大海遭難　第四章　南の島

第五章　海東大和へ　　終章

指揮　青山政雄

合唱　京都混声合唱団

尺八　星田一山　大和葵会

琵琶　一坊寺謙一

室内楽　京都フィルハーモニー室内楽団

プログラム二部として　1. 箏曲表組　六段の調　　2. ままの川

3. ポピュラーミュージック(禁じられた遊び、牛車にゆられて、(カスカーダ)

4. 幻の桂　　5. ひびき　が演奏された。

7月23日（木）〝奈良新聞〟所報抜粋「天平勝宝6年（754）聖武天皇の招請により来日した中国僧、鑑真。渡航の決意から12年の歳月を要している。それは海難など5度にわたる渡航の失敗のためで、盲目の身となりながらも初志を貫き日本に到達した。――23日夜、奈良県文化会館で琵琶、尺八、琴の和楽器と洋楽器、合唱による交声曲“鑑真和上東征賦”が演奏された。鑑真の生涯が音曲と熱唱により歌いあげられ、その崇高な音楽絵巻に約1000人の聴衆は魅了された。このコンサートが実現するまでのいきさつと、＜演奏は祈りと同じ＞と語る“東征賦”にかけた関係者の情熱にスポットを当ててみた。

これは菊田歌雄社中主催のイブニング　コンサート第一部で発表されたもので、作曲者青山政雄氏が指揮。聴衆の中には唐招提寺関係者と作詩者の大阪市大名誉教授、小島憲之氏の姿もみられた。

“東征賦”がはじめて発表されたのは昨年5月の京都混声合唱団の定期演奏会で、これをたまたま聞きに行っていた奈良の箏曲家、菊田歌雄師が感銘。＜奈良で生れ奈良で育った私は、奈良の神仏を心の支えとして音楽に託している毎日。洋楽器によるオーケストラであるけれど、この“東征賦”を鑑真和上ゆかりの地、奈良で演奏できないものか。＞と菊田氏が奔走。青山氏が快よく応じ、琴や尺八のために編曲してこの日の演奏会が実

現した。（中略）

小島氏は＜鑑真和上の万屈の精神に感動した。作家の井上靖氏が〝天平の甍〟で描いているが、それは散文なので、詩にもなるのではないかという気持があった。もう一つ、私自身がフィリピン沖で海の中にほうり出された体験があるんです。それだけに和上の偉大さというものを感じたのです。＞と話す。小島氏は“東征賦”を2年の歳月をかけて作詩した。奈良朝の言葉をそのまま使い、それは漢詩にもなる作品だ。雄大な構成は、やはり小島氏の戦争体験のなかから生と死を見つめて生まれたものだろう。

これを青山氏が作曲したわけだが〝何冊も鑑真関係の資料に目を通してから〟作曲したという。こうしてできた交声曲“東征賦”が和楽器を含めた演奏として編曲され披露されたわけだ。

＜“東征賦”をとりあげさせていただいて本当によかった。演奏することは祈りと同じことだと思う＞と菊田師は、大きな仕事をやり遂げて満足そうだった。」

8月22日（土）サマーナイトコンサート「**網野特別演奏会**」夜7：30

ところ　丹後　網野町会館　入場料 300円

主催　あみの合唱団　　後援　網野町

1. 網野町町歌　　小田冬平作詞作曲

2. 挨　拶　　あみの合唱団長　西崎氏

3. ポピュラー合唱曲集　　青木望編曲　　指揮　牛丸紘一

伴奏　小堀加寿子

a. ともしび　　b. バイカル湖のほとり

c. 紅いサラファン　　d. ステンカラージン

e. モスクワ郊外の夕べ　　f. 碧空　　g. 時計

h. パリ祭　　i. パリの屋根の下

4. みんなで歌おう

山は呼ぶ海は呼ぶ（輪唱）　　小山章三作詞作曲

5. オラトリオ「四季」より

No. 2　No. 20　No. 29　No. 44

6. 合同合唱　組曲「筑後川」より　〝河口〟　丸山豊　作詞

団伊玖磨作曲

今回の行事は演奏旅行を兼ね夏のリクリエーションとして行なわれたので22日の夜は網野町の旅館梅屋に一泊し、23日は弥栄町スイス村での行楽に一日が費やされた。

8月22日（土）9:30 河原町御池西入集合（バス）── 15:00 網野町旅館梅屋到着── 17:00 網野町会館にて練習── 18:30 あみの合唱団と合同練習── 19:30 演奏会── 21:30 梅屋にて懇親夕食会。

8月23日（日）8:00 朝食── 10:00 梅屋出発── 10:30 弥栄町役場にて小型バス乗替（道路が狭く大型は通れず）── 11:00 スイス村着、昼食バーベキュー大会── 13:00 リクリエーション庭球、排球、フィールドアスレチックなど楽しむ── 15:00 スイス村発── 15:30弥栄町役場にて大型バス乗替── 20:00京都着。

参加費　13,000円　学割　10,000円

10月3日（土）・4日（日）両日　秋季強化合宿　寺町今出川上ル光明寺　参加費　4,500円（欠席者義務負担 2,000円）

3日（土）15:00 集合── 18:00 夕食── 19:00 練習── 21:00 懇談──22:00 就寝。

4日（日）7:30 起床── 8:00 ラジオ体操── 8:30 朝食── 9:00 練習── 12:00 昼食── 13:00 練習──連絡後解散。

10月29日（木）〝京都新聞〟夕刊所報抜粋「京都の合唱団としては初めてのハイドン“四季”全曲が、京都混声合唱団によって来月9日午後6時半から、京都会館第1ホールで公演される。2年がかりで練習を積みあげ、団員100人が意欲的に大作に取り組んだ。それだけに〝ひとりでも多くの人に聞いてもらえる……　と期待が秘められている。

同合唱団は、ことしで創立56年を迎え、一般の合唱団としては京都では随一の古い伝統。現在、メンバーは100人を数え、68歳の女性医師から大学1回生まで手広い年齢層。週1回の練習を行い、例年、秋に1回の定期を催している。しかし、今回の作品は、有数の大曲なので、2年がかりで着々と練習を積みあげてきた。

この練習には指揮の青山政雄さんが付きっきりで指導という熱の入れよう。定例練習の他合宿（1泊2日）を2回実施したり、公演前には臨時練習を加え、最終の仕上げに励んでいる。

一方、ソロにはソプラノ常森寿子、テノール鈴木寛一、バス岡村喬生と一流の声楽家をそろえ、さらに管弦楽は京都市交響楽団が担当。アマチュア合唱団としては異例の充実した陣容。

同合唱団の桂京造さんは＜やっとプロのオーケストラとやっていけるレベルに達したようで、その点からも意欲的な曲に、どしどし取り組んでいきたいものです＞と語っている。

入場料は 2,000円。　なお全市の高校生各校20人を無料で招待する。

（注：京都混声では昭和25年にこの曲の一部分を上演している）

11月9日（月）**「定期演奏会」**　京都会館第1ホール　午後6時30分

主催　京都混声合唱団

共催　（財）京都会館サービスセンター

後援　京都市・京都府合唱連盟

マネージメント（財）京都会館サービスセンター

F. J. ハイドン作曲　「四　季」　台本　G. V. スヴィーテン

指揮　青山政雄

独唱　ソプラノ　常森寿子（ハンネ）

テノール　鈴木寛一（ルーカス）

バ　ス　岡村喬生（シモン）

管弦楽　京都市交響楽団

チェンバロ　阪田誠康

合　唱　京都混声合唱団

第Ⅰ部　春　そよかぜと共に近づく春へのあこがれ、恵みの雨を求める農民の祈りなど。

第Ⅱ部　夏　夏の朝あけ、月の昇る風趣、嵐の叫び、農民の家路に急ぐ黄昏のひと時など。

第Ⅲ部　秋　収穫の喜び、鹿狩の楽しみなど。

第Ⅳ部　冬　深く立ちこめた霧。道に迷う旅人。炉辺の団欒など。

バス　シモン（農夫）

ソプラノ　ハンネ（その娘）

テノール　ルーカス（若い農夫でハンネの恋人）

全43曲の要約（金子清明担当）をプログラムに添付し、各ページの左側に独唱·重唱を、右側に合唱を、両者併唱はページの中央部に記入して一般の理解に資し、聴取の便宜に供した。

11月10日（火）〝読売新聞〟所報抜粋「京都混声合唱団（小梶勝也委員長）は９日夜、京都市左京区岡崎の京都会館第１ホールで演奏会を開き、念願のハイドン作曲オラトリオ“四季”を披露した。同合唱団では、この曲を演奏するために春から団員を募集、95人で見事なハーモニーをかなで、聴衆をうっとりさせた。

同合唱団は毎年秋、定期演奏会を行っているが、“四季”は２時間以上の大作で、団員50人では力量不足だった。そこで団員を募ったところ（中略）一挙に100人近くにふくれ上がった。（中略）

演奏会では、京都市交響楽団がバック演奏をつとめ、わが国を代表する声楽家の常森寿子さん、鈴木寛一さん、岡村喬生さんの三人が特別参加。多数の聴衆に見守られ午後６時半からの演奏会では、その成果をあますところなく披露した。」

「京都混声合唱団団則」決定配布

50余年の歴史の間に団則として確たる規定は設けられることはなかった。比較的新人で委員に選出された人たちから団則を作ることの発議があって凡その原案を討議されたことはあったが、成文として団員を拘束するようなことはなく、常に協議と連繋を密にすることによって和が保たれ、団員相互に信頼と奉仕的労力提供の美しい協調の精神を主体として団の運営は円滑に運ばれ、大きな支障をみることはなかった。

昭和50年の創立50年記念演奏会以来、特に大曲に取り組み大規模のステージを持つようになると共に団員の数も急増又は流動が激しくなり、一応の団則によって、一般的な団の内容や志向など一目瞭然たらしめることに依って、個々人への誇りある解明と統一に資することが団の運営と進展に利することが大切であるとの委員会の見解から、11月20日(金)と27日(金)の２回にわたる総会形式の討議を重ね更に立案検討の結果、団則を決定するに至った。

京都混声合唱団　団則

(目的)

第１条　この団則は、京都混声合唱団の運営ならびに活動に関する基本事項を定める。

(団の理念)

第２条　京都混声合唱団は、合唱音楽を通じて豊かな人間性を育生し、芸術文化の発展に貢献しようとするものである。

(団員の資格)

第３条　合唱を愛し、この団則を守る者であれば、団員となることができる。

(団員の責務)

第４条　団員は正規練習、臨時練習及び演奏会その他の団行事には積極的に参加し、団員相互の友情を深めつつ自己の合唱技術の向上

に努めなければならない。

（入団）

第５条　入団を希望する者は、入団申込書に必要事項を記入のうえ、所定の入団金を添えて申し込むものとする。

（団費）

第６条　団員は入団の月から所定の団費を遅滞なく納入しなければならない。

（練習）

第７条　正規練習は、毎週金曜日午後７時より９時15分までとする。また必要に応じて臨時練習を行うことがある。

（役員）

第８条　役員は次の通りとする。

1. 運営委員長　運営委員
2. 技術委員長　パートリーダー
3. パートマネージャー

（役員の選出）

第９条　1. 運営委員長、運営委員は、毎年１回団員の直接選挙によって選出する。

2. 技術委員長は、パートリーダーの中から常任指揮者が指名する。

3. パートリーダーは、前年度の技術委員長の推薦により、常任指揮者が指名する。パートリーダーは運営委員を兼任することはできない。

4. パートマネージャーは各パート内の互選により選出する。

（団の組織と機能）

第10条　1.（１）総会は団の最高議決機関であり、年１回以上運営委員長が招集する。

（２）臨時総会は団員の過半数の要請があれば、運営委員長が招集する。

（３）総会及び臨時総会は、団員（休団中の者を除く）の３分の２以上の出席により成立し、議決又は承認は、出席団員の３分の２以上の賛成を要する。

2.（１）運営委員会は総会に次ぐ議決機関であり、団の運営方針を企画立案し、実行する。

（２）運営委員会の構成は、運営委員長、運営委員、及び技術委員長、パートリーダーとする。各委員会の定数は当該年度の総会決定による。

3. 技術委員会の構成は技術委員長及び、パートリーダーとし、団の合唱技術の向上に努め、演奏活動を推進するものとする。

4. パートマネージャーは、パートの結束と親睦をはかり、パートリーダーと共に各パートの運営にあたる。

（実行委員会）

第11条　団の行事を円滑に実施するために、実行委員会を設けることができる。

（指揮者）

第12条　1. 運営委員長及び技術委員長の推薦により、総会の承認を得て、常任指揮者を委嘱する。

2. 客演指揮者を招く場合は、運営委員長及び技術委員長の推薦により、総会の承認を得て行う。

3. 常任指揮者の要請があれば、総会の承認を得て、副指揮者を置くことができる。

（休団）

第13条　やむを得ない事情により、一定期間、団の活動に参加できない

場合は、所定の休団届を提出することにより休団扱いとする。
休団中は原則として団費は徴収しない。

（退団）

第14条　退団する場合は、所定の退団届を提出しなければならない。長期間、団の活動に無届で不参加の場合は、運営委員会の決定により、除籍する。

（慶弔）

第15条　団員の結婚、死亡または団員の家族（配偶者、親一直系、子供）の死亡に際し、慶弔の品をおくる。

（付則）

第16条　1. この団則は、昭和56年12月１日付で発効するものとする。
本団則の発効に伴い、従前の規則はすべて廃棄される。
2. 本団則の改廃は、総会の議決にもとづいて行う。

11月29日（日）　宮下靖子バレー団「**くるみ割り人形**」公演女声出演
世界文化自由都市宣言３周年協賛　　宮下靖子バレー団第11回公演
京都会館第１ホール　午後６時30分開演
「くるみ割り人形」（全幕）
主催　宮下靖子バレー団
指揮　堤　俊作
演奏　京都市交響楽団　　合唱　京都混声合唱団（女声）
振付・演出　宮下靖子　溝下司郎

12月18日（金）　クリスマス　キャロル

恒例の年末の一夜を選びキャンドルサービスに廻る。
午後６時20分白梅町聖ヨゼフ整肢園に集合。心身障害の不幸な幼児や少年少女の入院する病棟を巡り、クリスマスの歌を歌って奉仕する。不自由な体に拍手をし、声をあげて喜ぶ姿には涙のにじみくるのを禁じ得ない。

更に、団員の自家用車に分乗して第二日赤病院へ行く。団員で病院勤務

の小山さん、萩原さんの案内で各病棟を歌いつつ廻り、ナースセンター前に集った患者さんたちに迎えられて共にクリスマスの賛歌を歌って歳末の年中行事を終る。

12月20日（日）　クリスマスパーティー　下京綾小路　肥前屋
９階ホール　午後１時～４時

前もって楽譜持参の連絡がしてあったので、楽しく伸びのびと声張りあげて合唱にひたる。家族も恋人も友人もみんな手を携えての大合唱となる。プレゼント交換やクイズにも歓声と拍手の渦が湧き起り、尽きぬ名残りを惜しみつつ解散。

昭和57年(1982)

１月２日（土）**藤堂顕一郎音楽褒賞基金第一回（団体）受賞**
主催　京都府音楽家クラブ
ロイヤルホテルにて

午前11時30分京都混声合唱団を代表して小山弘、金子清明、桂京造、牧野ツルヱ出席。12時より京都音楽家クラブの新年会の席上にて「藤堂顕一郎音楽褒賞基金第一回表彰式」が行なわれ、個人では加藤テイ、上村けい、蔵田春平、梅田しづの四氏受賞。団体では京都混声合唱団を代表して小山弘が賞状と賞金10万円を受ける。引続き音楽家クラブの総会あり、終ってから立食パーティに参加。京都楽壇の昭和史ともいうべき京都混声草創の頃の苦心談や思い出話に花を咲かせ京都混声の面目を披露して盛会裡に終る。

１月13日（水）〝京都新聞（夕刊）〟所報抜粋「京都音楽家クラブが設立した『藤堂顕一郎音楽褒賞基金』の第一回受賞者がこのほど決定、表彰された。初の受賞者は加藤テイ、上村けい、蔵田春平、梅田しづの四氏と京都混声合唱団（小梶勝也代表）。いずれも京都楽壇の育成に永年にわたって尽力した功労が高く評価され、選出された。

この基金は、藤堂同クラブ会長が昨年、1,000万円をきょ出し、京都

の音楽文化向上のために、褒賞制度が設けられた。同基金運営委員会（高橋恒治委員長）が、昨秋から選考作業に着手し、同年末に以上の受賞者を選出した。

受賞の略歴、業績は次のとおり。（個人四氏を省略）

＜京都混声合唱団＝大正15年に発足。昭和２年に第１回演奏会を開き、以後、戦時中を除き、合唱活動を意欲的に展開している。＜レクイエム＞＜マタイ受難曲＞などの初演を手がけ、この間に合唱コンクールにも再三入賞しており、京都合唱界の草分け的な存在。定演のほかレコード録音、放送や土曜コンサートなど幅広い活動をみせている。」

１月10日（日）　新年ニコニコ大会　午後２時より　出町　西円寺にて
会費 1,500円　子供 1,000円

百人一首、トランプ、双六など室内ゲームに興じ、夕食を共にし、寄贈の飲物などに気勢をあげ、時間の経つのも忘れて年頭を楽しむ。

５月15日（土）・16日（日）　両日春の合宿
一乗寺　関西セミナーハウスにて
参加費　5,000円　欠席者負担　1,500円

15日午後５時30分集合。16日午後５時解散。

５月30日（日）第19回「**京都合唱祭**」京都府合唱連盟創立20年記念
京都会館第１ホール・第２ホール
10時から18時まで
主催　京都府合唱連盟　（社）全日本合唱連盟関西支部
朝日新聞社　京都市
後援　京都府　京都府教育委員会　京都市教育委員会
京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　ピアノ　阪田誠康
「Requiem」より　　Hostias　W. A. Mozart 作曲

当日の出場80団体あり、京都混声は第２ホールにて第２番目にステージに上る。合唱連盟より最多連続19回出場合唱団として他の８団体と共に京

都混声も表彰を受ける。出場者60名。

６月11日（金）ＮＨＫテレビ公開録画「**音楽の広場**」出演
――ＮＨＫ京都放送局開局50周年……〝電波は京都の空へ〟――
京都会館第１ホール　18時45分より
主催　ＮＨＫ京都放送局　京都府　京都市
後援　京都府教育委員会　京都市教育委員会
司会　黒柳徹子　指揮　芥川也寸志
出演　五十嵐喜芳、茂山千五郎、京都混声合唱団
合唱団京都エコー、あいりす児童合唱団
祇園ばやし
演奏　京都市交響楽団
合唱曲目“自然における神の栄光”ベートーベン曲　南安雄編曲
“ハレルヤ”　　ヘンデル曲
“私は信じる”　E. ドレイク　I. グレアム、
J. シール、　A. ステルマン合作

この日は録画であって、記念放送は６月27日（日）ＵＨＦ32チャンネルにて午後５時20分より“私は信じる”が他の番組と共にローカル放送され、７月２日（金）午後７時30分「音楽の広場」では、京都放送局開局の日に放送された同じ曲“自然における神の栄光”と“ハレルヤ”が他の記念番組と共に全国放送された。

６月28日（月）「**京都市交響楽団第245回定期演奏会**」出演
京都会館第１ホール　午後７時
主催　京都市
曲目　1. スクリャービン作曲「夢想作品24」
2. スクリャービン作曲「ピアノ協奏曲へ短調作品20」
独奏　渡辺康雄
3. ラヴェル作曲　舞踊音楽「ダフニスとクロエ」全曲

第１部　序奏と聖なる踊り　　全員の踊り

ノクチュルヌ　　間奏曲

第２部　戦いの踊り

第３部　夜明け　無言劇　全員の踊り

指揮　　佐藤功太郎

合唱指揮　青山　政雄

合唱　　京都混声合唱団

京都バッハ　カントライ

8月28日（土）～30日（月）高知交歓演奏旅行

高知市在住の元団員天津学（眼科医）氏の尽力により、天津氏の所属する高知フラワー　コーラスと交歓演奏会を高知に開催。

天津学氏は京混50周年記念演奏会に高知より馳せ参じてモツアルトの“レクイエム”を歌ってくれたのであるが、これが機縁となって去る52年８月高知フラワーソングコーラスと交歓演奏を行い、その時の演奏はＮＨＫ高知放送局によって録音され四国地区にＦＭ放送された。

今回再び同様の交歓演奏会が計画され、８月27日の夜、高知行きのフェリーに乗船の予定であったが、折悪しく台風の襲来により欠航。翌日国鉄を利用して夕方高知に到着。その夜辛うじて演奏会開催の運びとなった。

京都混声合唱団演奏曲目

1. 筑後川（３曲）
2. ラテン音楽　a. 時計　　b. ビギンザビギン

c. エストレリータ

10月23日（土）・24日（日）両日　秋の合宿

於・琵琶湖畔　　大津ユースホステルセンター

参加費　5,000円

練習曲　モーツアルト　“レクイエム”

ブラームス　“運命の歌”

団　伊玖磨　“筑後川”

指導　　青山政雄　　F. ヴェルニッツィ

23日　14:00 集合、自主練習――18:00 夕食、オリエンティション　19:00 練習――21:00 ミーティング。

24日　7:00 朝食――8:30 練習――12:00 昼食――13:00 練習（ベルニッツィ）――16:30後片付解散。

11月10日（水）**「定期演奏会」**

――巨匠ヴェルニッツィ氏を迎えて――

京都会館第１ホール　午後７時　入場料2,000円

主催　京都混声合唱団

共催　（財）京都会館サービスセンター

後援　京都市　京都府合唱連盟

指揮　フルヴィオ・ヴェルニッツィ

管弦楽　京都市交響楽団

合唱　京都混声合唱団　　合唱指導　青山政雄

曲目　I.「レクイエム」K. 626　　W. A. モーツアルト作曲

1. レクイエム　　2. ディエス　イーレ
3. テュバ　ミルム　　4. レクス　トレメンダ
5. レコルダーレ　　6. コンフタティス
7. ラクリモーザ　　8. ドミネ　イエズ
9. ホスティアス　　10. サンクトス
11. ベネディクト　　12. アニュス　デイ

ソプラノ　田中千恵子

アルト　森池日佐子

テノール　佐藤時彦

バス　蔵田裕行

Ⅱ. 「運命の歌」(Schicksalslied) Op.54

J. ブラームス作曲

F. ヘルデリン作詞

Ⅲ. 混声合唱組曲「筑後川」 団 伊玖磨 作曲

丸山 豊 作詞

1. みなかみ　2. ダムにて　3. 銀の魚

4. 川の祭　5. 河口

11月4日（木） 〝京都新聞(夕刊)〟所報抜粋「京都混声合唱団は＜'82定期演奏会＞を10日午後7時から京都会館第1ホールで催す。今回は、F. ヴェルニッツィ指揮の京響を迎えての本格的なステージで、意欲的な京混のコーラスが期待できそう。

同合唱団（小梶委員長）は創立57年という長い歴史。京都では有数の合唱団として活躍をつづけ、毎年1回、秋に定演を開いている。京響を加えた公演は今回で6回目を数え、声楽の権威であるヴェルニッツィの指揮だけに興味深いステージ。

曲目はモーツアルト“レクイエム K.626”。ブラームス“運命の歌”団伊玖磨“筑後川”。

独唱はソプラノ田中千恵子、アルト森池日佐子、テノール佐藤時彦、バス蔵田裕行と充実した布陣。なお、高校の音楽関係サークルの生徒を一高校20人まで招待する。

12月21日（火） クリスマス キャロル

日誌抄「午後6時40分白梅町の聖ヨゼフ整肢園に集合。身体障害児たちの病棟を廻りクリスマスの歌を贈って慰問する。7時50分頃、自家用車に分乗して第二日赤病院に到着。小山（B）萩原（S）さんの先導で各病棟を巡ってクリスマスの歌を捧げる。」

12月24日（金） クリスマス パーティー 京大楽友会館にて。

午後7時。会費3,000円。プレゼント交換。隠し芸大会などに興味津々。

オークションには各人の持ち寄りの出品を競売し、収益は施設に寄附する。

12月28日（火） 忘年会 下京 肥前屋にて午後6時30分。

昭和58年(1983)

3月16日（水）運営委員会において秋の京都交響楽団の定期演奏会にて、ベルニッツィの指揮によるヴェルディー作曲＜レクイエム＞出演の依頼を受諾することに決定。従って本年は京都混声定期演奏会は行わず、京響出演に全力を傾注することにする。

但しヴェルディーの＜レクイエム＞には現団員の総力をもってしては不充分なれば、団員100名以上の増員を目標として全員の努力を結集することを約す。

4月23日（土）・24日（日）両日 春の合宿

場所 ユースホステルわに浜青年会館

費用 4,500円（不参加負担2,000円）

23日 午後6時30分集合食事——7時練習——10時懇談会

24日 午前7時30分起床朝食——8時30分練習——休憩——10時30分練習——13時昼食（湖畔の景観を一望にしてスキヤキパーティー）

5月22日（日） 京都府合唱連盟創立20周年記念事業

「第20回京都合唱祭」 京都会館第1・第2ホール

10時 ～ 18時

主催 京都府合唱連盟 全日本合唱連盟関西支部

朝日新聞社 京都市

後援 京都府 京都府教育委員会

京都市教育委員会

京都混声合唱団 指揮 青山政雄

The Seven Last Words……グノー & デュボア作曲

当日の出場団体85あり、京都混声は第2ホールにて第42番目最後にステ

ージに上る。出場者45名。

京都府合唱連盟より20年連続出場合唱団として他の８団体と共に合唱祭表彰を受ける。また20年連続出場個人表彰として小山弘、桂京造、牛丸紘一（以上バス）金子清明（テノール）荒田喜子、川井亘子（以上アルト）牧野ツルヱ、佐藤治子（以上ソプラノ）の８名表彰を受ける。

合唱連盟では、京都府合唱連盟20周年記念誌「軌跡と道標」を記念事業として刊行。20年の歴史資料等貴重なデーターを集録。京都混声からは、金子清明（T）が「京都文化の記念塔」執筆。

6月4日**「山根弥生子ピアノリサイタル」**

京都府立文化芸術会館　午後７時

主催　やよいの会

マネージメント　京都混声合唱団

曲目　シューマン　アベッグ変奏曲　作品１

クライスレリアーナ　作品16

ショパン　バラード　第１番　ト短調　作品23

第２番　ヘ長調　作品38

第３番　変イ長調　作品47

第４番　ヘ短調　作品52

京都混声練習場のピアノが古くなり、調律も覚束なくなったので新しいピアノ購入の企画があり、今回のピアノリサイタルの純益をその一部に当てることとする。

８月17日（水）**「京都混声愛唱曲集」** Vo.1　発行　200円

合唱曲ベスト13曲を集め旅行、合宿その他楽しいレパートリー曲として利用する。

８月27日（土）・28日（日）夏の合宿旅行　能登方面へ。参加費２万円。

27日　烏丸御池７時40分集合――（名神北陸高速経由）――金沢着12時（昼食）――能登金剛15時――ダイヤモンドクラブ能登ホテル（押水

町今浜）着17時夕食――練習開始19時――ミィーテング21時。

28日　朝食８時――練習開始９時――ホテル発11時――昼食（安宅関）――金沢――武生――越前海岸――敦賀――京都着。

11月14日（月）**「京都市交響楽団第258回定期演奏会」**出演

京都会館第１ホール　午後７時

主催　京都市

曲目　ジュゼッペ・ヴェルディ作曲　「レクイエム」

Ⅰ．永遠の安息を与えたまえ　主よ、あわれみ給え

Ⅱ．怒りの日　1. 怒りの日　2. 不思議なラッパの音

3. 書きしるされた書物は　4. 哀れなわたし

5. みいつの大王　6. 思い出させたまえ

7. わたしは嘆く

8. 判決を受けたのろわれた者は

9. 涙の日よ

Ⅲ．主イエズスよ

Ⅳ．聖なるかな

Ⅴ．神の小羊

Ⅵ．永遠の光を

Ⅶ．われを許したまえ

指揮　フルヴィオ・ヴェルニッツィ

独唱　ソプラノ　曽我栄子

アルト　辻　宥子

テノール　ウィリアム・ウー

バリトン　栗林義信

合唱　京都混声合唱団

京都室内合唱団ロンド　ハルモニア

合唱指揮　青山政雄

11月27日（日）　牧野ツルヱ（S）金子清明（T）古稀の祝賀会

粟田口　まる多　午後6時より

京都混声の年令層は10代から60代までの幅広い団員といわれてきたがいよいよ70代の広さに及ぶことになる。

12月14日（水）〝朝日新聞〟抜粋「京都文化の高揚に大きな役割を果した人に贈られる京都府文化賞の58年度受賞者が13日発表された。（中略）京都音楽家クラブ会長藤堂顕一郎（74）氏は60歳までバリトン歌手として活躍。昭和30年には洋楽振興のため京都音楽家クラブを結成。56年に藤堂顕一郎音楽褒賞基金を設け、京都音楽界の発展に尽くす。」

12月16日（金）**「京都府文化功労賞を藤堂顕一郎氏受賞」**

藤堂顕一郎先生は昭和初期の京都混声草創期以来その中心的存在として目覚しい活躍をされ、歌手として指揮者として力を尽くされたが、今も顧問として常に指導と助言を惜しまれず京都混声の発展に寄与されている。

12月18日（日）　クリスマス　パーティー　午後7時

聖ヨハネ教会　会費2,500円

プレゼント交換、クイズ、遊戯、かくし芸その他時間を忘れて興に入る。

12月29日（木）　忘年会　鴨川畔「おおい」にて　午後6時

会費　男子7,000円　女子6,000円

例年の行事となっているクリスマス　キャロルはベートーベンの“ミサソレムニス”練習のため本年は取り止めとする。

昭和59年(1984)

1月15日（日）　ニコニコ新年会　出町　アルペンローゼ

午後　3時～8時　会費2,000円

2月7日（火）**「岡村喬生バス独唱会」**

京都会館第2ホール

午後7時　全自由席2,500円

主催　京都混声合唱団

マネージメント　京都会館サービスセンター

曲目　シューベルト歌曲集　「冬の旅」

ピアノ　江戸京子

3月5日（月）〝朝日新聞〟「新人国記 '84」京都府42回＜戦後派の楽人たち＞抜粋　「（省前）京都市立音楽短大発足2年目の新入生に一人、大正生れがいた。戦後まもなく立命館大を出て、市立中学の教員をしていた中京区生れの伊吹新一（59）（注：旧京混団員）。卒業するとまた教員に戻り、短大、芸大と併設の堀川高校音楽科に一昨年春まで勤めた。

（中略）

48年のカラヤン指揮コンクールで優勝した上京区生れの小泉和裕（34）は堀川高校音楽科OB。在学中声楽を学び、指揮法は青山政雄（66）から個人指導を受けた。教室でも伊吹が合唱の指揮を任せてくれた。東京芸大に進み、ベルリンに留学。昨秋からカナダのウィニペグ響の音楽監督。欧米、中近東、南米などを飛び回っている。

一昨年のロンドンのＢＢＣ指揮者コンクールで特別賞を受けた田中良和（26）も青山政雄門下の京都人。東京芸大卒、最近Ｎ響が前橋公演などに起用した。（下略）」

5月12日（土）・13日（日）　春の合宿

修学院関西セミナーハウス

12日午後5時集合――練習開始6時――ミーティング10時

13日午前8時起床――練習開始9時――練習終了午後5時

5月27日（日）**「第21回京都合唱祭」**

京都会館第1・2ホール　午前10時～午後6時

主催　京都府合唱連盟

全日本合唱連盟関西支部

朝日新聞社　京都市

後援　京都府　京都府教育委員会
京都市教育委員会

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　　ピアノ　里田容子

"Requïem"より　　Introit, Kyrie
M. デュルフレ作曲

当日の出場87団体あり、京都混声は第1ホールにて第21番目にステージに上る。出場者55名。 合唱連盟より21年連続出場合唱団として他の8団体と共に表彰を受ける。

6月30日（土）　**「定期演奏会」**

京都会館第1ホール　午後7時
全自由席 3,000円

主催　京都混声合唱団
共催　京都会館サービスセンター
後援　京都市　京都府合唱連盟

曲目　ベートーベン　「荘厳ミサ曲」ニ長調　作品123
1. キリエ　　2. グローリァ　　3. クレド
4. サンクトゥス　　5. アニュス　ディ

指揮　青山政雄
独唱　ソプラノ　秋山恵美子
アルト　　伊原直子
テノール　鈴木寛一
バ　ス　　岡村喬生
合唱　京都混声合唱団
京都バッハ　カントライ（賛助出演）
合唱団 M.S.C.　　（賛助出演）
管弦楽　京都市交響楽団
独奏　ヴァイオリン　辻井　淳

オルガン　　津田能人

6月19日（火）〝朝日新聞〟所報抜粋「（省前）ベートーベン＜荘厳ミサ曲＞を京都の合唱団として全曲初演する京都混声は、一般の合唱団では京都で一番古い歴史をもつ団体。来年60年を迎えるのを前に、大曲に取り組むことになった。同合唱団としては昭和18年に同じ曲を演奏したがその時は一部省略。今回は独唱陣にソプラノ秋山恵美子、アルト伊原直子、テノール鈴木寛一、バス岡村喬生を迎え、青山政雄指揮の京都市交響楽団、京都バッハ　カントライ、合唱団M.S.Cの賛助出演で意欲的な演奏を披露する。（下略）」

8月27日（月）**「真夏の夜の第九」**

大阪　ザ　シンフォニーホール　午後7時
A ¥5,000　　B ¥4,000　　C ¥3,000

曲目　シベリウス作曲　交響詩「フィンランディア」作品26
ベートーベン作曲　交響曲　第九番　ニ短調
作品125「合唱付」

指揮　渡辺暁雄
独唱　ソプラノ　岩田孝子
アルト　　辻　宥子
テノール　布埜秀昉
バリトン　勝部　太
合唱指揮　青山政雄　浅井敬壹
合唱　京都混声合唱団
合唱団京都エコー
管弦楽　京都市交響楽団

9月1日（土）〝毎日新聞（夕刊）〟所報抜粋「（省前）＜真夏の夜の第九＞は年末恒例のベートーベン＜第九＞を先取りしたねらいがあたり、客席はほぼ満員。ただ夏のせいで、夜のショーに集まったような雰囲気があ

り、よくも悪くもピーンと張りつめた緊張感がない。それでも演奏は老巧、渡辺暁雄の柔軟な棒に導かれ、このホールと相性のいい京響が混濁しない厚みのある音楽を響かせ好演。合唱の京都混声・京都エコーは約110人と比較的少数ながら磨き抜かれ、存分に歌い、終演後アンコールに応え合唱を再現するというおまけつき。独唱ではテノール布埜秀昉が声質的に苦慮したふうだが、岩田孝子、辻宥子、勝部太とも明快な歌唱ぶり。欲を言えば、寄りそうて歌うような優しさもほしい、と思われた。」

10月7日（日）　秋のリクレーション

午前10時　国鉄京都駅烏丸西口集合

京都駅発10時20分——保津峡——清滝——高雄方面　東海道自然歩道を行く。

12月25日（火）**「京都市交響楽団第270回定期演奏会」**出演

京都会館第1ホール　午後7時

主催　京都市

曲目　石井真木作曲　笛独奏とオーケストラのための交響詩

「祇王」——陰影の譜——

ベートーベン作曲　交響曲第九番ニ短調125（合唱付）

指揮　小林研一郎

独唱　ソプラノ　嶺　貞子

アルト　辻　宥子

テノール　田口興輔

バリトン　高橋啓三

合唱　京都混声合唱団

合唱団京都エコー

京都アカデミー合唱団

京都芸術大学音楽学部合唱団

合唱指揮　青山政雄　浅井敬壹　桑山　博　植田治男

12月27日（木）　ベートーベン**「第九交響曲演奏会」**出演

京都会館第1ホール　午後7時

主催　京都市　日本文化財団　京都新聞社

ＫＢＳ京都　京都音楽文化協会

後援　滋賀音楽文化協会

曲目　ベートーベン　「エグモント」序曲　作品84

ベートーベン　交響曲第九番　合唱　ニ短調　作品125

指揮　小林研一郎

独唱　ソプラノ　嶺　貞子

アルト　辻　宥子

テノール　田口興輔

バリトン　高橋啓三

合唱　京都混声合唱団

ベリョーズカ合唱団

京都産業大学グリークラブ

京都芸術大学音楽学部合唱団

管弦楽　京都市交響楽団

12月28日（金）　忘年会　肥前屋にて　午後6時

毎年恒例のクリスマス　キャロルにて病院その他の慰問の行事は、年末第九交響曲演奏会のため、本年も取り止めの止むなきに至る。

昭和60年(1985)

1月11日（金）　新年の初練習。秋の発表会用の曲メンデルスゾーンの“エリヤ”に取り組む。大曲難曲であって大きな課題である。

1月15日（火・祭）新年ニコニコ大会

2月22日（金）・3月1日（金）　前半はいつものように“エリヤ”を練習し、後半はドイツ語の発音練習をする。講師エンゲルベルト・ヨリッセン氏。

4月1日（月）〝京都新聞（夕刊）〟所報抜粋「今週創立60周年を迎える京都混声合唱団が、11月に開催する記念演奏会でメンデルスゾーン“エリヤ”に挑戦、合唱団員を募集している。混声合唱団は、1926年（大正15年）に発足。翌27年秋には、同志社公会堂で第1回演奏会を開くなど、市民合唱団として古い歴史を持っている。今回は創立60周年を記念し、ソリストに常森寿子（ソプラノ）、西明美（アルト）、鈴木寛一（テノール）、岡村喬生（バス）、を迎え、150人のメンバーによる合唱団と京響、小泉和裕客演指揮、青山政雄合唱指導で演奏会を繰り広げる。（中略）また合唱団では『60年記念誌』の発行なども計画している。」

4月14日（日）　春のリクレーション　目的地――滋賀県朽木（森林環境研究所）「朝日の森」

8.30 市役所前集合、団員の自家用車に分乗し午前10時過ぎ到着――昼食は飯盒炊爨、バーベキューのご馳走――14.00森林浴――15.00リクレーション――16.30出発――18.30帰着。参加費大人2.500円　小人1.500円。今回は特に新入団員の歓迎と懇親を目的として行う。参加者40名。

5月9日（木）**「上村けい先生御他界」**　京都混声創設に参画されてその歴史と共に60年、指揮、歌唱、顧問として生涯を賭けて絶えず先頭に立って指導助言をして戴いた上村先生のご他界は京都混声にとって大きな衝撃であり、痛恨の限りであった。翌10日午後2時から洛東法然院でのご葬儀・告別式には小梶委員長はじめ数名の者が代表参列した。ご遺族のご希望により法要は至極質素静謐の中に取り行なわれ、弔歌を捧げることも榊を飾ることも辞退されたので御霊前にお花を一対お供えするに留めた。

〝朝日新聞〟所報抜粋「声楽家で、京都洋楽界の基礎を築いた上村けいさんが、9日午前1時45分、心不全のため左京区の安井病院で死去した。87歳だった。（中略）岩手県生まれ。大正7年東京音楽学校（現東京芸大）を卒業、京都市小学校音楽科指導員、京都市立第一高女（現市立堀川高校）教諭を経て、昭和16年から京都女子専門学校（現京都女子大）教授となった。41年定年退職し、名誉教授。この間、東京音楽学校出身者でつくる同声会メンバーを中心に、昭和2年京都混声合唱団を発足させ、本格的な合唱運動の先がけとして活躍した。（中略）50年度京都市文化功労者。京都府合唱連盟名誉顧問。（注：京都混声の発足は昭和元年）

5月11日（土）　12日（日）　春の合宿練習　上鳥羽　京都府青年会館

11日　17.30集合――18.00夕食――19.00練習――22.00消燈。

12日　7.30朝食――9.00練習――12.00昼食――13.00練習及び団内演奏会――16.00連絡、後片付け――16.30解散。

参加者50名。宿泊者30名。費用7,000円。

5月26日（日）**「第22回京都合唱祭」**

京都会館第1・第2ホール　10時～18時

主催　京都府合唱連盟・（社）全日本合唱連盟関西支部

朝日新聞社　京都市

後援　京都府　京都府教育委員会　京都市教育委員会

京都混声合唱団　　指揮　青山政雄　　ピアノ　里田容子

Oratorium “Elias” Op.70より

Nr. 15, 20.....F.メンデルスゾーン作曲

当日の出場89団体あり、京都混声は第1ホールにて第40番目にステージに上る。出場者60名。京都府合唱連盟より22年連続出場合唱団として他の8団体と共に表彰を受ける。

5月31日（金）　京都会館開館25周年記念事業シリーズ

「あなたとジョイントコンサート」

京都会館第1ホール　午後7時～9時

主催　京都市

第1部　伝統芸能　合唱（お母さんコーラス・男声合唱）

独唱（芹洋子）　管弦楽（京都市交響楽団）

第2部　管弦楽　伝統芸能　歌とお話（高石ともや・芹洋子）

混声合唱　　京都混声合唱団
　　立命館大学メンネルコール
筑後川から「河口」丸山豊作詞　団伊玖磨作曲
指　揮　デービット・ハウエル
管弦楽　京都市交響楽団
合唱指導　青山政雄　高橋　理
全員合唱　私の子供たちへ（父さんの子守唄）
　　笠木　透作詞・作曲

昭和60年後半の予定

8月24日（土）・25日（日）両日　夏の合宿訓練とリクレーション
信州　駒ケ根　山喜旅館　1泊2日。
9月上旬以後　強化練習に入る。
11月上旬　秋の合宿練習。
11月7日（木）京都混声創立60周年記念演奏会（別記）。
12月中旬　61年度役員選出。
12月15日（日）　クリスマス　ファミリーパーティー。
12月26日（木）　“第九交響曲”出演。

創立60周年記念事業概要

Ⅰ．記念演奏会　　昭和60年11月7日（木）　午後6時30分
京都会館第1ホール　入場料3,500円（前売3,000円）
主催　京都混声合唱団
共催　京都市　　京都会館サービスセンター
曲目　オラトリオ「エリヤ」…… F. メンデルスゾーン
指　揮　　小泉和裕
独　唱　　S. 常森寿子　　A. 西　明美
T. 鈴木寛一　　B. 岡村喬生
合　唱　　京都混声合唱団
合唱指導　青山政雄
管弦楽　　京都市交響楽団

Ⅱ．記念パーティ　　記念演奏会終了後四条大橋畔「菊水」にて開催。
席上20年以上永年在団者10名を表彰する。
小山　弘（46年）　金子清明（44年）　桂　京造（38年）
牧野ツルヱ（32年）　荒田喜子、下田摩耶子（以上26年）
佐藤治子（23年）　萩原日出子、牛丸紘一、中川浩永（以上22年）

Ⅲ．60年史刊行　　団員金子清明の編集による「京都混声合唱団60年史」A5版　約270ページ　300部限定出版。

Ⅳ．記念事業スタッフとして次の役員を決定。
相　談　役　　小山　弘
実行委員長　　桂　京造　　記念演奏会担当　　小梶勝也
記念パーティー担当　萩原日出子
60年史担当　　金子清明
総　　務　　牛丸紘一

結びとして――

京都混声合唱団は半世紀を越える歴史を有するもののその足跡をまとめた記述はない。団史の編纂は創立50年の記念行事として上梓するのが好機であったが企画に遅れ時期を逸したことが惜しまれる。次善の機会として創立60年を目ざしての努力を意図したのであるが、資料の収集は覚束なく、過去60年に回顧をめぐらすとき茫漠たる思いに駆られ虚無感に執われることもしばしばであった。小さな手がかりの確認に図書館や資料館に数日を費やすこともあった。日誌の紛失による歴史の欠落は今にして臍を噛む思いである。みずからの非力をかこちながらも先輩師友からの思いがけない資料の提供に心躍らせ励ましを得て、時折の挫折感に耐えつつ遅遅たる労作の連続であった。

60年史といっても完璧にはほど遠いものである。歳月の隔りと世情の変遷による障壁に阻まれ、止むを得ない限界の範囲に留めざるを得なかったのは心残りである。今後何れかの日に、何処かに眠っているであろう京都混声の歩みを示す資料が発掘されることを希い、また本史の誤記や記述上の不備などについて大方の好意ある御指摘をいただき、それを将来に生かして次の紀念史編纂に補塡充実の期せられることを念願して止まない。

記述に当っては

1. 年次を追って合唱活動を中心に扱った。
2. 然し単なる年表的形式的なものではなく、読み物的柔軟性を加味する要望などに応えて、団の内部事情や時代背景なども添え、新聞記事、団の日誌抄、関係者の談話なども加筆した。
3. 表記には現代仮名づかい、新漢字、新送り仮名を原則として用いた。
4. 但しプログラムの表記、配列については当時の余影を窺知するこ

とに配慮して敢えて不統一を改めなかった。（例、ベートーベン，ベートーヴェン。原語、訳語、原語邦語対照記載など）

5. その外にも資料の用語、形式などをそのまま用いて統一しなかったものもある。（例、試演会，演奏会，発表会。新年会，新年ニコニコ大会など）
6. 断片的な資料であっても、後日団史補充の契機となるであろうと思われるものは些細な事項も念のため書き留めることとした。
7. 外部の人名には敬称を添えたが、同一人であっても団内に所属する時は敬称を省いた。但し新聞記事、日誌抄などの記述はそのままとした。

60年史を擱筆するに当り、団員諸君の激励と協力並びに歴代委員会の理解と支援を銘記せねばならない。企画の当初助力を提供された岡田久子、小林一郎、佐竹裕幸、高野保の諸君はすでに現役を去られ、有本和歳、田畑三郎君は休団されてしばらく会うこともない。歳月の久しきを思わずには居られない。新たに助勢を申出られた稲岡智子、川端要子、小川映子、田中倫子、谷口光久、堀田啓子、三島ひろ子、吉田孝洋の諸君には長期に亘り、あるいは切迫した時期の援助を願った。また小山弘、桂京造及び現委員長小梶勝也の諸君には格別の御尽力に預った。記して深謝の意を表するものである。

刊行に当っては洛西書院主幹土田英雄氏の御厚意に委ね機宜を得たことに深甚の謝意を表するものである。

昭和60年重陽の佳日

編著者　金子清明

京都混声合唱団六十年史

昭和元年（1926）―昭和60年（1985）

昭和60年11月7日発行

編著者　金　子　清　明

発行者　京都混声合唱団
京都市左京区松ケ崎西桜木町18　小梶勝也方
郵便番号606　電話（075）781－9344

制作　洛西書院
製版　幸伸写真製版
製本　修明社製本所